

荒砥下押切Ⅱ遺跡 荒砥中屋敷Ⅱ遺跡

昭和57年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

— 古墳時代中期～平安時代 —

1 9 9 9

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	(財)群馬県埋蔵文化財 調査事業団保管	01-353
		699
No. ⁹⁹⁻ 1803	平成 11年 7月 1 日	(5)

荒砥下押切Ⅱ遺跡 荒砥中屋敷Ⅱ遺跡

昭和57年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

— 古墳時代中期～平安時代 —

1 9 9 9

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



序

前橋市の旧荒砥村地区では、昭和56年度より一般国道50号線の北の地域を対象にした県営荒砥北部圃場整備事業が始まり、平成3年度まで行われました。圃場整備の対象となった地域は、県内でも有数の埋蔵文化財が分布しており、このために多くの埋蔵文化財が発掘調査の対象となりました。

当事業団では昭和56、57、58、59年度に対象となった事業地域の埋蔵文化財の発掘調査を行いました。諸般の事情により調査報告書の刊行が遅れていましたが、関係者の努力により平成5年度から遺跡の報告書刊行のための整理作業が始まり、平成10年度は荒砥下押切Ⅱ遺跡・荒砥中屋敷Ⅱ遺跡の整理作業が実施されました。両遺跡は古墳時代から平安時代にかけての集落跡、浅間山B軽石に埋没した水田跡等の遺構が調査されています。

この度、一年の年月をかけて整理作業が完了しましたので、ここに「荒砥下押切Ⅱ遺跡・荒砥中屋敷Ⅱ遺跡」の調査報告書を上梓することになりました。

発掘調査から調査報告書刊行まで、群馬県農政部土地改良課、前橋市土地改良事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者にはご協力を賜りました。これら関係者の皆様には衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史の解明のために活用されることを願い序とします。

平成11年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 菅野 清







例 言

1. 本書は1982（昭和57）年度の県営圃場整備事業荒砥北部地区に伴う荒砥下押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡は群馬県前橋市荒子町962,963,964,1020,1021,1048,1049,1052,1103他に所在する。遺跡名は、遺跡の所在する地域の旧村名である「荒砥（あらと）」に、発掘区内で最も広い小字である「下押切（しもおしきり）」「中屋敷（なかやしき）」を付した。ただし、県教育委員会文化財保護課でも同地域で調査を併行して実施しており、それと区別するために「II」をそれぞれに付した。
3. 発掘調査は、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が群馬県農政部および群馬県教育委員会と委託契約を締結し実施した。
4. 発掘調査は1982（昭和57）年12月20日に開始し、翌年2月18日で終了した。
5. 調査時の事業団組織は次のとおりである。
管理・指導 小林起久治 白石保三郎 松本浩一 近藤平志 細野雅男
事務担当 国定 均 笠原秀樹 山本朋子 吉田有光 柳岡良宏 野島のぶ江 吉田恵子 吉田笑子 並木綾子 今井もと子
調査担当 台地部 相京建史（調査研究員）
中沢 悟（調査研究員）
菊池 実（調査研究員）
低地部 鹿田雄三（調査研究員）
小島敦子（調査研究員）
斎藤利昭（調査研究員）
6. 本書作成のための整理作業は、群馬県埋蔵文化財調査事業団が群馬県教育委員会より委託され、1998（平成10）年4月1日から1999（平成11）年3月31日まで実施した。
7. 本書作成時の事業団組織および担当者は以下の

とおりである。

管理・指導 菅野 清 赤山容造 渡辺 健
神保侑史 佐藤明人

事務担当 坂本敏夫 笠原秀樹 須田朋子
宮崎忠司 小山建夫 吉田有光 柳岡良宏 岡
嶋伸昌 大澤友治 吉田恵子 内山佳子 若田
誠 佐藤美佐子 北原かおり 本地友美 狩野
真子

編 集 菊池 実（主幹兼専門員）

本文執筆 目次に記した。台地部の遺構・
遺物を菊池が、荒砥下押切II遺跡低地部の遺構
を斎藤利昭（専門員）が執筆した。また、まと
めを中沢 悟（主幹兼専門員）、石塚久則（主幹
兼専門員）が分担した。

遺物整理 戸神晴美 宮沢房子 高橋優子
渡辺八千代 飯塚京子 小林町子 鈴木春美

図版作成 //

器械実測班 佐藤美代子 光安文字 富沢ス
ミ江 千代谷和子 小管優子

遺構写真 調査担当者

遺物写真 佐藤元彦（係長代理）

8. 出土遺物は一括して群馬県埋蔵文化財調査セン
ターおよび(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
が保管している。
9. 調査にあたっては、地元の方々には作業に従事
していただくとともに多くの便宜をはかってい
ただいた。
10. 本書の作成にあたっては、下記の諸氏よりご助
言、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表
したい。（敬称略）
深澤敦仁 井野修二 石塚久則 松村和男 小
宮俊久 三宅敦気 角田真也 小田澤佳之 田
口 修 前橋市教育委員会

凡 例

1. 調査においては、圃場整備事業の工事用基準杭を使用して調査範囲内に5×5mのグリッドを設定した。東西軸をアルファベット、南北軸をアラビア数字で呼称した。各グリッドの名称は荒砥下押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡ともその北西隅をあてた。また全体図の中に国家座標上の位置を記載した。
2. 挿図中に使用した方位は磁北で真北よりN-13°-Wである。
3. 本書における遺構番号は、荒砥下押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡とも調査時に付したものをそのまま使用している。下押切II遺跡の12号住居跡は欠番である。
4. 本書の遺構・遺物挿図の指示は次のとおりである。

(1) 挿図縮尺

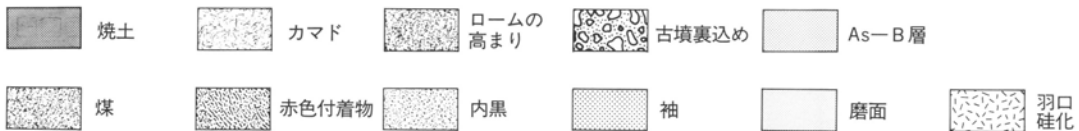
 竪穴住居跡…… 1/60

 竈 …… 1/40, 1/60

古 墳…… 1/40, 1/80
 土 坑…… 1/60
 井 戸…… 1/60
 溝 …… 1/80
 水 田…… 1/100
 土器実測図…… 1/3, 1/4
 石器実測図…… 1/2, 1/3, 1/4

- (2) レベルは標高を示す。
- (3) 遺物番号は本文、挿図、表と一致する。
- (4) 挿図中のスクリーントーンの指示は次のとおりである。

5. 竪穴住居跡の面積は竈を含めた床面積であり、計測にはプランメーターを用いて3回計測しその平均値を面積とした。
6. 本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の20万分の1(「宇都宮」)地勢図、前橋市現形図2千5百分の1、前橋市全図1万分の1を使用した。



目次

序
口絵
例言・凡例

第1章 調査の経過 (菊池 実)

- 〔1〕 調査に至る経過 3
- 〔2〕 調査の経過 4
- 〔3〕 調査の方法 6

第2章 遺跡の立地と環境 (菊池 実)

- 〔1〕 地理的環境 8
- 〔2〕 歴史的環境 9
- 〔3〕 基本土層 13

第3章 荒砥下押切II遺跡(菊池 実・斎藤利昭)

- 〔1〕 竪穴住居跡 16~109
 - 1号住居跡 16
 - 2号住居跡 19
 - 3号住居跡 26
 - 4号住居跡 37
 - 5号住居跡 41
 - 6号住居跡 55
 - 7号住居跡 62
 - 8号住居跡 65
 - 9号住居跡 84
 - 10号住居跡 87
 - 11号住居跡 100
 - 13号住居跡 103
 - 14号住居跡 107
- 〔2〕 古墳 109
- 〔3〕 水田・溝 114

- 〔4〕 井戸・遺構外 124

第4章 荒砥中屋敷II遺跡 (菊池 実)

- 〔1〕 竪穴住居跡 128~144
 - 1号住居跡 128
 - 2号住居跡 129
 - 3号住居跡 131
 - 4号住居跡 136
 - 5号住居跡 136
 - 6号住居跡 138
 - 7号住居跡 139
 - 8号住居跡 141
- 〔2〕 小鍛冶 145
- 〔3〕 土坑 149
- 〔4〕 溝 149

荒砥下押切II遺跡8号住居跡出土の石製紡錘車について
中沢 悟 154
同・8号住居跡出土の籠目土器について
石塚久則 158

報告書抄録 160

写真図版 遺構 PL.1~43
遺物 PL.44~71

別添資料

- 付図1 荒砥下押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡全体図 (圃場整備前)
- 付図2 荒砥下押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡全体図 (圃場整備後)
- 付図3 幹排3-2号発掘区

挿図目次

第1図	遺跡位置	3	第47図	7号住居跡出土遺物(2)	64
第2図	昭和57年度の埋蔵文化財発掘調査区	5	第48図	8号住居跡(1)	65
第3図	群馬県中央部の地形と荒砥下押切II・ 荒砥中屋敷II遺跡	8	第49図	8号住居跡(2)	66
第4図	周辺遺跡の分布	10	第50図	8号住居跡(3)	67
第5図	遺跡の基本土層	13	第51図	8号住居跡遺物分布	68
荒砥下押切II遺跡・挿図目次					
第6図	荒砥下押切II遺跡全体図	14	第52図	8号住居跡出土遺物(1)	70
第7図	1号住居跡(1)	16	第53図	8号住居跡出土遺物(2)	71
第8図	1号住居跡(2)	17	第54図	8号住居跡出土遺物(3)	72
第9図	1号住居跡出土遺物(1)	18	第55図	8号住居跡出土遺物(4)	73
第10図	1号住居跡出土遺物(2)	19	第56図	8号住居跡出土遺物(5)	74
第11図	2号住居跡遺物分布	20	第57図	8号住居跡出土遺物(6)	75
第12図	2号住居跡	21	第58図	8号住居跡出土遺物(7)	76
第13図	2号住居跡出土遺物(1)	22	第59図	8号住居跡出土遺物(8)	77
第14図	2号住居跡出土遺物(2)	23	第60図	8号住居跡出土遺物(9)	78
第15図	2号住居跡出土遺物(3)	24	第61図	8号住居跡出土遺物(10)	79
第16図	3号住居跡(1)	26	第62図	8号住居跡出土遺物(11)	80
第17図	3号住居跡(2)	27	第63図	9号住居跡	85
第18図	3号住居跡(3)	28	第64図	9号住居跡出土遺物	86
第19図	3号住居跡遺物分布	29	第65図	10号住居跡(1)	87
第20図	3号住居跡出土遺物(1)	30	第66図	10号住居跡(2)	88
第21図	3号住居跡出土遺物(2)	31	第67図	10号住居跡(3)	89
第22図	3号住居跡出土遺物(3)	32	第68図	10号住居跡遺物分布	90
第23図	3号住居跡出土遺物(4)	33	第69図	10号住居跡出土遺物(1)	91
第24図	3号住居跡出土遺物(5)	34	第70図	10号住居跡出土遺物(2)	92
第25図	3号住居跡出土遺物(6)	35	第71図	10号住居跡出土遺物(3)	93
第26図	4号住居跡	38	第72図	10号住居跡出土遺物(4)	94
第27図	4号住居跡出土遺物(1)	39	第73図	10号住居跡出土遺物(5)	95
第28図	4号住居跡出土遺物(2)	40	第74図	10号住居跡出土遺物(6)	96
第29図	5号住居跡(1)	42	第75図	10号住居跡出土遺物(7)	97
第30図	5号住居跡(2)	43	第76図	11号住居跡	100
第31図	5号住居跡遺物分布	44	第77図	11号住居跡出土遺物(1)	101
第32図	5号住居跡出土遺物(1)	45	第78図	11号住居跡出土遺物(2)	102
第33図	5号住居跡出土遺物(2)	46	第79図	13号住居跡	104
第34図	5号住居跡出土遺物(3)	47	第80図	13号住居跡出土遺物(1)	105
第35図	5号住居跡出土遺物(4)	48	第81図	13号住居跡出土遺物(2)	106
第36図	5号住居跡出土遺物(5)	49	第82図	14号住居跡	108
第37図	5号住居跡出土遺物(6)	50	第83図	14号住居跡出土遺物	109
第38図	5号住居跡出土遺物(7)	51	第84図	1号古墳	110
第39図	6号住居跡遺物分布	55	第85図	1号古墳石室(1)	112
第40図	6号住居跡	56	第86図	1号古墳石室(2)	113
第41図	6号住居跡出土遺物(1)	57	第87図	As-B下水田	115
第42図	6号住居跡出土遺物(2)	58	第88図	As-B下水田	117
第43図	6号住居跡出土遺物(3)	59	第89図	1号・2号溝	119
第44図	6号住居跡出土遺物(4)	60	第90図	3号・4号・5号溝	120
第45図	7号住居跡	62	第91図	6号溝	121
第46図	7号住居跡出土遺物(1)	63	第92図	7号溝	121
			第93図	8号溝	122
			第94図	9号・10号溝	123
			第95図	井戸	124

第96図	遺構外出土遺物(1)	124
第97図	遺構外出土遺物(2)	125
第98図	遺構外出土遺物(3)	126

荒砥中屋敷Ⅱ遺跡・挿図目次

第99図	荒砥中屋敷Ⅱ遺跡全体図	127
第100図	1号住居跡・出土遺物	128
第101図	2号住居跡	129
第102図	2号住居跡出土遺物	130
第103図	3号住居跡・遺物分布	131
第104図	3号住居跡出土遺物(1)	132
第105図	3号住居跡出土遺物(2)	133
第106図	3号住居跡出土遺物(3)	134
第107図	4号・5号住居跡(1)	136
第108図	4号・5号住居跡(2)	137

第109図	6号住居跡	138
第110図	6号住居跡出土遺物	139
第111図	7号住居跡	140
第112図	7号住居跡出土遺物	141
第113図	8号住居跡	142
第114図	8号住居跡出土遺物(1)	143
第115図	8号住居跡出土遺物(2)	144
第116図	小鍛冶	145
第117図	小鍛冶出土遺物(1)	146
第118図	小鍛冶出土遺物(2)	147
第119図	小鍛冶出土遺物(3)	148
第120図	1号・2号土坑	149
第121図	支排29号発掘区	150
第122図	支排29号発掘区検出の溝	152

写真図版目次

P L. 1	航空写真
P L. 2	航空写真
P L. 3	荒砥下押切Ⅱ遺跡全景
P L. 4-1	荒砥下押切Ⅱ遺跡・1号住居跡全景(北東から)
2	1号住居跡竈(北東から)
3	1号住居跡遺物出土状況(北東から)
P L. 5-1	2号住居跡全景(西から)
2	2号住居跡遺物出土状況(西から)
P L. 6-1	2号住居跡遺物出土状況(北から)
2	2号住居跡竈(西から)
3	2号住居跡貯蔵穴(北から)
P L. 7-1	3号住居跡全景(南から)
2	3号住居跡全景(西から)
P L. 8-1	3号住居跡遺物出土状況(西から)
2	3号住居跡竈(南から)
P L. 9-1	4号住居跡全景(北東から)
2	4号住居跡遺物出土状況(南西から)
3	4号住居跡遺物出土状況(北西から)
P L. 10-1	5号住居跡全景(西から)
2	5号住居跡遺物出土状況(西から)
P L. 11-1	5号住居跡遺物出土状況(西から)
2	5号住居跡竈(西から)
3	5号住居跡貯蔵穴(南から)
P L. 12-1	6号住居跡全景(西から)
2	6号住居跡遺物出土状況(西から)
3	6号住居跡貯蔵穴(北西から)
P L. 13-1	7号住居跡全景(南から)
2	7号住居跡竈(南から)
P L. 14-1	8号住居跡全景(西から)
2	8号住居跡遺物出土状況(西から)
P L. 15-1	8号住居跡竈(西から)
2	8号住居跡遺物出土状況(西から)
3	8号住居跡遺物出土状況(北西から)

P L. 16-1	8号住居跡遺物出土状況(西から)
2	8号住居跡紡錘車出土状況(東から)
3	8号住居跡貯蔵穴(南から)
P L. 17-1	9号住居跡全景(南から)
2	10号住居跡全景(南から)
P L. 18-1	10号住居跡全景遺物出土状況(西から)
2	10号住居跡竈(南から)
3	10号住居跡竈周辺遺物出土状況(南東から)
4	10号住居跡遺物出土状況(北東から)
P L. 19	11号住居跡遺物出土状況(西から)
P L. 20-1	11号住居跡全景(南東から)
2	11号住居跡遺物出土状況(南西から)
3	11号住居跡遺物出土状況(北東から)
P L. 21-1	13号住居跡全景(西から)
2	13号住居跡遺物出土状況(南から)
P L. 22-1	14号住居跡全景(南西から)
2	14号住居跡竈(南西から)
P L. 23-1	1号古墳全景(南から)
2	前庭部と石室(南から)
P L. 24-1	石室(北西から)
2	玄門と羨道部(北から)
P L. 25-1	羨道部右壁(南西から)
2	閉塞状況(南から)
3	閉塞状況(北から)
P L. 26-1	支道71号・75号発掘区・As-B下面(北から)
2	支道75号発掘区・As-B下面(北から)
P L. 27-1	支道73号発掘区・As-B下面(東から)
P L. 28	幹排3-3号発掘区・As-B下水田(南東から)
P L. 29	支道73号発掘区・As-B下水田(北から)
P L. 30-1	支道73号発掘区・As-B下面(東から)
2	幹排3-3号発掘区・As-B下面(西か

- ら)
- P L. 31 幹排 3-2 号発掘区・As-B 下面 (北から)
- P L. 32-1 3号・5号溝 (北から)
2 6号溝 (北東から)
- P L. 33-1 8号溝 (北東から)
2 井戸 (南から)
- P L. 34-1 遺跡見学会
2 荒砥中屋敷II遺跡・1号住居跡全景 (北西から)
- P L. 35-1 2号住居跡全景 (西から)
2 2号住居跡竈 (西から)
3 2号住居跡貯蔵穴内遺物出土状況 (北から)
- P L. 36-1 3号住居跡全景 (西から)
2 4号・5号住居跡全景 (西から)
- P L. 37-1 5号住居跡竈 (北西から)
2 6号住居跡全景 (北から)
3 7号住居跡全景 (西から)
- P L. 38-1 7号住居跡遺物出土状況 (西から)
2 7号住居跡竈 (西から)
- P L. 39-1 8号住居跡遺物出土状況 (西から)
2 8号住居跡竈 (西から)
- P L. 40-1 小鍛冶 (東から)
2 小鍛冶遺物出土状況 (北から)
- P L. 41-1 1号土坑 (南から)
2 2号土坑 (西から)
3 支排29号発掘区・溝断面 (東から)
- P L. 42-1 支排29号発掘区・As-B層を含む溝 (西から)
2 支排29号発掘区 (北から)
- P L. 43-1 支排29号発掘区・As-C層を含む溝 (西から)
2 発掘を終了して

荒砥下押切II遺跡出土遺物

- P L. 44 1号住居跡・2号住居跡
- P L. 45 2号住居跡
- P L. 46 2号住居跡・3号住居跡
- P L. 47 3号住居跡
- P L. 48 3号住居跡
- P L. 49 3号住居跡・4号住居跡
- P L. 50 4号住居跡・5号住居跡
- P L. 51 5号住居跡
- P L. 52 5号住居跡
- P L. 53 5号住居跡・6号住居跡
- P L. 54 6号住居跡
- P L. 55 6号住居跡・7号住居跡
- P L. 56 8号住居跡
- P L. 57 8号住居跡
- P L. 58 8号住居跡
- P L. 59 8号住居跡
- P L. 60 8号住居跡
- P L. 61 8号住居跡・9号住居跡
- P L. 62 9号住居跡・10号住居跡
- P L. 63 10号住居跡
- P L. 64 10号住居跡
- P L. 65 10号住居跡・11号住居跡
- P L. 66 11号住居跡・13号住居跡
- P L. 67 13号住居跡・14号住居跡・古墳・遺構外
- P L. 68 遺構外

荒砥中屋敷II遺跡出土遺物

- P L. 68 1号住居跡・2号住居跡・3号住居跡
- P L. 69 3号住居跡
- P L. 70 3号住居跡・6号住居跡・7号住居跡・
8号住居跡
- P L. 71 8号住居跡・小鍛冶

第1章

調査の経過



前橋市の東南部にあたる荒砥地区は、赤城山の西南麓に立地しており、肥沃な台地が展開している。群馬県では1975（昭和50）年度に群馬県新総合計画が策定された。この結果農用地総合整備事業の一環として、1974（昭和49）年度より1981（昭和56）年度の8年間にわたり、国道50号線の南側にあたる二之宮町・飯土井町を対象として荒砥南部地区県営圃場整備事業が実施された。

この地区一帯の中には、国指定史跡である荒砥三古墳（前二子山・中二子山・後二子山古墳）をはじめ女堀・今井神社古墳などの埋蔵文化財が豊富である状況を踏まえ、県農政部と県教育委員会文化財保護課において、埋蔵文化財の扱いについて協議が行われた。その結果、なるべく遺跡地については除外地区にすること。やむを得ず工事によって破壊される地域については、事前の発掘調査を実施することで了承した。以後8年間にわたり「荒砥南部県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査」が、県教育委員会文化財保護課及び埋蔵文化財調査事業団の手によって行われ、多大な成果をあげ無事に終了した。

荒砥南部地区の圃場整備事業が進展する中、国道50号線北側の荒子町・大屋町・泉沢町などが所属する北部地区においても、引き続き圃場整備事業を実施する計画が浮上した。このため、県教育委員会文化財保護課では、再度県農政部及び埋蔵文化財調査事業団とその扱いについて協議を行った。この結果、南部地区同様工事予定地に対する事前調査を実施することで合意し、その調査を当事業団が受託することとした。

荒砥北部地区の圃場整備事業の対象地は30haにわたる広大なものであるため、遺跡地の認定にあたっては事前に分布調査を実施した。分布調査は県教育委員会文化財保護課によって実施され、71遺跡の存在が確認された。このため圃場整備事業の速やかな進捗を図るためには、荒砥南部地区と同様、埋蔵文

化財の存在する地区についてなるべく工事除外地区に指定することとし、発掘調査の対象地は水路や道路などによって破壊される地区を基本に、切り土・盛り土を行う工事場所に限定するなど、最小限にとどめることとした。

南部地区の発掘調査が終了した1981（昭和56）年度に、北部地区の最初の発掘調査として実施されたのが荒砥大日塚遺跡である。翌年の1982（昭和57）年度には、引き続き荒砥上ノ坊遺跡、そして本報告書所収の荒砥下押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡の調査が行われている。しかし、圃場整備事業に対する工事変更が出され、調査面積が大幅に増加すること、堅穴住居跡などの遺構数が、当初の見込みより多くなること、翌年の農作業に支障のないようにするためには期間内の完了が必要であること、などから調査予定地の年度内完了が危ぶまれる状況となった。そこで工事と発掘調査の工程について調整が行われた結果、両遺跡の一部について文化財保護課が直轄で調査を行うこととなった。更に、1984（昭和59）年度からは、遺跡調査会を結成し、三組織で調査を実施することとなった。

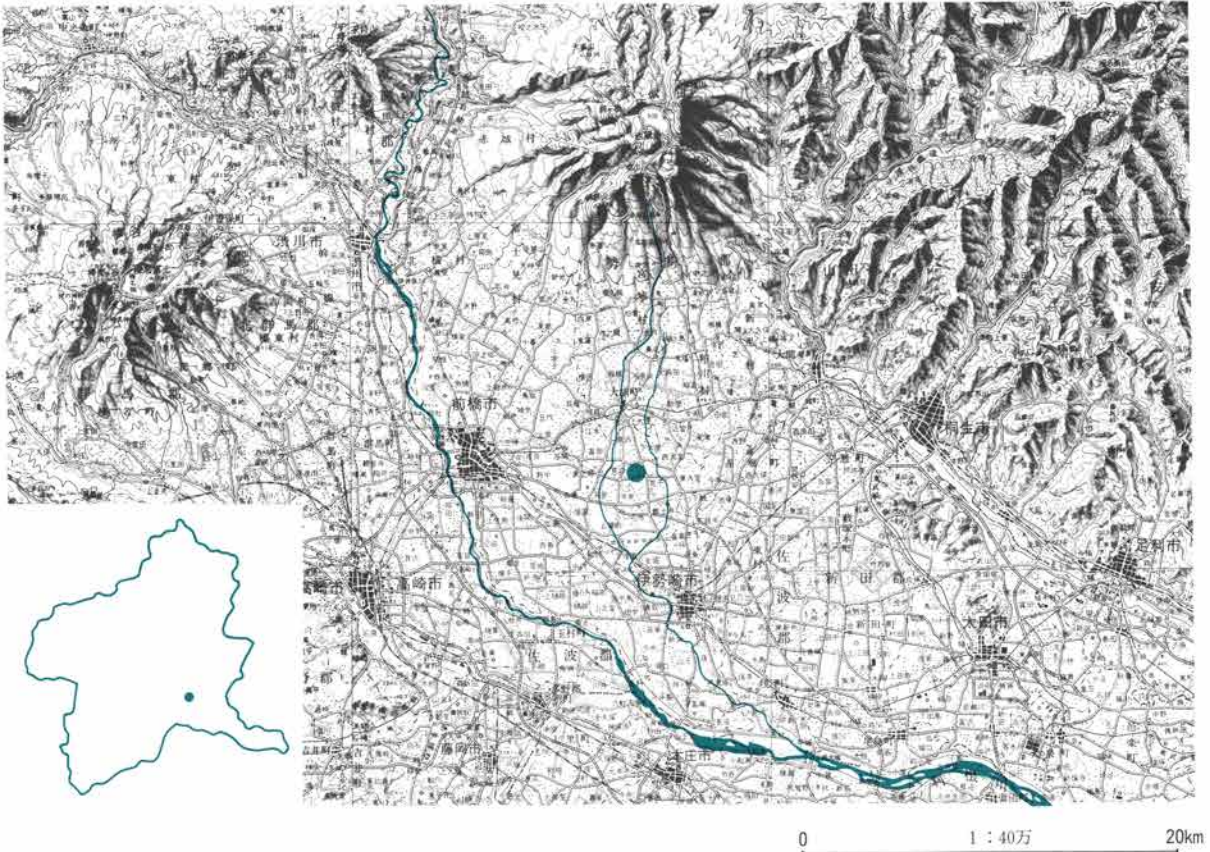
北部地区で当事業団が実施した発掘調査は、1984（昭和59）年度で終了となった。このため同年度からは、従来から続けられてきていた南部地区に伴う整理事業に専念することとなった。

南部地区の整理事業は、群馬県から「公共開発関連出土品等整理事業」として、1980（昭和55）年度から委託を受け実施してきたが、1992（平成4）年度ですべての遺跡の整理事業が終了することとなった。南部地区の整理事業が終了するにあたり、引き続き北部地区の整理事業をどのように進めるかについて、県教育委員会及び県農政部と協議を重ねた。その結果、改めて「県営圃場整備事業荒砥北部地区関連調査出土品等整理事業」として、県と委託契約を締結することとなった。

〔1〕 調査に至る経過

本遺跡の整理事業は、以上の状況の中で、荒砥北部地区の整理事業の第6年次として1998（平成10）

年度に実施することになったものである。



第1図 遺跡位置

2

調査の経過

1982（昭和57）年 12月20日（月曜日／晴）
調査担当者は相京・中沢・菊池の3名である。荒砥下押切II遺跡の遺構確認調査を開始。
12月21日（火曜日／晴）
遺構確認のための調査を継続。
12月22日（水曜日／曇のち雨）

本日、細野雅男（調査研究第3課長）現場応援。
午前中、遺構確認調査。古墳時代住居跡の発掘を開始。午後、雨のため遺物洗い、器材点検を行う。
12月23日（木曜日／晴）
3号住居跡セクションの写真撮影。ベルト除去。床面の調査。各住居跡を掘り始める。

第1章 調査の経過

12月24日 (金曜日/晴)

3号住居跡遺物出土状況図の作成開始。遺物取り上げ。全体図(1/200)作成。他の住居跡を調査。

12月25日 (土曜日/晴)

正月休みに備え現場の片付け。遺物取り上げ作業。

1983(昭和58)年 1月5日 (水曜日/曇)

3号住居跡のエレベーション、レベリング、全景写真とカマド写真撮影を終了。2・4号住居跡調査。5号住居跡から紡錘車出土。6号住居跡セクション図作成。8号住居跡から紡錘車、石製模造品が出土した。

1月6日 (木曜日/曇)

2・4・5号住居跡のセクション図作成、ベルト除去。6号住居跡のベルト除去。7号住居跡調査。8号住居跡から勾玉出土。

1月7日 (金曜日/曇)

2・4・6号住居跡の遺物出土状況の写真撮影。2・4・5号住居跡の遺物出土状況図作成。8号住居跡のセクション図作成。7号住居跡セクションベルト除去。9～11・13号住居跡の調査開始。

1月8日 (土曜日/曇のち晴)

12号住居跡の調査開始。2・4号住居跡の遺物取り上げ。他調査を続行。

1月10日 (月曜日/曇)

4号住居跡のPit掘り。5号住居跡の遺物出土状況の写真撮影と遺物取り上げ。6号住居跡の遺物取り上げ。7号住居跡の遺物出土状況の写真と図面作成。8・11号住居跡ベルト除去。9・10号住居跡のセクション図作成。1号住居跡調査。12号住居跡は調査の結果、住居跡にならなかった。

1月11日 (火曜日/晴のち雨強し)

1号住居跡のセクション図作成、ベルト除去、柱穴の調査。2号住居跡のカマドセクション図作成。4号住居跡の平面図、カマドセクション図作成。5号住居跡カマド、柱穴調査。7号住居跡のカマドの調査。9号住居跡セクション図作成とベルト除去。10号住居跡のベルト除去作業。11号住居跡調査。13号住居跡のセクション図作成。

1月12日 (水曜日/晴)

4～6号住居跡の全景写真撮影。8号住居跡の遺物出土状況写真と遺物部分写真の実施。9・10号住居跡の遺物出土状況写真。11号住居跡の遺物出土状況写真撮影と遺物取り上げ。全景写真撮影。13号住居跡の遺物出土状況写真。1号住居跡の遺物出土状況図・写真、レベリング、カマド遺物写真撮影の実施。

1月13日 (木曜日/晴)

1号住居跡全景写真、カマド写真撮影終了。2号住居跡の平面図作成とレベリング作業。3号住居跡全景写真、カマド写真撮影の終了、平面図作成の継続。5号住居跡の平面図作成とカマド写真撮影。8号住居跡の遺物出土状況写真、カマド写真撮影、遺物取り上げ、柱穴の調査。10号住居跡の遺物出土状況図作成、遺物の写真撮影。13号住居跡の遺物出土状況図作成。井戸調査。

1月14日 (金曜日/晴)

2号住居跡の全景と貯蔵穴の写真撮影。5号住居跡のカマド遺物取り上げ。8号住居跡の柱穴掘り。9号住居跡の遺物出土状況図作成と遺物取り上げ作業。10号住居跡の遺物取り上げと部分写真撮影の実施。13号住居跡の遺物取り上げと柱穴調査。1号住居跡のカマド切断作業。

1月17日 (月曜日/曇)

7号住居跡のカマド写真撮影。8号住居跡のカマド写真撮影とレベリング。10号住居跡のカマド実測と写真撮影。荒砥中屋敷II遺跡・15区低地部分の調査、溝を検出。16区から住居跡2軒を検出し調査開始。

1月18日 (火曜日/雪)

雪のため室内作業。土器洗い、図面整理、作業進行表作成。

1月19日 (水曜日/曇)

残雪のため低地部分の調査を実施。As-B上面までジョレンにて除去作業。

1月20日 (木曜日/晴)

1号住居跡の調査終了。2号住居跡のカマド写真撮影終了。3号住居跡のレベリング、カマドセクション図終了。5号住居跡のレベリング、貯蔵穴の写真撮影終了。7号住居跡のレベリング、カマド写真、平面図終了。8号住居跡のレベリング、全景・貯蔵穴の写真撮影終了。9号住居跡のカマドセクション図終了。10号住居跡のレベリング終了。As-B下水田から溝2条検出。

1月21日 (金曜日/晴)

南側カット部分ブルドーザーにて盛土除去。広い台地のカット部分の調査。8・10・13号住居跡のカマド実測作業。レベリング終了。As-Bの溝2条の調査。

1月22日 (土曜日)

荒砥下押切II遺跡の住居跡群の調査終了。全体図作成。

1月24日 (月曜日/晴)

荒砥上ノ坊遺跡調査班の応援を得て低地部分の精査。As-Bの下にAs-C堆積を確認。南側低地部分の調査。As-Bに埋もれた溝2条と新たにAs-Cの入った溝を確認。荒砥中屋敷II遺跡1・2号住居跡調査。

1月25日 (火曜日/晴)

荒砥上ノ坊遺跡調査班全員で応援に来る。低地部分北側よりトレンチ調査に入る。中屋敷II遺跡1・2号住居跡の調査終了。南側トレンチ部分As-B直下溝の実測に入る。中屋敷II遺跡3号住居跡の調査、床面までバックホーで壊されている。土盛りより土器片を収集。製鉄遺構(小鍛冶)の調査。羽口が多数出土。

1月26日 (水曜日/晴)

中屋敷II遺跡3号住居跡遺物出土写真撮影と図面作成終了。小鍛冶セクションベルト除去、土層のサンプリング。幹排3-2号発掘区、As-B部分コンター実測終了。写真撮影終了。

1月27日 (木曜日)

3号住居跡の全景写真撮影終了。小鍛冶遺構の遺物出土写真撮影終了。古墳を確認。幹排3-2号発掘区にトレンチを入れ、土層図の作成を始める。

1月28日 (金曜日/晴)

土層図作成を継続。古墳調査継続。前庭、羨道、玄室の調査。古墳東側に住居跡(下押切II遺跡14号住居跡)を検出。遺物は少ない。荒子神社南側にトレンチ調査。小鍛冶調査を継続。

1月31日 (月曜日/晴風強し)

古墳調査、周堀確認。荒砥下押切II遺跡14号住居跡のセクション図作成。平面図・エレベーション図・レベリング終了、ベルト除去。水田部分の溝をバックホーにてプラン確認まで土を除去。神社南側部分の遺構確認、精査。住居跡を5軒検出(荒砥中屋敷II遺跡4～8号住居跡)。

2月1日 (火曜日/曇)

As-Cの混入した溝の全掘、写真撮影実施。神社南側部分の住居跡2軒を掘り始める。古墳閉塞部分のエレベーション図作成。重機で盛土をはぎ始める。閉塞部分の写真撮影。

2月2日 (水曜日/雨)

バックホーにて古墳構築面及び周堀の埋土除去。雨にて1日中土器洗い及び注記。写真の整理。

2月3日 (木曜日/晴風強し)

神社南側の住居跡調査。As-C溝の実測終了。古墳セクション図作成。古墳羨道部正面から閉塞部の写真撮影。

2月4日 (金曜日/晴)

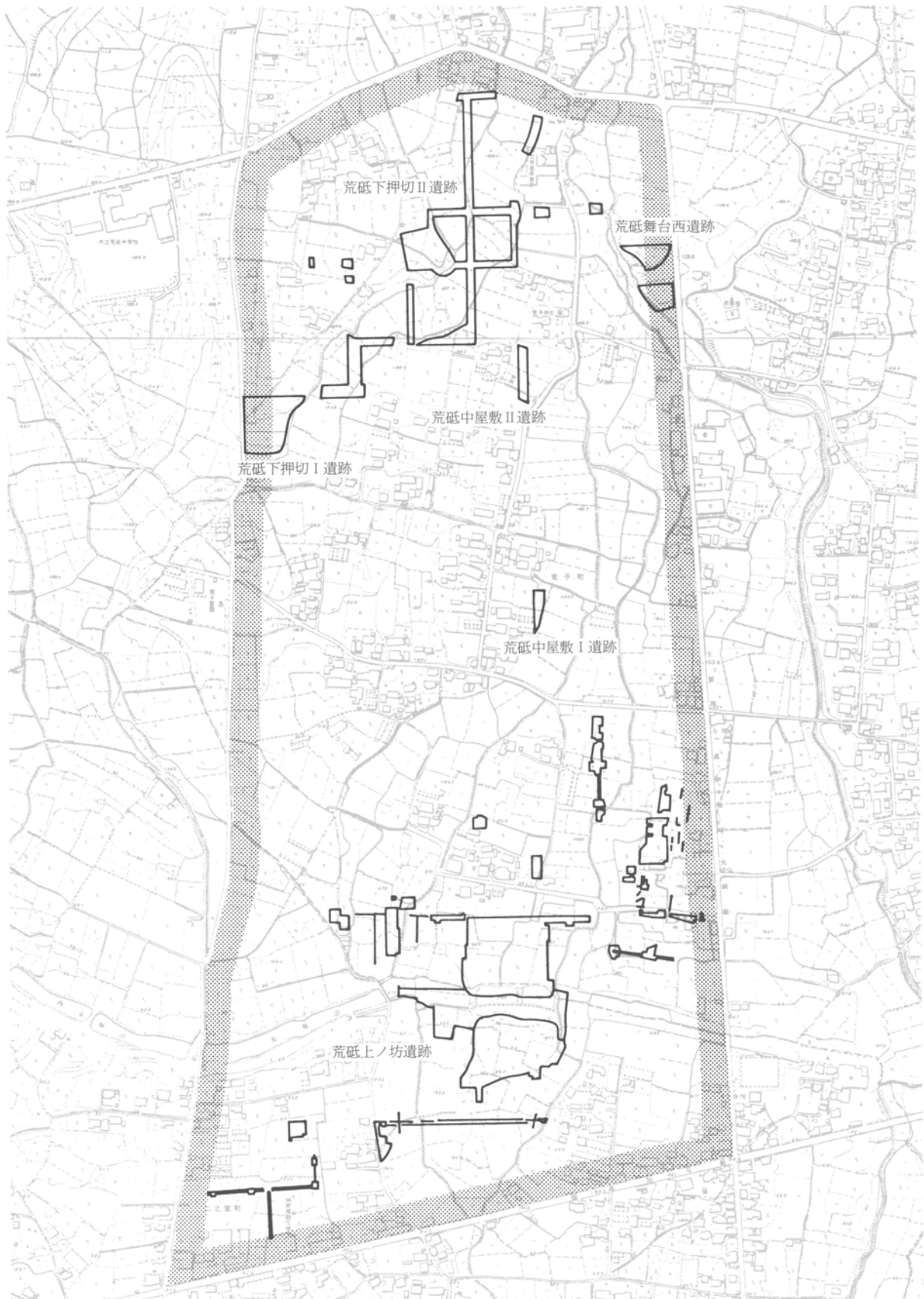
古墳の全景写真撮影。マウンドと周堀のコンター実測終了。神社南の住居跡5軒調査。

2月5日 (土曜日/晴)

古墳の墳丘・周堀・前庭のコンター実測終了。神社南側の住居跡5軒調査。水田部分調査を終了。

2月7日 (月曜日/晴)

神社南の発掘区調査。4号住居跡と5号住居跡重複。5号住居跡が新しい。6号住居跡のセクション図作成、ベルト除去、平面図作成、写真撮影。7号住居跡のセクション図作成、ベルト除去、平面図作成、写真撮影。8号住居跡のセクション図作成、ベルト除去、写真



第2図 昭和57年度の埋蔵文化財発掘調査区



第1章 調査の経過

撮影。1号土坑セクション図作成、平面図作成、写真撮影。2号土坑セクション図作成、平面図作成。3時すぎ土器洗い。

2月8日 (火曜日/晴)

神社南住居跡の写真撮影と実測作業。午前中、荒砥保育所園児156名見学。午後、荒子小学校児童145名見学。

2月9日 (水曜日/晴)

古墳石室の平面実測。羨道部の側壁実測。4・5号住居跡の遺物出土状況の写真撮影と図面終了。7号住居跡のカマドセクション図作成とカマド写真撮影、カマド平面図作成。8号住居跡のカマド調査。全体図作成。荒子小4年生80名、大室小児童140名、桐女 OG10名、一般6名の計236名見学。

2月10日 (木曜日/晴)

古墳石室の平面図と側壁図面作成終了。エレベーション図ほぼ終了、断ち割りに入る。4・5号住居跡の全景写真とカマド写真撮影。

カマドセクション図作成。6号住居跡の全景写真撮影。7号住居跡の全景写真撮影とカマドの遺物取り上げ。8号住居跡の全景写真とカマド写真撮影、遺物取り上げ。神社南の住居跡調査終了。

2月14日 (月曜日/晴)

古墳エレベーション図作成を終了。掘り方平面図終了後、撤収準備に入る。器材をまとめる。土器洗いと注記作業。

2月15日 (火曜日/晴のち曇)

土器洗い、器材運搬。

2月16日 (水曜日/曇)

土器分類、器材運搬、現場のお別れ会。

2月17日 (木曜日)

撤収作業。

2月18日 (金曜日)

土地改良区にあいさつ。

3

調査の方法

①遺跡名の選定

発掘調査対象地区は前橋市荒子町字上押切・下押切・中屋敷にまたがる広範囲である。遺跡名は発掘区内で最も広い小字である下押切・中屋敷を使用した。

調査地区は広範囲にわたるために台地部の調査を1班、低地部1班の2班体制で調査を行った。また同時併行して、県教育委員会文化財保護課による同地区内の調査が進められており、便宜的に遺跡名称にIIを付して区別することになった。県教育委員会文化財保護課による調査は昭和57年12月6日～12月23日まで、荒砥下押切I・中屋敷I・舞台西遺跡の発掘調査が実施されている。

②調査区(グリッド)の設定

調査の実施にあたっては5×5mの方眼を調査対象地域全域にわたって設定した。グリッドの基準は、圃場整備の工事用の杭を利用した。グリッドは東西軸にアルファベットを付し西からA、B、C……Tとし、南北軸にアラビア数字を北から0、1、2、3……19と付した。そして杭の呼称を100m四方の大グリッド(数字)―小グリッド(アルファベット―数字)で表している。各区画の呼称は5m方眼の北西

隅をもってそのグリッドの名称とした。方位は磁北で真北よりN-13°Wである。

③調査手順

下押切II遺跡の切り土部分の調査から着手、1号住居跡～13号住居跡を発掘した。その後、低地部の調査に1班が投入され、支道71号・75号発掘区、支道73号発掘区、幹排3-3号発掘区、幹排3-2号発掘区の調査に入り、水田・溝の発掘を行う。下押切II遺跡の調査がほぼ終了後、中屋敷II遺跡の住居跡調査に着手した。

④遺構の調査

重機による表土剥ぎの後、遺構確認調査に入った。各遺構の調査にあたっては土層観察用のベルトを残して実施したが、調査期間が限定されていたために掘り下げにあたっては覆土中層までをスコップにたよらざるを得なかった。中層から床面までを移植ゴテによる掘り下げを実施した。実測はグリッド軸にそった平板測量で行った。

⑤写真撮影

遺構写真は35mm白黒フィルムとリバーサルフィルム及び6×9cm白黒フィルムを用いて地上撮影を実施した。

第2章

遺跡の立地と環境



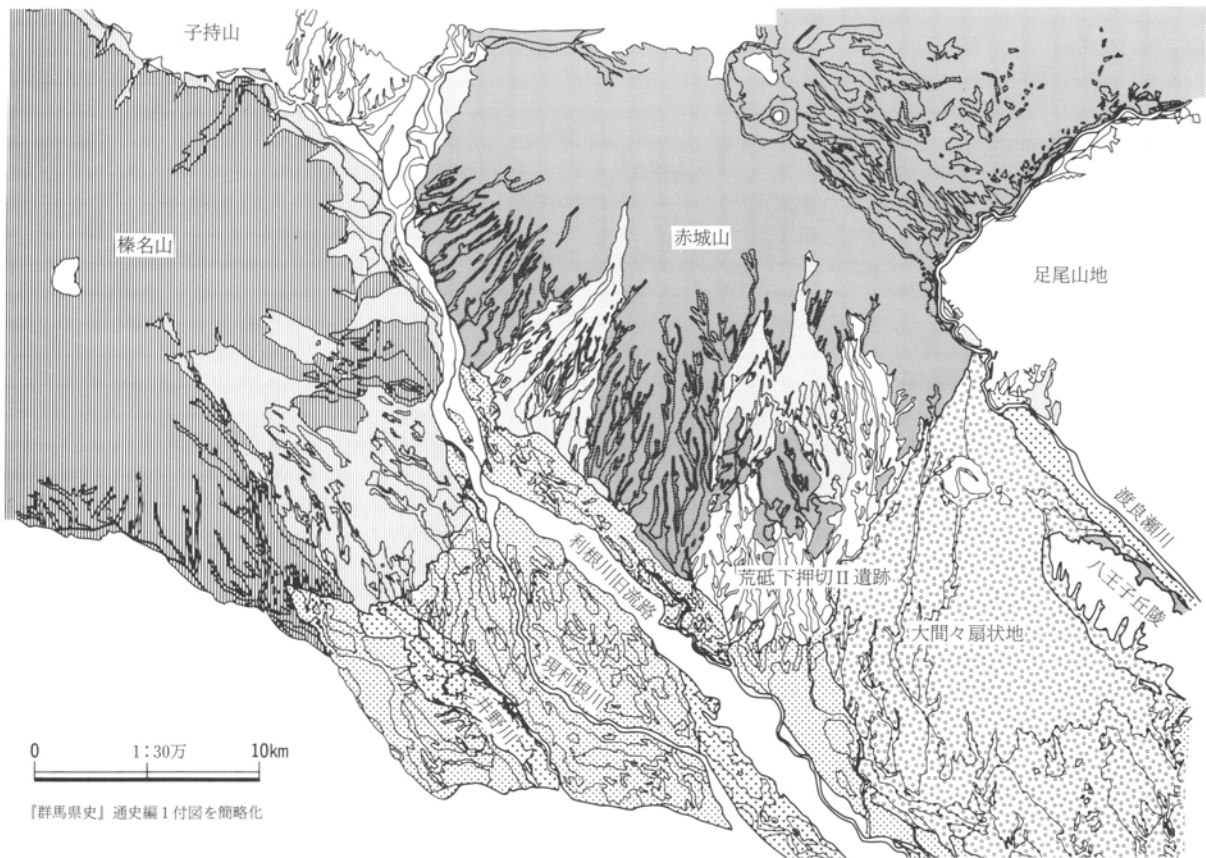
1 地理的環境

本遺跡は前橋市の市街地から国道50号線を東へ約10km、二之宮十字路の北北西約1.2kmの地点に所在する。

遺跡(第3図)は、複合成層火山である赤城山(1,828m)の南に広く延びる裾野の末端部に位置している。山麓端部は河川の侵食が著しく、山体の北側や西側には河岸段丘が形成され、山体の南西麓や南東麓は直線的な崖線地形が発達している。また、山体自体も河川や湧水に侵食され、北麓や西麓では大規模なV字状の深い谷と広大な裾野地形が発達する。

一方、南麓では標高500m地帯で山地帯から丘陵性台地への地形変換点がみられ、200mより下位の地域は低台地化している。大小の河川や湧水が豊富で、南北に長い沖積地と丘陵性の台地が交互に入り組む、複雑な地形を呈している。また、その末端は旧利根川の侵食による崖線が形成され、利根川の氾濫源によって南側の前橋台地と隔絶されている。

本遺跡は荒砥川左岸の丘陵性台地に立地している。標高は105m～111mである。



第3図 群馬県中央部の地形と荒砥下押切II・中屋敷II遺跡

荒砥北部遺跡群は赤城南麓の標高150m～95mの間に存在する(口絵航空写真参照)。この地域はほとんどが洪積台地上である。その間を中小の河川が南流し、台地を分断している。西の荒砥川、東の神沢川はその代表的河川であり、比較的流量も豊富で流域の水田面積も広い。

荒砥北部遺跡群は主としてこの両河川に東と西を画された範囲で、南を国道50号線、北を大胡町に接する部分にまで及ぶ広い地域である。この地域は県内でも遺跡が濃密に分布している。

荒砥川左岸の今井沼周辺では旧石器時代の遺物が検出されている荒砥北三木堂遺跡(57)、この他、旧石器時代の遺跡には川籠替戸遺跡(22)、柳久保遺跡(78～81)が知られている。

縄文時代の遺跡では荒砥宮田遺跡(73)、荒砥上ノ坊遺跡(33)、荒砥北原遺跡(63)で前期の住居跡が検出されている。中期の住居跡は北原遺跡で、横俵遺跡では後期の配石遺構が調査されている。

弥生時代の遺跡は荒口前原遺跡(66)で中期末の住居跡が検出されている。

古墳時代になると遺跡数、遺構数も増加している。

北原遺跡、諏訪西遺跡(76)、荒砥中屋敷Ⅰ遺跡(3)、下境Ⅰ遺跡(16)等で前期、中期の住居跡が多数発見されている。いずれも低地にのぞむ台地縁辺部に立地する。また、この時期の遺構として特に注目されるのが、環濠と柵列によって囲われた豪族の居宅跡である。荒砥荒子遺跡(5)、梅木遺跡、丸山遺跡(10)で発見されている。

古墳では国史跡となっている前二子古墳、中二子古墳、後二子古墳をはじめとして、今井神社古墳(51)、伊勢山古墳、家形埴輪群を出土した赤堀町の茶臼山古墳が知られている。伊勢山遺跡、下境Ⅰ遺跡、天神遺跡(9)、舞台・舞台西遺跡(11・12)では10～30基の古墳からなる群集墳がある。さらに方形周溝墓も多数調査されており、堤東遺跡(21)、阿久山遺跡(19)などでは前方後方形周溝墓が確認された。

奈良・平安時代の遺跡も数多く調査されている。荒子小学校敷地内(23)からは銅印が出土している。

平安時代末から中世初頭の遺構としては、用水堀遺構の女堀(29・32・34・64・67)が西から東に向かって細長く延びている。

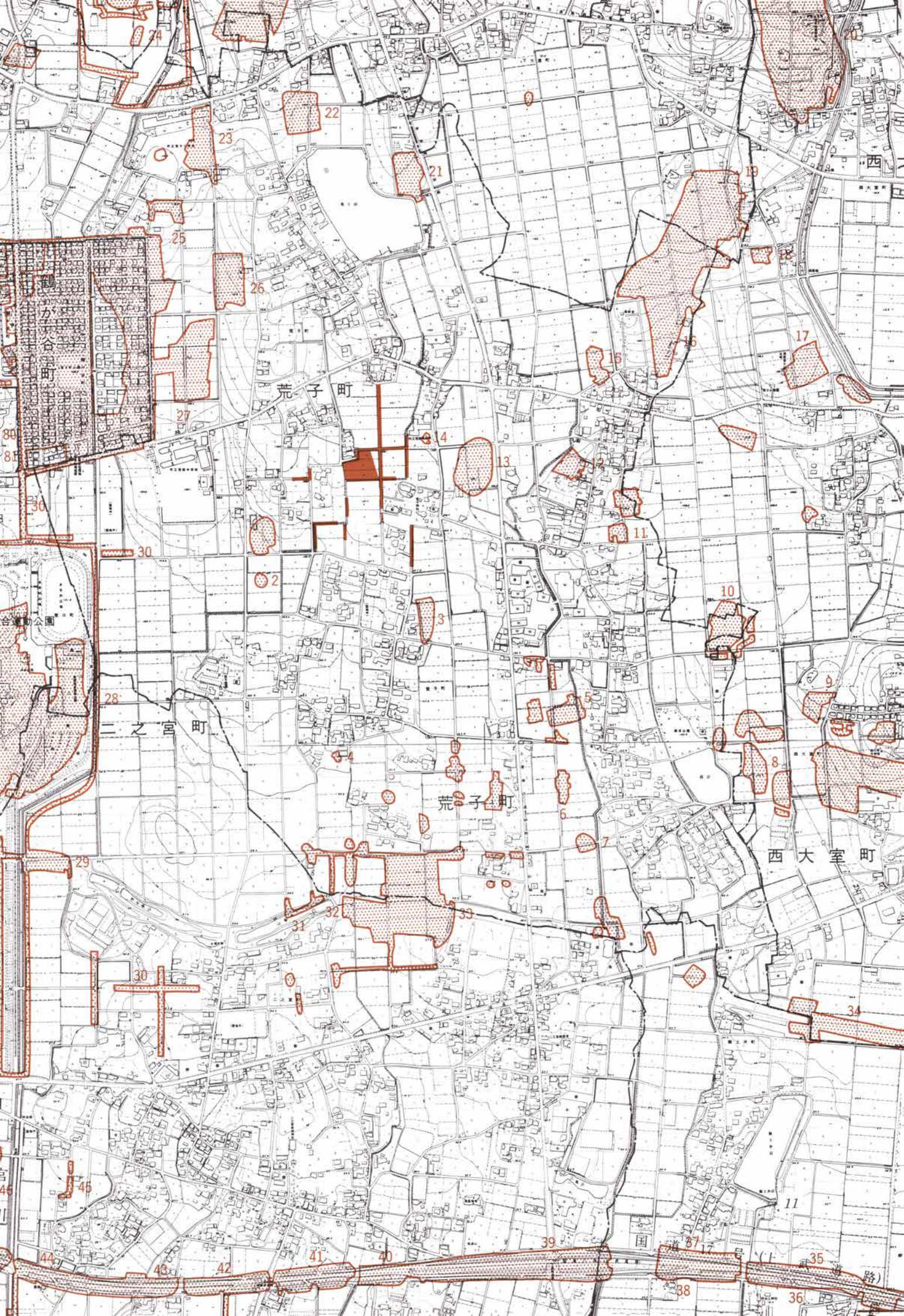


第4図 周辺遺跡の分布 (1 : 10,000)

10

筑井町

47



荒子町

二之宮町

荒子町

西大室町

路

第2章 遺跡の立地と環境

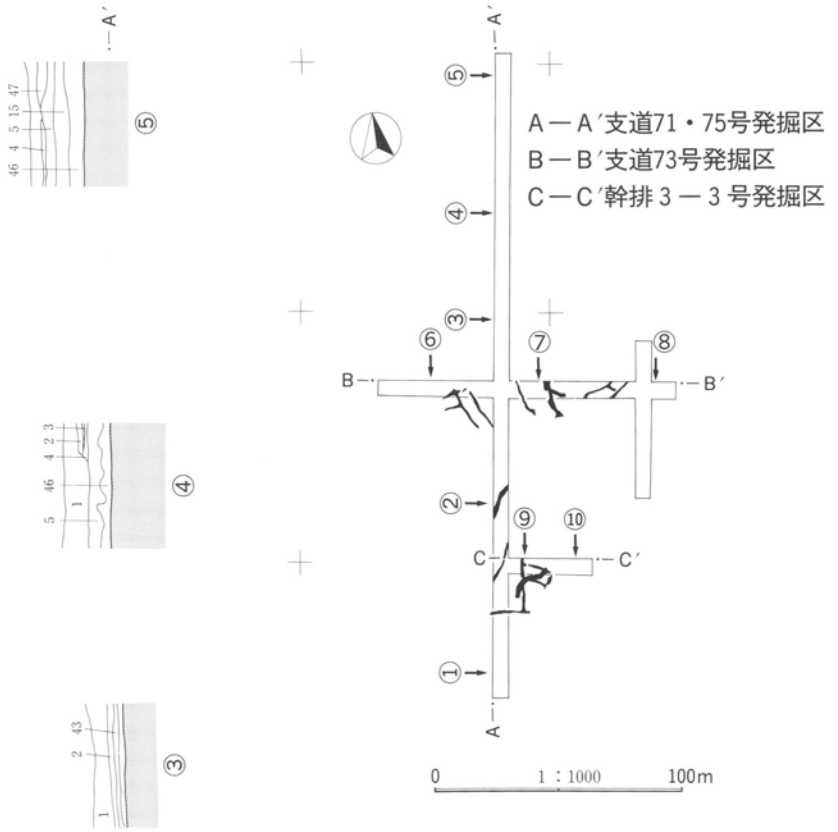
1	荒砥下押切II(アラトシモオシキリ)	荒子町	9,245	事業団	古・平住 円墳 古・平住 B水田 小鍛冶	本	書
2	荒砥下押切I(アラトシモオシキリ)	荒子町		県教委	奈住	概	報
3	荒砥中屋敷I(アラトナカヤシキ)	荒子町	6,900	県教委	古住	概	報
4	新屋(アラヤ)	荒子町新屋甲815		事業団	石田川住居跡		
5	荒砥荒子(アラトアラコ)	荒子町	9,800	事業団	古居館 古住 奈・平住 溝	概	報
6	元屋敷1・2区(モトヤシキ)	荒子町元屋敷	2,100	県調査会	古・平住 溝	概	報
7	本屋敷(モトヤシキ)	下大屋町本屋敷	150	県調査会	平安住		
8	上蛭沼(カミヒルヌマ)	荒子町上蛭沼	8,400	県調査会	弥住 古住 古墳	概	報
9	天神(テンジン)	西大室町東天神	23,000	県調査会	古・平住 古墳 溝	概	報
10	西大室丸山(ニシオオムロマルヤマ)	西大室町丸山	12,000	県教委	古墳 巨石祭祀遺構	報	告
11	舞台(ブタイ)	荒子町舞台241	4,300	県教委	古墳	報	告
12	舞台西(ブタイニシ)	荒子町舞台西	1,800	県調査会	古墳 埴輪門筒棺 甕棺		
13	荒砥舞台西(アラトブタイニシ)	荒子町舞台西		事業団	井戸 中世遺物	概	報
14	荒砥保育所(アラトホイクショ)	荒子町1019-2	20	事業団	古住居跡	市	史 ① P 173
15	下境II(シモザカイ)	荒子町下境	1,100	県教委	古墳 中世館		
16	下境I(シモザカイ)	荒子町下境	30,000	県教委	古住 古墳 中世寺 古墓 溝	報	告
17	富士山I(フジヤマ)	西大室町阿久山	30,000	県調査会	古・平住 古墳 地割れ		
18	富士山II(フジヤマ)	西大室町阿久山	350	県調査会	平住 溝		
19	阿久山(アキヤマ)	西大室町阿久山	30,000	県調査会	古・平住 古墳 地割れ		
20	伊勢山(イセヤマ)	西大室町伊勢山		事業団	古墳 平住 平井戸状遺構		
21	堤東(ツツミヒガシ)	下大屋町	4,000	県教委	周溝墓 古・平住	報	告
22	川龍替戸(カワリゴカイド)	荒子町川龍替戸	5,000	県調査会	縄土坑 奈・平住 掘立	概	報
23	前小枝庭III(アマコヨウコウテイ)	荒子町川龍替戸字大久保	3,383	調査団	平住 溝 井戸 土坑	報	告
24	前山II(マエヤマ)	荒子町1606 外	1,956	調査団	平住 溝	報	告
25	中鶴谷B号(ナカツルガヤ)	荒子町中鶴谷1296				「柳久保」(62年度調査) 市史 ① P 152	
26	大久保A(オオクボ)	荒子町大久保	8,500	県調査会	奈・平住	概	報
27	頭無(カシラナシ)	荒子町頭無	15,000	県調査会	弥・古・平住	概	報
28	鶴谷(ツルガヤ)	荒子町下鶴谷1465 外	12,000	市教委	古・奈・平住	報	告
29	女堀(オンナボリ)	今井町・荒口町	25,000	事業団	女堀 B畠	報	告
30	荒砥大日塚(アラトオホヒツカ)	二之宮町1313 外	20,000	事業団	古・奈・平住 B水田 女堀	報	告
31	宮後(ミヤウラ)	二之宮町宮後298-5	430	市教委	女堀 B畠	文化財調査報告書	
32	女堀(オンナボリ)	二之宮町405 外		事業団	女堀 畠	報	告
33	荒砥上ノ坊(アラトカミノボウ)	二之宮町・荒子町	42,000	事業団	縄・弥・古・奈・平住 女堀	報	告
34	女堀(飯土井)(オンナボリイイドイ)	飯土井町560-11 外		事業団	女堀	報	告
35	飯土井中央(イイドイチュウオウ)	飯土井町中央	10,000	事業団	旧・縄土 古住	報	告
36	飯土井中央(イイドイチュウオウ)	飯土井町	4,000	事業団	旧石器 縄土坑 古住 溝	報	告
37	飯土井上組(イイドイウワグミ)	飯土井町上組	5,000	事業団	縄住 土坑 溝 平住	報	告
38	飯土井上組(イイドイウワグミ)	飯土井町上組	1,500	事業団	縄住 土坑 溝	報	告
39	二之宮宮東(ニノミヤミヤヒガシ)	二之宮町江童六反宮東十二天 外	20,000	事業団	縄土 旧河川 平住 中世館	報	告
40	二之宮宮東B(ニノミヤミヤヒガシ)	二之宮町字宮東 外	10,000	事業団	平住 中世溝 近世遺物	報	告
41	二之宮宮下(ニノミヤミヤシタヒガシ)	二之宮町	11,000	事業団	古・奈・平住 B水田	報	告
42	二之宮宮下西(ニノミヤミヤシタニシ)	二之宮町宮下	12,000	事業団	縄土・古・奈・平住 水田 館址	報	告
43	二之宮千足(ニノミヤセンソク)	二之宮町千足	10,500	事業団	縄土 奈・平住 土坑 水田	報	告
44	二之宮千足(ニノミヤセンソク)	二之宮町千足		事業団	旧石器・縄土坑 C・FA水田	報	告
45	荒砥宮西(アラトミヤニシ)	二之宮町中里1145-1147 外	850	事業団	古・平住居跡 土坑 溝	報	告
46	荒砥洗橋(アラトアライバシ)	二之宮町洗橋1436 外	7,860	事業団	古・奈・平住 B水田	報	告
47	二之宮洗橋(ニノミヤアライバシ)	二之宮町洗橋	1,700	事業団	平安水田 古溝		
48	二之宮谷地(ニノミヤヤチ)	二之宮町	2,300	事業団	古・奈・平住 平安水田	報	告
49	二之宮谷地(ニノミヤヤチ)	二之宮町谷地	11,200	事業団	古・奈・平住 B水田	報	告
50	今井A・B号墳(イマイ)	今井町白山東835・829			円墳 耳環 直刀	市史 ① P 254 「今井神社古墳群」事業団(56年度調査)	
51	今井神社古墳群(イマイジンジャコフンクン)	今井町830・839・857	2,000	事業団	古墳		
52	今井神社周堀(イマイジンジャコウボリカクニ)	今井町818 外		事業団	古墳 周堀 埴輪		
53	今井道上・道下(イマイミチウエ・ミチシタ)	今井町字道上・道下	6,000	事業団	旧・縄土 奈・平住 土 溝 道跡		
54	今井道上・道下(イマイミチウエ・ミチシタ)	今井町字道上・道下	10,800	事業団	古・奈・平住 井戸 土 溝		
55	今井道上(イマイミチウエ)	今井町道上	5,000	事業団	古・奈・平住 溝	報	告
56	今井道上(イマイミチウエ)	今井町		事業団	古住 奈・平掘立 中世竈穴	報	告
57	荒砥北三木堂(アラトキタサンギドウ)	今井町602-3 外	40,000	事業団	旧石器 縄・古・奈・平住 古墳	報	告
58	今井白山(イマイハクサン)	今井町白山	1,000	事業団	古・奈・平住 縄敷石住	報	告
59	横塚(熊の穴II)(ヨコダツラ)(クマノアナ)	西大室町熊の穴16 外	10,000	調査団	旧石器 縄住 包含層 土坑 古墳	報	告
60	木瀬村10号墳(キセムラ)	筑井町八日市44-1		群大史研			
61	筑井八日市(ツツボイヨウカイチ)	小島町・筑井町	507	事業団	古住 古居館堀 平水田	報	告
62	今井白山(イマイハクサン)	今井町		事業団	弥墓塚 古住 奈・平住	報	告
63	荒砥北原(アラトキタハラ)	荒口町北原560 外	26,000	事業団	縄・奈・平住 古墳 方形周溝墓	報	告
64	女堀(オンナボリ)	荒口町285 外		事業団	女堀 畠	報	告
65	鶴谷II(ツルガヤ)	二之宮町鶴谷127 荒口町鶴谷 外	23,300	市教委	弥・古・奈・平住 女堀	報	告
66	荒口前原(アラクナマエハラ)	荒口町前原			弥生住居跡	市史 ① P 145 44年8月再調査	
67	女堀(オンナボリ)	荒口町164 外		事業団	女堀 水田		
68	荒砥前田(アラトマエダ)	荒口町	5,000	事業団	古水田 B水田 掘立 溝		
69	前田(マエダ)	荒口町前田150・151		群大史研	古住居跡	市史 ① P 169	
70	富田(トミダ)	富田町細田284-2 六反田・東原 外	4,500	市教委	古・奈・平住 古墳 女堀	報	告
71	富田(トミダ)	富田町宮下744-1	10,000	市教委	弥・古・奈・平住 寺跡 溝	報	告
72	富田南部(トミダナンブ)	富田町中前・細田・東原 東曲輪	12,000	市教委	縄・奈・平住 古墳 古墓	報	告
73	荒砥宮田(アラトミヤタ)	荒口町	20,265	事業団	縄・古・奈・平住 方形周溝墓	報	告
74	寺畑(テラハタ)	荒口町寺畑		群大史研	古住居跡	市史 ① P 167 「荒砥諏訪西」事業団(昭和58年度調査)	
75	荒口小塚(アラクチコツカ)	荒口町諏訪905		群大史研	円墳(安政4年発掘 鏡剣)	市史 ① P 160 市史 ① P 300 「荒砥諏訪西」事業団(昭和58年度調査)	
76	荒砥諏訪西(アラトスワニシ)	荒口町諏訪西	9,200	県教委	古住 水田 墓	概	報
77	荒砥諏訪(アラトスワ)	荒口町諏訪766-3	100	県教委	方形周溝墓 溝	概	報
78	柳久保I(ヤナギクボ)	荒口町・荒子町	13,344	県調査会	旧石器 古住 平住	報	告
79	柳久保III(ヤナギクボ)	荒口町・荒子町・下鶴谷 柳久保・頭無・大久保	18,340	調査団	古墳 B水田	報	告
80	柳久保IV(ヤナギクボ)	荒口町・荒子町・柳久保・下鶴谷	22,300	調査団	旧石器 古・奈・平住 B水田	報	告
81	柳久保V(ヤナギクボ)	荒子町下鶴谷・中鶴谷 外	22,953	調査団	縄・奈・平住 掘立 炭窯	報	告

3

基本土層

支道71・75号発掘区

- 1 表土
- 2 暗橙褐色土層 軽石粒と地山粒を多く含む。As-Bを含む。下部は暗橙紫色土。
- 3 暗紫褐色土層 軽石粒と地山粒を含み、またAs-Bを含む。
- 4 As-Bの純層
- 5 黒色粘質土層 軽石粒を僅かに含む。
- 6 暗灰褐色土層 軽石粒、小石を含む。
- 7 暗橙黒褐色砂礫層 1〜2cm大の小石が多い。下部に黒色土の体積が部分的にある。
- 8 暗灰色土層 基盤層。
- 9 暗橙褐色砂礫層 1〜3cm大の小石が多い。
- 10 暗黒灰色粘質土層 暗白灰色粘質土、砂質土を間層にはさむ。
- 11 黒色土層 軽石粒、地山粒を含む。
- 12 暗黄灰色粘質土層
- 13 黒色土層 11層に類する。
- 14 暗灰色砂層
- 15 黒色粘質土層 軽石粒、地山粒を含む。
- 16 暗橙灰褐色土層 (FA)
- 17 黒色粘質土層 軽石粒、地山粒をほとんど含まない。極めて粘質。
- 18 暗黒粘質土層 軽石粒を僅かに含む。
- 19 黒褐色砂礫層 5mm〜1cm大の小石を含む。
- 20 暗灰色砂礫層 5mm〜2cm大の小石を含む。
- 21 黒灰色粘質土層 軽石粒をほとんど含まない。
- 22 黒色粘質土層
- 23 黒色粘質土層 22層に類する。
- 24 暗灰褐色土層
- 25 暗黒灰色土層 白色の軽石を僅かに含む。やや粘質。
- 26 黒色土層 やや粘質。
- 27 暗橙灰色土層 軽石粒を僅かに含む。
- 28 暗黒粘質土層 4層に類する。
- 29 黒色土層 軽石粒を多量に含む。やや粘質。
- 30 As-Cの純層
- 31 黒色粘質土層 軽石粒を少量含む。
- 32 暗黒粘質土層 31層に類する。
- 33 FAのブロック
- 34 暗褐色砂層
- 35 黒色土層 29層に類する。
- 36 暗黒色土層 3・4・5層の混り。
- 37 暗褐色土層 36層に類する。As-Bが多い。
- 38 黒色混土層 As-B、砂、黒色土の混り。
- 39 暗褐色砂質土層 黒色土小ブロック(1cm大)、基盤層ブロックを含む。
- 40 暗黒粘質土層 軽石粒を僅かに含む。基盤層をブロック状に含む。
- 41 暗灰褐色土層
- 42 暗黒粘質土層 ほとんど軽石粒を含まない。
- 43 暗黒土層 白色の軽石粒を多量に含む。
- 44 暗黒灰色粘質土層 軽石粒をほとんど含まない。
- 45 暗灰褐色砂質土 粗砂、小石を含む。
- 46 暗褐色粘質土層 黒色土、焼土のブロックを含む。
- 47 暗褐色粘質土層
- 48 暗褐色粘質土層
- 49 暗褐色粘質土層
- 50 暗褐色粘質土層
- 51 暗褐色粘質土層
- 52 暗褐色粘質土層
- 53 暗褐色粘質土層
- 54 暗褐色粘質土層
- 55 暗褐色粘質土層
- 56 暗褐色粘質土層
- 57 暗褐色粘質土層
- 58 暗褐色粘質土層
- 59 暗褐色粘質土層
- 60 暗褐色粘質土層
- 61 暗褐色粘質土層
- 62 暗褐色粘質土層
- 63 暗褐色粘質土層
- 64 暗褐色粘質土層
- 65 暗褐色粘質土層
- 66 暗褐色粘質土層
- 67 暗褐色粘質土層
- 68 暗褐色粘質土層
- 69 暗褐色粘質土層
- 70 暗褐色粘質土層
- 71 暗褐色粘質土層
- 72 暗褐色粘質土層
- 73 暗褐色粘質土層
- 74 暗褐色粘質土層
- 75 暗褐色粘質土層
- 76 暗褐色粘質土層
- 77 暗褐色粘質土層
- 78 暗褐色粘質土層
- 79 暗褐色粘質土層
- 80 暗褐色粘質土層
- 81 暗褐色粘質土層
- 82 暗褐色粘質土層
- 83 暗褐色粘質土層
- 84 暗褐色粘質土層
- 85 暗褐色粘質土層
- 86 暗褐色粘質土層
- 87 暗褐色粘質土層
- 88 暗褐色粘質土層
- 89 暗褐色粘質土層
- 90 暗褐色粘質土層
- 91 暗褐色粘質土層
- 92 暗褐色粘質土層
- 93 暗褐色粘質土層
- 94 暗褐色粘質土層
- 95 暗褐色粘質土層
- 96 暗褐色粘質土層
- 97 暗褐色粘質土層
- 98 暗褐色粘質土層
- 99 暗褐色粘質土層
- 100 暗褐色粘質土層

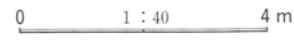
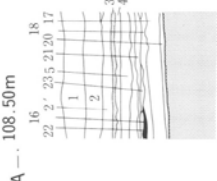
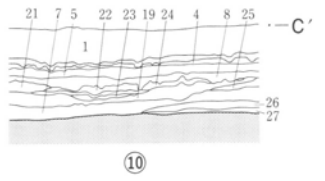
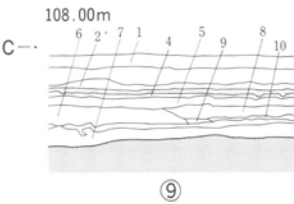
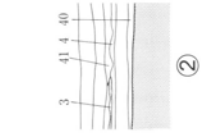
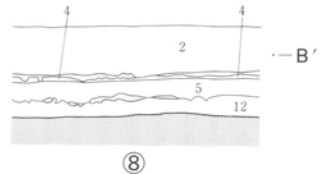
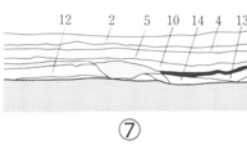
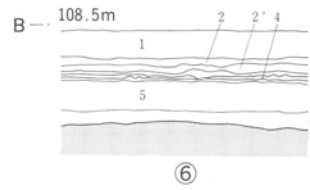


幹排3-3号発掘区

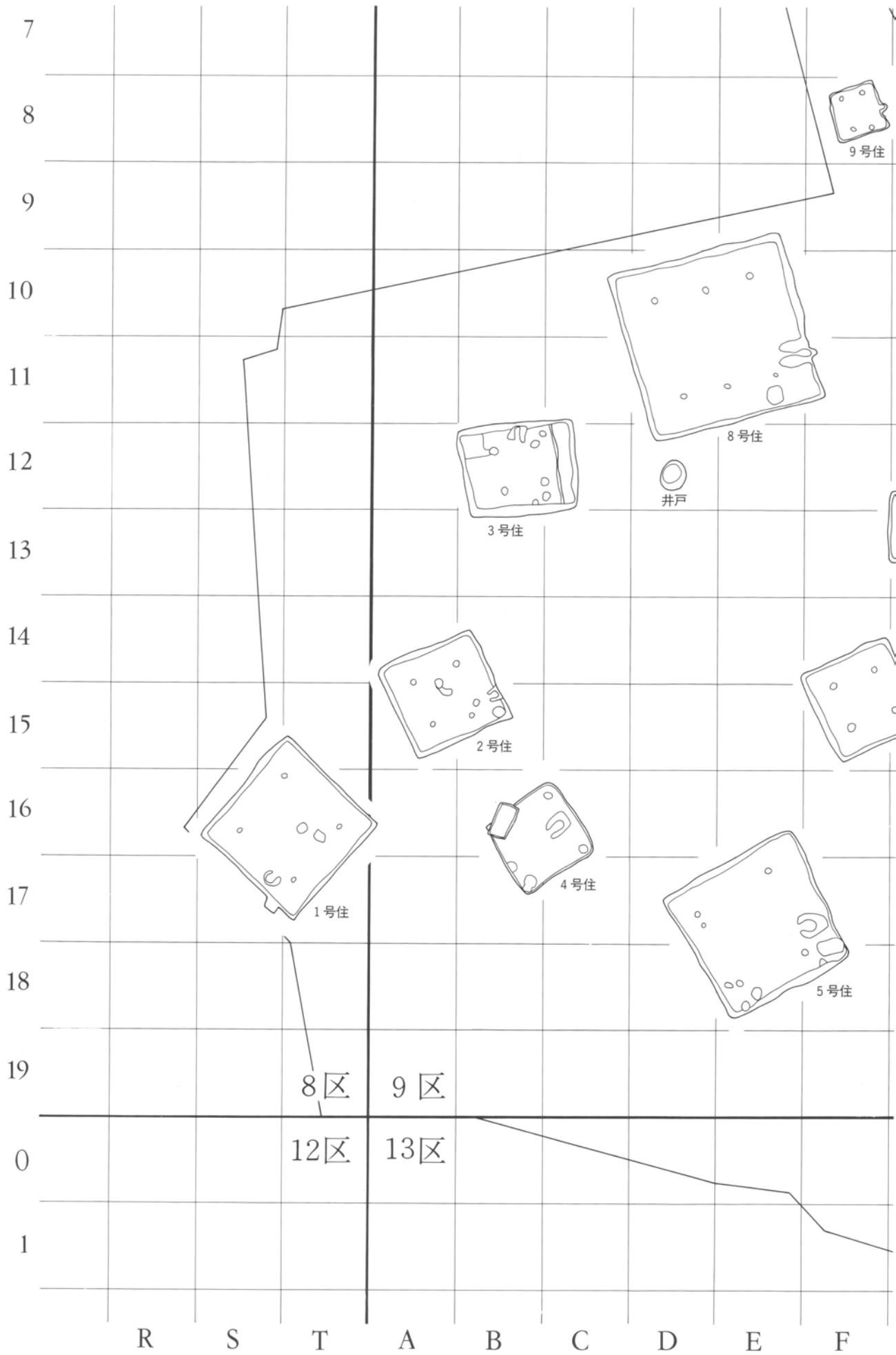
- 1〜4は支道71・75号に同じ。
- 5 黒褐色土層 軽石粒、砂を多量に含む。
- 6 暗灰褐色土層 軽石粒、地山粒を含む。
- 7 暗黒灰褐色微粒砂層 軽石粒を僅かに含む。
- 8 暗橙灰褐色土層 軽石粒を含み、極めて固い。
- 9 暗橙褐色土層
- 10 6層に類する。
- 11 黒色粘質土層 軽石粒を含まない。
- 12 6層に類する。
- 13 暗灰褐色粘質土層 軽石粒を含まない。
- 14 13層に類するが、小石、地山粒、砂も僅か混る。
- 15 12層に類する。
- 16 暗橙褐色砂礫層 黄褐色の地山粒を多く含む。1cm大の円礫を含む。
- 17 暗橙褐色砂層 均一な砂層。
- 18 黒褐色土層 小石、軽石粒を多く含む。
- 19 暗褐色砂層 5mm〜2cm大の小石を含む。
- 20 暗褐色土層 軽石粒、砂を含む。
- 21 暗黄褐色砂礫層 1cm大の石を含む。
- 22 22層と地山の混り。
- 23 22層に類するがやや黒い。
- 24 暗黒灰色粘質土層 2mm〜1cm大の石を含む。
- 25 24層に類するがさらに黒い。
- 26 24層に類するがさらに黒い。
- 27 暗灰褐色土層 白色の軽石粒を多く含む。
- 28 暗褐色砂層
- 29 黒色土層 やや粘質。軽石粒を多量に含む。
- 30 黒色土層 やや粘質。軽石粒、小石を少量含む。
- 31 暗黒黒褐色土層 やや粘質。軽石粒、小石を少量含む。
- 32 暗橙褐色砂礫層 5mm大の小石が多い。
- 33 FAのブロック
- 34 暗褐色土層 3・4・5層の混り。As-Bが多い。
- 35 暗褐色土層 小石、軽石粒を含む。

支道73号発掘区

- 1〜5は支道71・75号に同じ。
- 6 暗黒粘質土層 軽石粒をほとんど含まない。
- 7 5層に類する。
- 8 7層と基盤層の混り。
- 9 暗灰色砂層
- 10 暗黒粘質土層 白色の軽石を含む。
- 11 暗黒粘質土層 軽石粒、地山粒をほとんど含まない。
- 12 暗黒灰褐色粘質土層 軽石粒、地山粒をほとんど含まない。
- 13 暗褐色砂層
- 14 暗黒灰色砂層
- 15 12層に類する。
- 16 15層と基盤層の混り。
- 17 5層と18層の混り。
- 18 16層に類する。
- 19 暗灰褐色砂層
- 20 暗黒灰褐色粘質土層 小石を含む。



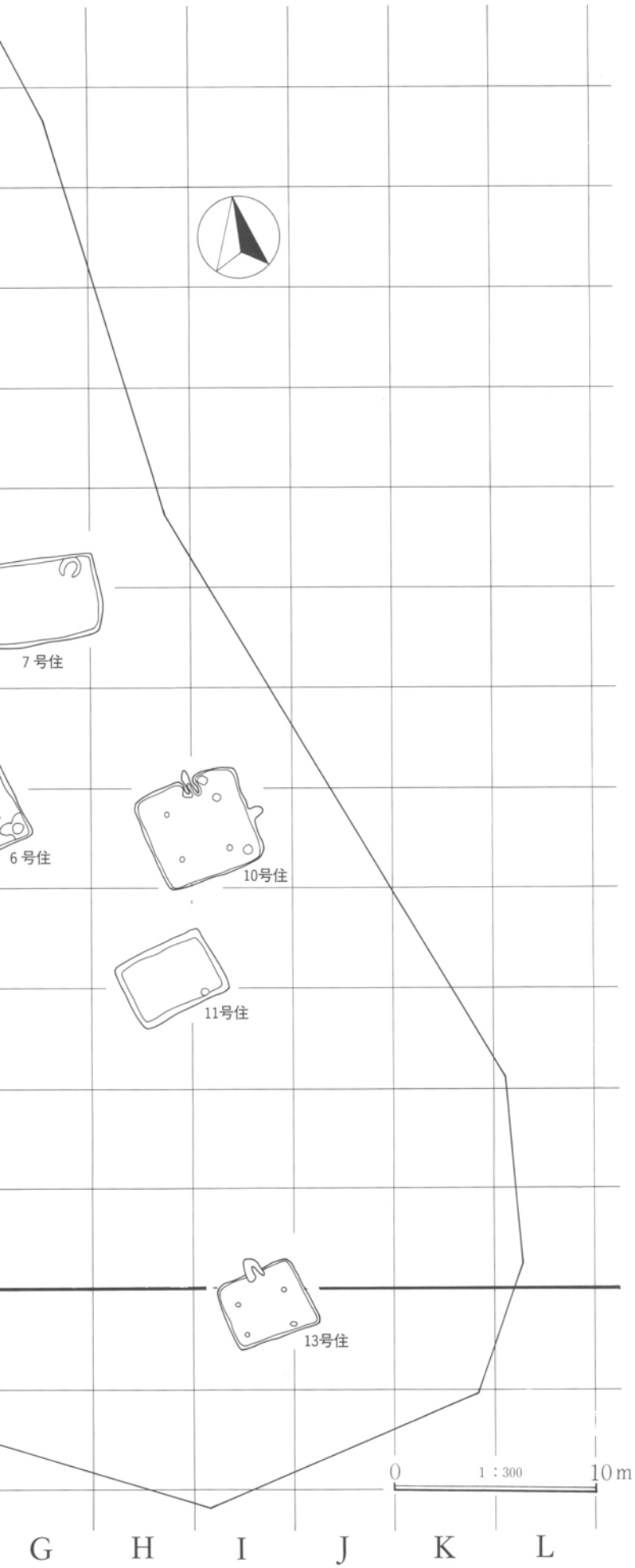
第5図 遺跡の基本土層



第6図 荒砥下押切II遺跡全体図

第3章

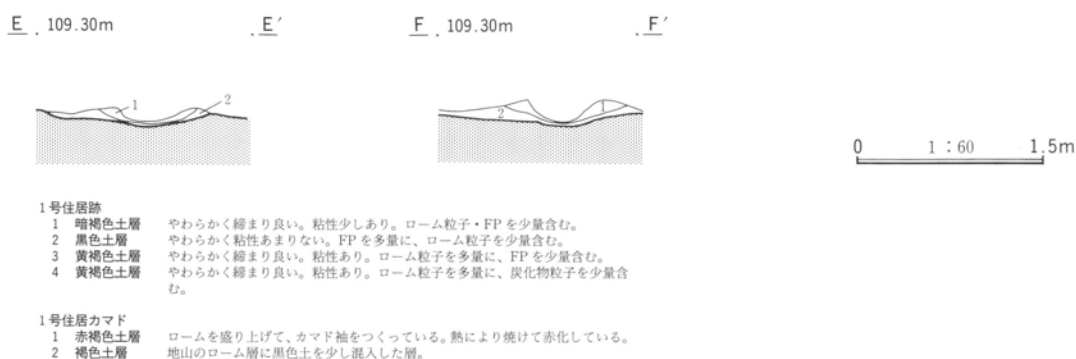
荒砥下押切II遺跡



1 竪穴住居跡

1号住居跡 (第7～10図 PL.4・44)
位置 8 S-15～17、8 T-15～17、9 A-16グリッドにかけて検出された。4号住居跡の西約6mの所に位置している。
形状 長辺7.3m、短辺7.16mのほぼ正方形を呈している。
方位 N-128°-W
覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。
壁高 住居跡確認面より約32～54cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。
床面 ほぼ平坦である。面積は約47.4㎡。
周溝 全周している。幅4～12cm、深さ2～12cmを測る。北壁下の周溝が深い。

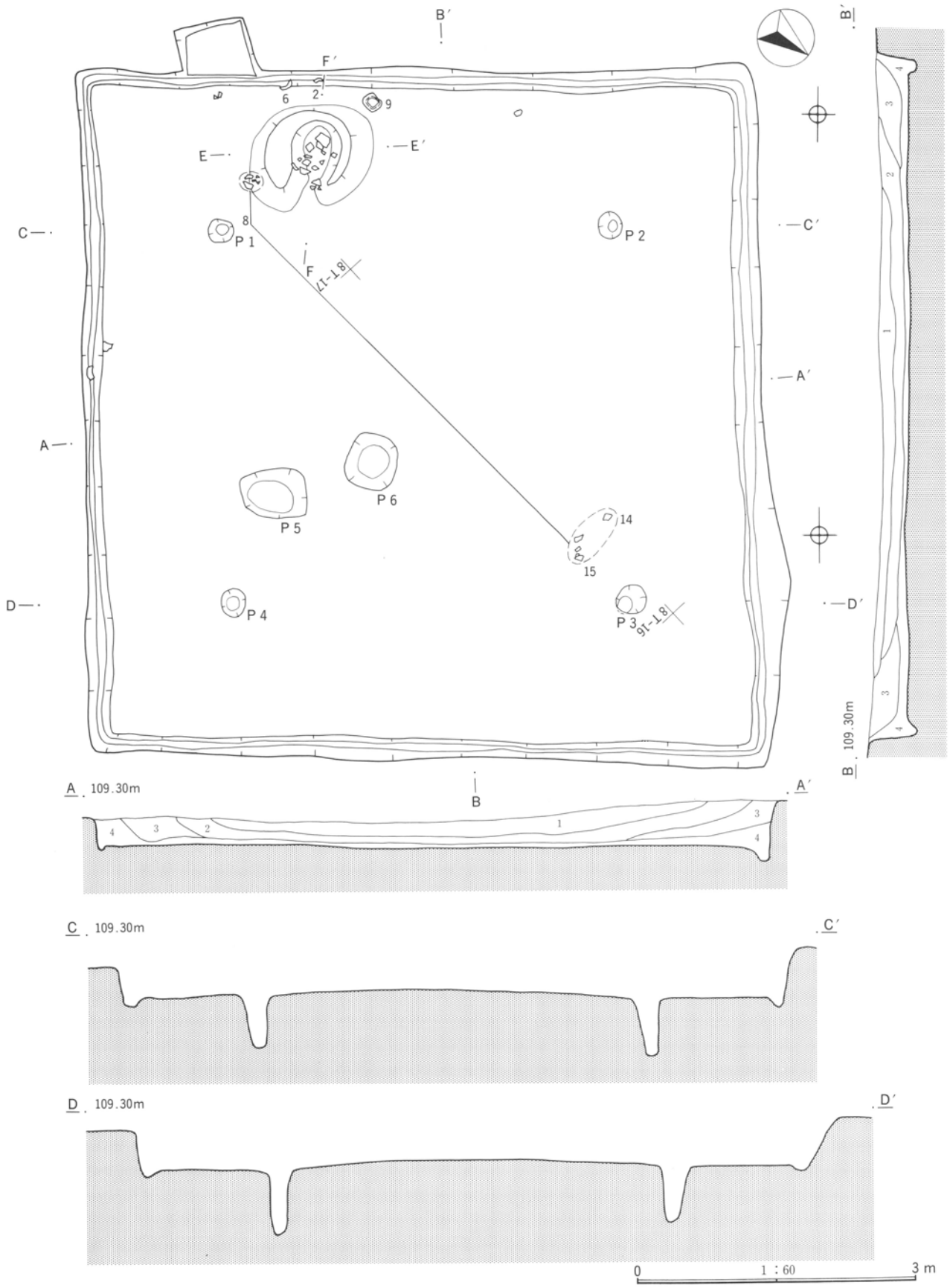
竈 床面南隅に構築されてる。ロームを盛り上げて袖を構築している。長さ約110cm、幅約130cm、焚き口幅約10cmである。竈内から甕が出土している。
柱穴 6個のピットが検出された。このうちP1～P4が支柱穴になる。P1は深さ55cm、P2深さ63cm、P3深さ59cm、P4深さ62cmである。P5は長径68cm、短径53cm、深さ5～8cm、P6は長径59cm、短径54cm、深さ4～7cmで、いずれも炉の痕跡と思われる。
貯蔵穴 検出できなかった。
遺物 覆土からの出土は少なかった。竈内と竈周辺の床直上から坏・高坏・甕が出土している。また、第9図9の胴下半分欠損の甕が床に据えられた状態で出土している。
時期 古墳時代中期(5世紀後半)。



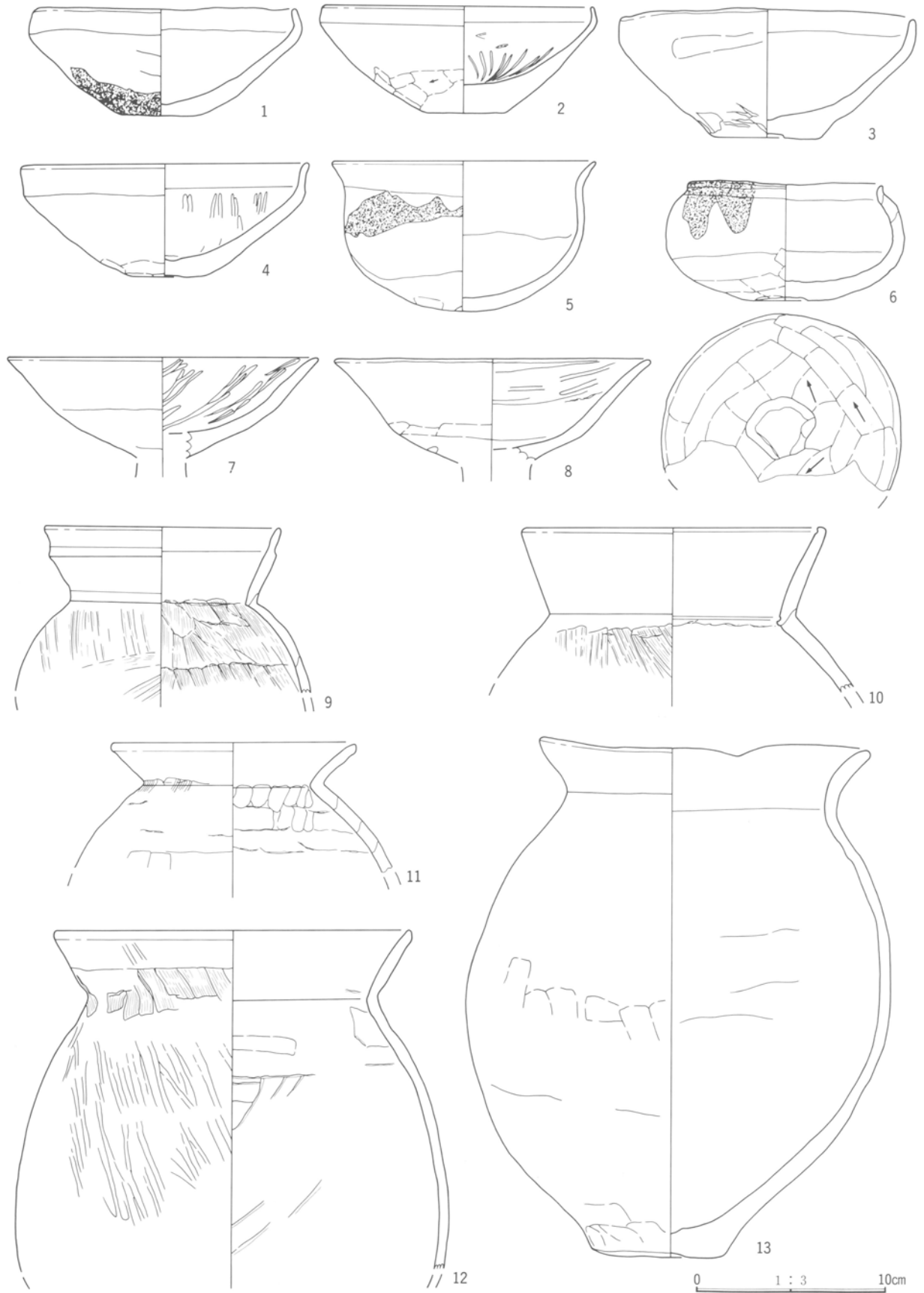
第7図 1号住居跡(1)

荒砥下押切II・1号住居跡

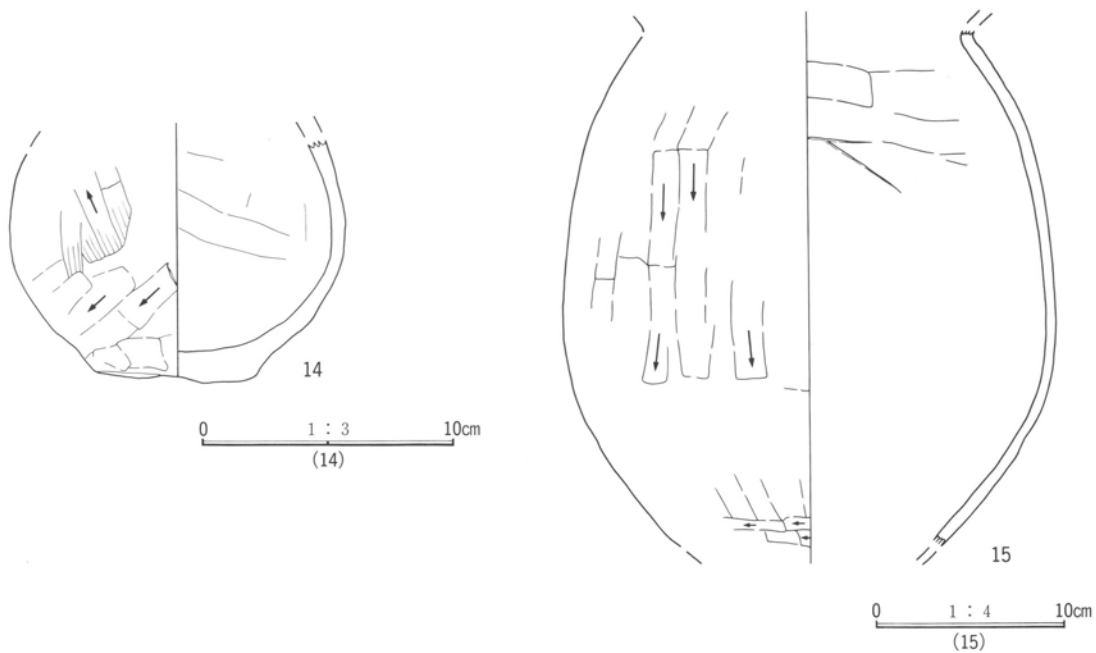
図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)			①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
		①口径	②器高	③底径				
9-1 44	土師器 坏	① 13.7	② 5.5	③ 4.0	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	底部外面篋削り。体部外面横方向篋削り。口縁部横なで。内面なで。	覆土	ほぼ完形
9-2 44	土師器 坏	① 14.3	② 5.6	③ 4.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	底部外面篋削り。体部外面横方向篋削り。上半斜方向篋なで。内面放射状の磨き。	カマド 周辺	3/4
9-3 44	土師器 坏	① (15.5)	② 6.8	③ 5.5	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	底部外面篋削り。体部外面斜方向の篋なで。内面丁寧な篋なで。	覆土	2/3
9-4 44	土師器 坏	① 15.1	② 5.9	③ (4.0)	①細砂 褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	底部外面篋削り。体部外面横方向篋削り後、上半斜方向篋なで。内面放射状の磨き。	覆土	2/3
9-5 44	土師器 坏	① 14.0	② 7.9		①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部横なで。内面篋磨き。荒れている。	カマド	2/3



第8図 1号住居跡(2)



第9図 1号住居跡出土遺物(1)



第10図 1号住居跡出土遺物(2)

9-6 44	土師器 坏	① 10.3 ② 6.1	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	体部外面篋削り。など。内面篋削り。など。 底面に凹み。	カマド 周辺	1/2
9-7 44	土師器 高坏	①(16.3) ②(5.5)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	坏部外面篋削り。など。口縁部横。内面 放射状の篋削り。	覆土	1/2
9-8 44	土師器 高坏	① 16.7 ②(5.9)	①細砂 褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	坏部外面篋削り。など。一部磨き。内面斜 方向の篋削り。	カマド 周辺	坏部2/3
9-9 44	土師器 甕	① 12.4 ②(8.7)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部に段を有する。内外面横。内面 内に刷毛目状の整形。	カマド 周辺	口縁～胴 部片
9-10 44	土師器 甕	① 16.0 ②(8.0)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい橙色	口縁部内外面横。肩部木端状工具 による刷毛目状の整形。内面。内面。	覆土	口縁～胴 部片
9-11 44	土師器 甕	①(13.0) ②(6.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横。胴部篋削り後、 など。内面頸部指。など。輪積み痕あり。	カマド	口縁～胴 部1/2
9-12 44	土師器 甕	① 18.8 ②(17.8)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横。頸部外面縦方向 の削り。胴部外面磨き。内面篋削り。	覆土	口縁～胴 部1/2
9-13 44	土師器 甕	① 17.9 ②26.6 ③ 6.8	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横。胴上半。下半篋削り後、 など。内面。内面。輪積み 痕残る。	覆土	2/3
10-14 44	土師器 小型甕	②(9.6) ③ 6.3	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	底部外面篋削り。胴部外面篋削り後、 など。内面篋削り。など。磨き。	住居北 部	1/3
10-15 44	土師器 甕	②(27.0)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	胴部外面篋削り後、など。内面。内面。	住居北 部	1/2

2号住居跡(第11~15図 PL.5・6・44~46)

位置 9 A-14・15、9 B-14・15グリッドにかけて
検出された。1号住居跡の北東約5mの所に位置し
ている。

形状 長辺5.9m、短辺5.7mのほぼ正方形を呈して
いる。

方位 N-71°-E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、
そこに堆積した覆土は11層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約62~76cmで床面に達す
る。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約27.4m²。

周溝 全周している。幅5~16cm、深さ3~10cmを
測る。南壁下の周溝が深い。

竈 東壁南寄り、壁を掘り込まずに構築されてる。
長さ約70cm、幅約70cm、焚き口幅約25cmである。

柱穴 6個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴
になる。P1は深さ46cm、P2深さ51cm、P3深さ15cm、

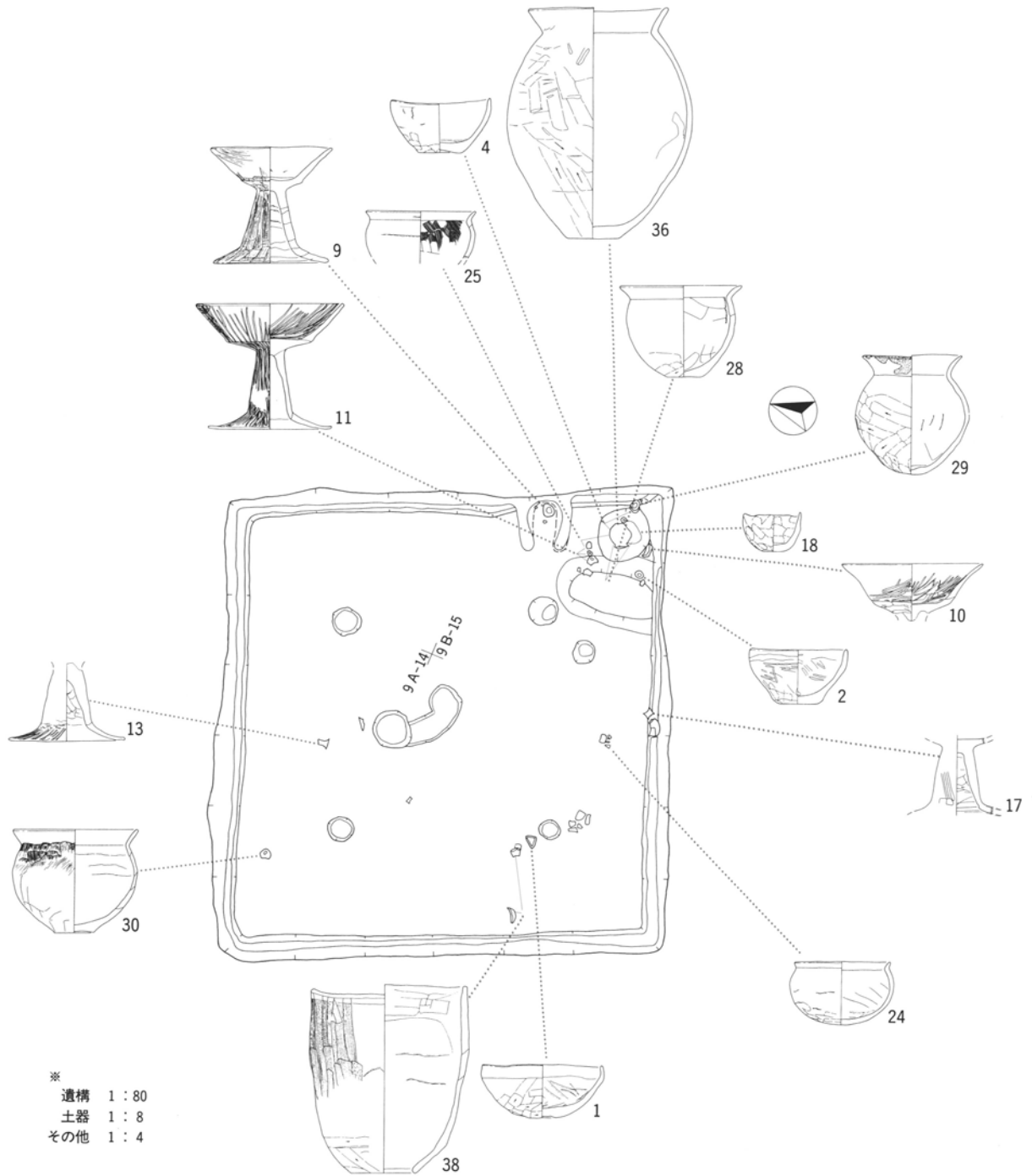
第3章 荒砥下押切II遺跡

P4深さ46cmである。P5は深さ14cm、P6は深さ11cmである。

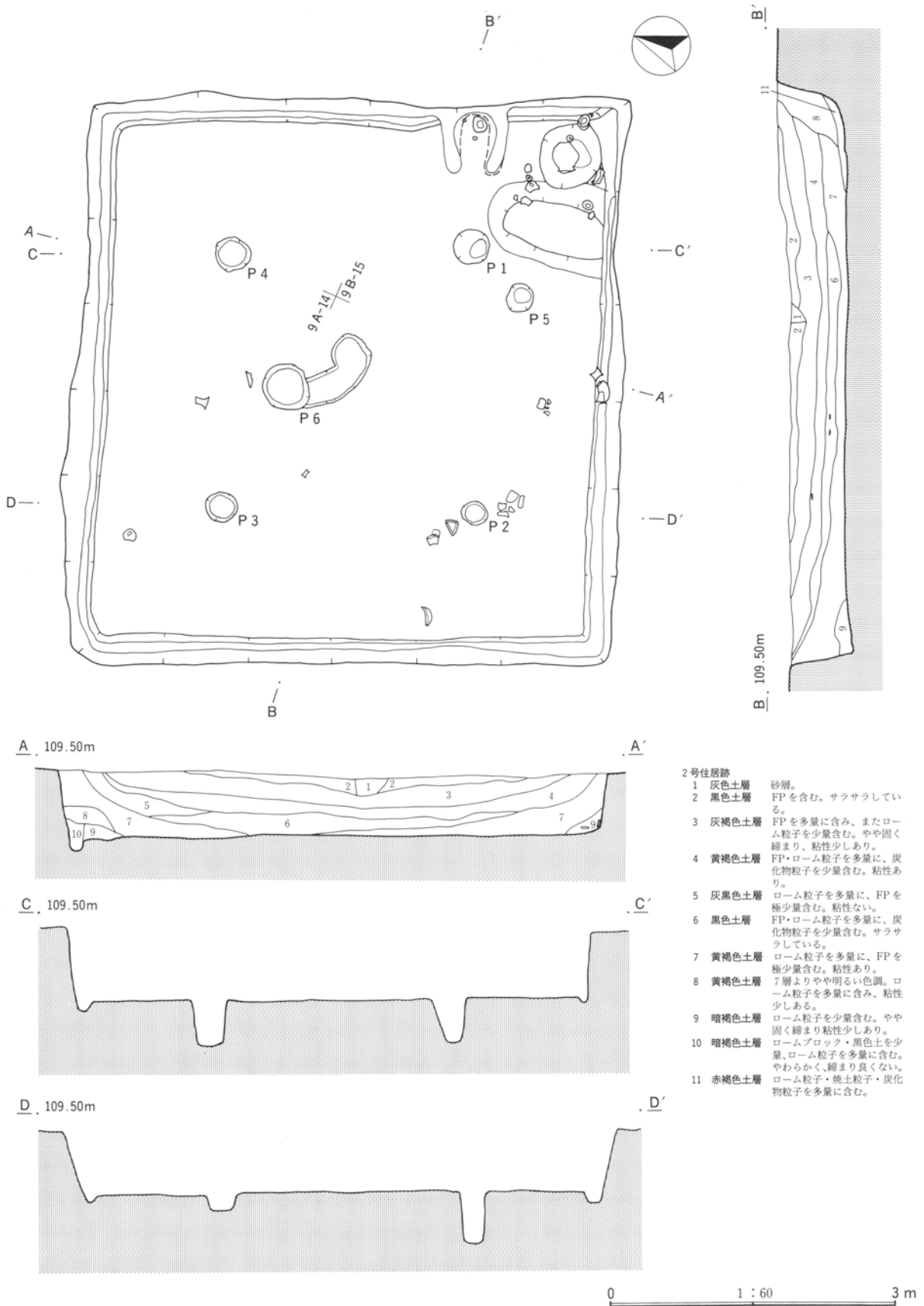
貯蔵穴 床面南東隅から検出された。規模は長径70cm、短径65cm、深さ60cmである。貯蔵穴に接して西側に床面より約5cm程のロームの高まりが認められた。

遺物 覆土からの出土は少なかった。竈内と貯蔵穴周辺から出土している。第15図36の甕は貯蔵穴上に横倒し状態で出土し、第14図29の小型甕は壁に接して出土している。

時期 古墳時代中期（5世紀後半～6世紀）。

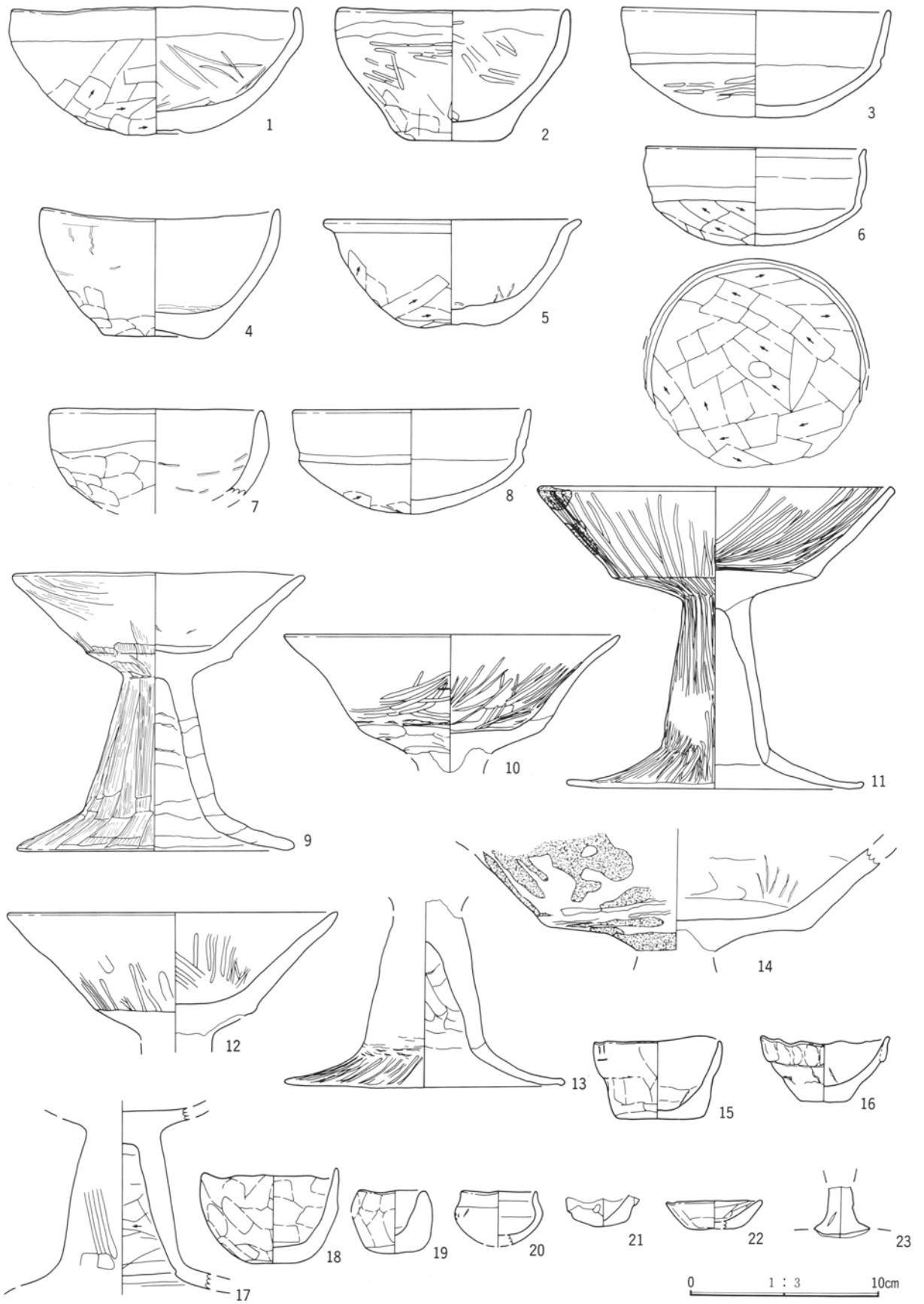


第11図 2号住居跡遺物分布

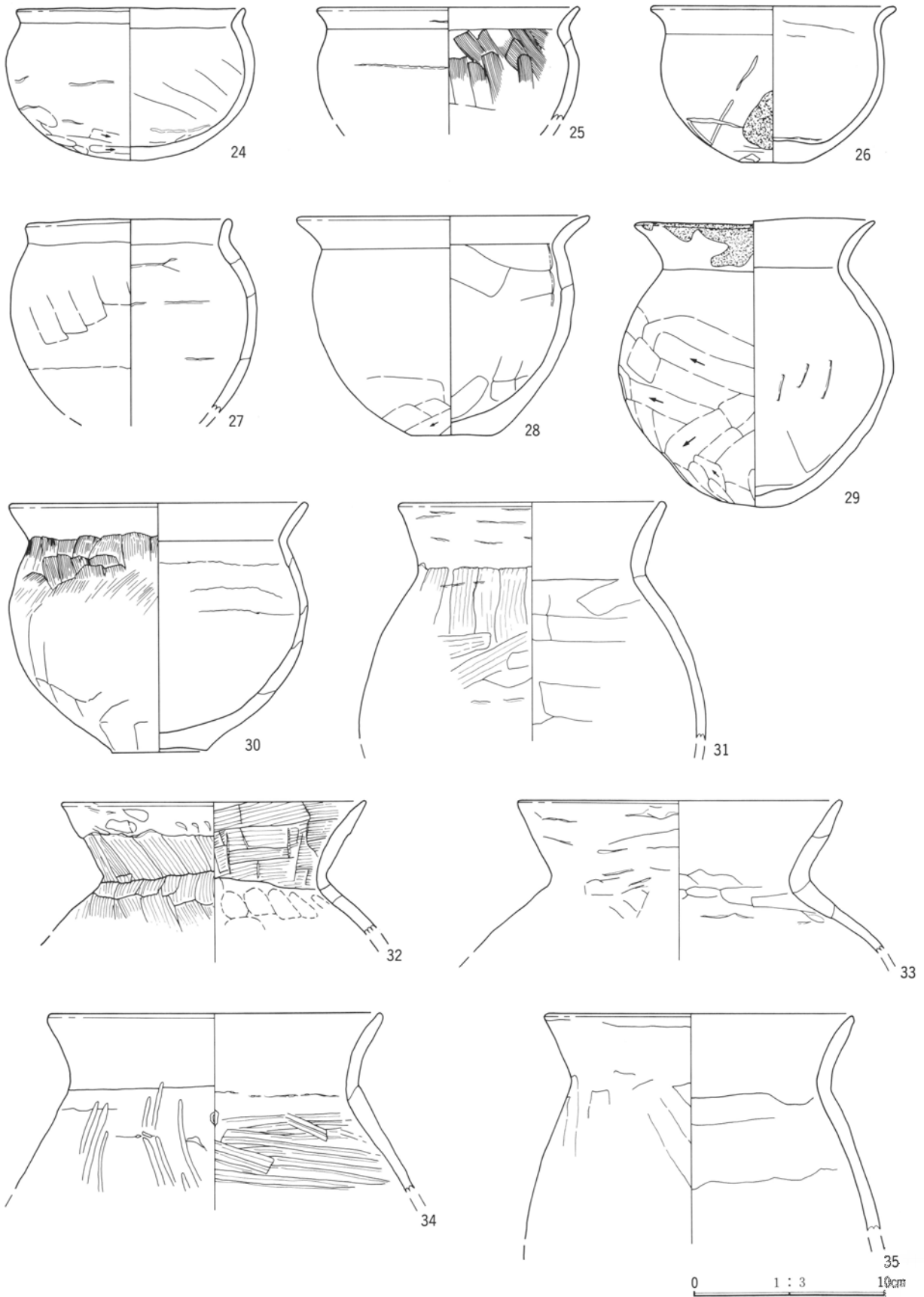


第12図 2号住居跡

第3章 荒砥下押切II遺跡

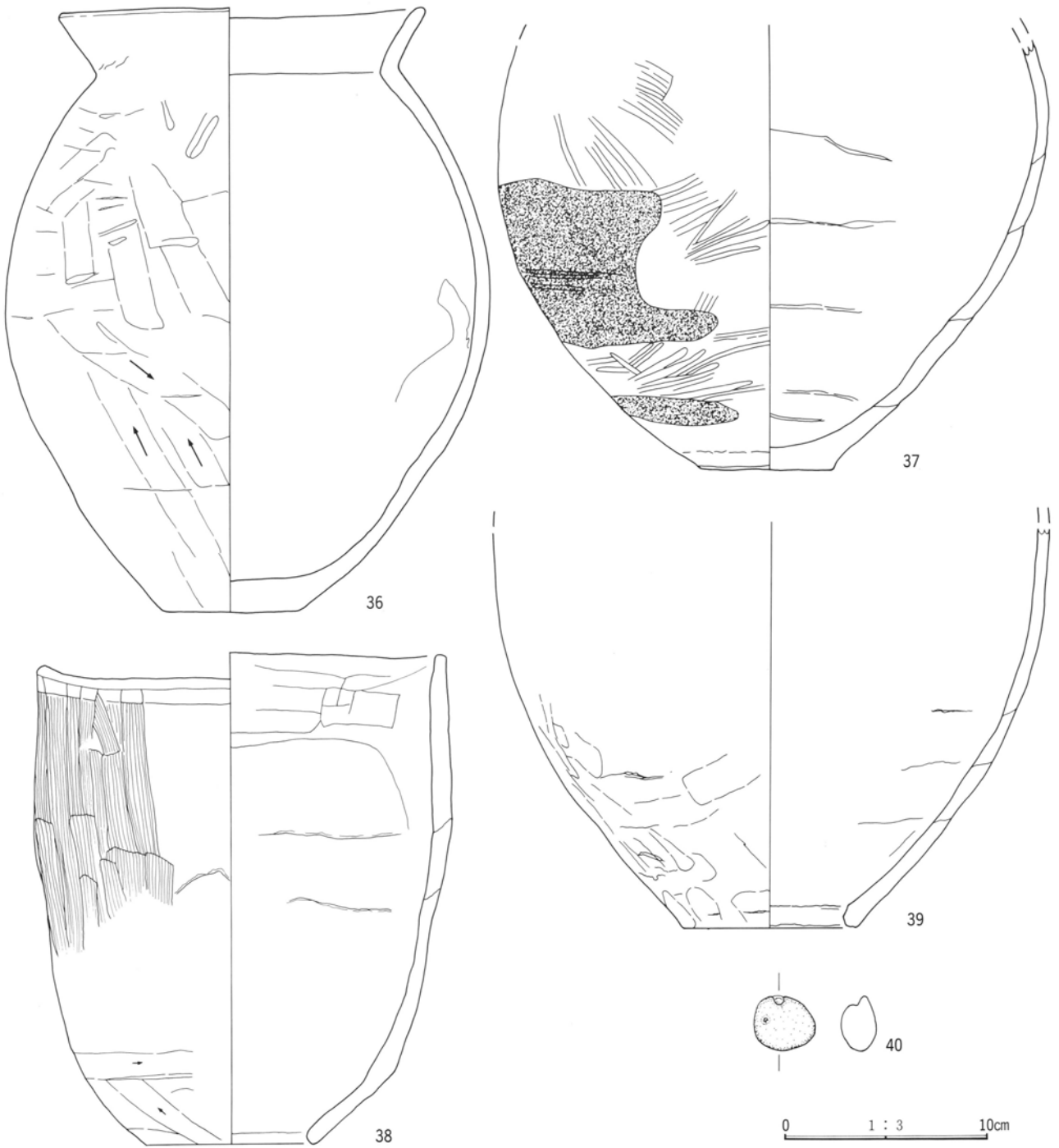


第13图 2号住居跡出土遺物(1)



第14図 2号住居跡出土遺物(2)

第3章 荒砥下押切II遺跡



第15図 2号住居跡出土遺物(3)

荒砥下押切II・2号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調			成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
			①胎土	②焼成	③色調			
13-1 44	土師器 坏	①(16.3)② 6.6	①細砂 白・褐色細粒子を含む	②酸化焰	③赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面斜方向の篋磨き。	床西部	2/3
13-2 44	土師器 坏	① 12.3 ② 6.8 ③ 5.0	①細砂 白・黒色細粒子を含む	②酸化焰	③明赤褐色	体部外面篋削り後、横方向の磨き。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	貯蔵穴 周辺	1/2
13-3 44	土師器 坏	① 14.2 ② 5.7	①細砂 白・黒色細粒子を含む	②酸化焰	③赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面荒れている。	覆土	2/3
13-4 44	土師器 坏	① 12.5 ② 6.1 ③ 5.8	①細砂 白・褐色細粒子を含む	②酸化焰	③灰褐色	外面底部から体部にかけて篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面なで。	貯蔵穴 周辺	2/3

〔1〕 竪穴住居跡

13-5 44	土 師 器 坏	① 13.5 ② 5.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面篋削り後、上部など。内面丁寧な篋などで。篋端部の痕残る。	覆土	ほぼ完形
13-6 44	土 師 器 坏	① 11.6 ② 5.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	体部外面篋削り。口縁部内外面横などで。内面など。	覆土	3/4
13-7 44	土 師 器 坏	① 10.3 ② (5.4)	①細砂 黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	体部外面篋削り。口縁部内外面横などで。内面篋など。	覆土	1/2
13-8 44	土 師 器 坏	① 12.6 ② 5.5	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③暗赤褐色	体部外面篋削り後、など。口縁部内外面横などで。内面荒れている。	覆土	1/2
13-9 45	土 師 器 高 坏	① 15.4 ②14.7 ③ 14.6	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面など。脚部外面刷毛目。内面輪積み痕。	カマド	完形
13-10 45	土 師 器 高 坏	①(17.2) ② (7.2)	①細砂 黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	坏部外面などで後、斜方向の篋磨き。口縁部内外面横などで。内面斜方向の磨き。	貯蔵穴 周辺	坏部1/2
13-11 45	土 師 器 高 坏	①(18.0)②15.8 ③(15.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部外面などで後、縦方向の篋磨き。内面斜方向の篋磨き。脚部外面縦方向の磨き。	貯蔵穴 周辺	1/2
13-12 45	土 師 器 高 坏	①(17.3) ② (6.7)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	坏部外面などで後、縦方向の篋磨き。口縁部内外面横などで。内面縦斜方向の磨き。	覆土	坏部1/3
13-13 45	土 師 器 高 坏	② (9.8) ③(14.8)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	脚部外面丁寧な篋などで。脚部外面篋磨き。内面横・縦方向の篋などで。	床北部	脚部1/2
13-14 45	土 師 器 高 坏	② (6.3)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	坏部外面丁寧な篋などで。内面篋などで。篋端部の痕残る。炭化物付着。	覆土	坏部1/5
13-15 45	土 師 器 手 捏	① 6.7 ② 4.0 ③ 4.7	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焰 ③灰白色	体部外面指などで。内面篋などで。	覆土	3/4
13-16 45	土 師 器 手 捏	① 6.7 ② 3.0 ③ (2.1)	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤色	体部外面指などで。内面篋などで。底部篋調整。	覆土	1/2
13-17 45	土 師 器 高 坏	②(10.0)	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焰 ③暗赤褐色	脚部外面丁寧な篋などで後、磨き。内面横方向の篋削り。	覆土	脚部
13-18 45	土 師 器 手 捏	① 7.2 ② 4.6 ③ 2.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③暗赤褐色	体部外面指などで。内面など。	貯蔵穴 周辺	ほぼ完形
13-19 45	土 師 器 手 捏	① (3.5) ② 3.3 ③ (3.0)	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐灰色	体部外面指などで。内面など。	覆土	1/2
13-20 45	土 師 器 手 捏	① 4.0 ② 2.8	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	体部外面指などで。内面など。	覆土	1/3
13-21 45	土 師 器 手 捏	① 3.8 ②(1.6) ③ 2.6	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	体部外面指などで。内面など。底部篋調整。	覆土	1/2
13-22 45	土 師 器 手 捏	① 5.0 ② 1.5	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焰 ③黒褐色	体部外面篋などで。内面など。	覆土	1/2
13-23 45	土 師 器 手 捏	② (2.7)	①細砂 褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	脚部外面篋などで。	覆土	1/2
14-24 45	土 師 器 鉢	①(12.0) ② 7.9	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、など。口縁部内外面横などで。内面斜方向の篋などで。	床南部	1/2
14-25 45	土 師 器 鉢	①(13.8) ③ (6.0)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	胴部外面荒れている。口縁部内外面横などで。内面刷毛目状の整形。	貯蔵穴 周辺	1/3
14-26 45	土 師 器 鉢	① 12.8 ② 8.1 ③ 3.6	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面など。底面平底状。	覆土	口縁～底部1/3
14-27 45	土 師 器 鉢	① 10.8 ②(10.3)	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	胴部外面篋削り後、など。口縁部内外面横などで。内面など。	覆土	1/2
14-28 45	土 師 器 鉢	①(15.4)②11.5 ③ 4.2	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、など。口縁部内外面横などで。内面篋などで。底面平底。	貯蔵穴 周辺	2/3
14-29 45	土 師 器 小型甕	① 12.6 ②14.9	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面篋削り。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	貯蔵穴 周辺	完形
14-30 45	土 師 器 小型甕	① 15.6 ②13.1 ③ 5.0	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	胴部外面刷毛目状の整形。篋削り後、など。口縁部内外面横などで。内面輪積み痕。	床北部	1/2
14-31 45	土 師 器 甕	①(14.0) ②(12.4)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	胴部外面刷毛目状の整形。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	覆土	1/5
14-32 45	土 師 器 甕	①(16.0) ② (7.2)	①中・細砂 白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	口縁～胴部外面刷毛目状の整形。口縁内面も同様。以下指頭圧痕。輪積み痕残る。	覆土	口縁～胴部片
14-33 45	土 師 器 甕	①(17.0) ② (8.1)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋などで。内面篋などで。輪積み痕残る。	覆土	口縁～胴部片

第3章 荒砥下押切II遺跡

14-34 45	土 師 器 甕	①(17.6) ② (9.2)	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄色	口縁部外面篋などで後、縦方向の磨き。 口縁部内外面横などで。内面刷毛目状の整形。	覆土	口縁～胴部片
14-35 46	土 師 器 甕	① 16.2 ②(12.0)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	胴部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	覆土	口縁～胴部1/2
15-36 46	土 師 器 甕	① 17.6 ②28.8 ③ 6.4	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	胴部外面篋削り後、などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	貯蔵穴	ほぼ完形
15-37 46	土 師 器 甕	②(20.6) ③ 6.3	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	胴部外面篋などで後、磨き。底面篋削り。内面荒れている。	覆土	胴～底部
15-38 46	土 師 器 甕	① 19.7 ②23.7 ③ 8.0	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③暗赤褐色	胴部外面上半刷毛目状の整形。下半部削り。口縁部内外面横などで。内面輪積み痕。	床西部	2/3
15-39 46	土 師 器 甕	②(19.3) ③ 8.5	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	胴部外面篋などで。内面篋などで。一部輪積み痕が残る。	覆土	胴下半部

図 P 番 L	器 種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm・g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
15-40 46	石製品	完形	砂岩	2.7	3.0	1.7	10	穿孔が認められる。	覆土

3号住居跡 (第16～25図 PL.7・8・46～49)

位置 9B-12・13、9C-12グリッドにかけて検出された。2号住居跡の北北東約6mの所に位置している。

形状 長辺6.5m、短辺5.3mの長方形を呈している。

方位 N-3°-E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は11層(1～8、11～13層)に分かれた。10・11層は溝状遺構の覆土である。第3層はAs-Bの純層である。

壁高 住居跡確認面より約60～110cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦であるが、東壁下から約60～100cmの幅にわたり床面に若干の高まりが認められる。面積は約21.8m²。

周溝 全周している。幅6～20cm、深さ2～11cmを測る。

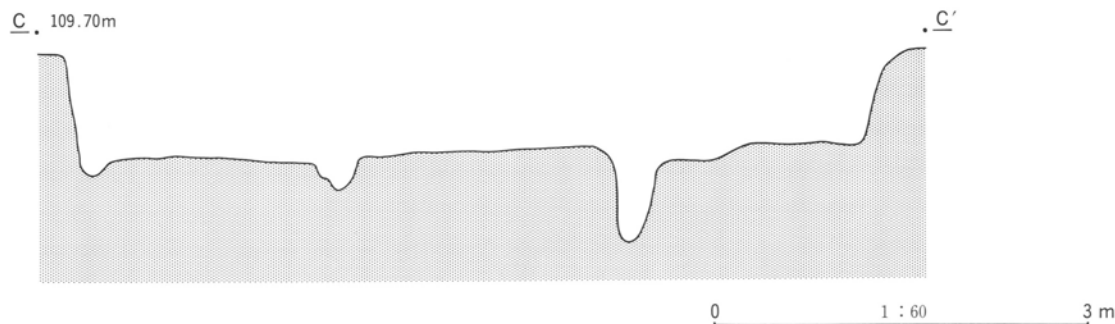
竈 北壁中央、壁を掘り込まずに構築されている。長さ約100cm、幅約130cm、焚き口幅約30cmである。

柱穴 7個のピットが検出された。P1～P4が支柱穴になる。P1は深さ25cm、P2深さ72cm、P3深さ25cm、P4深さ47cmである。P5は深さ57cm、P6深さ54cm、P7深さ55cmである。

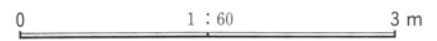
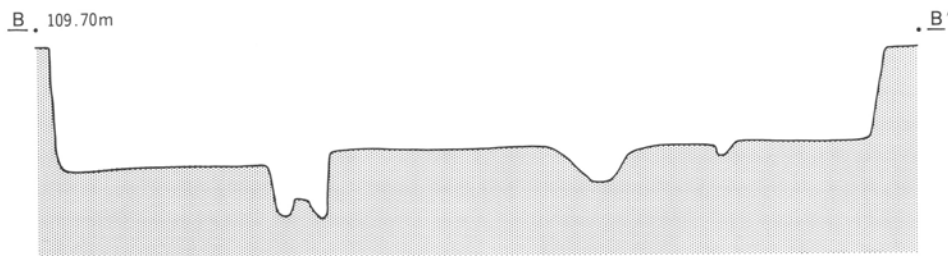
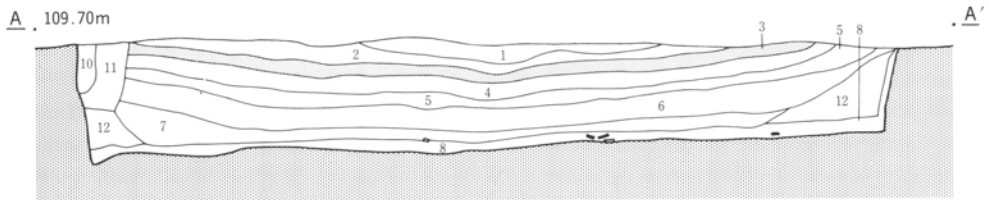
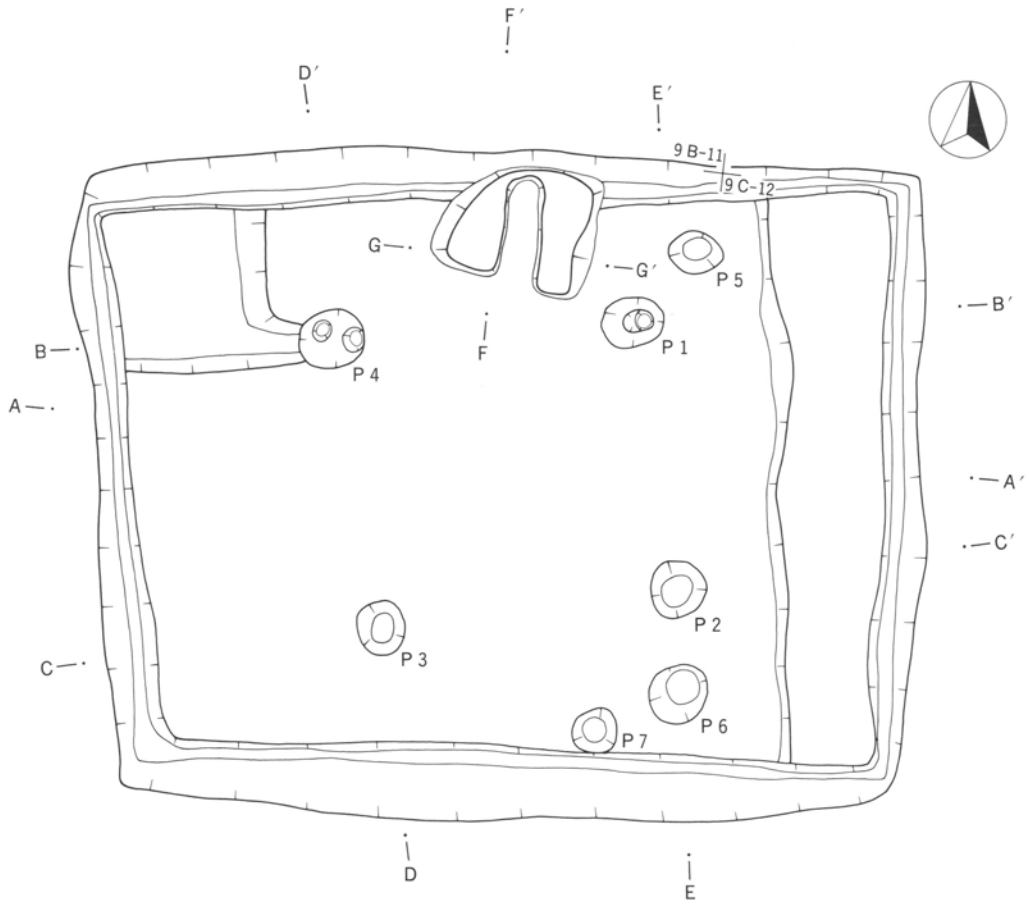
貯蔵穴 竈右側のP5が位置的には該当するかも知れないが規模が小さく判然としない。

遺物 床面直上より多量の遺物が出土している。とりわけ竈左側の北壁下と床面東部にまとまって出土している。

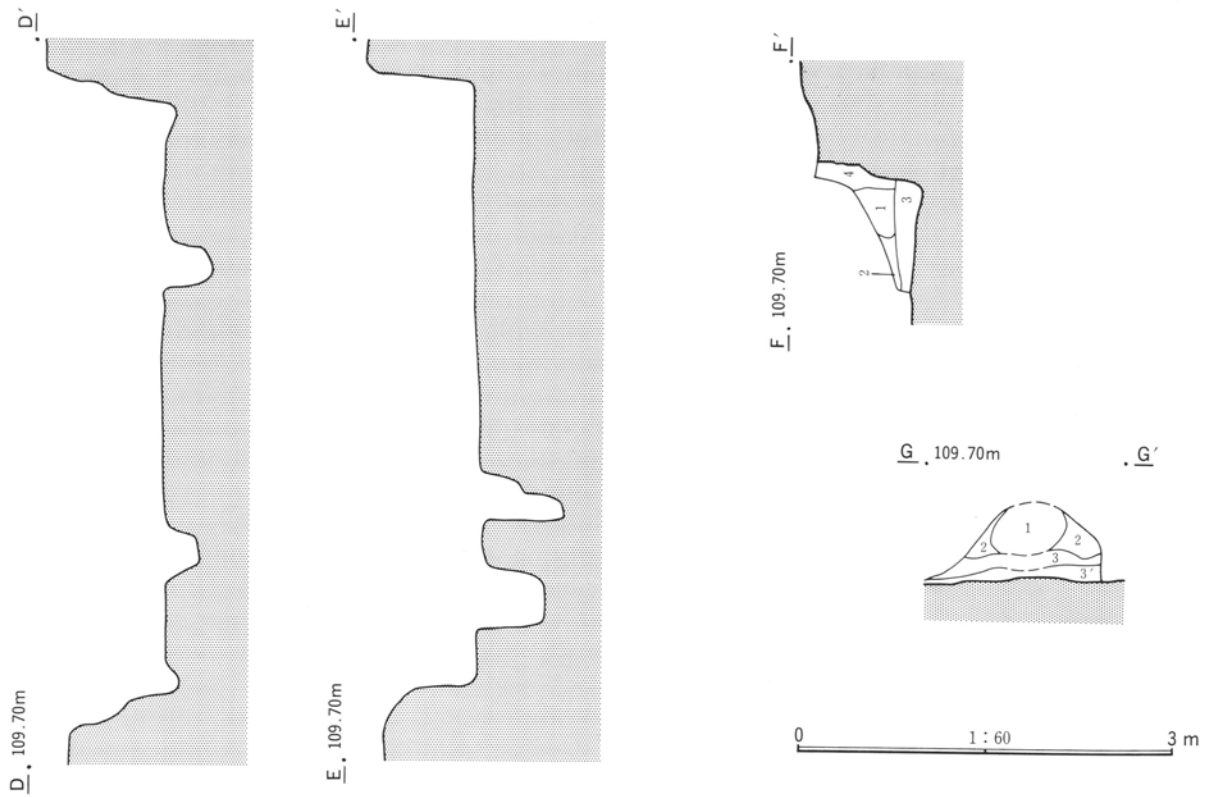
時期 古墳時代後期(6世紀前半)。



第16図 3号住居跡(1)

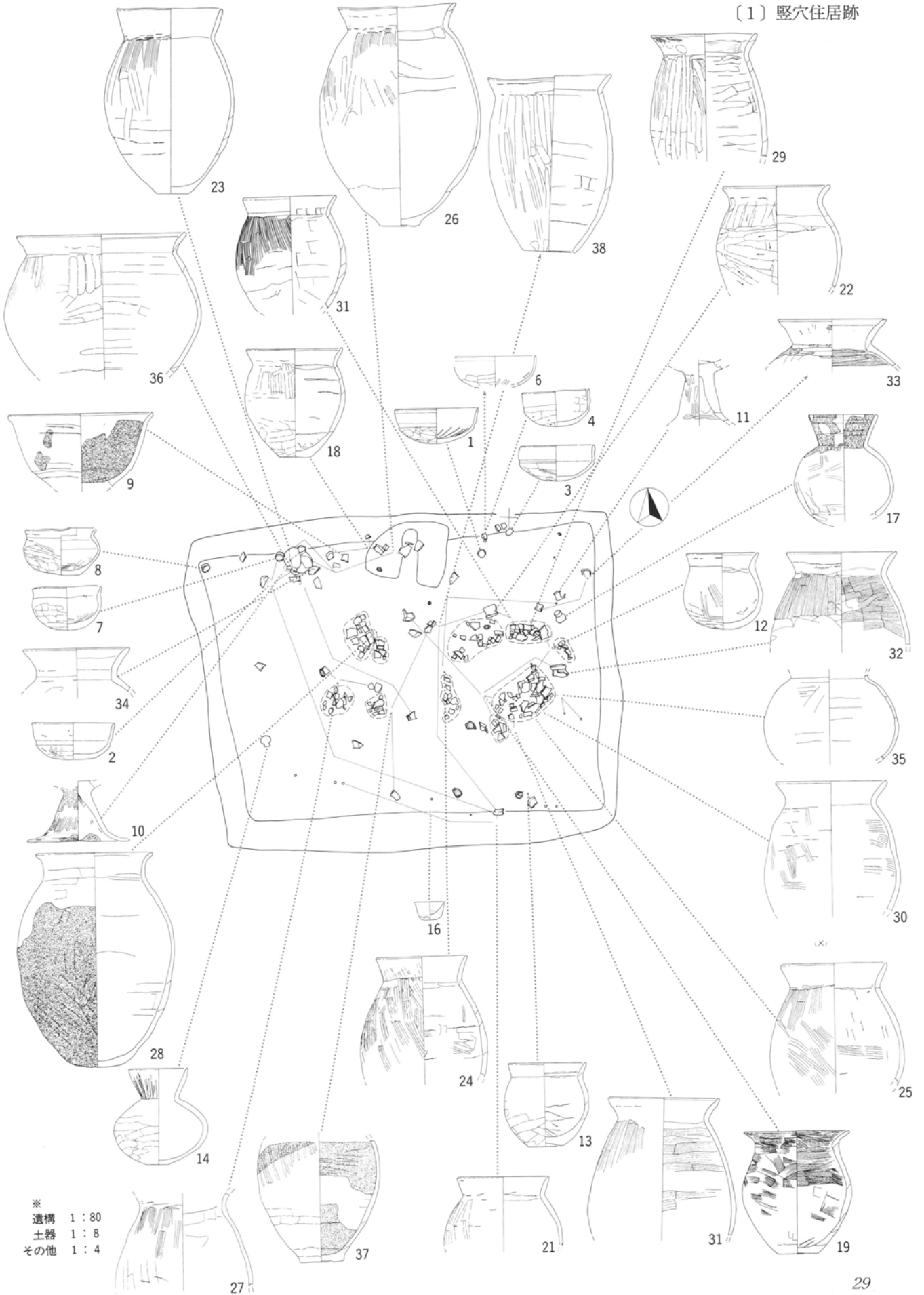


第17图 3号住居跡(2)



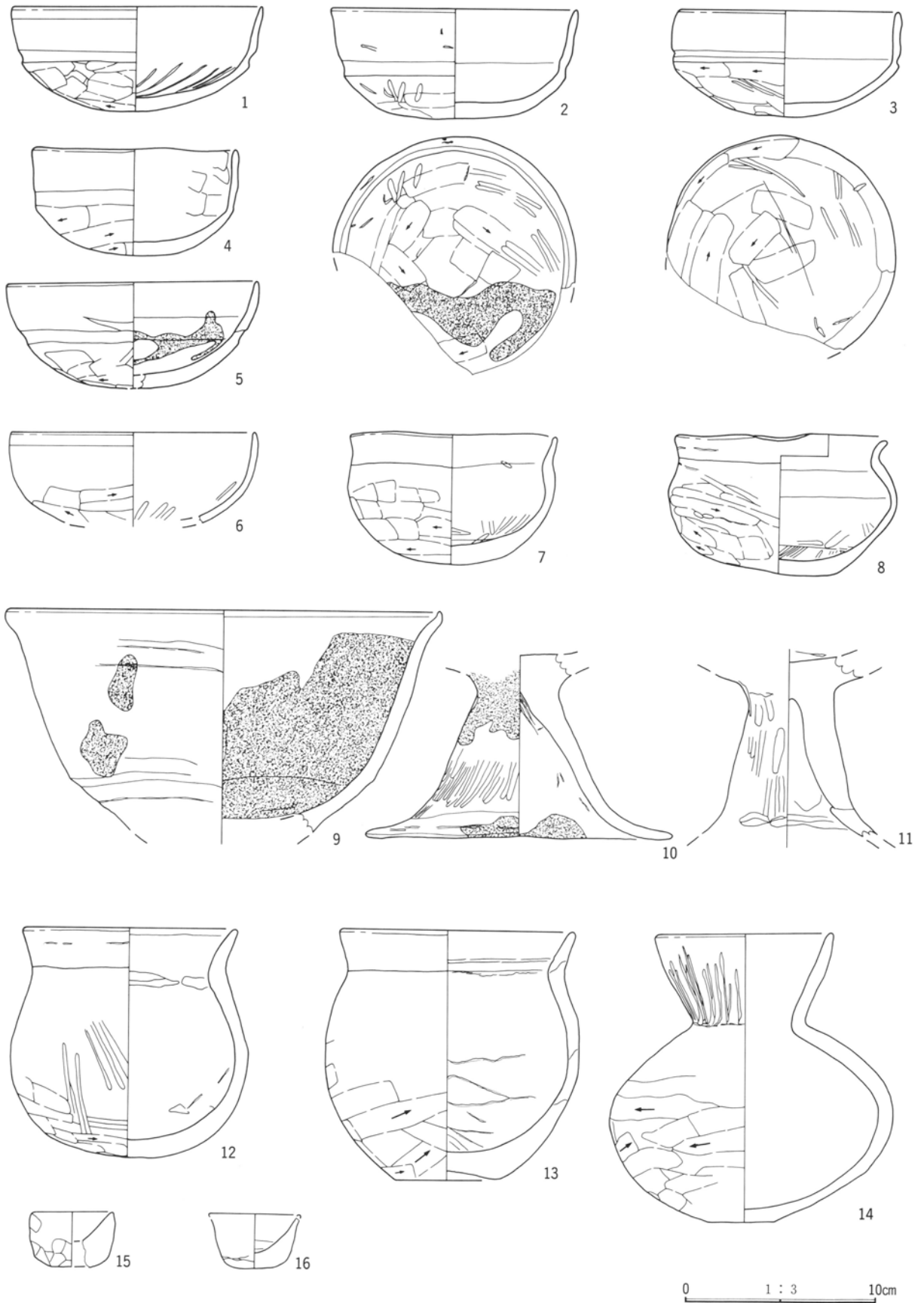
- 3号住居跡
- 1 砂質土層 黒色土を僅かに含む。
 - 2 砂質土層 やわらかい。
 - 3 As-B層 上部は灰層。
 - 4 黒色土層 上部はAs-Bを含む。
 - 5 茶褐色土層
 - 6 黒褐色土層
 - 7 暗黄褐色土層
 - 8 黄褐色土層 ロームを多量に含む。
 - 9 溝状遺構内覆土 ロームブロックを含む。
 - 10 溝状遺構内覆土 ロームブロックを含む。
 - 11 褐色土層 流入土(細粒子)。
 - 12 黄褐色土層 ローム流入土。
 - 13 褐色土層 焼土まじりのカマド崩れ土。
- 3号住居カマド
- 1 焼土層 固い焼土を大量に含む。
 - 2 黒褐色土層 ローム及び黒色土の混入土。ブロック状に焼土が入っている。カマド構築材。
 - 3 黒褐色土層 黒色土と多量のローム粒子を含む。焼土はほとんど含まない。
 - 4 灰褐色土層 砂質ローム層が熱を受けている。少量の焼土を含む。

第18図 3号住居跡(3)

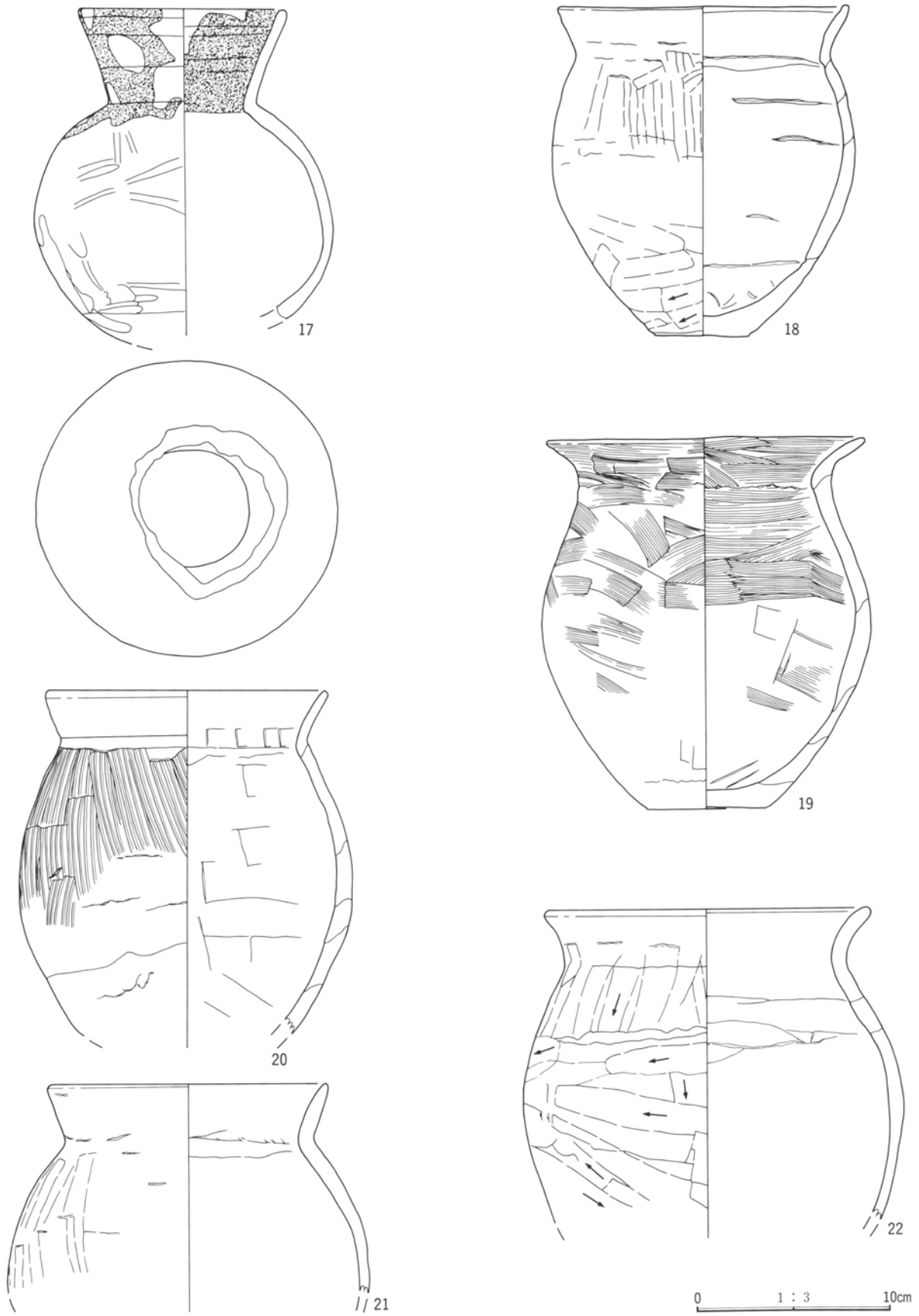


※
遺構 1 : 80
土器 1 : 8
その他 1 : 4

第19図 3号住居跡遺物分布

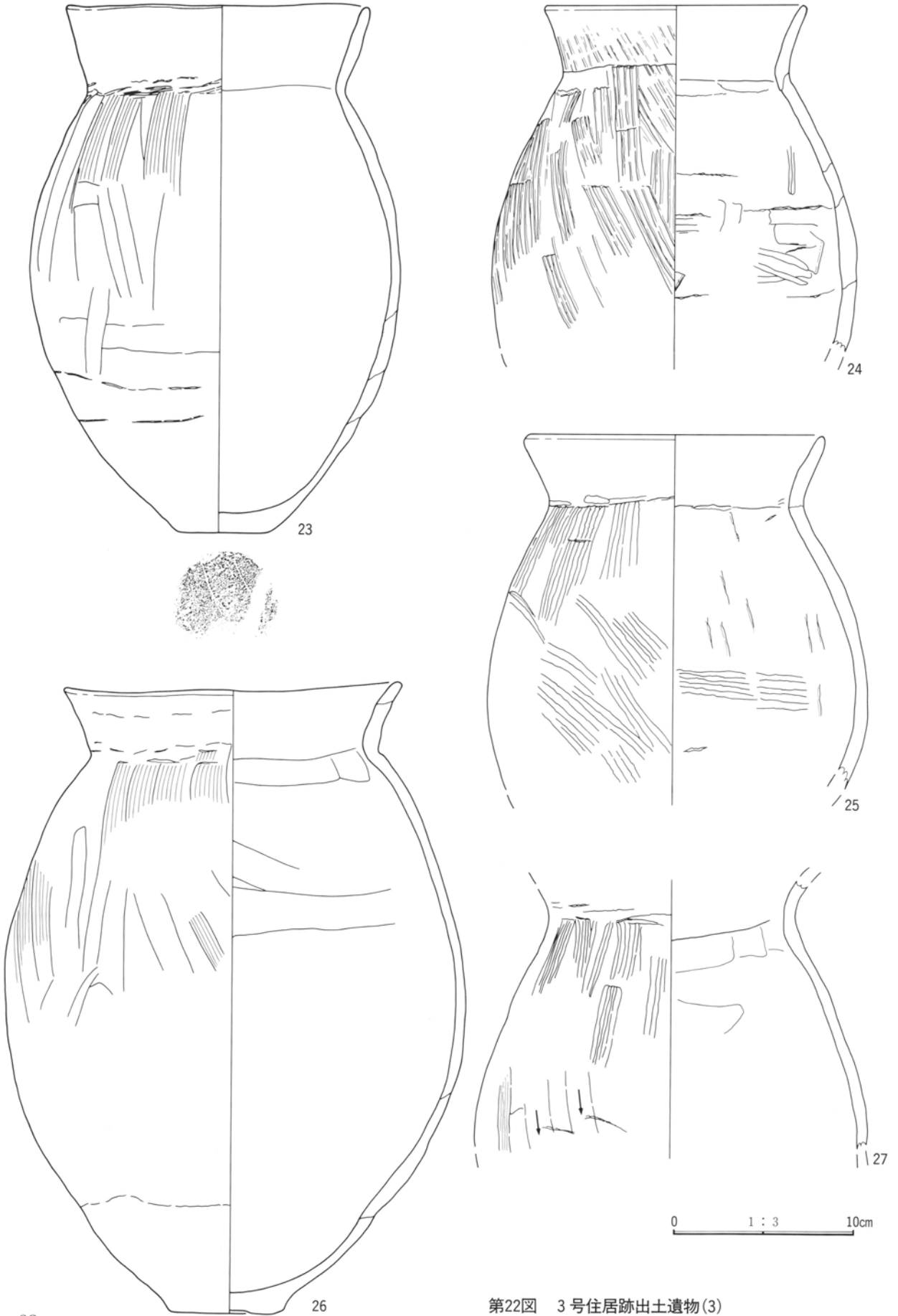


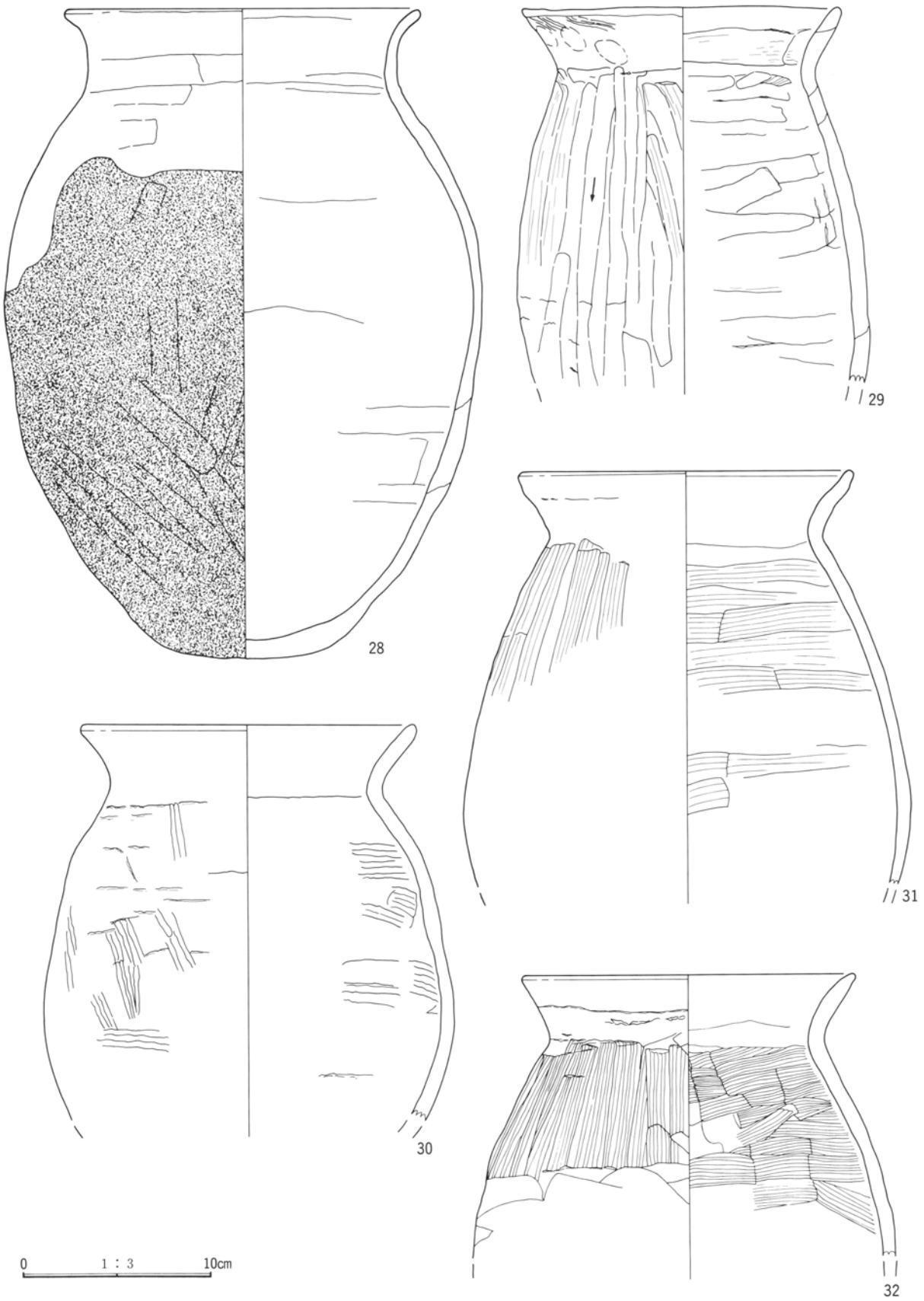
第20図 3号住居跡出土遺物(1)



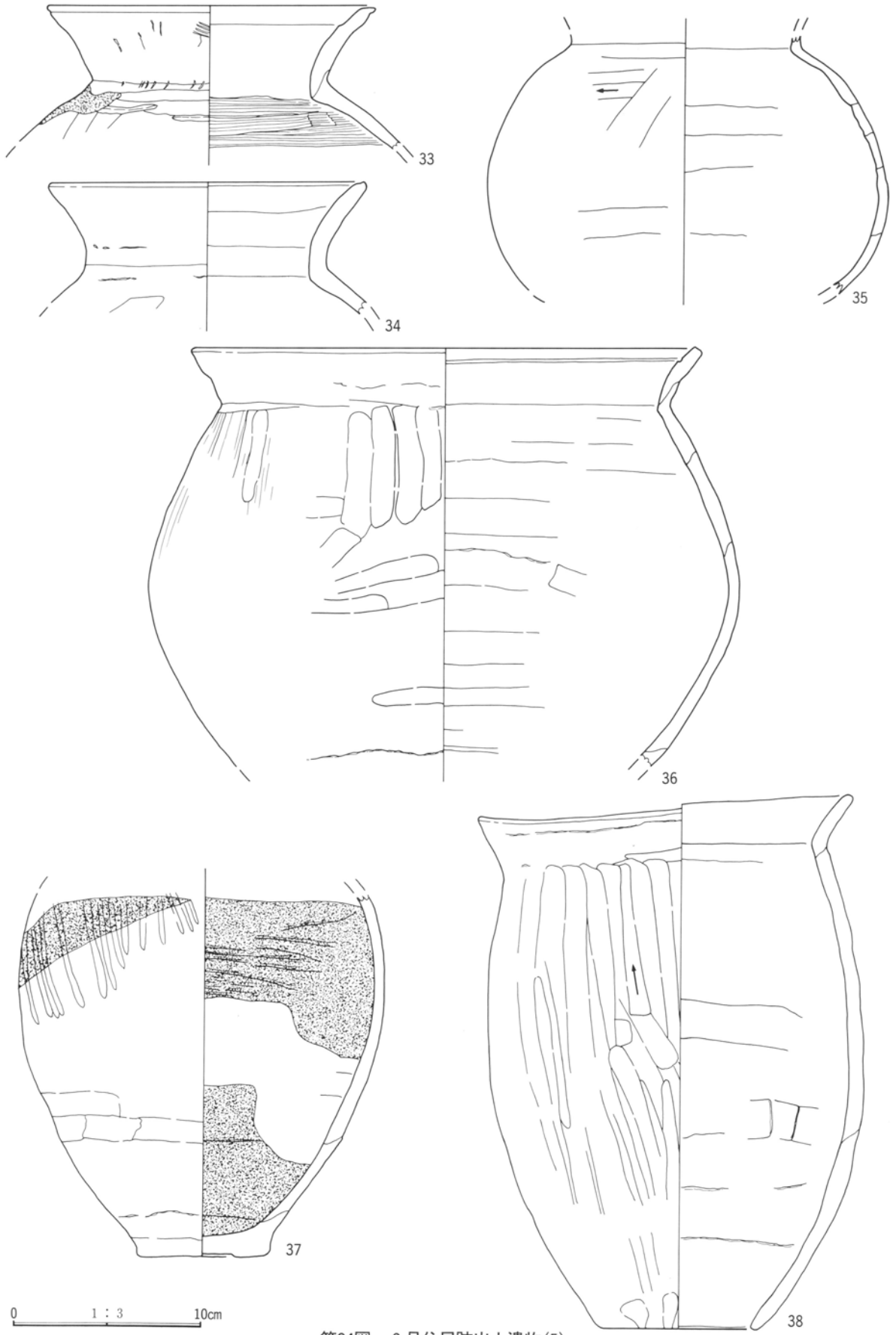
第21图 3号住居跡出土遺物(2)

0 1 : 3 10cm

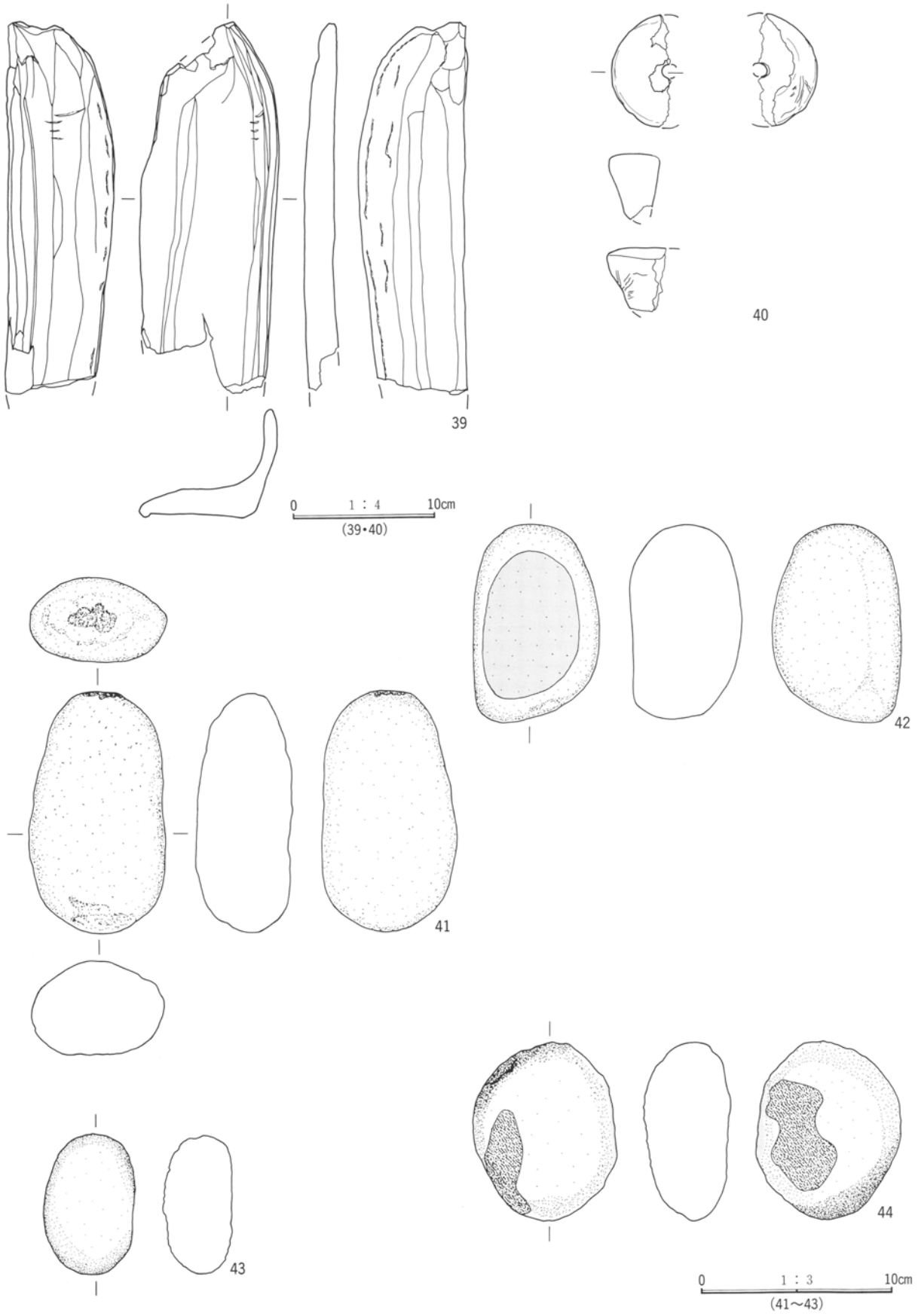




第23図 3号住居跡出土遺物(4)



第24図 3号住居跡出土遺物(5)



第25図 3号住居跡出土遺物(6)

第3章 荒砥下押切II遺跡

荒砥下押切II・3号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)			①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
		①口径	②器高	③底径				
20-1 46	土師器 坏	① 13.2	② 5.3		①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	カマド 東	ほぼ完形
20-2 46	土師器 坏	① 12.8	② 5.7		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	床北部	1/2
20-3 46	土師器 坏	① 11.7	② 5.5		①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	北壁下	2/3
20-4 46	土師器 坏	① 10.8	② 5.6		①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	北壁下	1/3
20-5 46	土師器 坏	① 13.1	② 5.6		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	覆土	1/2
20-6 46	土師器 坏	①(12.8) ②(5.0)			①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	北壁下	1/4
20-7 46	土師器 鉢	① 10.6	② 6.6		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③浅黄褐色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	北壁下	完形
20-8 46	土師器 鉢	① 11.1	② 7.3		①粗・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	北西隅	完形
20-9 47	土師器 高坏	① 22.8 ②(12.2)			①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③暗赤褐色	坏部外面篋なで。内面篋なで。炭化物が付着している。	カマド 西	坏部
20-10 47	土師器 高坏	②(9.7) ③ 16.0			①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐色	脚部外面なで後、篋磨き。脚裾部篋なで。内面篋なで。	北壁下	脚部
20-11 47	土師器 高坏	②(10.0)			①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	脚部外面篋なで。内面篋なで。	床北東部	脚部
20-12 47	土師器 小型甕	① 11.3	②12.0		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい橙色	胴部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	床東部	2/3
20-13 47	土師器 小型甕	① 12.2	②13.1 ③ 5.2		①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	胴部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	床南部	完形
20-14 47	土師器 罎	① 9.4	②15.1 ③ 3.4		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③暗赤褐色	口縁上端内外面横なで。外面縦方向磨き。胴部外面上半部篋なで、下半部篋削り。内面篋なで。	床西部	ほぼ完形
20-15 46	土師器 手捏	①(4.2) ② 2.8 ③ 1.1			①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	体部内外面篋なで。	覆土	一部欠損
20-16 46	土師器 手捏	②(2.7) ③ 2.0			①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐灰色	体部内外面篋なで。	床南部	口縁部欠損
21-17 47	土師器 罎	① 10.8	②17.5		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋磨き。内面篋なで。	床東部	底部意図的欠損
21-18 47	土師器 甕	① 15.0	②17.1 ③ 4.8		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り。内面篋なで。輪積み痕残る。	カマド 周辺	3/4
21-19 47	土師器 甕	① 16.4	②19.2 ③ 6.0		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部から胴上半内外面刷毛目状の整形。胴部下半篋なで。	床東部	2/3
21-20 47	土師器 甕	① 14.6 ②(18.0)			①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面刷毛目状の整形。内面篋なで。輪積み痕残る。	覆土	口縁～胴部2/3
21-21 47	土師器 甕	① 14.4 ②(10.2)			①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋なで。	覆土	1/4
21-22 47	土師器 甕	① 16.9 ②(16.3)			①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り。内面篋なで。輪積み痕残る。	床北東部	3/4
22-23 47	土師器 甕	① 16.7	②28.8 ③ 5.0		①粗・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴上半刷毛目状の整形。下半荒れ。内面篋なで。底面木葉痕。	北壁下	ほぼ完形
22-24 47	土師器 甕	① 14.2 ②(19.0)			①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面刷毛目状の整形。内面篋なで。輪積み痕残る。	覆土	口縁～胴部1/2
22-25 48	土師器 甕	① 16.5 ②(19.7)			①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋磨き。内面篋なで。	床東部	1/2
22-26 48	土師器 甕	① 18.7	②34.2 ③ 6.3		①粗・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面上半刷毛目状の整形。内面篋なで。	カマド 周辺	ほぼ完形
22-27 47	土師器 甕	②(14.7)			①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋なで。	床中央部	1/3
23-28 48	土師器 甕	① 18.4	②23.5 ③ 7.2		①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面上半篋なで。下半篋削り。内面篋なで。輪積み痕残る。	床中央部	4/5

〔1〕 竪穴住居跡

23-29 48	土 師 器 甕	① 16.5 ②(19.0)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り。 内面篋などで。	床東部	1/2
23-30 48	土 師 器 甕	① 17.5 ②(20.7)	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り 後、などで。一部磨き。内面篋などで。	床東部	1/3
23-31 48	土 師 器 甕	① 17.3 ②(22.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面刷毛目 状の整形。内面横方向の刷毛目状整形。	床東部	1/2
23-32 48	土 師 器 甕	① 17.2 ②(14.6)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。胴部上半刷毛目 状の整形。下半篋削り。内面刷毛目状 の整形。	床東部	1/3
24-33 48	土 師 器 甕	① 17.2 ② (7.5)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り 後、磨き。内面刷毛目状の整形。	床北東 部	口縁～胴 部片
24-34 48	土 師 器 甕	① 16.7 ② (7.4)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面荒れて いる。内面篋などで。	床北部	口縁～胴 部片
24-35 48	土 師 器 壺	②(13.3)	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	胴部外面篋削り後、磨き。内面剥落。 輪積み痕残る。	床東部	胴部1/2
24-36 48	土 師 器 甕	①(26.7) ②(22.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋などで。 内面篋などで。	床北部	1/2
24-37 49	土 師 器 甕	②(19.0) ③ 6.8	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③黄橙色	胴部外面篋削り後、などで。内面篋などで。 煤付着。	覆土	胴下半部
24-38 49	土 師 器 甕	① 19.7 ②27.4 ③ 8.5	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り 後、磨き。内面篋などで。	床東部	ほぼ完形
25-39 49	土 製 品 ?	長 25.9 幅 9.5 厚0.7~2.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	内面篋などで。外面篋などで、刷毛目状の 整形。用途不明。	覆土	一部欠損
25-40 49	土 製 品 紡 錘 車	長 5.8 幅 3.0 孔 0.7 厚 3.3	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	広面・側面丁寧な調整。	覆土	1/2

図 P	番 L	器 種	遺 存 状 況	石 材	計 測 値 (cm・g)				特 徴	出土状況
					全長	幅	厚	重量		
25-41 49		敲 石	完形	安山岩	12.6	7.0	4.9	505	先端に敲打痕が認められる。	覆土
25-42 49		磨 石	完形	花崗岩	10.2	6.6	5.7	639	磨耗痕が認められる。	覆土
25-43 49			完形	軽石	7.3	4.7	3.6	53		覆土
25-44 49		磨 石	完形	安山岩	9.2	7.5	4.7	330	赤色付着物が認められる。	覆土

4号住居跡(第26~28図 PL.9・49・50)

位置 9B-16・17、9C-16・17グリッドにかけて検出された。2号住居跡の南東約5mの所に位置している。

形状 長辺4.9m、短辺4.7mのほぼ正方形を呈している。

方位 N-54°-E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約8~20cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。床面中央西寄りに約1mの範囲に焼土の堆積が認められた。面積は約21.4m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁から約40cm離れた床面上に構築されている。長さ約135cm、幅約110cm、焚き口幅約25cmである。

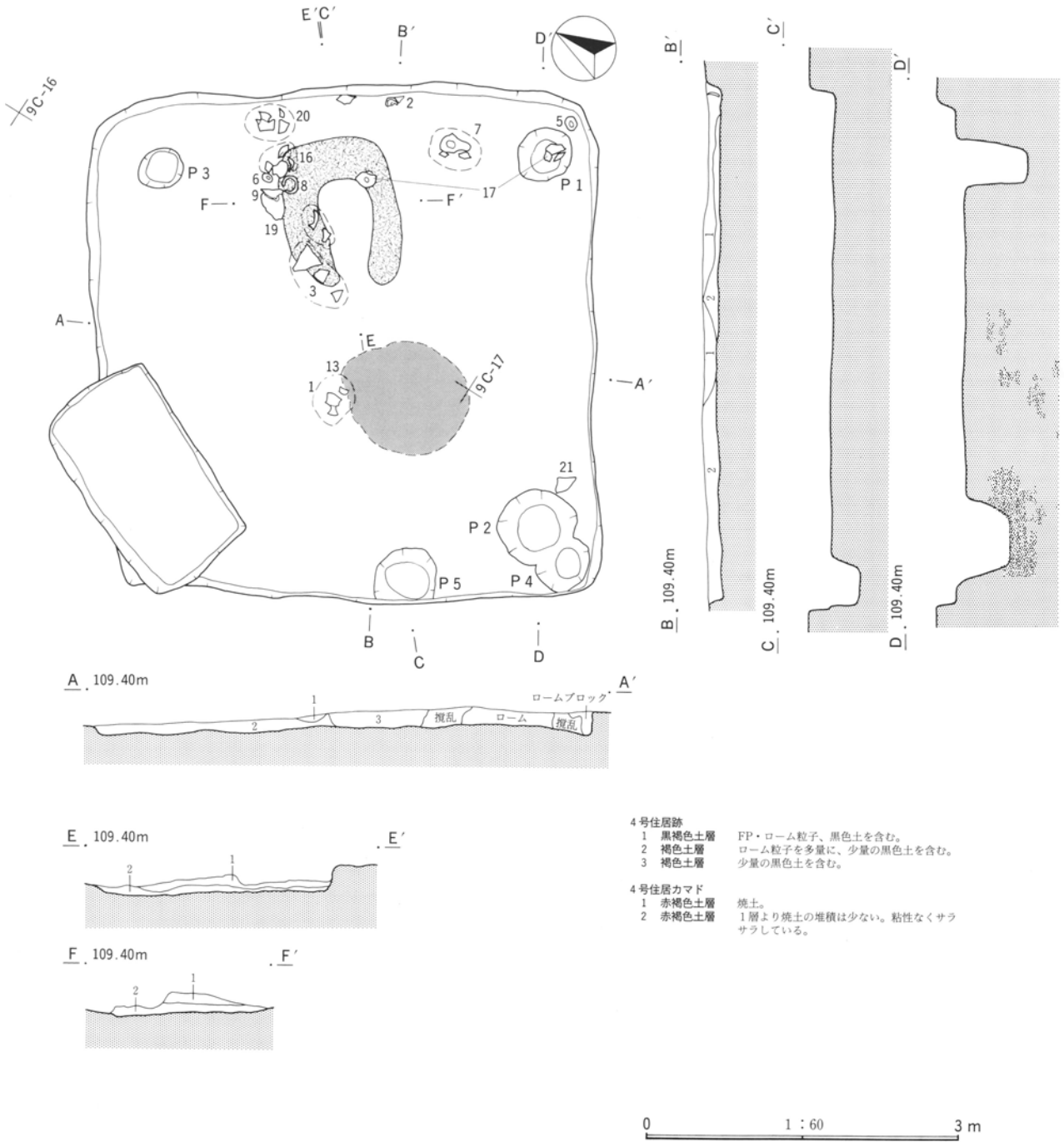
柱穴 5個のピットが検出された。P1~P3が主柱穴になる。P1は深さ58cm、P2深さ49cm、P3深さ63cmである。もう一つの柱穴は北西隅の新しい土坑によって壊されてしまったものであろう。P4深さ31cm、P5は深さ40cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

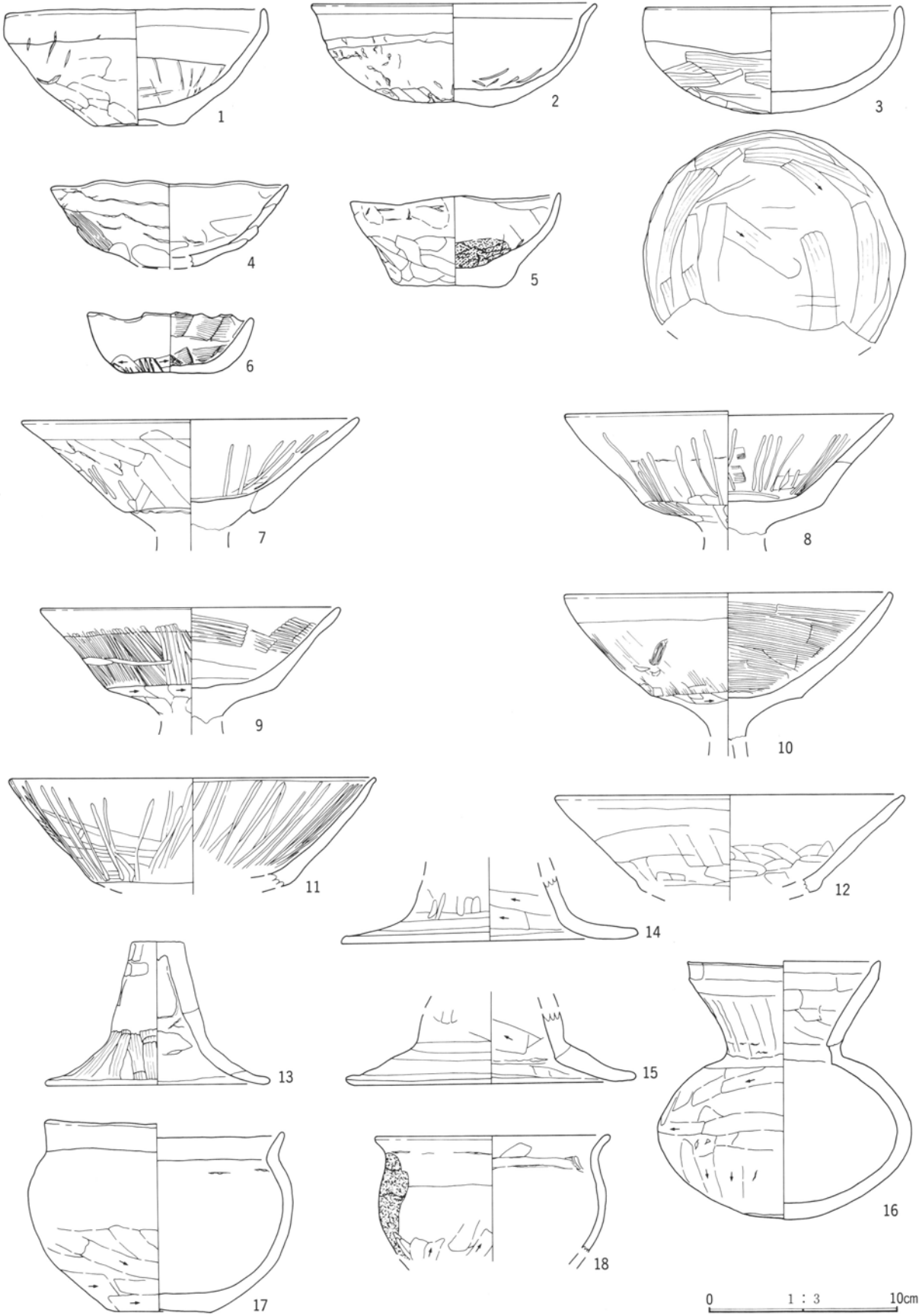
遺物 竈袖周辺から第28図19の甕や第27図16の埴が出土している。

時期 古墳時代中期(5世紀後半)。

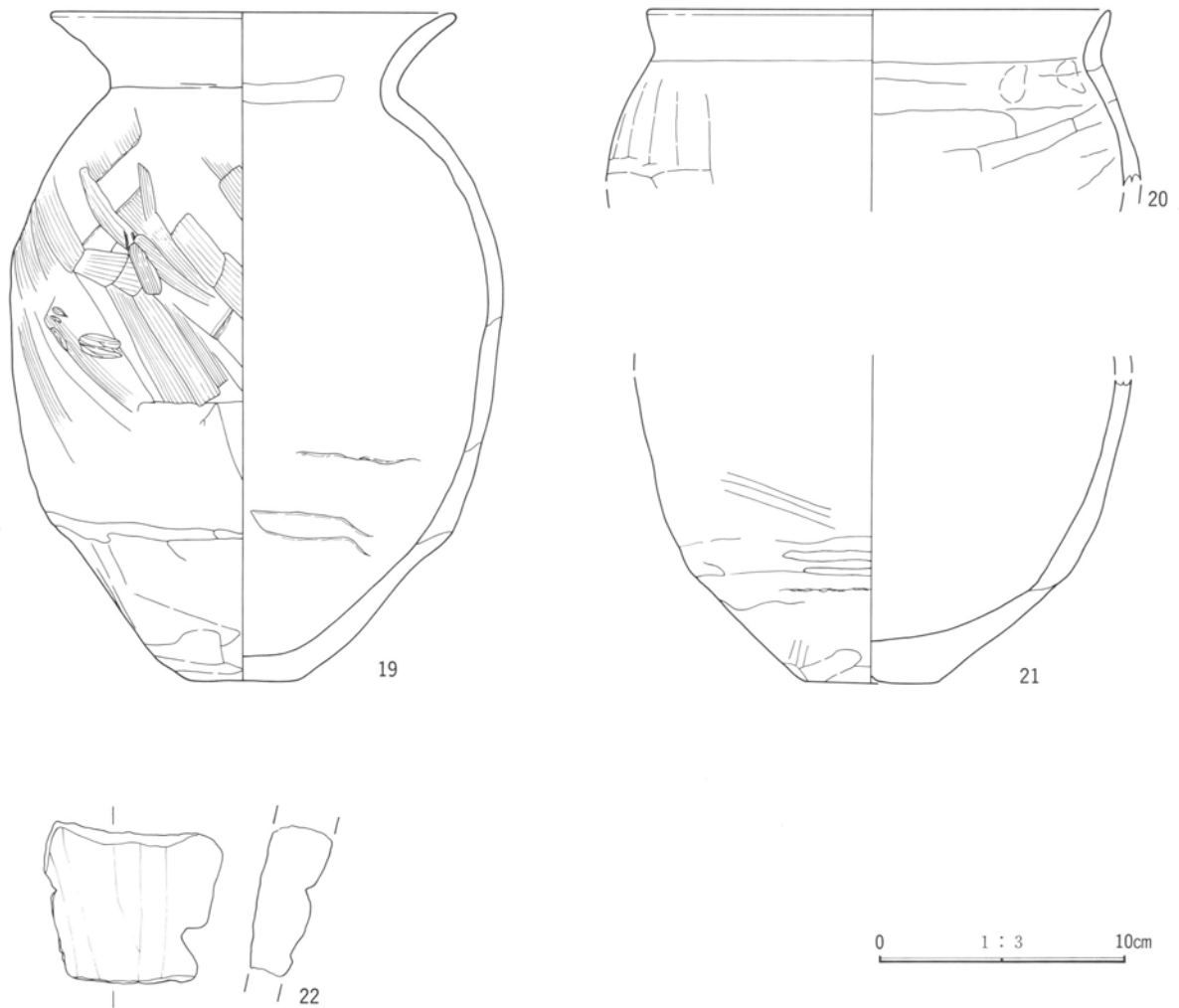
備考 1号住居・5号住居と同様に竈は壁から離れた床面上に構築されている。



第26図 4号住居跡



第27図 4号住居跡出土遺物(1)



第28図 4号住居跡出土遺物(2)

荒砥下押切II・4号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)			①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
		①口径	②器高	③底径				
27-1 49	土師器 坏	①(13.7)	② 5.1	③ 5.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面篋磨き。底部上げ底。	床中央部	2/3
27-2 49	土師器 坏	① 15.0	② 5.1	③ 5.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。底部上げ底。	東壁下	ほぼ完形
27-3 49	土師器 坏	① 13.3	② 5.5		①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部横などで。内面篋などで。	カマド 周辺	2/3
27-4 49	土師器 坏	① 12.4	② (4.6)		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄色	体部外面刷毛目状の整形。輪積み痕顕著。内面篋などで。	覆土	1/5
27-5 49	土師器 手捏	① 10.9	② 4.6	③ 5.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③灰褐色	体部外面篋などで、指などで。内面篋などで。北東隅赤色の痕跡。	北東隅	ほぼ完形
27-6 49	土師器 坏	① 8.6	② 3.0	③ 4.8	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面篋削り後、などで。口縁部に一部刻み目。内面刷毛目状の整形。	カマド 周辺	ほぼ完形
27-7 49	土師器 高坏	① 17.6	② (5.5)		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面放射状の磨き。	床東部	坏部
27-8 49	土師器 高坏	① 17.1	② (7.0)		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	坏部外面篋削り後、縦方向の磨き。口縁部内外面横などで。内面放射状の磨き。	カマド 周辺	坏部1/2
27-9 49	土師器 高坏	① 15.5	② (6.2)		①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③暗赤褐色	坏部外面刷毛目状の整形。口縁部内外面横などで。内面刷毛目状の整形。	カマド 周辺	坏部1/2

〔1〕 竪穴住居跡

27-10 49	土師器 高 坏	① 17.0 ② (7.5)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部外面篋削り後、などで。口縁部内外面横などで。内面刷毛目状の整形。	覆土	坏部
27-11 49	土師器 高 坏	① 19.0 ② (5.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部外面縦方向の磨き。口縁部内外面横などで。内面放射状の磨き。	覆土	坏部1/4
27-12 49	土師器 高 坏	① 18.2 ② (5.2)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部外面篋削り後、などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	覆土	坏部1/3
27-13 49	土師器 高 坏	② (7.4) ③ (5.8)	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	脚裾部刷毛目状の整形。などで。内面篋などで。	床中央部	脚部1/2
27-14 49	土師器 高 坏	② (3.2) ③ 15.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	脚裾部篋などで。内面篋削り。	覆土	脚部1/2
27-15 49	土師器 高 坏	② (3.8) ③(15.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	脚裾部篋などで。内面篋削り。	覆土	脚部片
27-16 50	土師器 埴	① 10.0 ②13.1	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。外面篋などで。胴部外面篋削り。内面篋などで。	カマド 周辺	ほぼ完形
27-17 50	土師器 鉢	① 12.4 ② 9.7 ③ 5.4	①粗・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	体部下半篋削り、上半篋などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	覆土	4/5
27-18 50	土師器 鉢	① 12.3 ② (6.1)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面上半篋などで。下半篋削り。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	覆土	口縁～体部1/3
28-19 50	土師器 甕	① 16.2 ②26.3 ③ 4.3	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③暗褐色	胴部上半刷毛目状の整形。下半篋削り後、などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	カマド 周辺	ほぼ完形
28-20 50	土師器 甕	① 18.5 ② (7.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面篋削り後、などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。指頭圧痕、輪積み痕。	東壁下	口縁～胴部片
28-21 50	土師器 甕	②(12.0) ③ 5.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	胴部外面篋などで後、磨き。内面篋などで。	床南部	胴下半部
28-22 50	土製品		①粗粒 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	内外面篋などで。荒れている。	カマド	不明

5号住居跡(第29～38図 PL.10・11・50～53)

位置 9D-17、9E-16～18、9F-17・18グリッドにかけて検出された。4号住居跡の東南約5mの所に位置している。

形状 長辺8.0m、短辺7.7mの方形を呈している。

方位 N-89°-E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。6～8層は攪乱土層である。

壁高 住居跡確認面より約20～47cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。床面の所々に焼土の分布が認められた。面積は約54.3m²。

周溝 東壁下を除いて巡っている。幅3～20cm、深さ1～6cmである。

竈 東壁南寄りの床面上に構築されている。長さ

約170cm、幅約145cm、焚き口幅約40cmである。

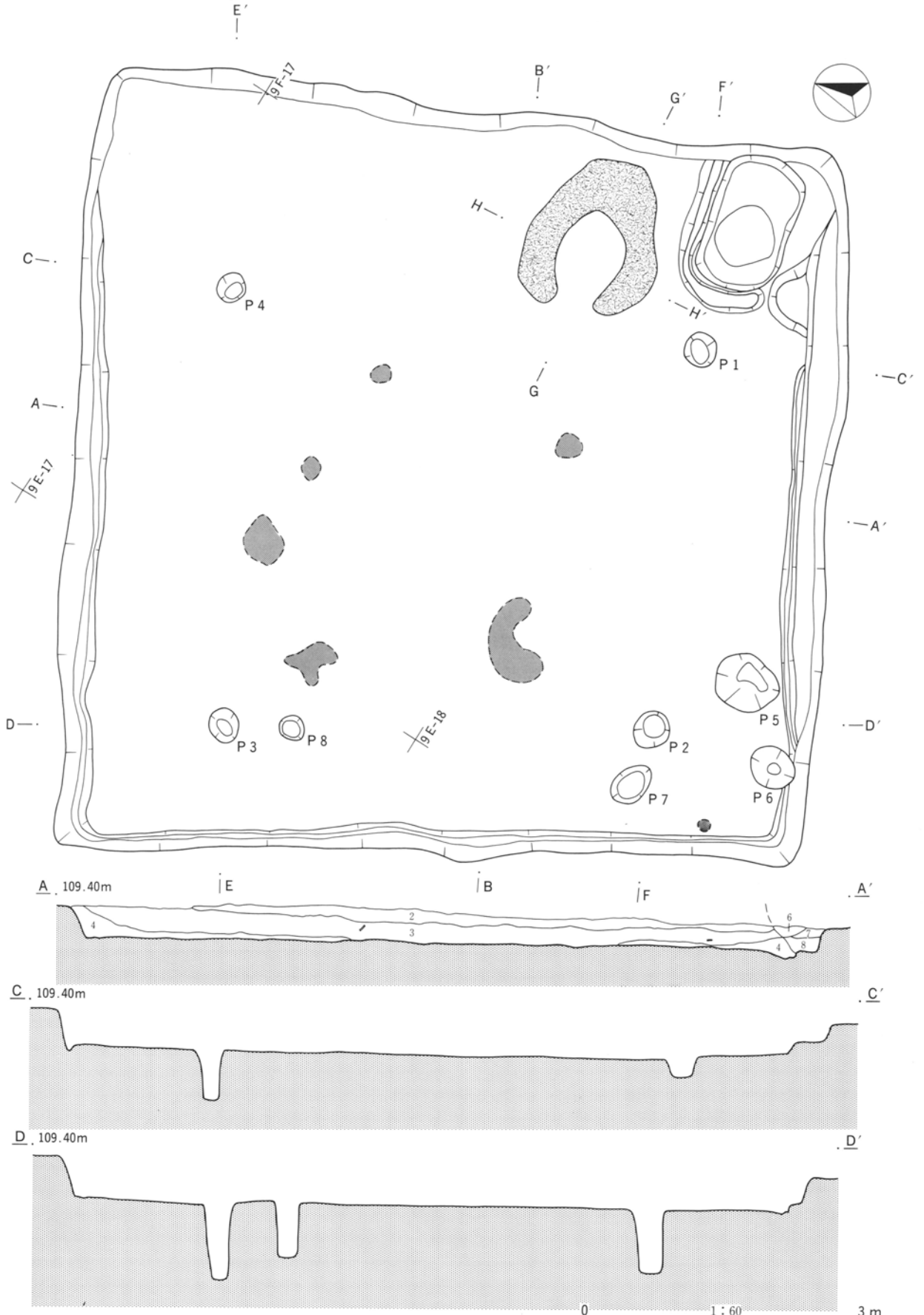
柱穴 8個のピットが検出された。P1～P4が支柱穴になる。P1は深さ20cm、P2深さ67cm、P3深さ83cm、P4深さ52cmである。P5は深さ26cm、P6深さ22cm、P7深さ21cm、P8深さ60cmである。

貯蔵穴 床面東南隅から検出された。規模は長径150cm、短径90cm、深さ65cmである。貯蔵穴を囲うように床面より約7cm程のロームの高まりが認められた。

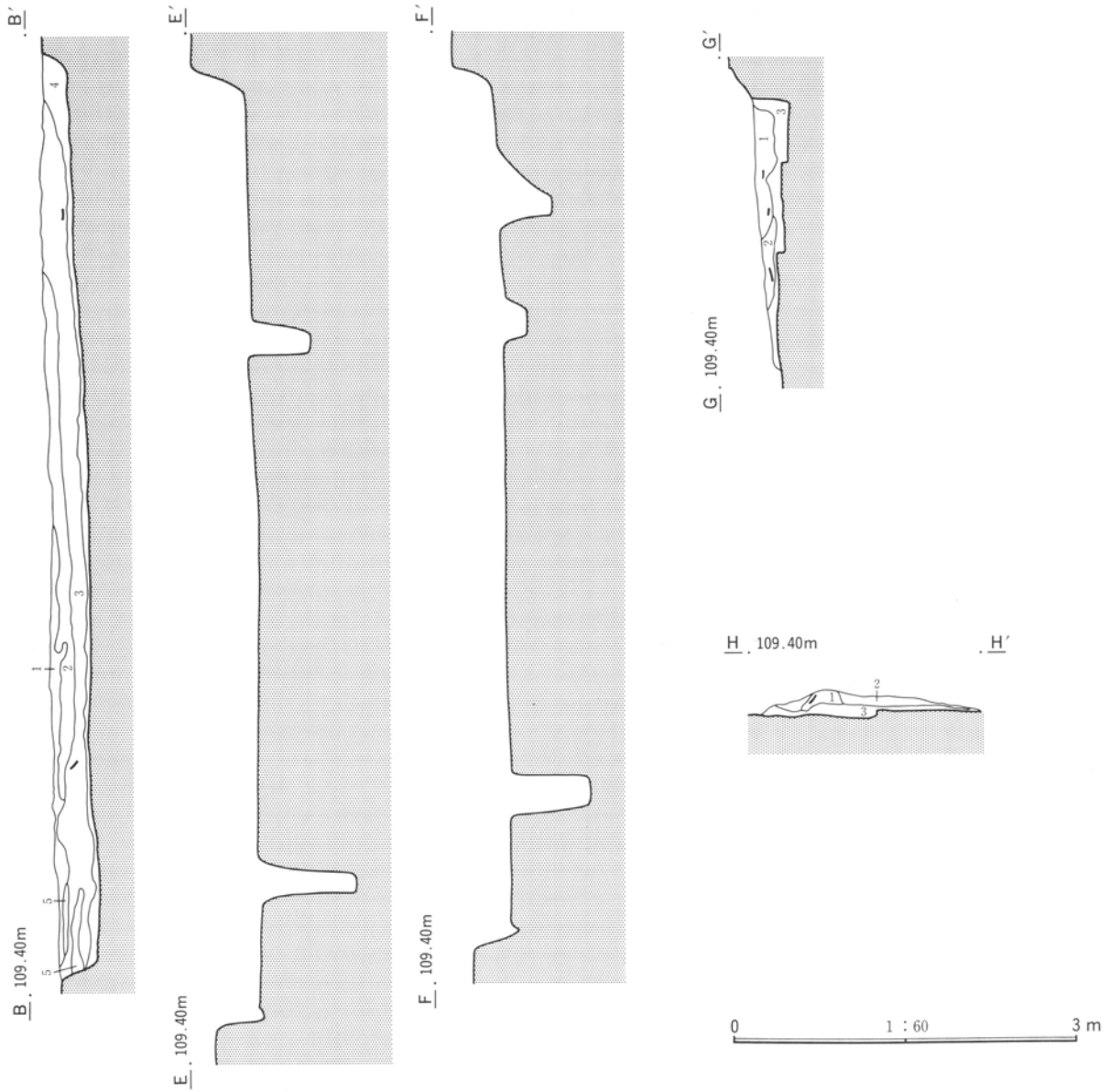
遺物 竈と貯蔵穴周辺、床面北西隅から集中して出土している。詳細は第31図の遺物分布を参照のこと。第37図75の紡錘車はP2・P5の中間地点から出土している。

時期 古墳時代中期(5世紀後半)。

備考 1・4・5号住居は竈が壁から離れた床面上に構築されている。



第29図 5号住居跡(1)

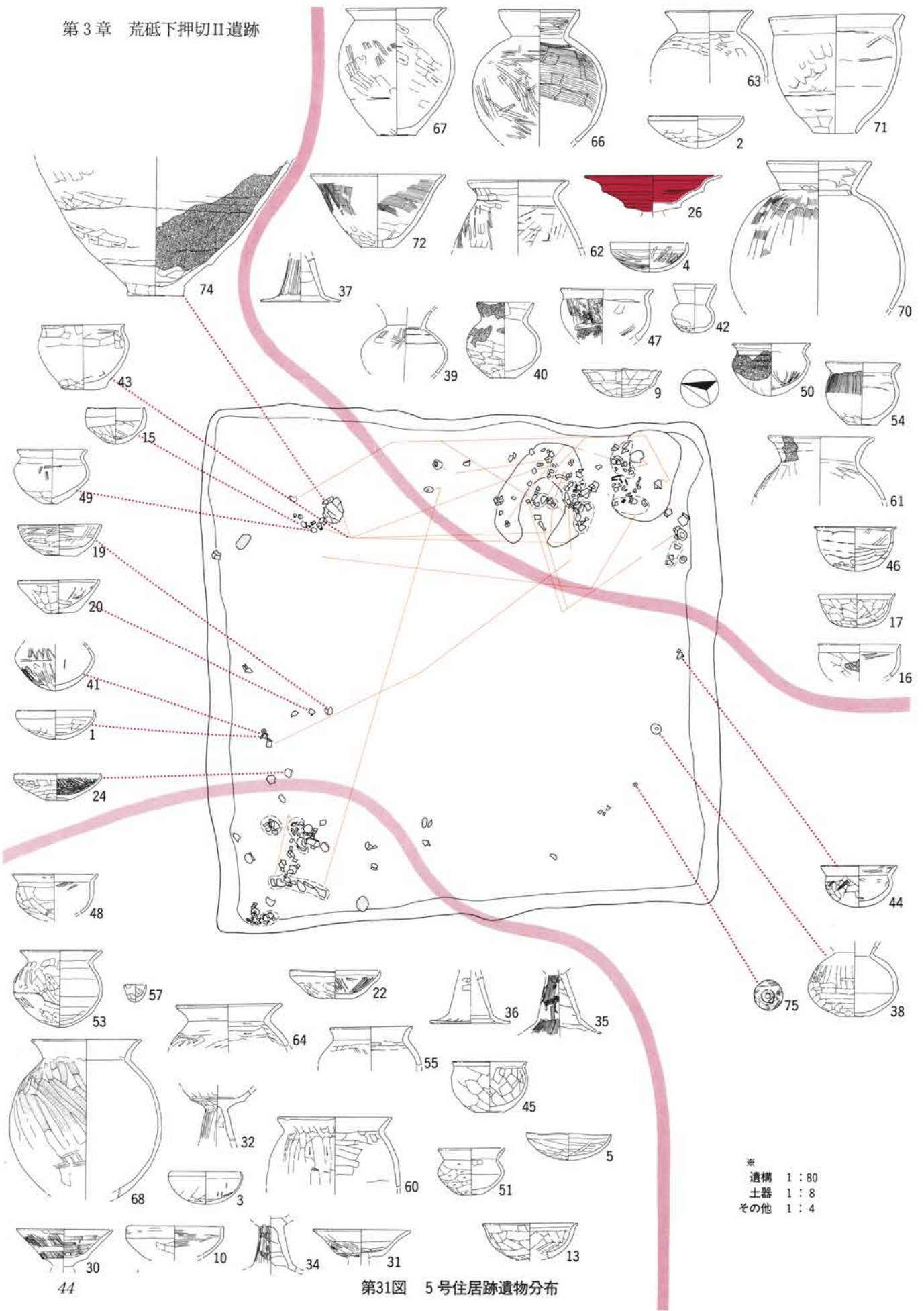


- 5号住居跡
- 1 灰白土層 砂層。
 - 2 黒色土層 FPを多く含み、固く締まった層。
 - 3 灰黒色土層 FP・砂・黒色土を少量含む。
 - 4 灰褐色土層 ローム粒子と少量の黒色土を含む。
 - 5 褐色土層 ロームがブロック状に多量に混入している。
 - 6 灰色土層 FPを全く含まず、砂質。
 - 7 灰褐色土層 ローム粒子と砂を少量含む。
 - 8 褐色土層 ロームブロックと黒色土の混入。

- 5号住居カマド
- 1 赤褐色土層 焼土ブロック。
 - 2 焼土層 僅かにブロックを含む。
 - 3 黄褐色土層 砂質。

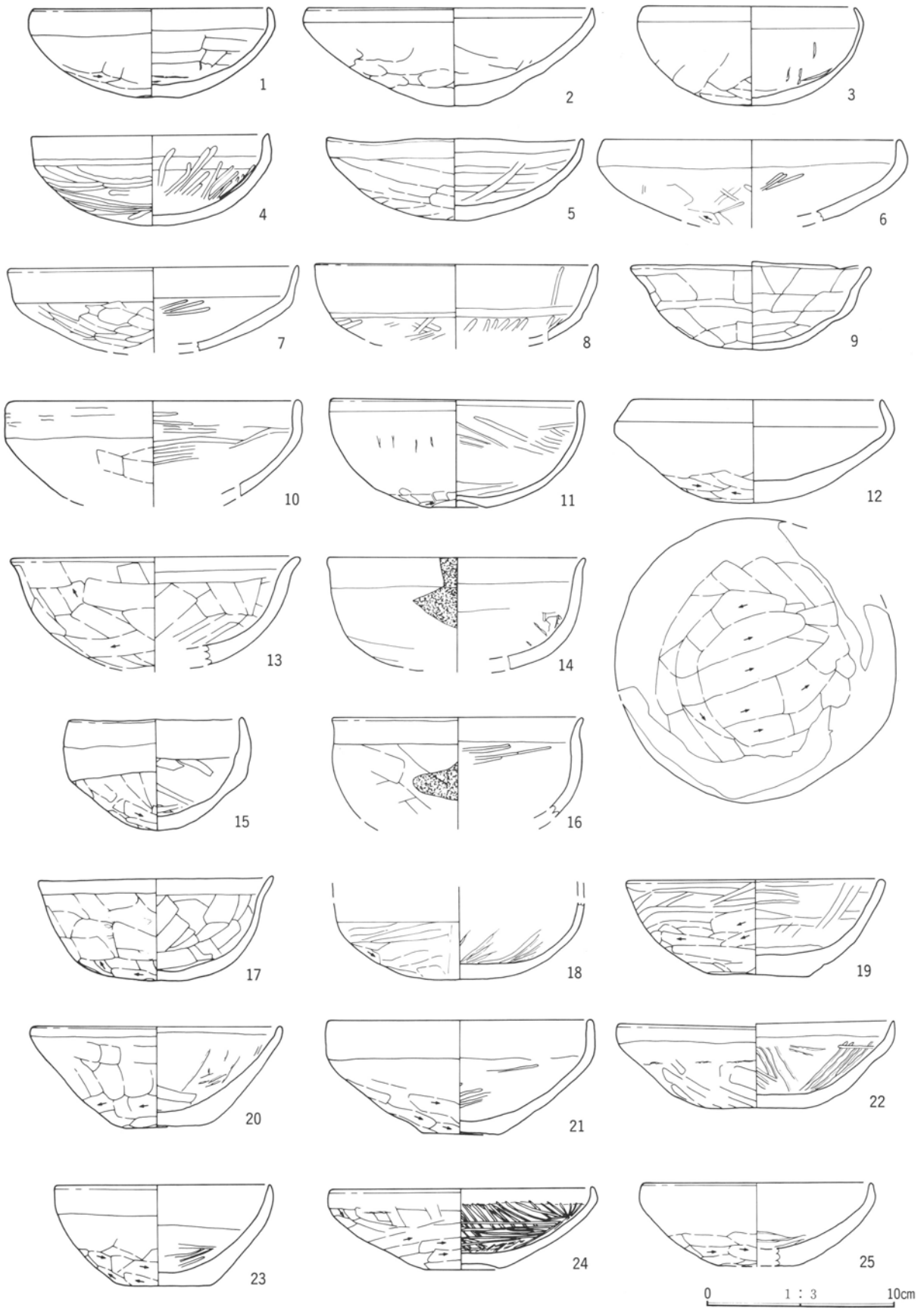
第30図 5号住居跡(2)

第3章 荒砥下押切II遺跡

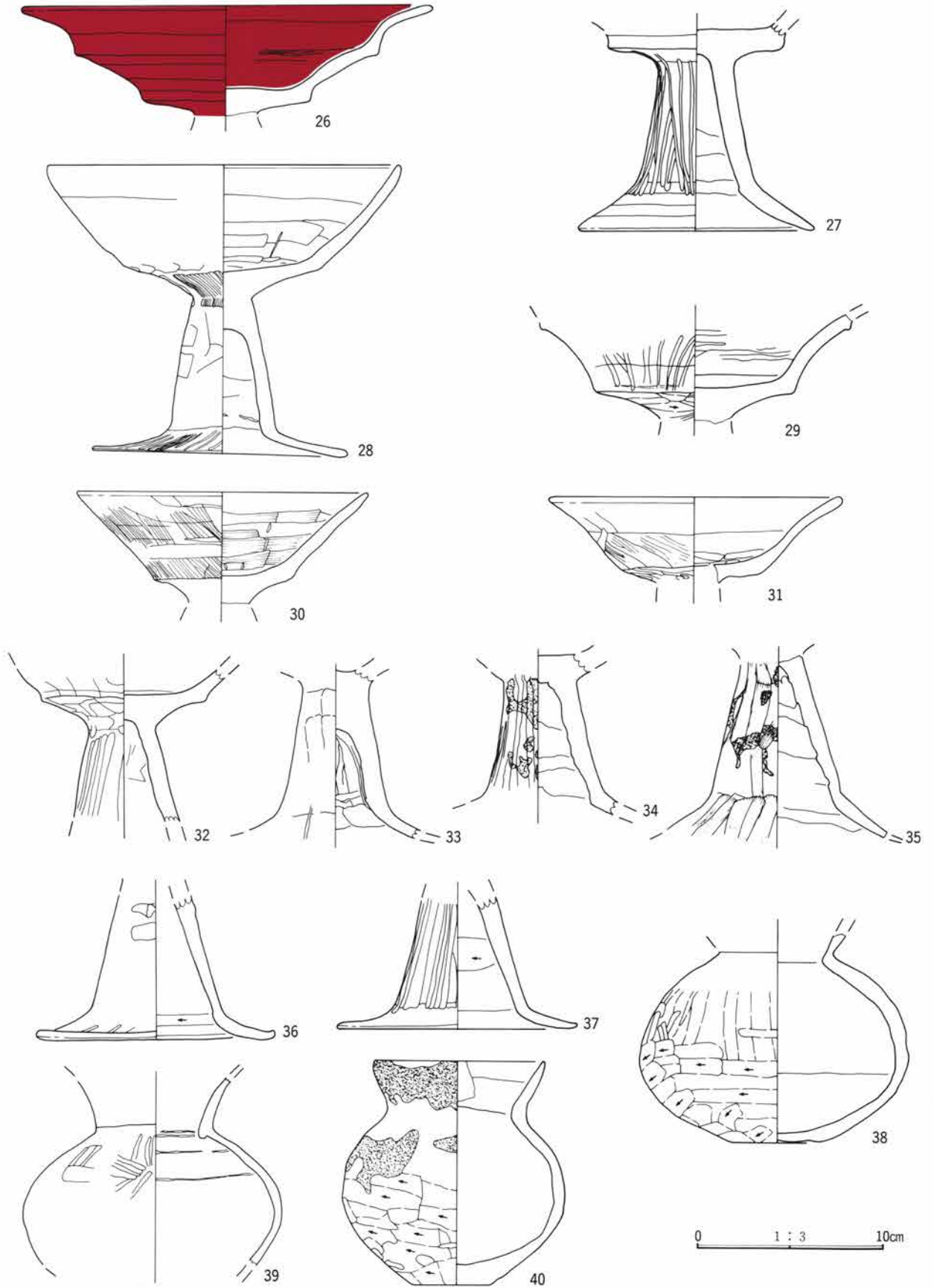


第31図 5号住居跡遺物分布

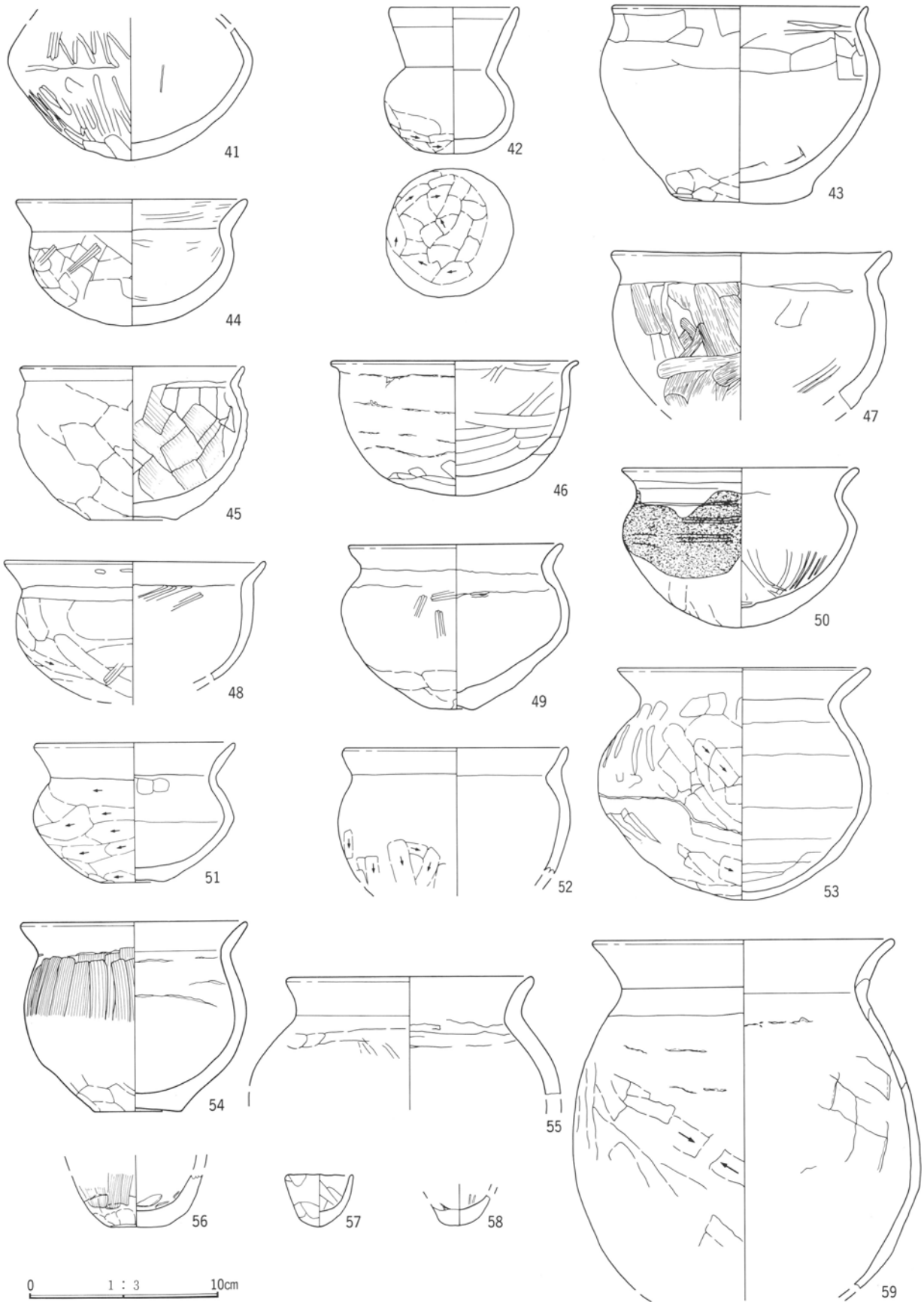
※
遺構 1 : 80
土器 1 : 8
その他 1 : 4



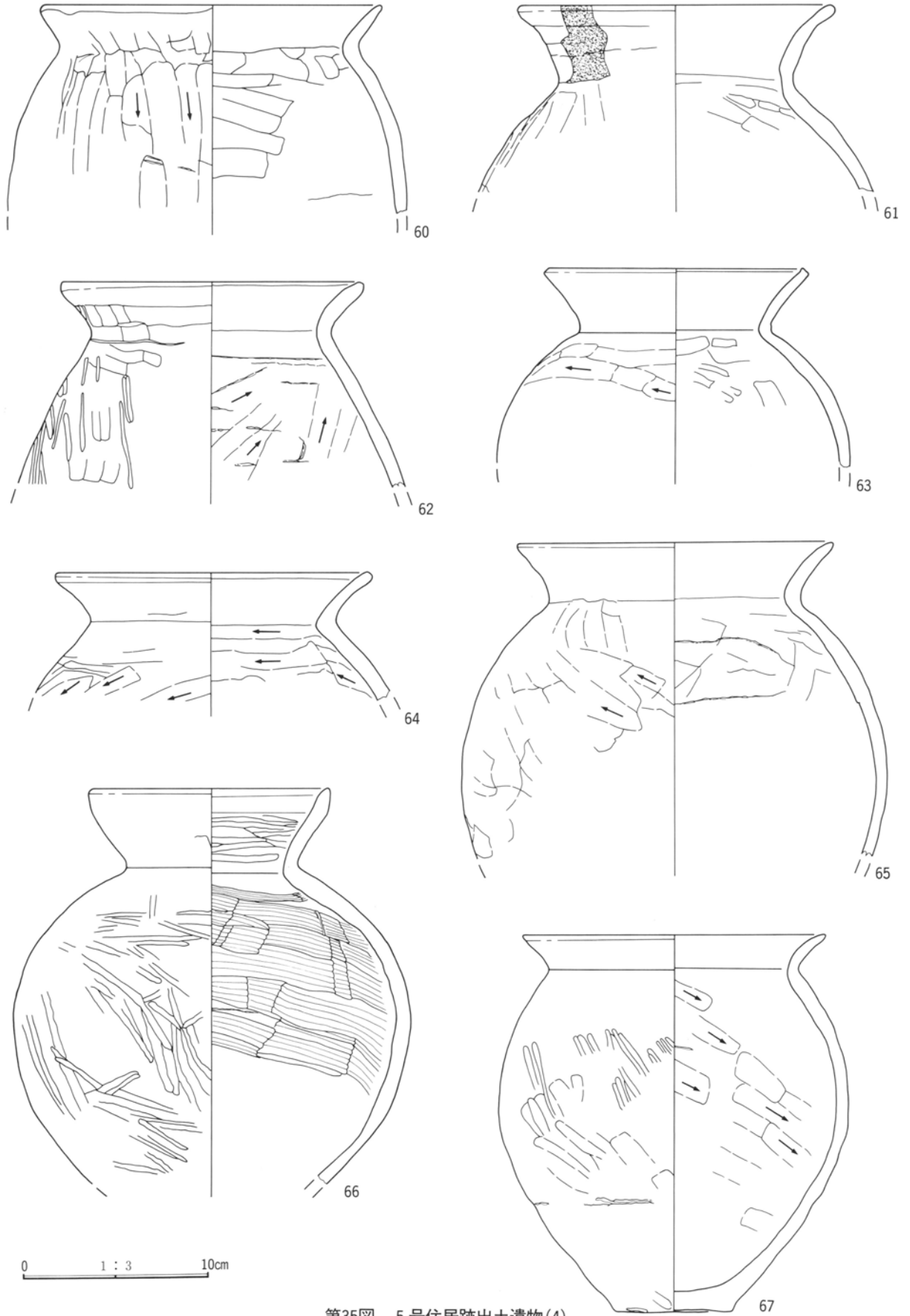
第32図 5号住居跡出土遺物(1)



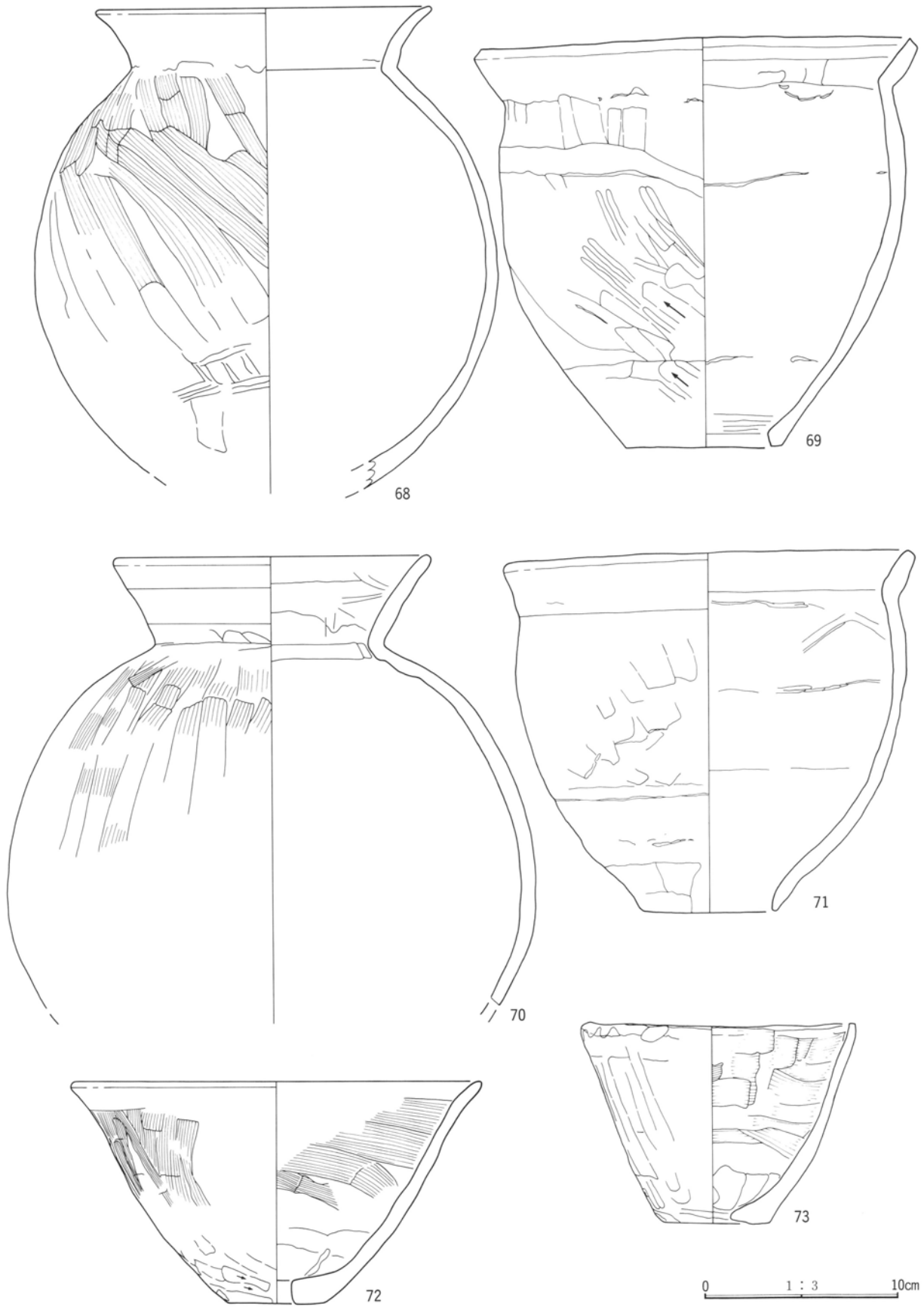
第33图 5号住居跡出土遺物(2)



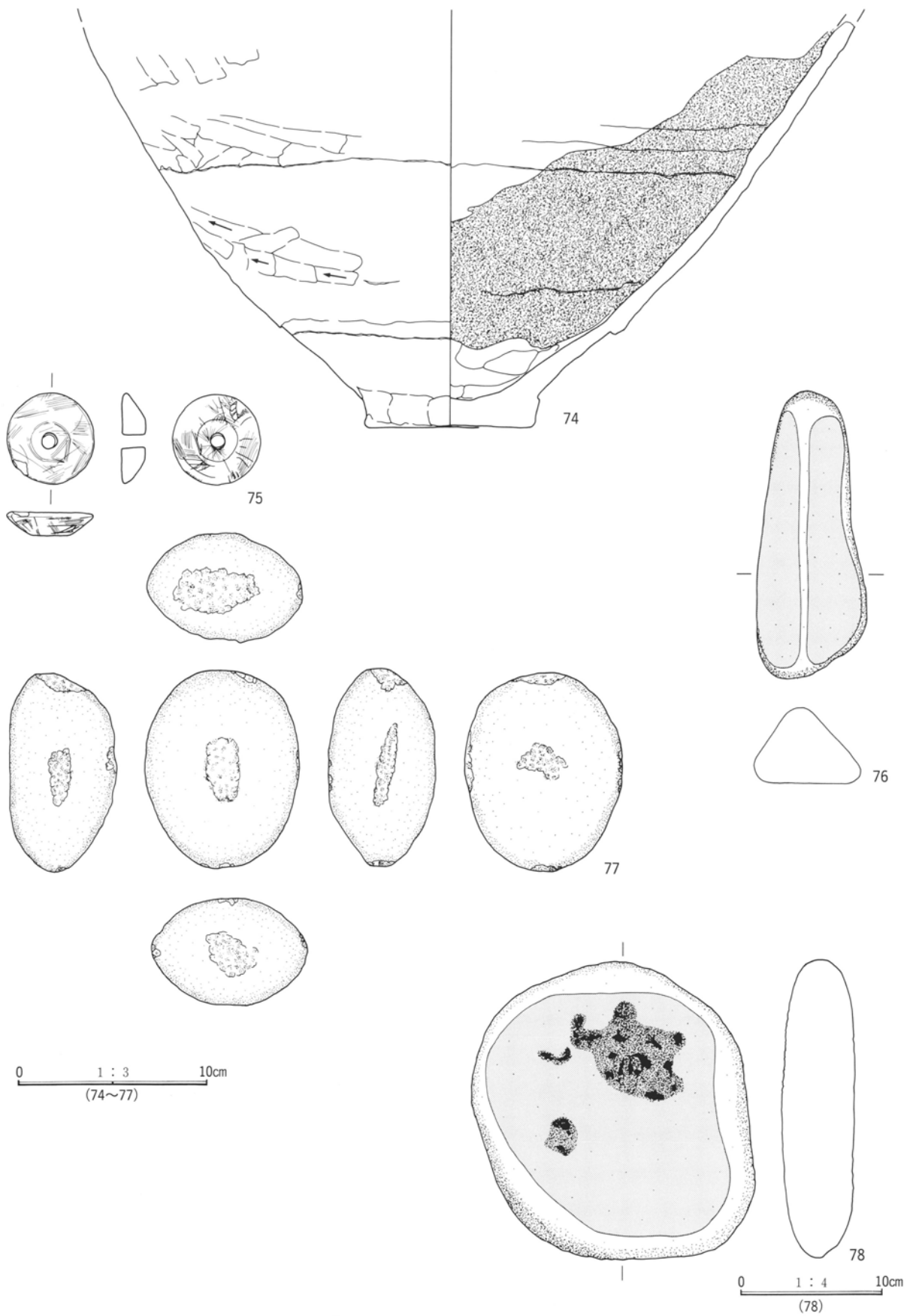
第34図 5号住居跡出土遺物(3)



第35図 5号住居跡出土遺物(4)



第36図 5号住居跡出土遺物(5)



第37図 5号住居跡出土遺物(6)



第38図 5号住居跡出土遺物(7)

荒砥下押切II・5号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)			①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
		①口径	②器高	③底径				
32-1 50	土師器 坏	① 12.4	② 4.6		①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面なで。	床北部	1/2
32-2 50	土師器 坏	①(15.1)	② 5.1		①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面篋なで。篋端部残る。	カマド 周辺	3/4
32-3 50	土師器 坏	①(11.0)	② 5.3		①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	北西隅	3/4
32-4 50	土師器 坏	① 12.3	② 4.7	③ 1.2	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨き。	貯蔵穴 周辺	完形
32-5 50	土師器 坏	① 13.5	② 4.2		①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面篋削り。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	北西隅	1/3

第3章 荒砥下押切II遺跡

32-6 50	土師器 坏	①(15.4) ②(4.2)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面篋磨き。	覆土	1/4
32-7 50	土師器 坏	①(15.0) ②(4.5)	①細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横などで。内面篋磨き。	覆土	1/4
32-8 50	土師器 坏	①(14.8) ②(4.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横などで。内面篋磨き。	覆土	1/5
32-9 50	土師器 坏	① 7.8 ② 4.6	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	体部外面篋削り後、なで。内面篋などで。	カマド 周辺	ほぼ完形
32-10 50	土師器 坏	①(15.0) ②(5.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横などで。内面篋磨き。	北西隅	1/4
32-11 50	土師器 坏	①(13.2)② 5.6 ③ 3.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③暗赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面磨き。	覆土	1/3
32-12 50	土師器 坏	① 12.8 ② 5.4	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横などで。内面荒れている。	覆土	ほぼ完形
32-13 50	土師器 坏	① 15.0 ②(5.6)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	体部外面篋削り後、なで。内面篋などで。	北西隅	1/3
32-14 50	土師器 坏	① 13.4 ②(6.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	体部外面篋削り。口縁部内外面横などで。内面篋などで。篋端部の痕残る。	覆土	1/3
32-15 50	土師器 坏	① 9.0 ② 5.8	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	P 4 周辺	2/3
32-16 50	土師器 坏	①(13.0) ②(5.3)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	体部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面篋磨き。	南壁	1/5
32-17 50	土師器 坏	① 12.1 ② 5.2 ③ 2.5	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。底面篋削り。	南壁	完形
32-18 50	土師器 坏	②(4.1)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	体部外面篋削り後、磨き。内面放射状の篋磨き。	覆土	口縁部欠損
32-19 50	土師器 坏	① 13.5 ② 4.9 ③ 5.3	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。内面篋などで後、磨き。底面篋などで。	床北部	ほぼ完形
32-20 50	土師器 坏	① 13.1 ② 5.2 ③ 4.0	①細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。底面篋削り。	床北部	3/4
32-21 50	土師器 坏	① 13.8 ② 6.0 ③ 4.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横などで。内面篋磨き。底面篋削り。	覆土	2/3
32-22 50	土師器 坏	① 14.5 ② 5.6 ③ 4.6	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	体部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面篋磨き。	北西隅	ほぼ完形
32-23 50	土師器 坏	① 11.3 ② 5.2 ③ 5.0	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面篋削り。口縁部内外面横などで。内面篋などで。底面篋削り。	覆土	3/4
32-24 50	土師器 坏	① 13.8 ② 4.2 ③ 4.0	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面篋磨き。底面篋削り。	床北部	2/3
32-25 50	土師器 坏	①(12.0)② 4.3 ③(4.0)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	覆土	1/4
33-26 51	土師器 高坏	① 21.6 ②(5.8)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	坏部外面中位に段を有する。内外面篋磨き。赤色塗彩。	貯蔵穴 周辺	坏部1/2
33-27 51	土師器 高坏	②(10.7) ③(12.5)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	脚部外面縦方向の磨き。裾部篋などで。内面などで。輪積み痕残る。	覆土	脚部2/3
33-28 51	土師器 高坏	① 18.6 ②15.3 ③ 13.4	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	坏部外面篋などで。口縁部内外面横などで。脚部外面篋などで。裾部磨き。脚部内面などで。	覆土	4/5
33-29 50	土師器 高坏	②(5.6)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤色	坏部外面篋削り。磨き。内面横方向の篋磨き。	覆土	坏部
33-30 50	土師器 高坏	① 15.4 ②(5.8)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部外面刷毛目状の整形。口縁部内外面横などで。内面刷毛目状の整形。	覆土	坏部ほぼ完形
33-31 50	土師器 高坏	① 15.4 ②(4.6)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤色	坏部外面篋磨き。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	北西隅	坏部ほぼ完形
33-32 51	土師器 高坏	②(8.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	坏部外面篋などで。内面篋などで。脚部外面篋磨き。内面紋り目痕。	北西隅	坏部～脚部1/4
33-33 51	土師器 高坏	②(7.8)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	脚部外面篋などで。内面紋り目痕あり。	北西隅	脚部1/4
33-34 51	土師器 高坏	②(8.6)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	脚部外面篋磨き。内面輪積み痕が残る。	覆土	脚部1/4
33-35 51	土師器 高坏	②(9.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	脚部・裾部外面刷毛目状の整形。内面輪積み痕残る。	北西隅	脚部1/2

(1) 竪穴住居跡

33-36 51	土師器 高 坏	② (7.7) ③ (12.6)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	脚部外面篋などで。内面篋削り。	北西隅	脚部1/2
33-37 51	土師器 高 坏	② (7.0) ③ 12.3	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	脚部外面篋削り後、磨き。裾部篋などで。内面篋削り。	床東部	脚部4/5
33-38 51	土師器 罎	②(11.0) ③ 4.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	胴部外面下半篋削り。上半篋などで。内面などで。輪積み痕残る。	床南部	口縁部欠損
33-39 51	土師器 罎	② (9.9)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	胴部外面篋などで後、磨き。内面などで。輪積み痕残る。	カマド 周辺	2/3
33-40 51	土師器 小型甕	① 9.0 ②11.9 ③ 3.9	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	胴部外面下半篋削り。口縁部内外面横などで。内面などで。底面篋削り。	カマド 周辺	完形
34-41 51	土師器 罎	② (6.9)	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	胴部外面篋磨き。内面篋などで。篋端部残る。	床北部	胴～底部 1/2
34-42 51	土師器 罎	① 6.8 ② 7.7 ③ 1.8	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	胴部外面篋削り、などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。底面篋削り。	カマド	完形
34-43 51	土師器 鉢	① 13.3 ②10.3 ③ 5.0	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	口縁部・体部外面篋などで。内面篋などで。底面篋削り。	床東部	1/3
34-44 51	土師器 鉢	①(12.0) ② 6.6	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	南壁下	1/2
34-45 51	土師器 鉢	①(11.6)② 8.0 ③ 4.6	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面篋削り。荒れている。口縁部内外面横などで。内面刷毛目状の整形。	北西隅	3/4
34-46 51	土師器 鉢	①(13.0) ② 7.0	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	体部外面篋などで。輪積み痕残る。口縁部内外面横などで。内面篋などで。底面篋削り。	貯蔵穴 周辺	3/4
34-47 51	土師器 鉢	① 14.3 ② (8.3)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横などで。体部外面刷毛目状の整形。内面篋などで。	カマド 周辺	2/3
34-48 51	土師器 鉢	① 13.6 ② (7.5)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面篋磨き。	北西隅	1/2
34-49 51	土師器 鉢	① 11.4 ② 8.6 ③ 2.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	口縁部内外面横などで。体部外面篋削り後、磨き。内面篋などで。篋端部残る。	床北東部	ほぼ完形
34-50 51	土師器 鉢	① 12.1 ② 8.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横などで。体部外面篋削り後、磨き。内面篋磨き。	貯蔵穴 周辺	ほぼ完形
34-51 51	土師器 鉢	① 10.6 ② 7.3 ③ 3.0	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横などで。体部外面篋削り。内面篋などで。	北西隅	ほぼ完形
34-52 51	土師器 鉢	①(11.7) ② (6.7)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部内外面横などで。体部外面篋削り後、などで。内面篋などで。	覆土	2/3
34-53 51	土師器 小型甕	① 13.0 ②12.2 ③ 1.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋などで。輪積み痕残る。	北西隅	完形
34-54 51	土師器 鉢	① 11.8 ②10.0 ③ 4.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	口縁部内外面横などで。体部外面上半刷毛目状の整形、下半篋削り。内面篋などで。	貯蔵穴 周辺	2/3
34-55 51	土師器 甕	① 13.0 ② (6.3)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋などで。	北西隅	口縁～胴 部片
34-56 51	土師器 手捏	② (2.7) ③ 3.0	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面刷毛目状の整形。内面篋などで。底面篋などで。	覆土	底部片
34-57 51	土師器 手捏	① 3.6 ② 2.7	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	体部内外面指などで。内面篋などで。	北西隅	完形
34-58 51	土師器 手捏	② (1.7) ③ 0.9	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部内外面指などで。	覆土	体部下 半
34-59 51	土師器 甕	①(15.6) ②(18.3)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り。輪積み痕残る。内面篋などで。	覆土	2/3
35-60 52	土師器 甕	①(18.0) ②(11.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り。内面篋などで。輪積み痕残る。	北西隅	1/4
35-61 52	土師器 甕	①(16.5) ② (9.9)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③外黒褐 内にぶい橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り後、などで。内面篋などで。	カマド 内	口縁～胴 部片
35-62 52	土師器 甕	①(16.0) ②(10.7)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋削り。輪積み痕残る。	カマド	口縁～胴 部片
35-63 51	土師器 甕	①(13.4) ②(10.5)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り後、などで。内面篋などで。	カマド	口縁～胴 部片
35-64 52	土師器 甕	① 16.5 ② (7.5)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋削り。	北西隅	口縁～胴 部片

第3章 荒砥下押切II遺跡

35-65 52	土師器 甕	① 16.9 ② (15.2) ③ (6.0)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋なで。輪積み痕残る。	覆土	口縁～胴部片
35-66 52	土師器 壺	① 12.4 ② (21.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい橙色	口縁部外面横なで。胴部外面篋磨き。口縁部内面篋磨き。胴部内面刷毛目状の整形。	カマド	3/4
35-67 52	土師器 甕	①(16.0)②20.0 ③ (6.0)	①粗・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③灰褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋削り。	カマド 周辺	1/3
36-68 52	土師器 甕	① 17.5 ② (25.1)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面上半刷毛目状の整形、下半磨き。内面篋なで。	北西隅	2/3
36-69 53	土師器 甕	① 22.5 ②21.3 ③ 8.3	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋なで。輪積み痕残る。	覆土	3/4
36-70 52	土師器 壺	①(16.2) ②(23.5)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部外面横なで。胴部外面刷毛目状の整形。内面篋なで。輪積み痕残る。	カマド 周辺	1/4
36-71 52	土師器 甕	①(20.8)②18.8 ③ (7.0)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋なで。輪積み痕残る。内面篋なで。輪積み痕。	カマド 周辺	3/4
36-72 52	土師器 甕	①(21.2)②11.6 ③ 4.9	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面上半刷毛目状の整形。内面刷毛目状の整形。	床東部	1/3
36-73 52	土師器 甕	① 14.3 ②10.3 ③ 5.6	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部指頭圧痕。胴部外面篋なで。内面刷毛目状の整形。	覆土	ほぼ完形
37-74 52	土師器 甕	①(21.1) ② 8.5	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい橙色	胴部外面篋削り。輪積み痕残る。内面荒れている。	床北東部	胴下半部

図 P	番 L	器 種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm・g)				特 徴	出土状況
					全長	幅	厚	重量		
37-75	53	石製品 紡錘車	完形	蛇紋岩	4.7	4.7	1.2	39	器面に条線状の整形痕が残る。	床直上
37-76	53	磨 石	完形	花崗岩	15.2	5.8	4.3	480	全面に磨耗痕が認められる。	覆土
37-77	53	敲 石	完形	硬砂石	10.3	8.2	5.6	700	6個所敲打痕が認められる。	覆土
37-78	53	台 石	完形	花崗岩	20.9	19.3	5.1	3,445		西壁下
38-79	53	台 石	完形	溶岩	24.0	18.0	8.5	4,005	凹み穴が認められる。	北壁寄り

図 P	番 L	部 位	①胎土 ②焼成(遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文 様 (そ の 他)	出土状況
38-80	53	胴部片	①中・細砂を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚1cm。内面は粗い調整。外面の色調は橙色。	縄文L $\left\{ \begin{matrix} r \\ r \end{matrix} \right.$ 施文後、半截竹管による集合沈線。 前期諸磯式	覆土
38-81	53	口縁部片	①細砂、褐色細粒物を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚9mm。内面は粗い調整。外面の色調はにぶい黄橙色。	半截竹管による集合沈線。耳状・円形貼付文。 前期諸磯式	覆土
38-82	53	胴部片	①細砂、褐色細粒物を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は粗い調整。外面の色調は橙色。	半截竹管による集合沈線。 前期諸磯式	覆土
38-83	53	口縁部片	①細砂、白・褐色細粒物を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚9mm。内面は横方向の磨き。外面の色調は褐灰色。	隆帯と縄文施文。原体はR $\left\{ \begin{matrix} L \\ L \end{matrix} \right.$ 中期加曾利E式	覆土
38-84	53	胴部片	①中砂、褐・黒色細粒物を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚1cm。内面はやや丁寧な調整。外面の色調は明黄褐色。	隆帯と沈線を垂下。 中期前半	覆土
38-85	53	胴部片	①細砂、褐色細粒物を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は縦方向磨き。外面の色調は明褐色。	縄文施文。原体はL $\left\{ \begin{matrix} R \\ L \\ L \\ R \\ L \end{matrix} \right.$ 中期後半	覆土

6号住居跡 (第39~44図 PL.12・53~55)

位置 9F-14・15、9G-14・15グリッドにかけて検出された。5号住居跡の北東約5mの所に位置している。

形状 長辺5.7m、短辺5.5mのほぼ正方形を呈している。

方位 N-69°-E

覆土 灰褐色の砂層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約35~74cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約24.6㎡。

周溝 ほぼ全周している。幅3~10cm、深さ1~6cmである。

竈 床面から竈の痕跡を検出することはできなかった。

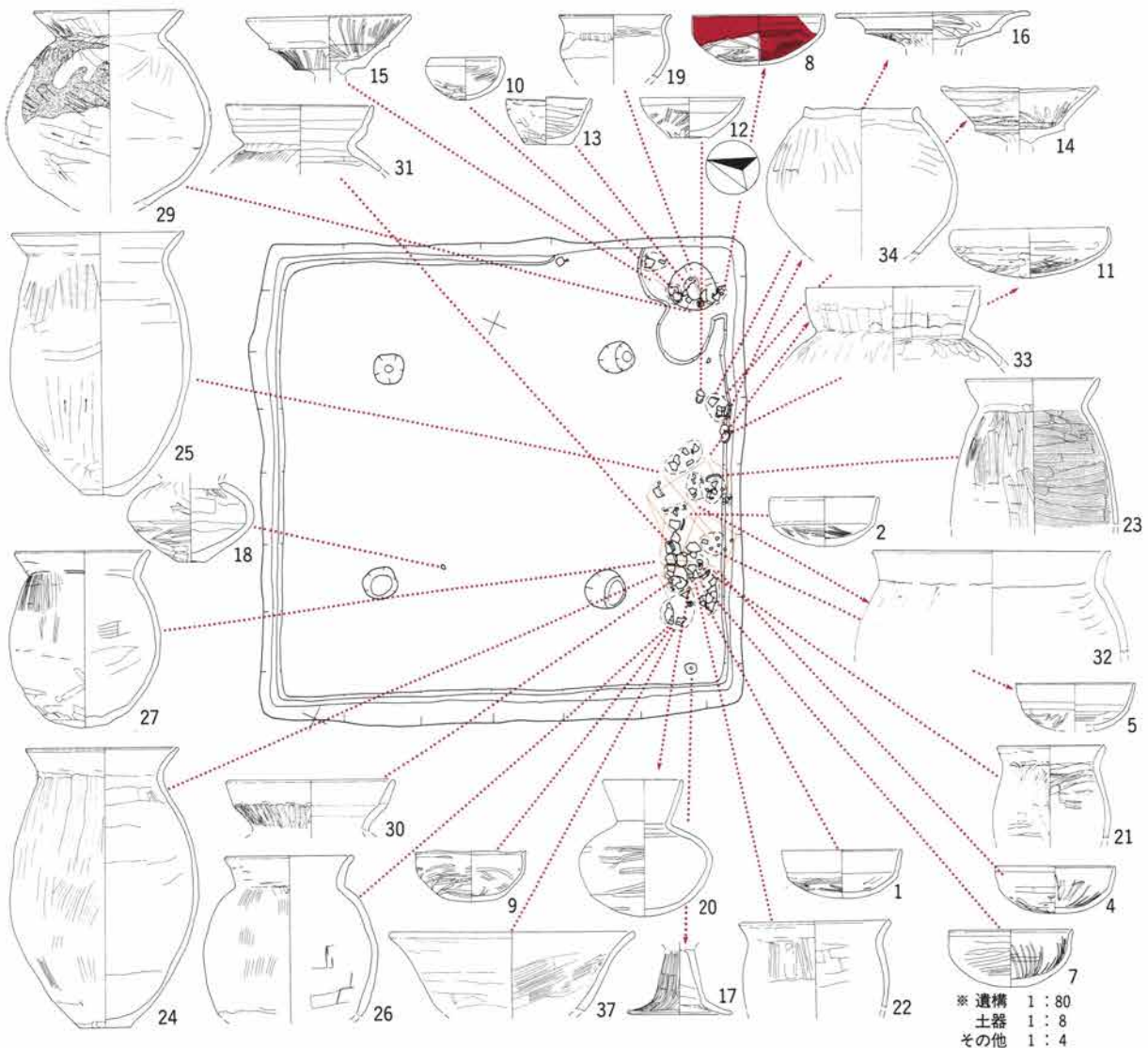
柱穴 4個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴になる。P1は深さ40cm、P2深さ44cm、P3深さ51cm、P4深さ38cmである。P1・P2は住居内側に傾いている。

貯蔵穴 床面東南隅から検出された。規模は長径60cm、短径50cm、深さ25cmである。

遺物 貯蔵穴周辺と南壁寄り覆土上層から集中して出土している。詳細は第39図の遺物分布を参照のこと。第43図29の甕は貯蔵穴から出土している。

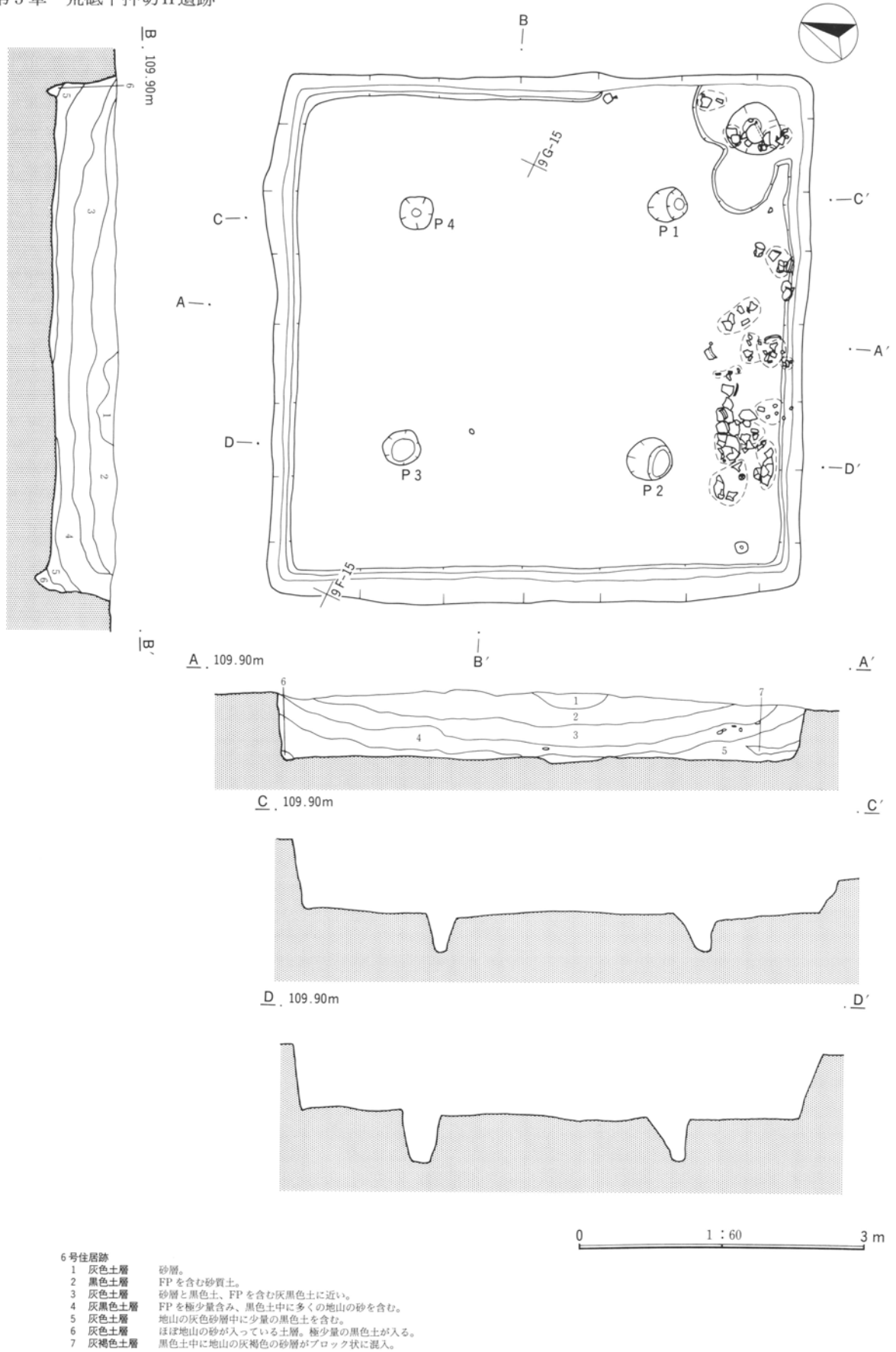
時期 古墳時代後期(6世紀前半)。

備考 住居跡の残存状況は良好なことから、当住居には竈は構築されていなかったものと判断される。

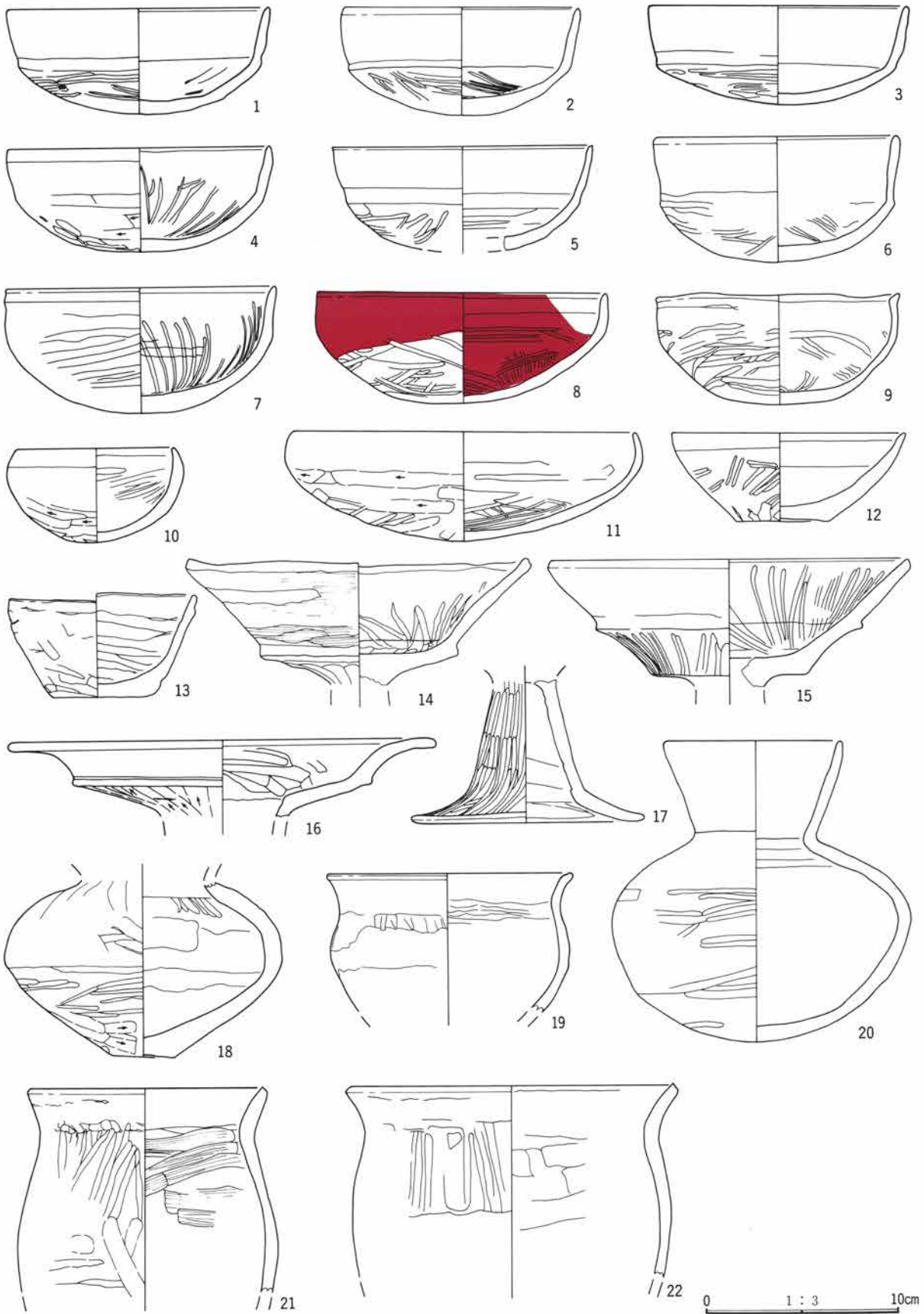


第39図 6号住居跡遺物分布

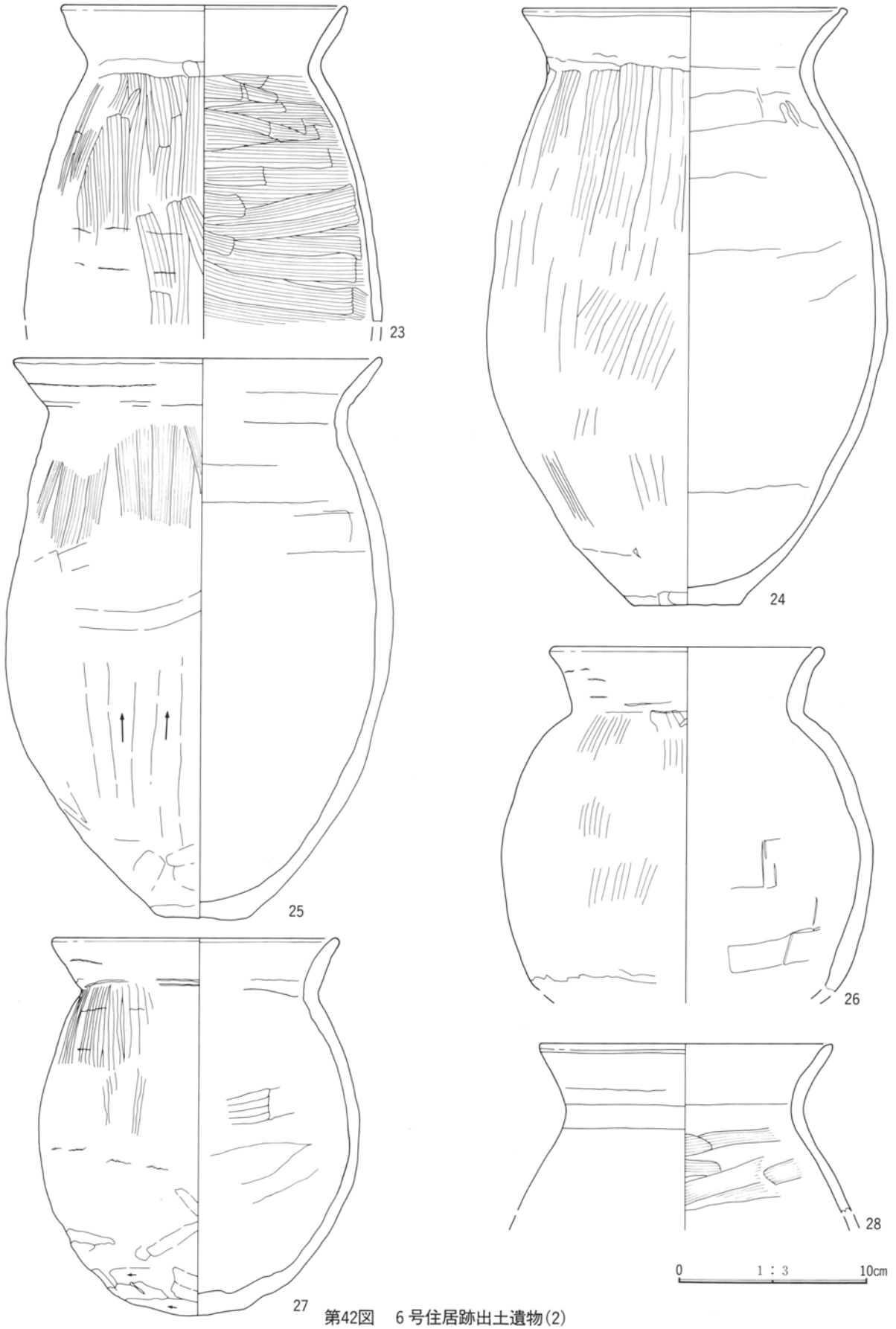
第3章 荒砥下押切II遺跡



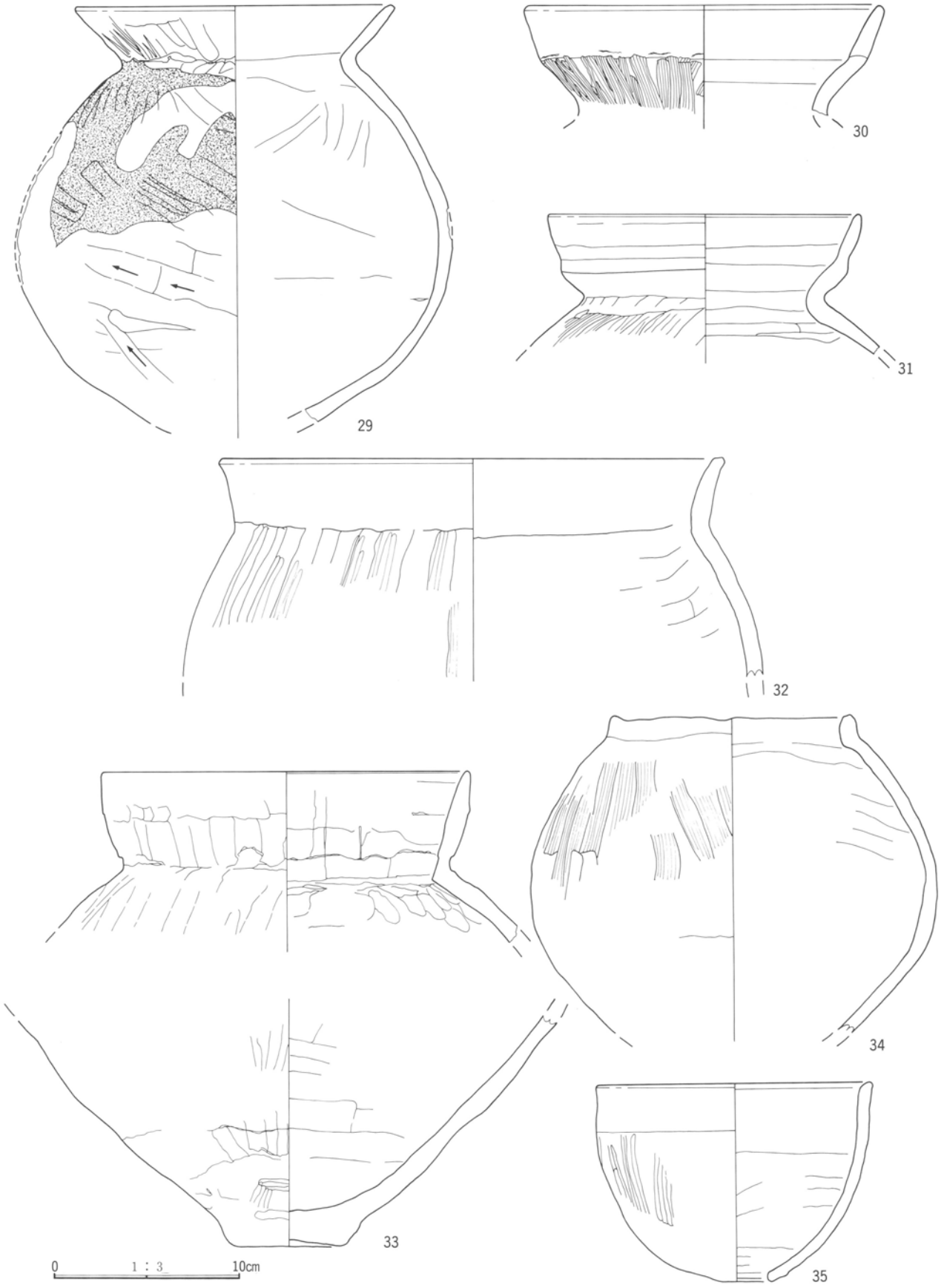
第40図 6号住居跡



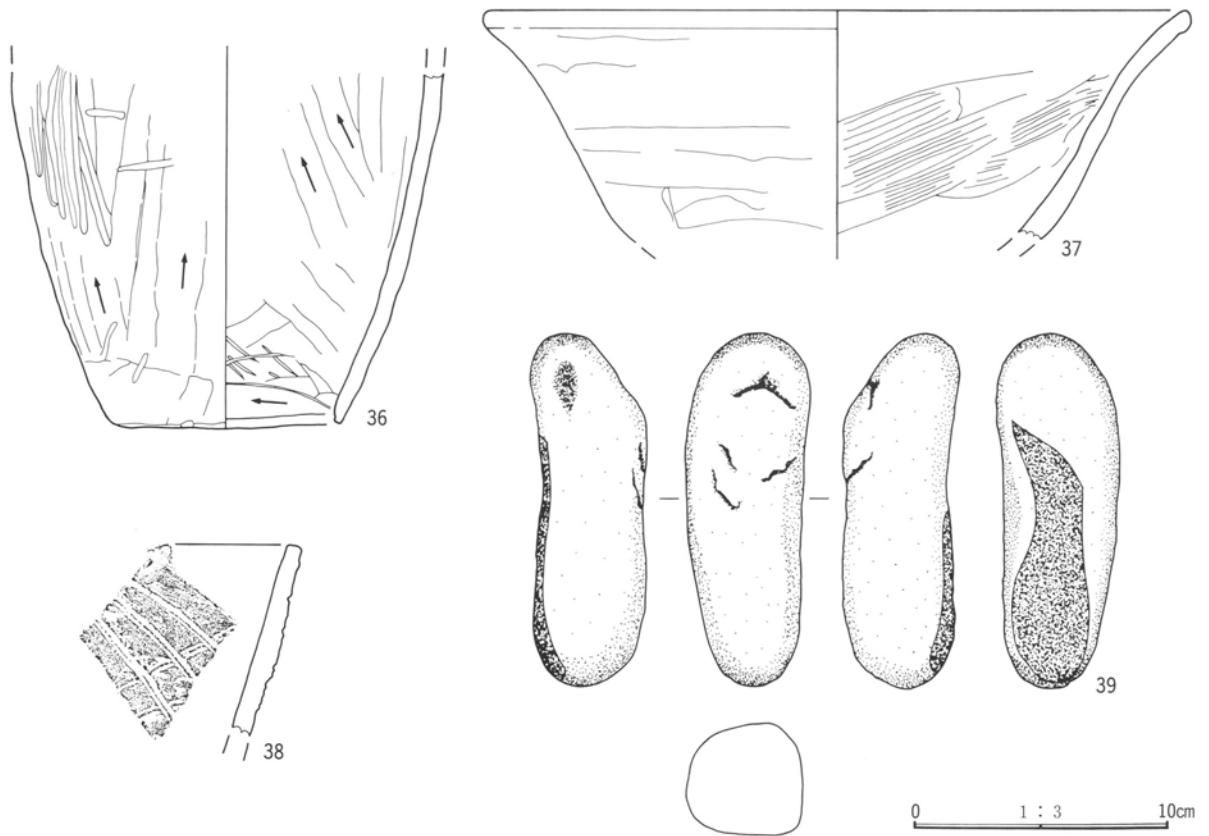
第41图 6号住居跡出土遺物(1)



27 第42図 6号住居跡出土遺物(2)



第43图 6号住居跡出土遺物(3)



第44図 6号住居跡出土遺物(4)

荒砥下押切II・6号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
41-1 53	土師器 坏	① 13.5 ② 5.4	①細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	南壁寄り	ほぼ完形
41-2 53	土師器 坏	① 12.2 ② 5.5	①細砂 黒・白色細粒子を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	南壁寄り	3/4
41-3 53	土師器 坏	① 13.2 ② 5.1	①細砂 黒・白色細粒子を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	覆土	2/5
41-4 53	土師器 坏	①(13.4)② 5.3	①中・細砂 白・黒色細粒子を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	南壁寄り	1/2
41-5 53	土師器 坏	①(13.5) ②(5.4)	①細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	南壁寄り	1/4
41-6 53	土師器 坏	①(12.8) ②(6.4)	①細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焰 ③赤色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	覆土	1/3
41-7 53	土師器 坏	① 13.9 ② 6.5	①細砂 黒・白色細粒子を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	南壁寄り	3/4
41-8 53	土師器 坏	①(15.0) ②(5.8)	①細砂 黒・白色細粒子を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。赤色塗彩。	貯蔵穴周辺	2/3
41-9 53	土師器 坏	① 12.7 ② 5.6	①細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焰 ③浅黄色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	南壁寄り	ほぼ完形
41-10 53	土師器 坏	① 8.0 ② 4.9	①中・細砂 白・褐色細粒子を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	貯蔵穴周辺	2/3
41-11 53	土師器 坏	①(17.8) ②(4.8)	①細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り。口縁部内外面横なで。内面篋なで・磨き。	南壁寄り	3/4
41-12 53	土師器 坏	① 12.0 ② 4.5 ③ 4.5	①中・細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焰 ③外明赤褐 内明黄褐色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横なで。内面荒れている。底面篋削り。	南壁寄り	ほぼ完形
41-13 53	土師器 鉢	① 9.6 ② 5.1 ③ 5.3	①細砂 白・黒色細粒子を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋なで。輪積み痕残る。内面篋なで。	貯蔵穴	完形

〔1〕 竪穴住居跡

41-14 53	土師器 高坏	①(18.0) ②(6.2)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部外面刷毛目状の整形。内面縦方向の磨き。	南壁寄り	坏部2/3
41-15 53	土師器 高坏	②(18.9)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤色	坏部外面中位に段を有する。縦方向の磨き。口縁部内外面横など。内面磨き。	貯蔵穴	坏部1/3
41-16 53	土師器 高坏	①(22.3) ②(4.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③外橙色 内明黄褐色	坏部外面中位に段を有する。以下磨き。口縁部内外面横など。内面磨き。	南壁寄り	坏部
41-17 53	土師器 高坏	②(7.4) ③(12.0)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	脚裾部外面磨き。内面輪積み痕残る。	南西隅	脚部
41-18 53	土師器 罎	②(9.0) ③(3.2)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面下半磨き後、磨き。上半磨きなど。内面磨き。輪積み痕残る。	P3周辺	2/3
41-19 53	土師器 鉢	①(12.9) ②(7.2)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒れている。口縁部内外面横など。内面磨き。	貯蔵穴	2/3
41-20 54	土師器 罎	①(9.0) ②15.5 ③(1.2)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	体部外面磨き後、磨き。口縁部内外面横など。内面磨き。	南壁寄り	1/2
41-21 54	土師器 甕	①(12.5) ②(10.4)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③黄橙色	口縁部内外面横など。胴部外面磨き後、磨き。内面刷毛目状の整形。	南壁寄り	口縁～胴部上半
41-22 54	土師器 甕	①(17.3) ②(9.7)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③黄橙色	口縁部内外面横など。胴部外面磨き後、磨き。内面磨き。	南壁寄り	口縁～胴部上半
42-23 54	土師器 甕	①(14.9) ②(16.8)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	口縁部内外面横など。胴部外面刷毛目状の整形。内面刷毛目状の整形。	南壁寄り	口縁～胴部上半
42-24 54	土師器 甕	①(17.0) ②(5.8) ③(31.9)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横など。胴部外面磨き後、磨き。内面磨き。	南壁寄り	ほぼ完形
42-25 54	土師器 甕	①(19.2) ②29.8 ③(5.0)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横など。胴部外面下半磨き。上半刷毛目状の整形。内面荒れている。	南壁寄り	3/4
42-26 54	土師器 甕	①(14.2) ②(18.1)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	口縁部内外面横など。胴部外面磨き後、磨き。内面磨き。	南壁寄り	1/2
42-27 54	土師器 甕	①(14.9) ②(19.9)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部内外面横など。胴部外面上半磨き。下半磨き。内面磨き。底面磨き。	南壁寄り	3/5
42-28 54	土師器 甕	①(15.5) ②(9.0)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	口縁部内外面横など。胴部外面磨き後、磨き。内面刷毛目状の整形。	覆土	口縁～胴部上半
43-29 54	土師器 甕	①(17.0) ②(22.2)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部外面縦方向の磨き。胴部外面磨き後、磨き。内面磨き。	貯蔵穴	3/4
43-30 54	土師器 壺	①(18.8) ②(5.8)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部中位に段を有する。上半横など下半刷毛目状の整形。内面荒れている。	南壁寄り	口縁部片
43-31 54	土師器 壺	①(16.4) ②(7.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部中位に段を有する。胴部外面磨き。内面磨き。	南壁寄り	口縁～胴部上半
43-32 54	土師器 甕	①(27.2) ②(11.3)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横など。胴部外面磨き後、磨き。内面磨き。	南壁寄り	口縁～胴部上半
43-33 55	土師器 甕	①(19.5) ②(21.2) ③(5.9)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部内外面上半横など。下半磨き。胴部外面磨き後、磨き。内面指頭圧痕。	南壁寄り	口縁部、胴下半部
43-34 54	土師器 壺	①(12.7) ②(16.6)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③黄色	胴部外面刷毛目状の整形。内面磨き。	南壁寄り	口縁～胴部
43-35 55	土師器 甕	①(14.5) ②(10.5) ③(2.6)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部内外面横など。胴部外面磨き後、磨き。内面磨き。	覆土	3/4
44-36 55	土師器 甕	②(14.3) ③(9.0)	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	胴部外面磨き。内面磨き。	覆土	胴下半部
44-37 55	土師器 鉢	①(28.0) ②(8.9)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③黄色	口縁部内外面横など。体部外面磨き。内面刷毛目状の整形。	南壁寄り	口縁～体部

図番 P L	部位	①胎土 ②焼成(遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様(その他)	出土状況
44-38 55	口縁部片	①中砂、白・褐色細粒物を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚6～9mm。内面は横方向の丁寧な調整。外面の色調は橙色。	半截竹管による沈線文。	覆土

図番 P L	器種	遺存状況	石材	計測値(cm・g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
44-39 55	磨石	完形	安山岩	13.8	4.1	4.4	420	赤化。煤が付着している。	覆土

第3章 荒砥下押切II遺跡

7号住居跡 (第45~47図 PL.7・55)

位置 9G-12・13、9H-12・13グリッドにかけて検出された。6号住居跡の北北東約4mの所に位置している。

形状 長辺5.7m、短辺4.2mの長方形を呈している。

方位 N-11°-W

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約20~40cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。床面2箇所に高さ5cm程のロームの高まりが認められた。面積は約19.5㎡。

周溝 全周している。幅3~11cm、深さ1~11cmである東壁・北壁下が深い。

竈 北壁東寄りに構築されている。壁を掘り込んでいない。長さ約120cm、幅約130cm、焚き口幅約20cmである。

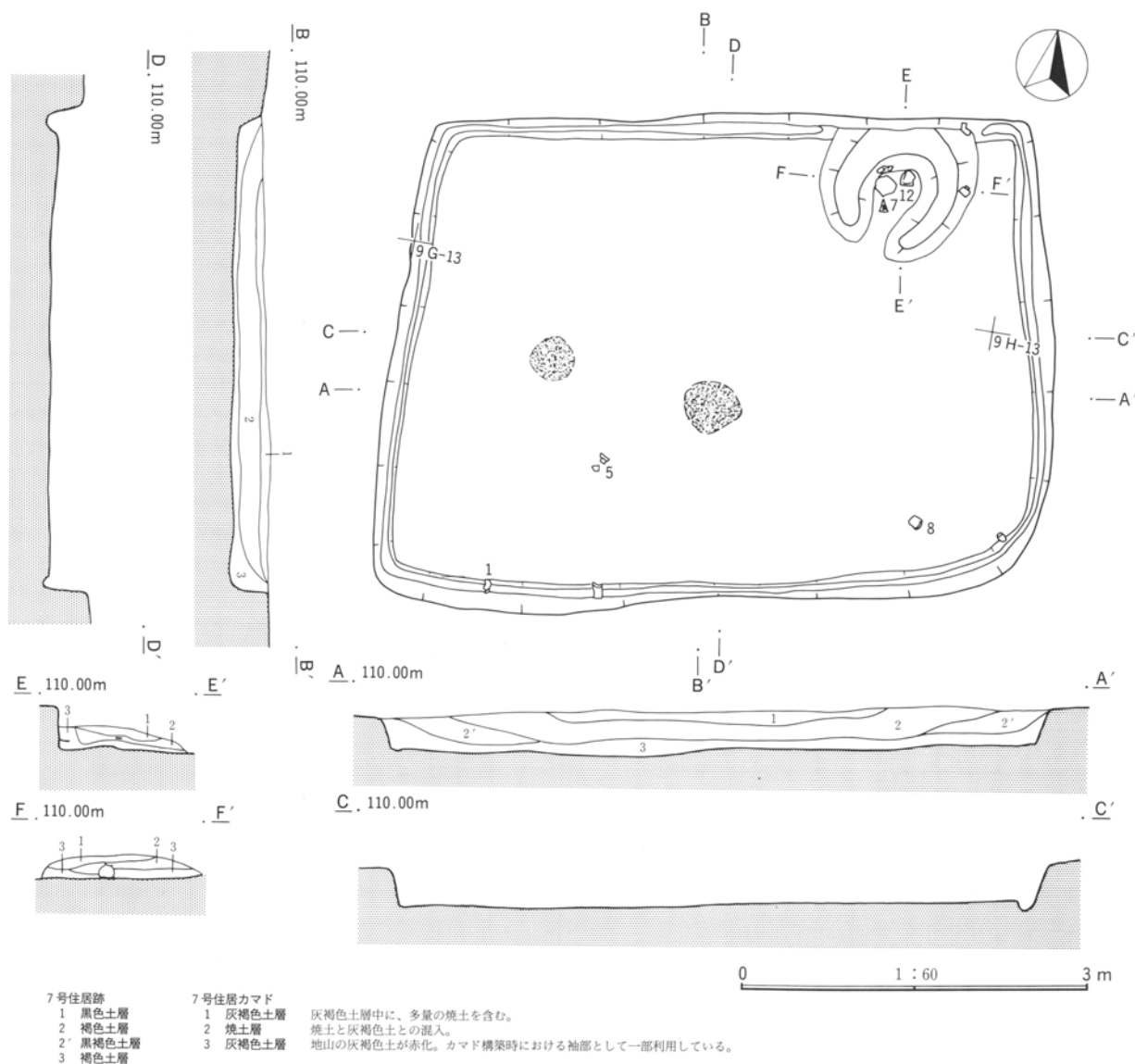
柱穴 床面から柱穴は検出できなかった。

貯蔵穴 床面から貯蔵穴は検出できなかった。

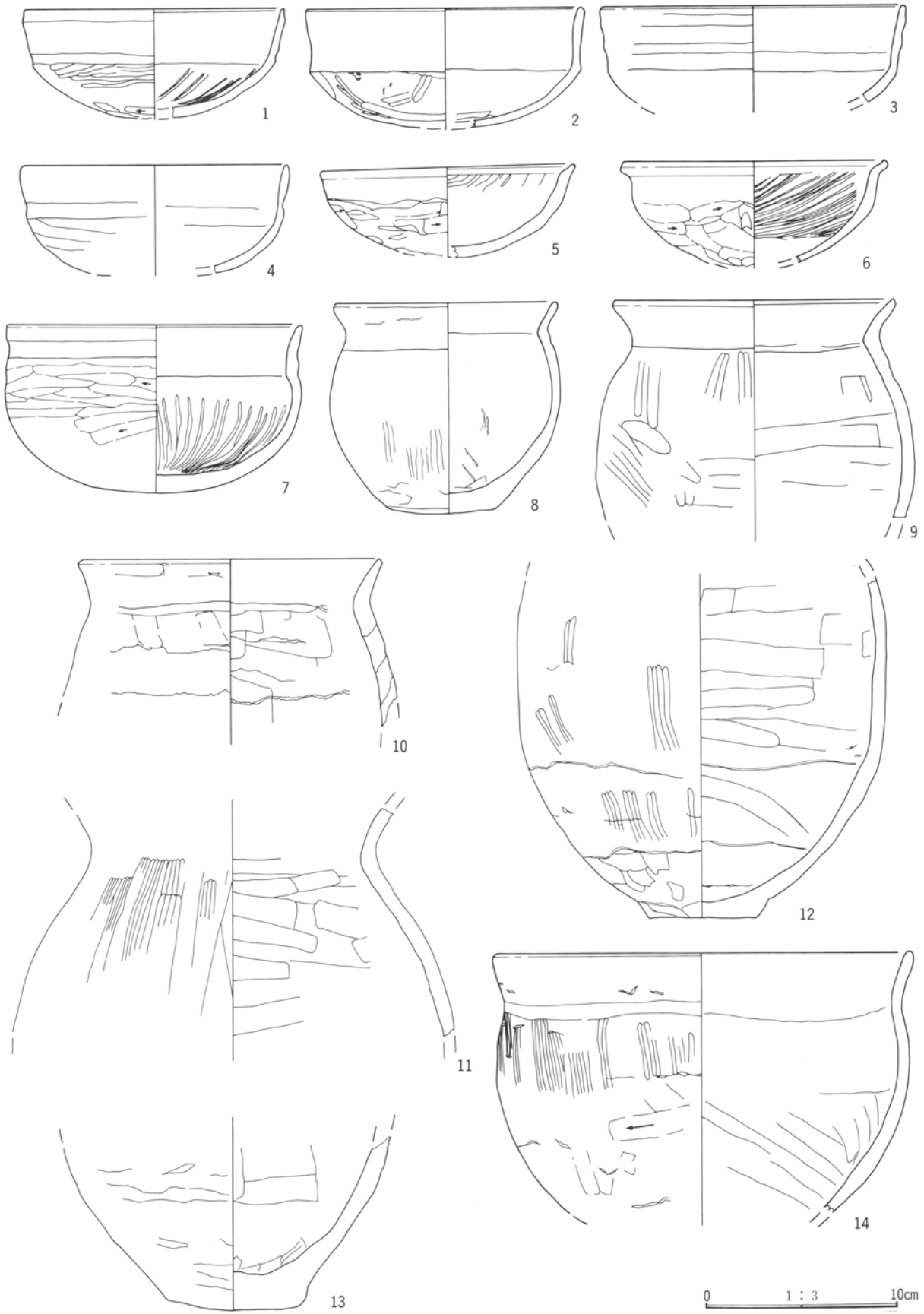
遺物 覆土からの遺物の出土は少なかった。竈内から第46図7の坏と12の甕が出土している。

時期 古墳時代後期(6世紀前半)。

備考 2・3・7号住居の竈は壁に作りつけている。

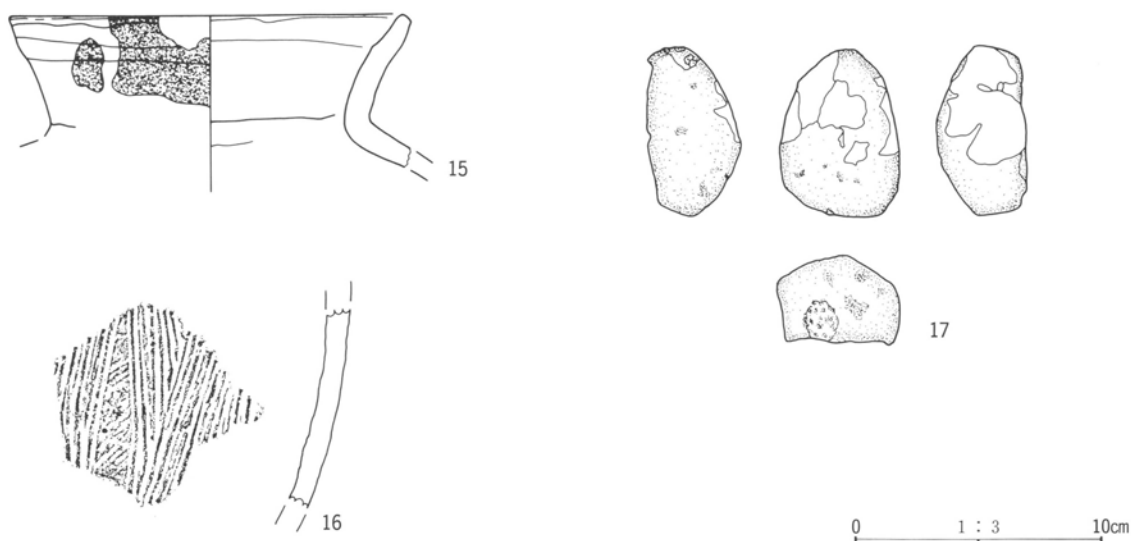


第45図 7号住居跡



第46図 7号住居跡出土遺物(1)

第3章 荒砥下押切II遺跡



第47図 7号住居跡出土遺物(2)

荒砥下押切II・7号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)		①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
		①口径	②器高 ③底径				
46-1 55	土師器 坏	①(13.3)	② 5.4	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	南壁寄り	1/4
46-2 55	土師器 坏	①(14.2)	② 6.2	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	覆土	1/3
46-3 55	土師器 坏	①(15.6)	② (5.0)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横なで。内面荒れている。	覆土	口縁～体部片
46-4 55	土師器 坏	①(13.8)	② (5.7)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	覆土	口縁～体部片
46-5 55	土師器 坏	① 13.4	② 4.7	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	床南西部	3/4
46-6 55	土師器 坏	①(13.8)	② (5.3)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り。内面放射状の磨き。	覆土	1/3
46-7 55	土師器 坏	① 15.2 ② 8.8 ③ 3.4		①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	カマド	ほぼ完形
46-8 55	土師器 小型甕	① 11.4 ②11.0 ③ 5.8		①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋なで、磨き。内面篋なで。	床南東部	2/3
46-9 55	土師器 甕	①(14.5)	②(11.4)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋なで、磨き。内面篋なで。輪積み痕残る。	覆土	1/4
46-10 55	土師器 甕	② (8.8)		①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③灰白色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋なで。内面篋なで。輪積み痕残る。	覆土	口縁～胴部片
46-11 55	土師器 甕	②(11.2)		①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面刷毛目状の整形。内面篋なで。	覆土	口縁～胴部片
46-12 55	土師器 甕	②(17.7)	③ 5.5	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面篋磨き。内面篋なで。輪積み痕残る。底面篋削り。	カマド	胴下半部
46-13 55	土師器 甕	② (8.7)	③ 7.0	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄色	胴部外面篋なで。輪積み痕残る。内面篋なで。	覆土	底部
46-14 55	土師器 甕	①(21.5)	②(13.1)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋なで。	覆土	口縁～胴部
47-15 55	土師器 甕	① 16.0	② (6.0)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横なで。	覆土	口縁部片

図番 P L	部位	①胎土 ②焼成 (遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様 (その他)	出土状況
47-16 55	胴部片	①中砂、白・褐色細粒物を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は粗い調整。外面の色調は橙色。	縄文L { r 施文後、半截竹管による集合沈線。 r 前期諸磯式	覆土

図番 P L	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm・g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
47-17 55	敲石	一部欠損	粗粒輝石安山岩	6.5	4.2	3.5	156	敲打痕・赤色付着物が認められる。	覆土

〔1〕 竪穴住居跡

8号住居跡 (第48～62図 PL.14～16・56～61)

位置 9C-10、9D-10～12、9E-9～11、9F-11グリッドにかけて検出された。3号住居跡の北東約4mの所に位置している。

形状 長辺10m、短辺9.8mのほぼ正方形を呈している。

方位 N-88°-E

覆土 砂層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は10層に分かれた。9層は炭化物層である。

壁高 住居跡確認面より約38～75cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

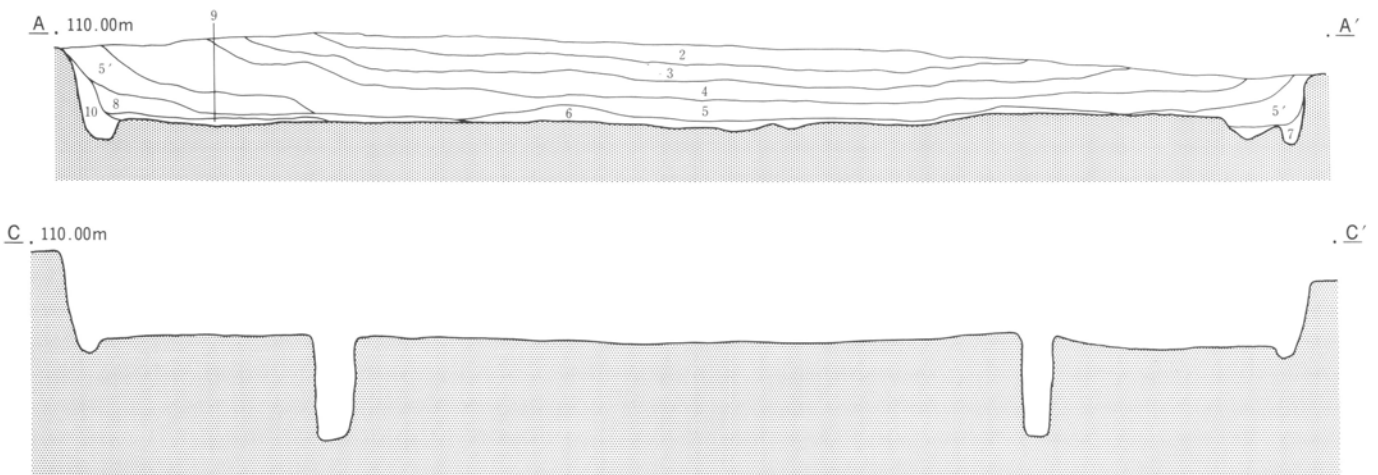
床面 ほぼ平坦であるが、貯蔵穴周辺に床面の高まりが認められた。面積は約88.6m²。

周溝 全周している。幅3～20cm、深さ8～18cmを測る。東壁の周溝は幅広であるが比較的浅く、北・南・西壁下の周溝は幅狭く、深い。

竈 東壁の南寄りに、壁を一部掘り込み構築されている。長さ約220cm、幅約150cm、焚き口幅約40cmである。

柱穴 6個のピットが検出された。P1～P6が主柱穴になる。P1は深さ86cm、P2深さ80cm、P3深さ91cm、P4深さ104cm、P5深さ81cm、P6深さ84cmである。いずれの柱穴も、P1のように長径23cm、短径20cmと規模は小さいものの、深い。

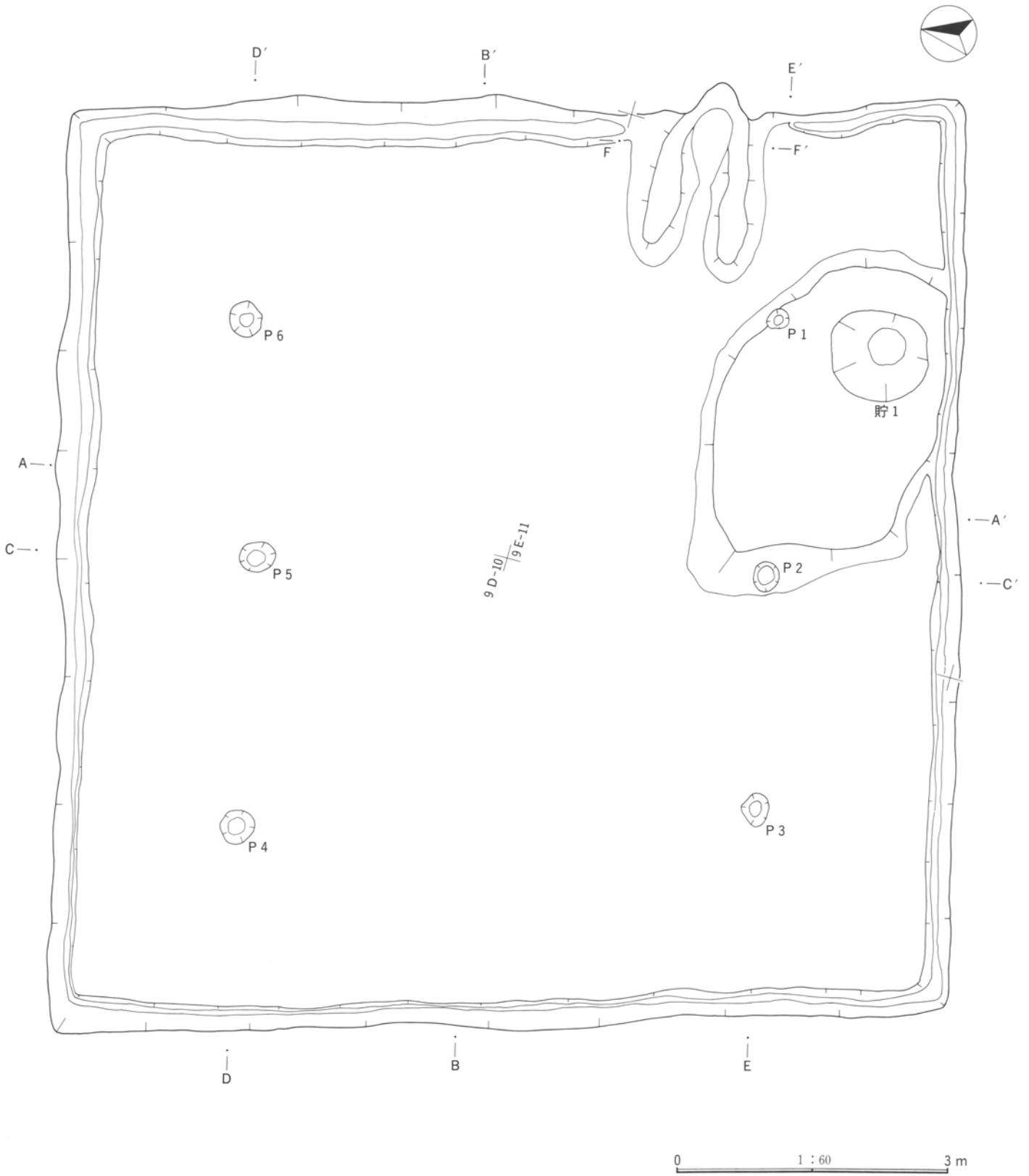
貯蔵穴 南壁寄りから検出された。長径110cm、短径100cm、深さ75cmである。貯蔵穴の周辺は長径420cm、短径260cmの楕円形状の床面の高まりがある。高さは2cm～14cmである。



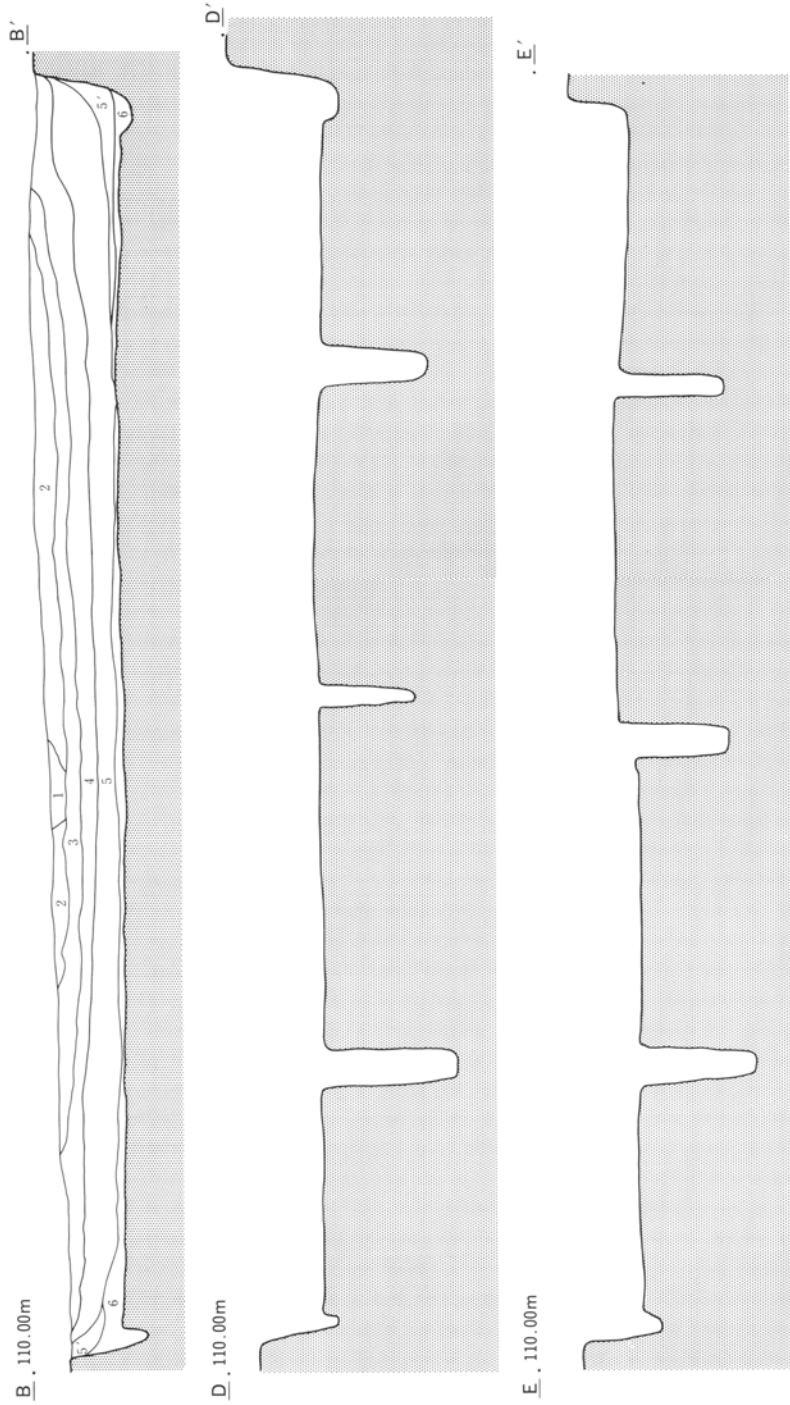
- | 8号住居跡 | |
|----------|----------------------------|
| 1 灰色砂層 | 砂層。 |
| 2 灰黒色土層 | 黒色土中に、少量の灰色砂が混入。 |
| 3 灰色土層 | 灰色砂層中に、少量の黒色土が混入。 |
| 4 黒色土層 | 黒色土中に、極少量の灰色砂が混入。FPを極少量含む。 |
| 5 灰色土層 | 灰色砂層中に、黒色土を含む。FPを極少量含む。 |
| 5' 灰色土層 | 上層より多量の黒色土を含む。 |
| 6 灰色土層 | 灰色砂層中に、少量の黒色土と炭化物を含む。 |
| 7 灰黒色土層 | 黒色土と灰色砂及び炭のブロックを含む。 |
| 8 灰色砂層 | 地山の砂層の流れ込み。 |
| 9 炭化物層 | |
| 10 灰黒色土層 | 地山の灰色の砂中に黒色土が少量含む。 |

0 1:60 3m

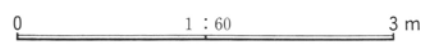
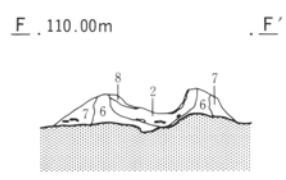
第48図 8号住居跡(1)



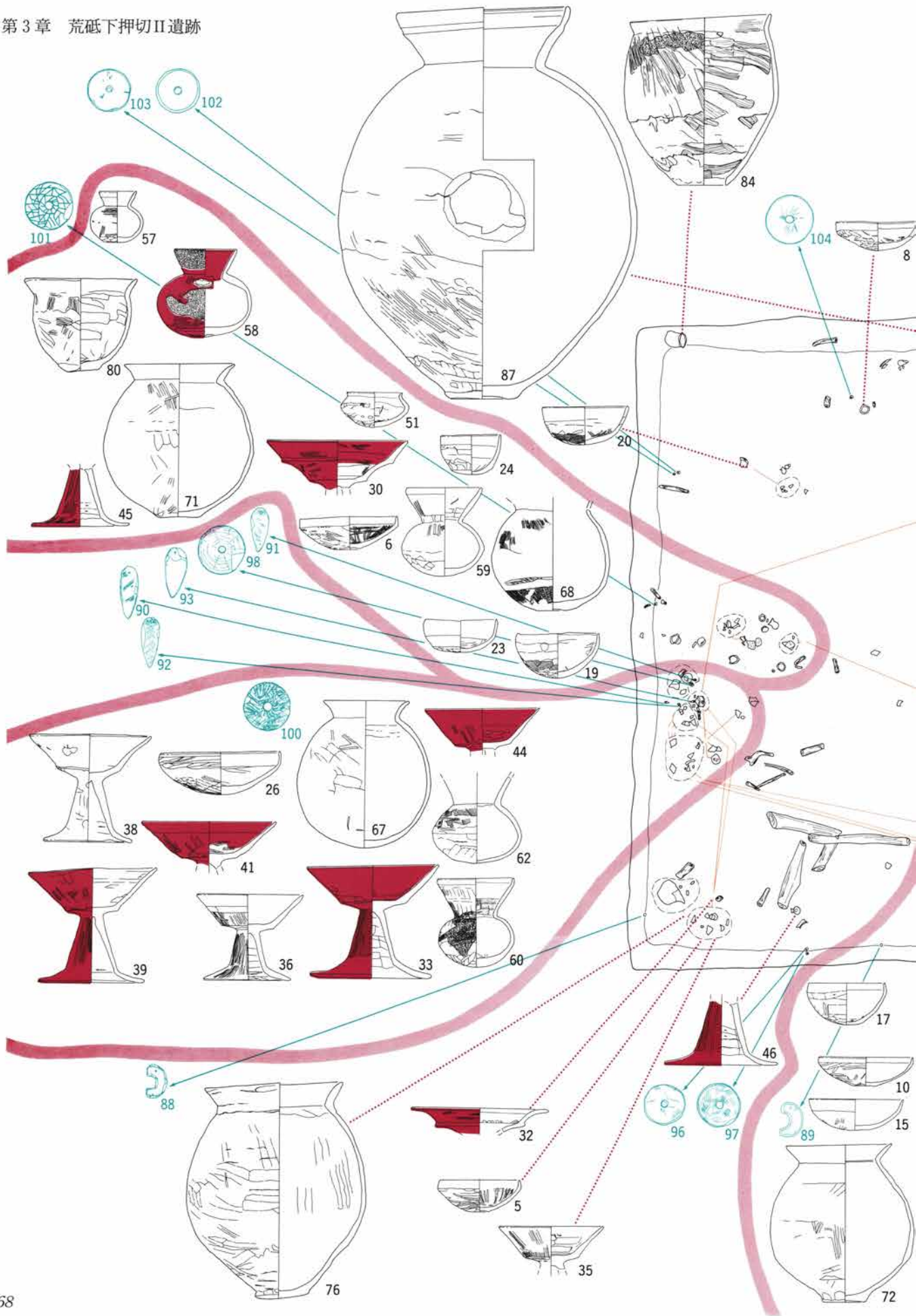
第49図 8号住居跡(2)



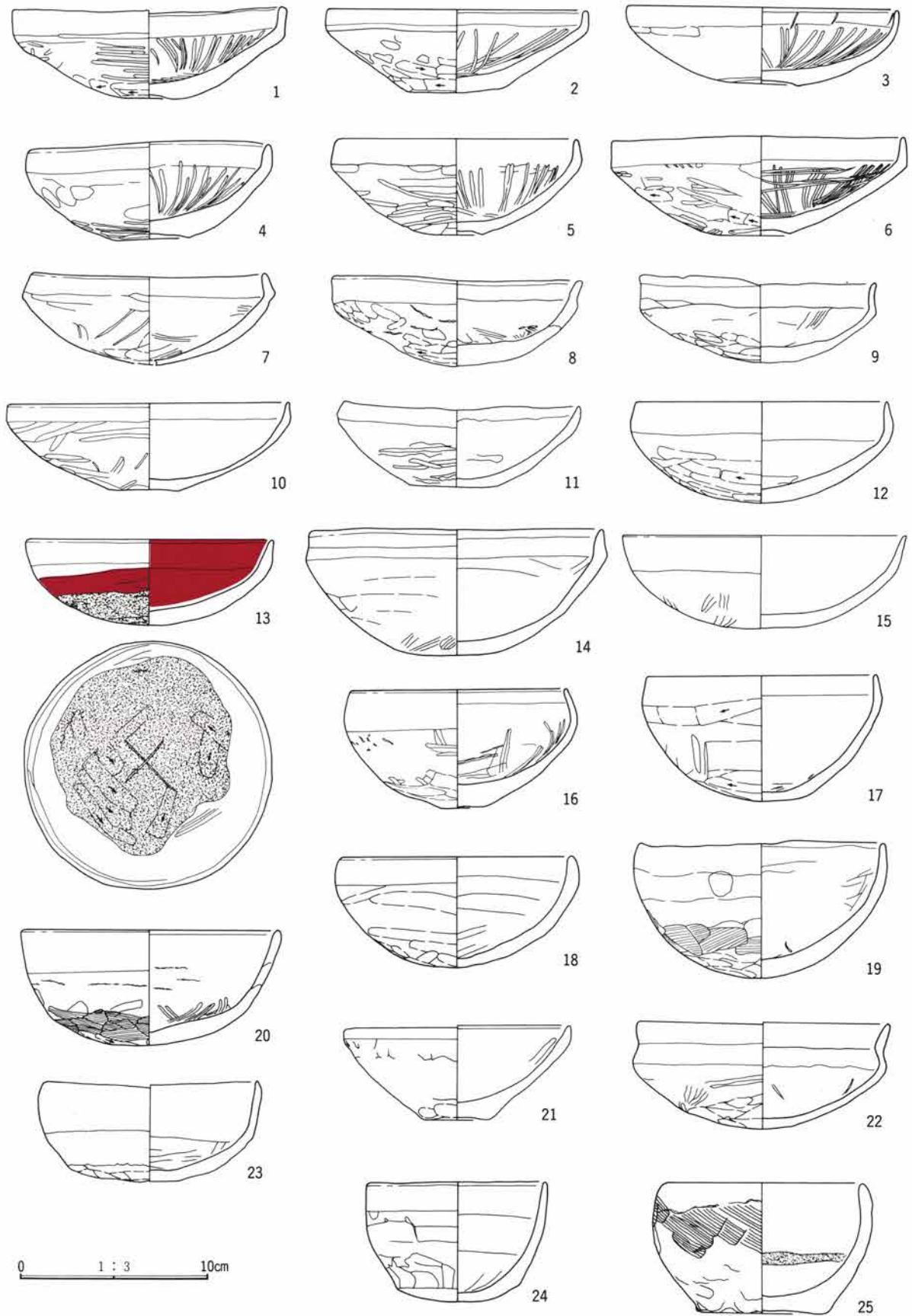
- 8号住居カマド
- 1 赤褐色土層 カマド構築材のロームが熱により赤化。
 - 2 焼土層 強く大量に火を受けているため、ブロック状の固い焼土層となっている。
 - 3 黒褐色土層 炭、少量の焼土、ローム粒子、黒色土の混入土。
 - 4 赤褐色土層 1層によく似ており、カマド構築材の一部が崩れ落ちたものと思われる。
 - 5 褐色ローム層 地山のローム層中に少量の焼土粒子を含む。少し熱を受けていると思われる。カマド構築材の一部か？
 - 6 褐色ローム層 5層とほとんど同じ層。カマド袖部外側になると思われる。直接火を受けていないため、焼土粒子をほとんど含まない。
 - 6' 褐色ローム層 この部分は、カマド中で最も強く熱を受けているため、袖の外側までロームが少し焼土化しており、少量の焼土粒子を含むようになった部分である。
 - 7 黄褐色土層 ブロック状の焼土、ローム粒子、黒色土の混入土層、この土層中に土器の破片を多く含む。この部分はカマドの外側になる部分と考えられる。住居の覆土の一部とあまり違いが認められない。
 - 8 黒色土層 炭の粒子を多量に含む。ブロック状の焼土を混入している。



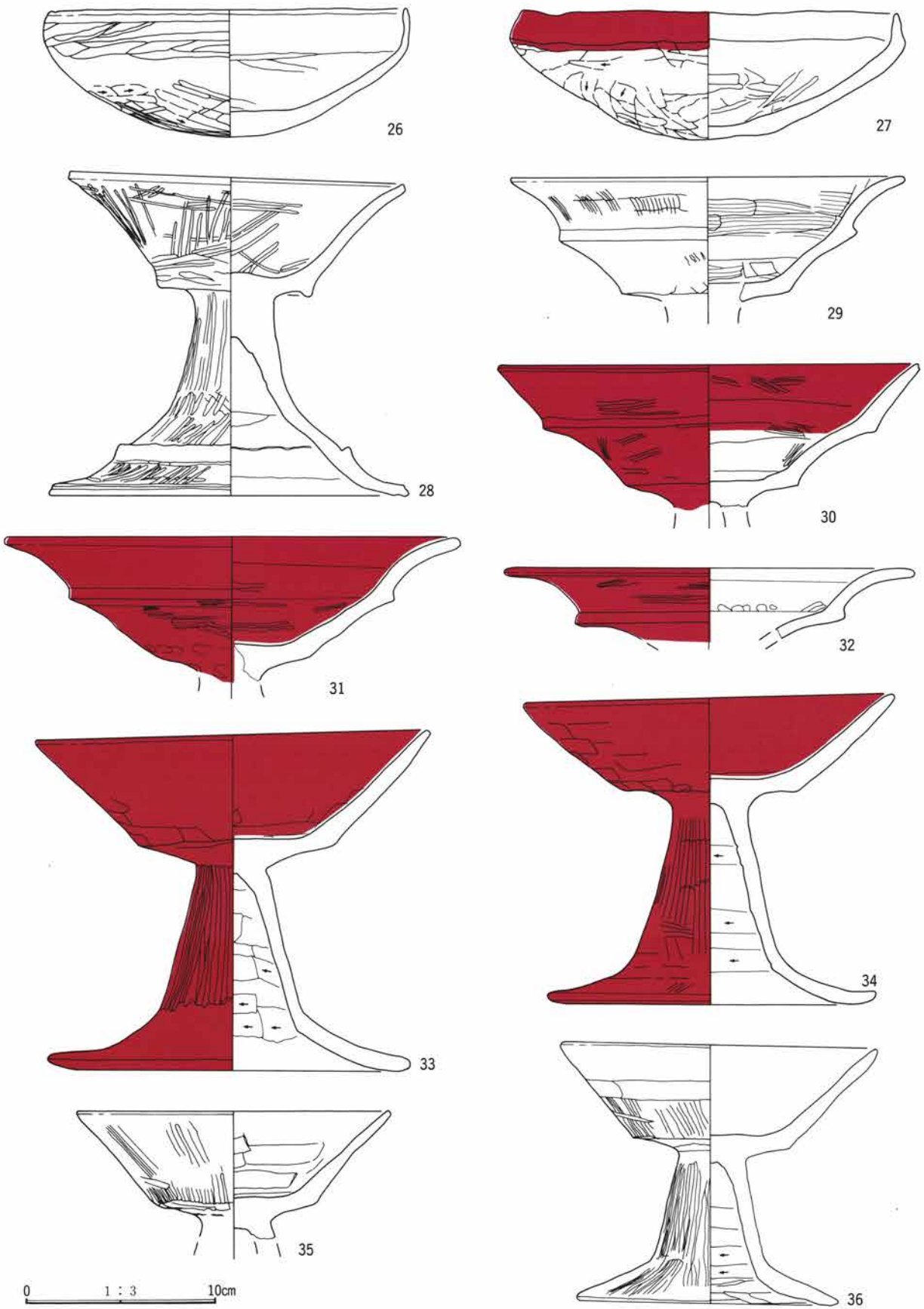
第50図 8号住居跡(3)



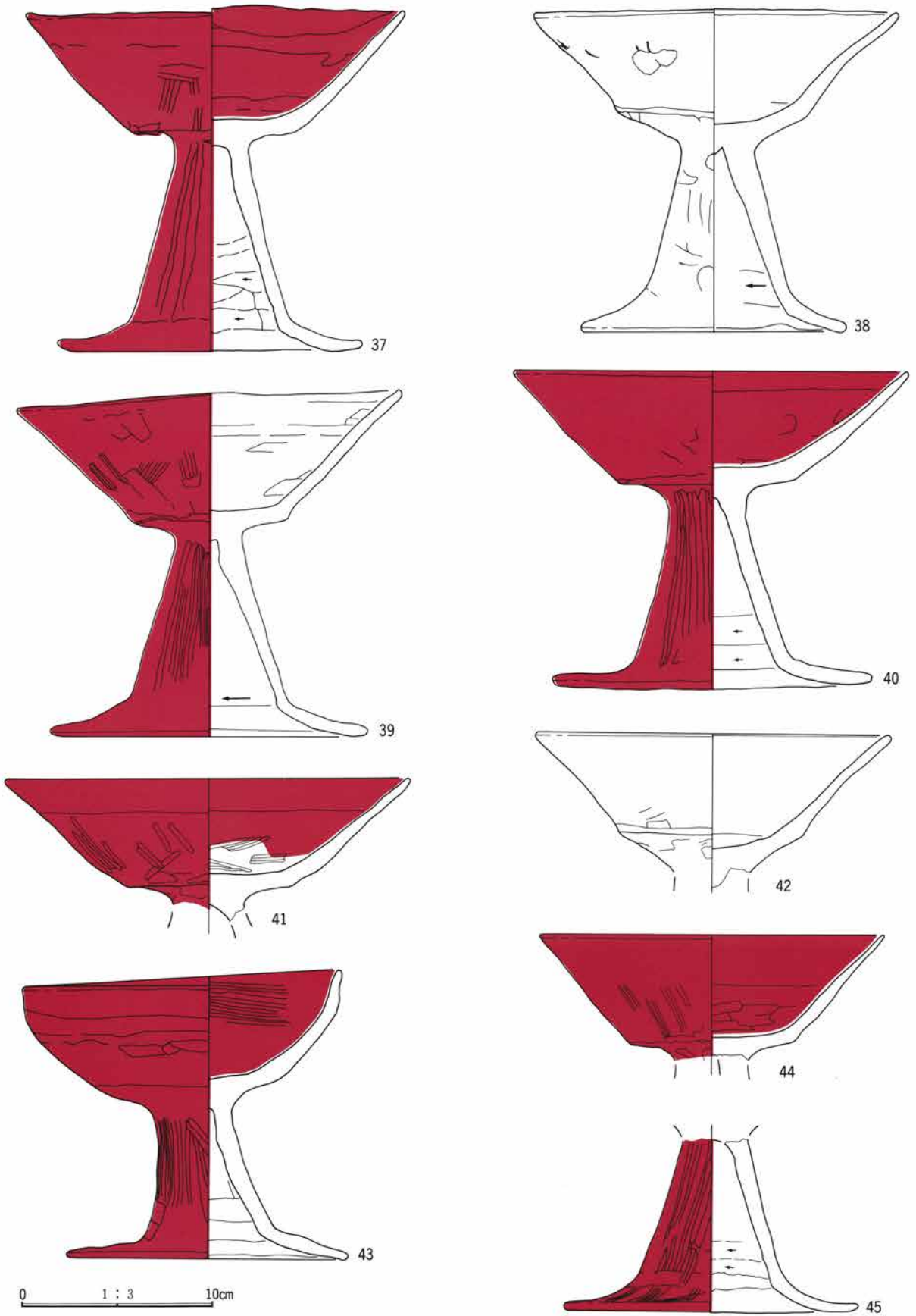
第51图 8号住居跡遺物分布



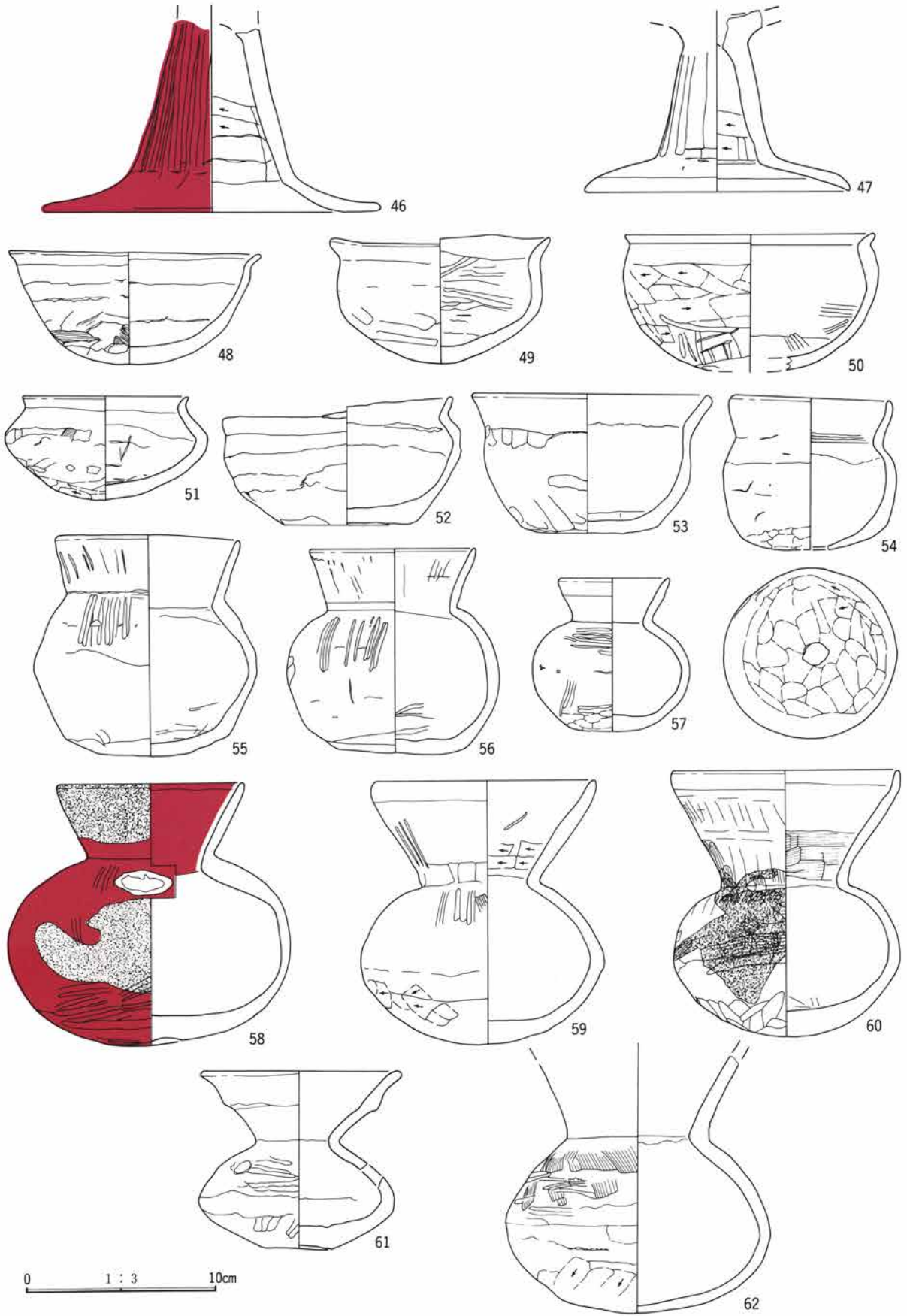
第52図 8号住居跡出土遺物(1)



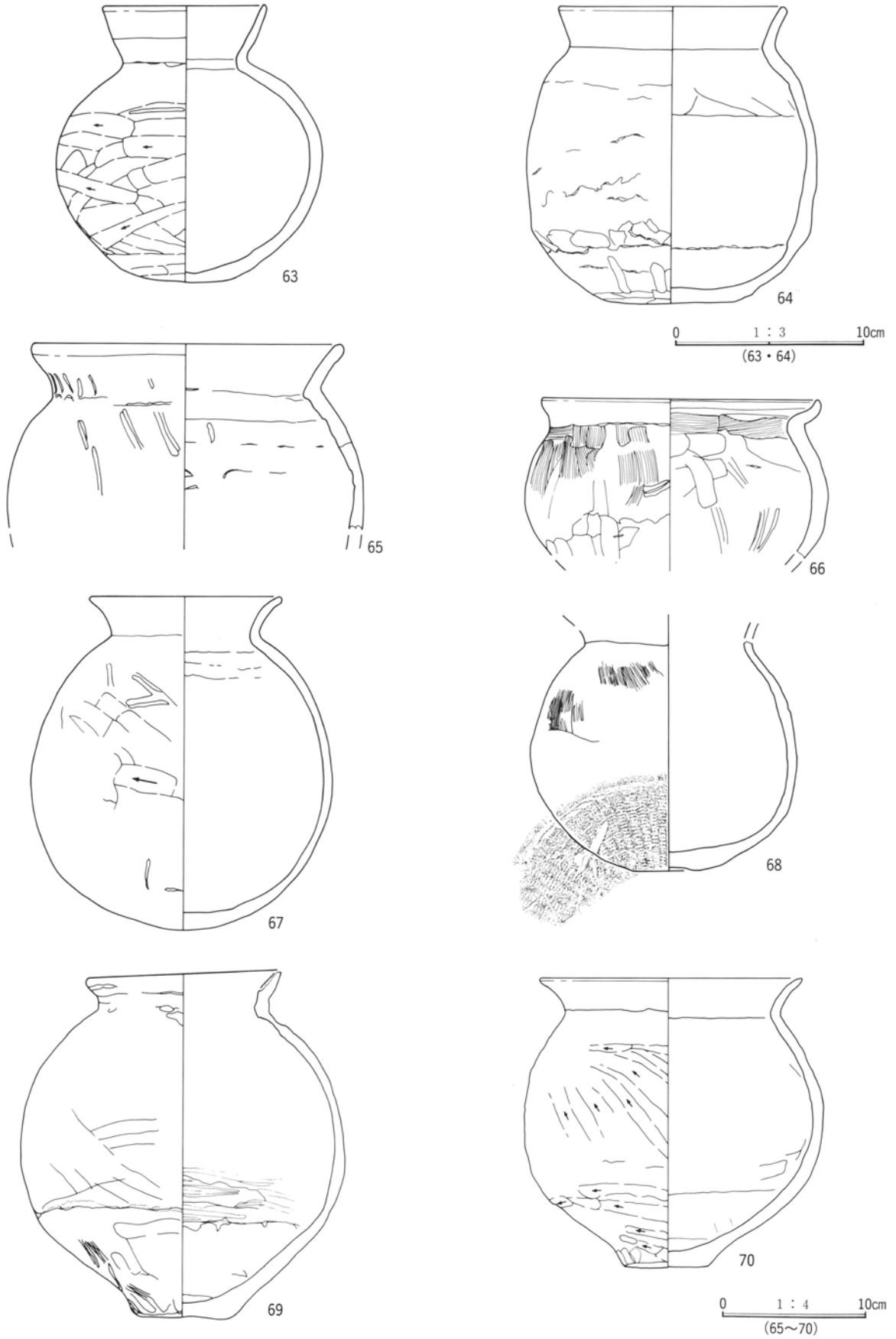
第53图 8号住居跡出土遺物(2)



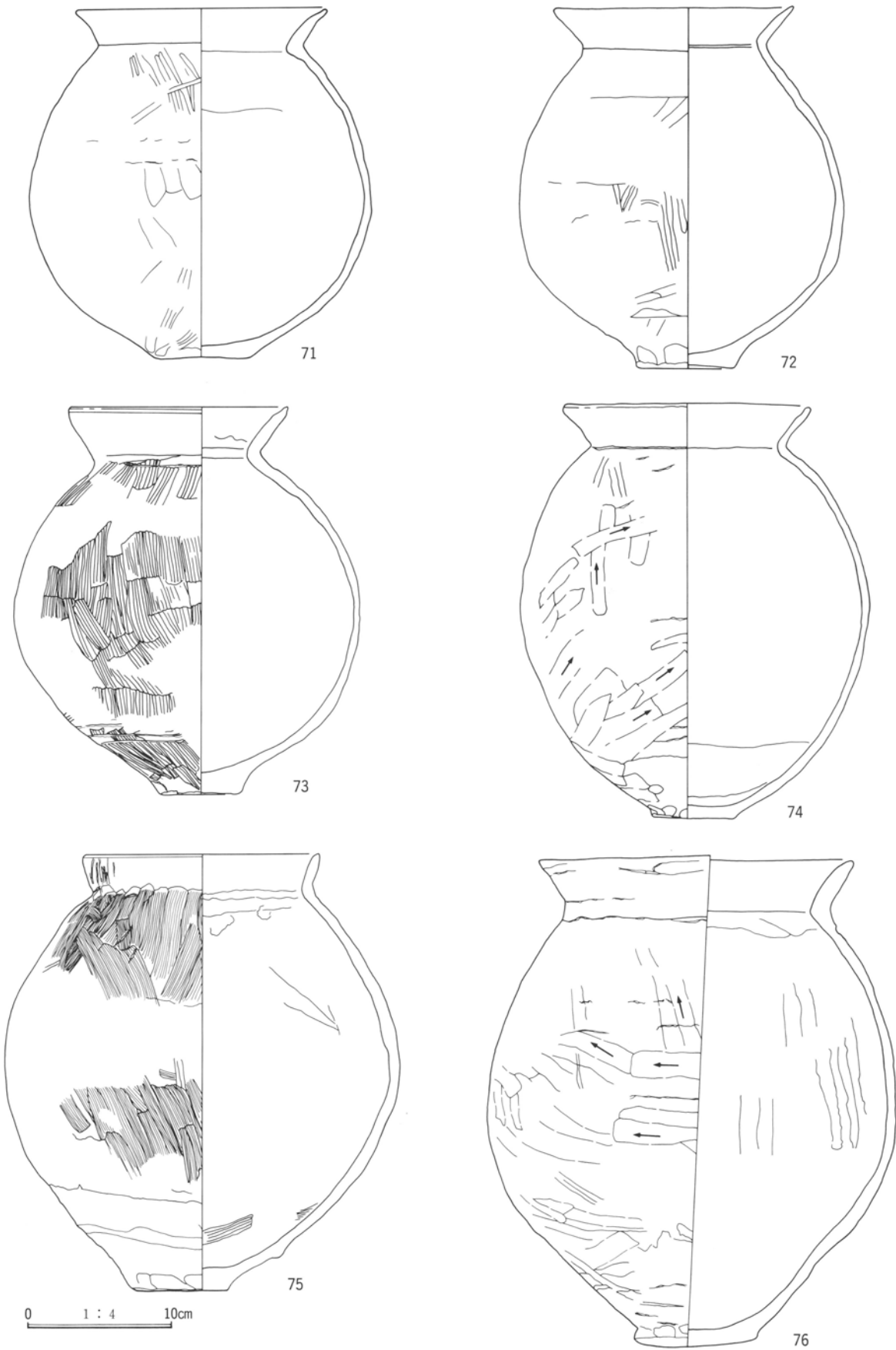
第54図 8号住居跡出土遺物(3)



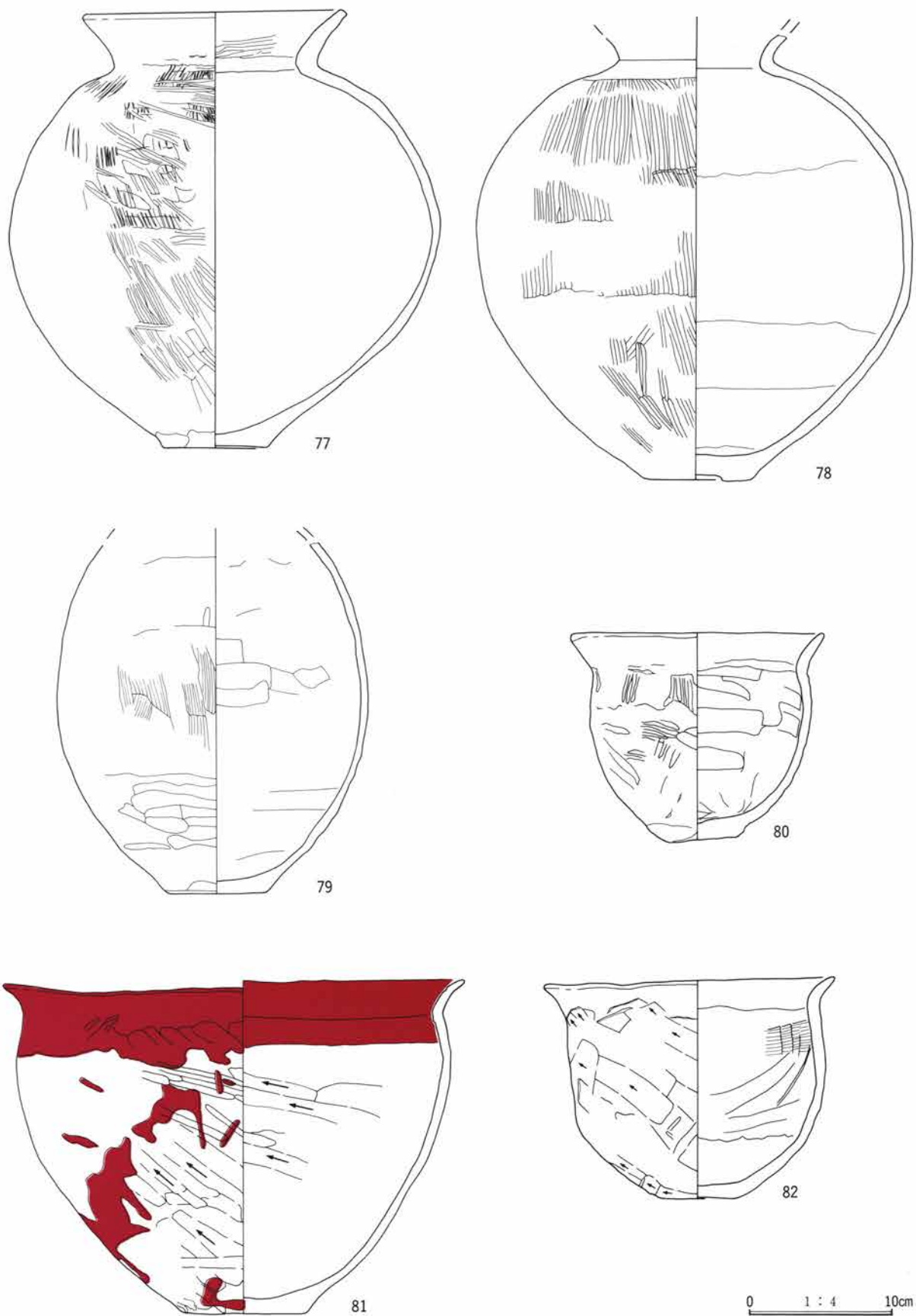
第55图 8号住居跡出土遺物(4)



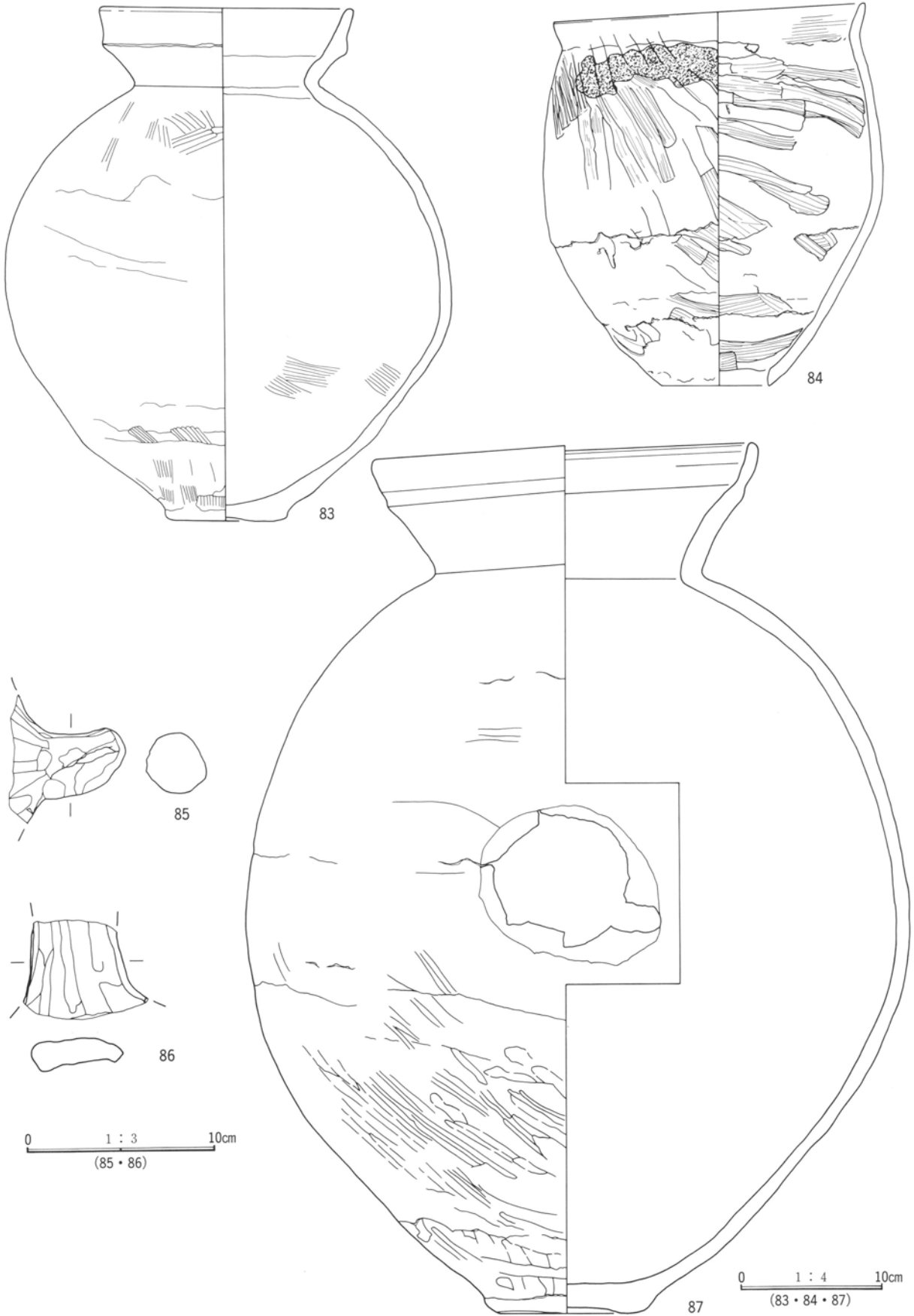
第56図 8号住居跡出土遺物(5)



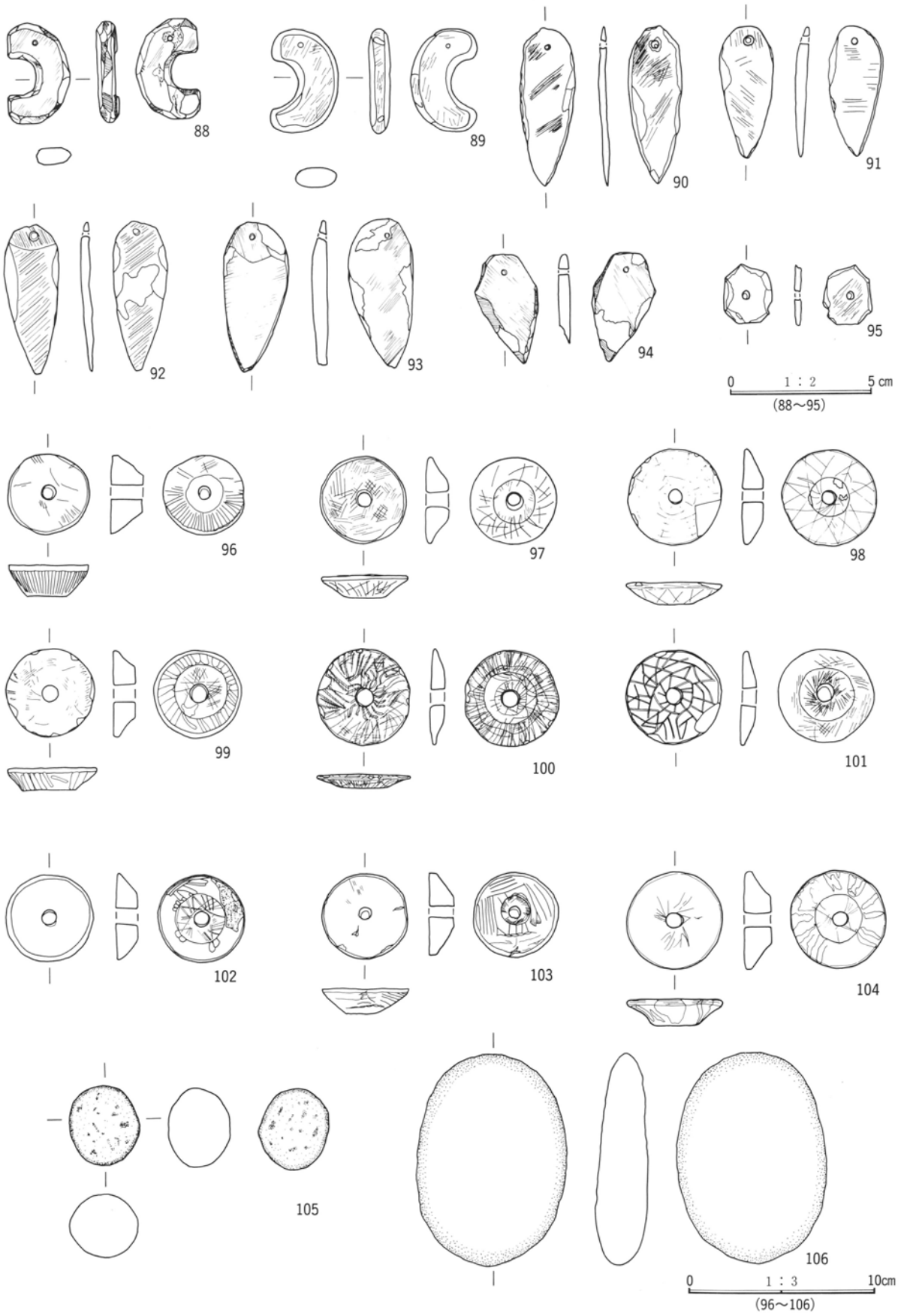
第57图 8号住居跡出土遺物(6)



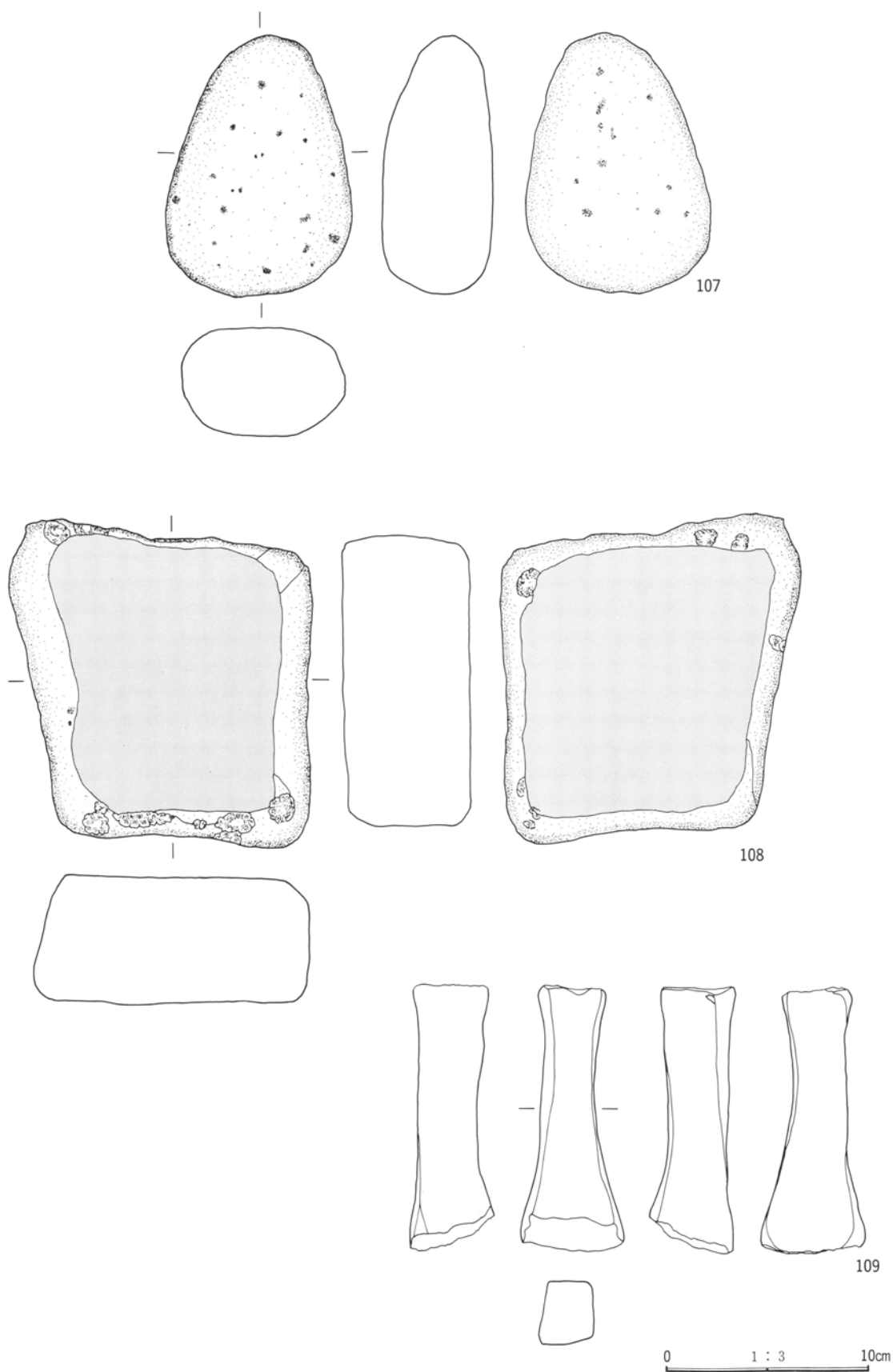
第58図 8号住居跡出土遺物(7)



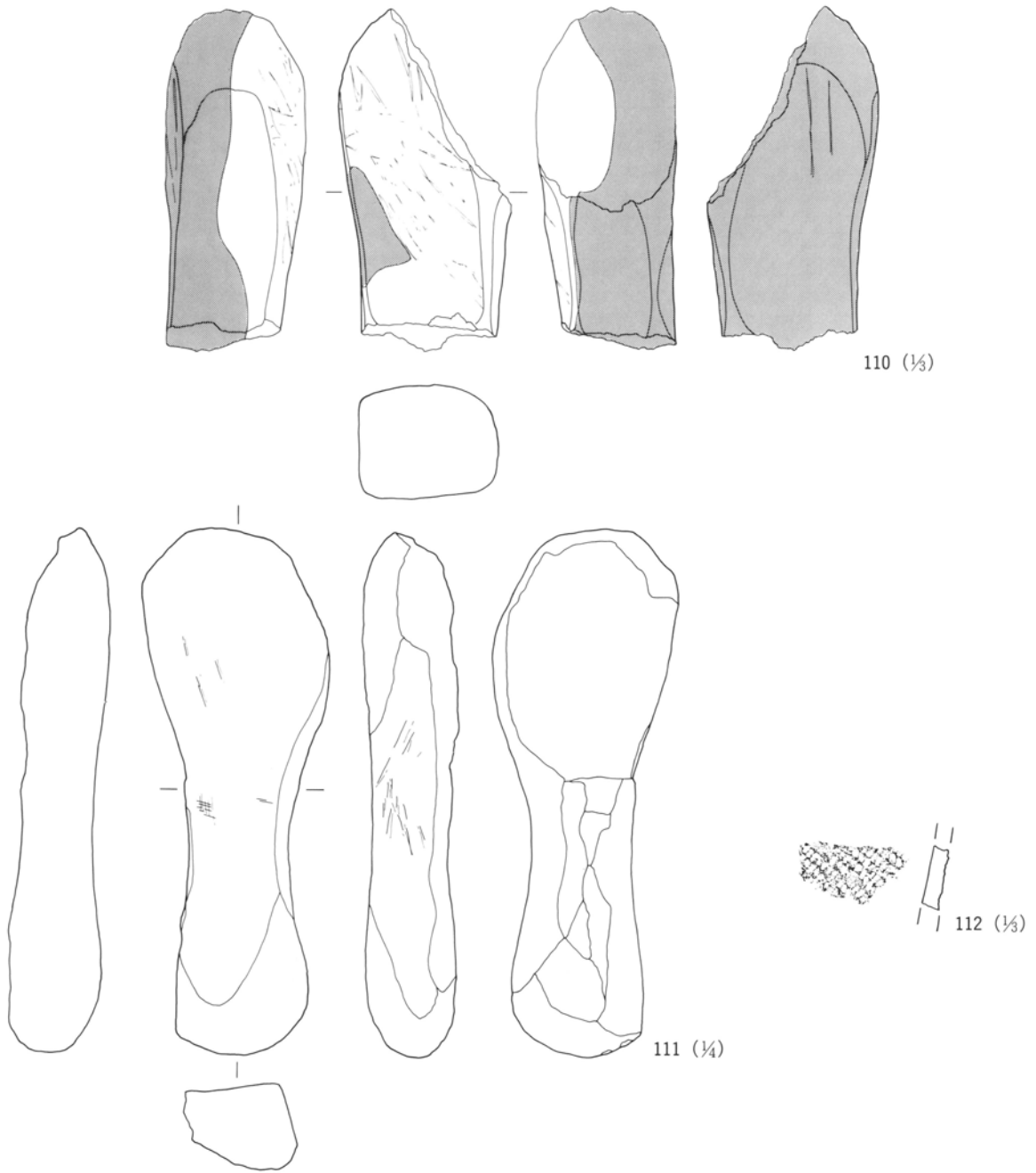
第59図 8号住居跡出土遺物(8)



第60図 8号住居跡出土遺物(9)



第61図 8号住居跡出土遺物(10)



第62図 8号住居跡出土遺物(11)

遺物 床面直上より多量の遺物が出土している。とりわけ竈南（右）側、貯蔵穴、床西部・北部・南西部に集中している(第51図)。とりわけ床西部からは坏や高坏が、北部からは高坏がまとめて出土し、石製模造品は北壁寄りからの出土である。また、床

北西部を中心に炭化材が検出された。

時期 古墳時代中期（5世紀後半）。

備考 当住居跡からは多量の土器とともに、勾玉2点、石製模造品6点、紡錘車9点が出土している。

〔1〕 竪穴住居跡

荒砥下押切II・8号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
52-1 56	土師器 坏	① 14.3 ② 4.8 ③ 3.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	床西部	ほぼ完形
52-2 56	土師器 坏	① 13.3 ② 4.2 ③ 4.8	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面下半篋削り、上半なで。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	床西部	ほぼ完形
52-3 56	土師器 坏	① 14.0 ② 3.9 ③ 3.4	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	床西部	ほぼ完形
52-4 56	土師器 坏	① 12.8 ② 5.0 ③ 4.1	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	床西部	ほぼ完形
52-5 56	土師器 坏	①(12.4)② 4.9	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の篋磨き。	北西隅	1/3
52-6 56	土師器 坏	① 15.1 ② 4.9 ③ 4.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	床北部	ほぼ完形
52-7 56	土師器 坏	① 12.3 ② 4.9	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面篋磨き、刻み。漆の痕跡?	床西部	ほぼ完形
52-8 56	土師器 坏	① 12.8 ② 4.6	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	床東部	完形
52-9 56	土師器 坏	① 12.2 ② 4.6	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	体部外面篋削り、なで。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	貯蔵穴 周辺	ほぼ完形
52-10 56	土師器 坏	① 14.5 ② 4.3 ③ 3.3	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面荒れている。	床西部	完形
52-11 56	土師器 坏	① 12.3 ② 4.4 ③ 4.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。底面篋削り。	覆土	3/4
52-12 56	土師器 坏	① 13.0 ② 5.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	貯蔵穴 周辺	ほぼ完形
52-13 56	土師器 坏	① 12.6 ② 4.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。底面に篋描き。	床西部	完形
52-14 56	土師器 坏	① 15.0 ② 6.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	南壁下	4/5
52-15 56	土師器 坏	① 14.7 ② 4.8	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横なで。内面荒れている。	床西部	4/5
52-16 56	土師器 坏	① 11.0 ② 6.2 ③ 2.0	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	体部外面下半篋削り。上半磨き。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	床西部	完形
52-17 56	土師器 坏	① 11.8 ② 6.5	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	床西部	4/5
52-18 56	土師器 坏	① 12.0 ② 5.7	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	床西部	ほぼ完形
52-19 56	土師器 坏	① 12.7 ② 7.1	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤色	体部外面篋なで。刷毛目状整形。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	床北部	完形
52-20 56	土師器 坏	①(13.2)② 6.0	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋なで、刷毛目状整形。口縁部内外面横なで。内面篋磨き。	P 6 周 辺	1/3
52-21 56	土師器 坏	① 11.6 ② 4.9 ③ 3.2	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋なで。口縁部内外面横なで。内面篋なで後、縦方向の磨き。	南東隅	ほぼ完形
52-22 56	土師器 坏	① 13.0 ② 5.5	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	南西隅	完形
52-23 56	土師器 坏	① 11.0 ② 5.2	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	体部外面篋なで。口縁部内外面横なで。内面篋なで。底面篋削り。	P 5 周 辺	4/5
52-24 56	土師器 坏	① 9.1 ② 6.2 ③ 6.3	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	体部外面篋なで。口縁部内外面横なで。内面篋なで、篋端部残る。	P 5 周 辺	完形
52-25 56	土師器 鉢	①(10.3)② 6.7 ③ (6.8)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋なで。刷毛目状の整形。内面荒れている。底面篋なで。平底。	貯蔵穴	ほぼ完形
53-26 56	土師器 坏	① 18.6 ② 6.6 ③ 2.3	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面篋削り。口縁部篋削り後、磨き。内面篋なで。	北壁寄 り	ほぼ完形
53-27 56	土師器 坏	① 19.8 ② 6.8	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	体部外面篋削り。口縁部赤色塗彩。内面篋削り後、磨き。赤色塗彩の痕跡。	覆土	4/5
53-28 56	土師器 高坏	① 17.5 ② 16.6 ③ 19.2	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部内外面篋磨き。脚部外面篋磨き。裾部に段を有する。内面輪積み痕残る。	床西部	完形
53-29 56	土師器 高坏	① 20.4 ② (6.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③外橙色 内赤褐色	坏部外面篋なで、磨き。中位に段を有する。口縁部内外面横なで。内面刷毛目状の整形。	東南隅	坏部

第3章 荒砥下押切II遺跡

53-30 56	土師器 高 坏	① 22.1 ② (7.4)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③浅黄褐色	坏部外面篋磨き、中位に段を有する。 口縁部内外面横など。内面篋磨き。赤色塗彩。	P5周 辺	坏部4/5
53-31 56	土師器 高 坏	①(23.9) ② (7.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	坏部外面下半篋磨き。中位に段。口縁部内外面横など。内面篋磨き。赤色塗彩。	床西部	坏部1/3
53-32 56	土師器 高 坏	① 21.4 ② (3.6)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	坏部外面篋磨き、段を有す。口縁部内面横など。内面篋磨き。赤色塗彩。	床北部	坏部
53-33 56	土師器 高 坏	① 20.3 ②17.5 ③ 19.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③外橙色 内におい橙色	坏部内外面篋磨き。脚部外面篋磨き。裾部など。内面篋磨き。内外面赤色塗彩。	床北西部	ほぼ完形
53-34 56	土師器 高 坏	① 19.3 ②16.0 ③ 17.2	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	坏部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。脚部外面篋磨き。内面篋磨き。	床西部	ほぼ完形
53-35 57	土師器 高 坏	① 16.2 ② (6.6)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③におい黄褐色	坏部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。	北西隅	坏部3/4
53-36 56	土師器 高 坏	① 16.6 ②13.6 ③ 13.6	①中・細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③におい黄褐色	坏部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。脚部外面刷毛目状の整形。	北壁寄り	ほぼ完形
54-37 57	土師器 高 坏	① 19.8 ②18.0 ③ 15.9	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③黄褐色	坏部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。脚部外面篋磨き。内面篋磨き。赤色塗彩。	貯蔵穴	ほぼ完形
54-38 57	土師器 高 坏	① 18.8 ②16.8 ③ 13.5	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	坏部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。脚部外面篋磨き。内面篋磨き。	北壁寄り	ほぼ完形
54-39 57	土師器 高 坏	① 20.0 ②17.8 ③ 16.5	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐色	坏部外面篋磨き。磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。脚部外面磨き。内面磨き。赤色塗彩。	北壁寄り	2/3
54-40 57	土師器 高 坏	① 20.6 ②16.6 ③ (16.6)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	坏部内外面篋磨き。脚部篋磨き。内面篋磨き。赤色塗彩。	床西部	脚部一部 欠損
54-41 57	土師器 高 坏	①(21.0) ② (6.7)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③外赤褐色 内黄褐色	坏部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。赤色塗彩。	北壁寄り	坏部1/3
54-42 57	土師器 高 坏	①(18.3) ② (8.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	坏部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。	床西部	坏部1/2
54-43 57	土師器 高 坏	① 16.3 ②14.7 ③ 14.4	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	坏部外面篋磨き。口縁部外面横など。内面篋磨き。脚部外面篋磨き。内面輪積み痕。赤色塗彩。	東南隅	4/5
54-44 57	土師器 高 坏	①(17.8) ② (6.5)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	坏部外面下半篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。赤色塗彩。	北壁寄り	坏部1/2
54-45 57	土師器 高 坏	② (9.9) ③ 15.3	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③外明赤褐色 内黒色	脚部外面篋磨き。内面篋磨き。裾部内面篋磨き。	北壁寄り	脚部のみ
55-46 57	土師器 高 坏	② (9.6) ③(17.5)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	脚部外面篋磨き。内面篋磨き。輪積み痕残る。赤色塗彩。	床北西部	脚部2/3
55-47 57	土師器 高 坏	② (9.5) ③ 13.8	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	脚部外面篋磨き。裾部篋磨き。内面篋磨き。	床西部	脚部のみ
55-48 57	土師器 坏	① 13.3 ② 6.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明黄褐色	体部外面篋磨き後、刷毛目状整形。口縁部内外面横など。内面篋磨き。輪積み痕残る。	南西隅	2/3
55-49 57	土師器 坏	① 11.6 ② 6.7	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。	南西隅	ほぼ完形
55-50 57	土師器 鉢	①(13.0) ② (7.1)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③におい黄褐色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。輪積み痕残る。	東南隅	2/3
55-51 57	土師器 鉢	① 8.6 ② 5.4	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③におい橙色	体部外面篋磨き後、など。口縁部内外面横など。内面篋磨き。	P5周 辺	ほぼ完形
55-52 57	土師器 鉢	① 11.9 ② 6.2 ③ 6.7	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③におい橙色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。平底。	東南隅	2/3
55-53 57	土師器 鉢	① 12.2 ② 7.4 ③ 7.2	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③におい黄褐色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。底面篋磨き。	南西隅	ほぼ完形
55-54 57	土師器 鉢	① 8.2 ② 8.0 ③ 3.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③外明赤褐色 内黒色	胴部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。底面篋磨き。焼成後穿孔。	覆土	ほぼ完形
55-55 57	土師器 埴	① 9.6 ②11.7 ③ 4.8	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③におい黄褐色	胴部外面篋磨き。磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。底面篋磨き。	床西部	4/5
55-56 57	土師器 埴	① 8.5 ②10.7 ③ 6.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③黄褐色	胴部外面篋磨き後、磨き。口縁部内面篋磨き。内面篋磨き。底面篋磨き。	南西隅	完形
55-57 57	土師器 埴	① (5.6)② 8.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③浅黄褐色	胴部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。底面篋磨き。	北壁下	ほぼ完形
55-58 57	土師器 埴	① 9.6 ②13.7	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	胴部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋磨き。赤色塗彩。	北壁寄り	ほぼ完形

〔1〕 竪穴住居跡

55-59 57	土師器 罌	①(11.6) ②(14.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	胴部外面篋削り後、縦方向の磨き。口縁部内外面横など。内面など。	P 5 周 辺	ほぼ完形
55-60 57	土師器 罌	①(11.7) ②(14.0)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面篋など。口縁部内外面刷毛目状の整形、横など。内面篋など。	床北西 部	ほぼ完形
55-61 57	土師器 甕	① 10.5 ② 9.3 ③ 3.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③黄褐色	口縁部・胴部外面篋磨き。内面など。	床南部	2/3
55-62 58	土師器 罌	②(13.5)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄橙色	胴部下半篋削り。上半刷毛目状の整形。口縁部篋など。内面篋など。	北壁寄 り	口縁部欠 損
56-63 58	土師器 小型壺	① 8.4 ②14.2 ③ 3.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	胴部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横など。内面篋など。底面篋削り。	床西部	完形
56-64 58	土師器 甕	① 11.4 ② 5.3 ③ 6.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	胴部外面篋など、輪積み痕。口縁部内外面横など。内面篋など。	東南隅	4/5
56-65 58	土師器 甕	①(15.8) ②(9.4)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	胴部外面篋磨き。口縁部内外面横など。内面篋など。輪積み痕残る。	覆土	口縁～胴 部上半
56-66 58	土師器 小型甕	① 14.1 ② (8.1)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄色	胴部外面篋など、刷毛目状の整形。口縁部内外面横など。内面篋など。	カマド 右袖	1/2
56-67 58	土師器 甕	① 13.4 ②23.2	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄色	胴部外面篋削り後、など。口縁部内外面横など。内面篋など。輪積み痕残る。	北壁寄 り	1/2
56-68 58	土師器 甕	②(15.9) ③ 4.2	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	胴部外面上半刷毛目状の整形。下半篋の痕跡付着。内面など。	P 5 周 辺	口縁部欠 損
56-69 58	土師器 甕	②(23.8) ③ 7.0	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	胴部外面上半篋など。下半篋削り後、磨き。内面篋など。底面篋削り。	貯蔵穴	4/5
56-70 58	土師器 甕	①(18.0)②19.9 ③ 5.8	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面篋削り、など。口縁部内外面横など。内面篋など。	貯蔵穴	ほぼ完形
57-71 59	土師器 甕	②(24.0) ③ 6.5	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り後、磨き。内面荒れている。	北壁寄 り	1/3
57-72 59	土師器 甕	① 16.0 ②24.7 ③ 7.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③黄褐色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り後、磨き。内面荒れている。	西壁寄 り	4/5
57-73 59	土師器 甕	①(15.0)②26.4 ③ 5.6	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面刷毛目状の整形。口縁部内外面横など。内面など。	東南隅	2/3
57-74 59	土師器 甕	①(16.8)②28.4 ③ 5.5	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	胴部外面篋削り後、など。口縁部内外面横など。内面篋など。	南西隅	2/3
57-75 58	土師器 甕	① 16.0 ②29.8 ③ 6.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	胴部上半刷毛目状の整形、下半篋など。輪積み痕残る。口縁部横など。内面篋など。	東南隅	ほぼ完形
57-76 58	土師器 甕	① 21.4 ②33.6 ③ 8.3	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③外褐灰色 内黒褐色	胴部外面篋削り後、など。口縁部内外面横など、輪積み痕。内面上半縦方向の磨き。	北西隅	ほぼ完形
58-77 59	土師器 壺	①(18.4)②30.2 ③ 7.3	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横など。胴部外面上半刷毛目状整形後、磨き、下半篋磨き。内面篋など。	貯蔵穴	4/5
58-78 59	土師器 壺	①(11.8)②30.8 ③ 7.6	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面上半刷毛目状の整形、下半篋磨き。内面篋など。底面中央凹み。	東南隅	口縁部欠 損
58-79 59	土師器 甕	②(24.4) ③ 6.8	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄色	胴部外面刷毛目状の整形、篋など。内面荒れている。	貯蔵穴	胴～底部
58-80 59	土師器 甕	① 17.9 ②14.6 ③ 4.7	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄色	胴部外面篋削り後、など、磨き。口縁部内外面横など。内面篋など。	北壁寄 り	完形
58-81 60	土師器 甕	①(32.0)②23.0 ③ 8.6	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③外橙色 内明赤褐色	胴部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横など。内面篋削り後、など。赤色塗彩。	貯蔵穴	3/4
58-82 59	土師器 甕	①(20.0) ②(15.2)③ 5.2	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	胴部外面篋削り。口縁部内外面横など。内面刷毛目状の整形。など。	カマド 周辺	2/3
59-83 60	土師器 壺	①(17.6)②36.0 ③ 8.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄色	口縁部中位に段を有する。内外面横など。胴部外面磨き、下半・内面刷毛目状整形。	南西隅	ほぼ完形
59-84 60	土師器 甕	① 22.1 ②26.9 ③ 7.5	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	口縁部外面横など。胴部外面上半刷毛目状の整形、下半篋など。内面刷毛目状整形。	北東隅	ほぼ完形
59-85 60	土師器 甕(把手)		①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	外面篋・指など。内面篋など。	覆土	破片
59-86 60	土師器 甕(把手)		①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	外面篋など。内面指など。	覆土	破片
59-87 60	土師器 壺	① 26.6 ②60.6 ③ 9.4	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	胴部外面篋など、磨き。胴中位に焼成後の穿孔。口縁部に段を有する。	カマド 脇	ほぼ完形

第3章 荒砥下押切II遺跡

図番 P L	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm・g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
60-88 61	勾玉	完形	滑石	3.5	1.2	0.6	7		北西隅
60-89 61	勾玉	完形	滑石	3.7	1.4	0.7	10		西壁下
60-90 61	石製模造品 剣形	完形	滑石	5.1 孔径0.3	1.9	0.3	6		北壁寄り
60-91 61	石製模造品 剣形	完形	滑石	4.7 孔径0.3	1.9	0.4	6		北壁寄り
60-92 61	石製模造品 剣形	完形	滑石	5.3 孔径0.2	1.9	0.3	6		北壁寄り
60-93 61	石製模造品 剣形	完形	滑石	5.2 孔径0.2	2.3	0.5	8		北壁寄り
60-94 61	石製模造品 剣形	完形	滑石	4.0 孔径0.2	2.2	0.4	5		覆土
60-95 61	石製模造品 有孔円板	完形	滑石	2.1 孔径0.3	1.7	0.2	2		西壁下
60-96 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	4.2 孔径0.8	4.2	1.6	41	広面・狭面・側面とも磨かれて光沢を持つ。	西壁下
60-97 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	4.6 孔径0.8	4.6	1.2	31	広面・狭面とも磨かれて光沢を持つ。側面縦方向の削痕。	西壁下
60-98 61	紡錘車	完形	滑石	5.0 孔径0.7	5.0	1.1	34	広面・側面に線刻。	北壁寄り
60-99 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	4.6 孔径1.0	4.6	1.1	36	広面線状痕。狭面磨かれて光沢。側面縦方向の削り。	南西隅
60-100 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	5.0 孔径0.8	4.8	0.7	26	広面・狭面に線刻。狭面に光沢。側面縦方向の線刻。	北壁寄り
60-101 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	5.0 孔径0.8	5.0	0.7	28	広面に線刻。狭面磨かれて光沢。	北壁下
60-102 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	4.6 孔径0.8	4.7	1.1	38	狭面に線状痕。	北壁寄り
60-103 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	4.5 孔径0.7	4.4	1.3	31	広面・側面磨かれて光沢。狭面に細い削痕。	北壁寄り
60-104 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	5.1 孔径0.8	5.0	1.4	45	広面・狭面とも磨かれて光沢を持つ。側面は縦方向の削り。	東壁寄り
60-105 61	丸石	完形	粗粒輝石安山岩	4.2	3.7	3.2	67		覆土
60-106 61	磨石	完形	安山岩	11.1	7.8	2.7	305	全面磨耗している。	床南部
61-107 61	磨石	完形	花崗岩	12.7	9.2	5.4	1,000	全面磨耗している。	P5周辺
61-108 61	台石	完形	玢岩	15.2	7.0	6.3	3,223	両面に磨耗痕。赤化している。	P5周辺
61-109 61	砥石	一部欠損	凝灰岩	13.0	5.1	3.5	297	4面使用。	北壁寄り
62-110 61	砥石	1/2欠損	凝灰岩	15.1	7.5	6.2	878	全面使用。赤化している。	北東隅
62-111 61	砥石	一部欠損	凝灰岩	27.4	10.6	5.4	2,284	全面使用。赤化している。	カマド周辺

図番 P L	部位	①胎土 ②焼成(遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様(その他)	出土状況
62-112 60	胴部片	①細砂を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚7mm。内面は丁寧な調整。外面の色調はにぶい黄橙色。	縄文施文。原体はR { L L 中期	覆土

9号住居跡(第63・64図 PL.17・61・62)

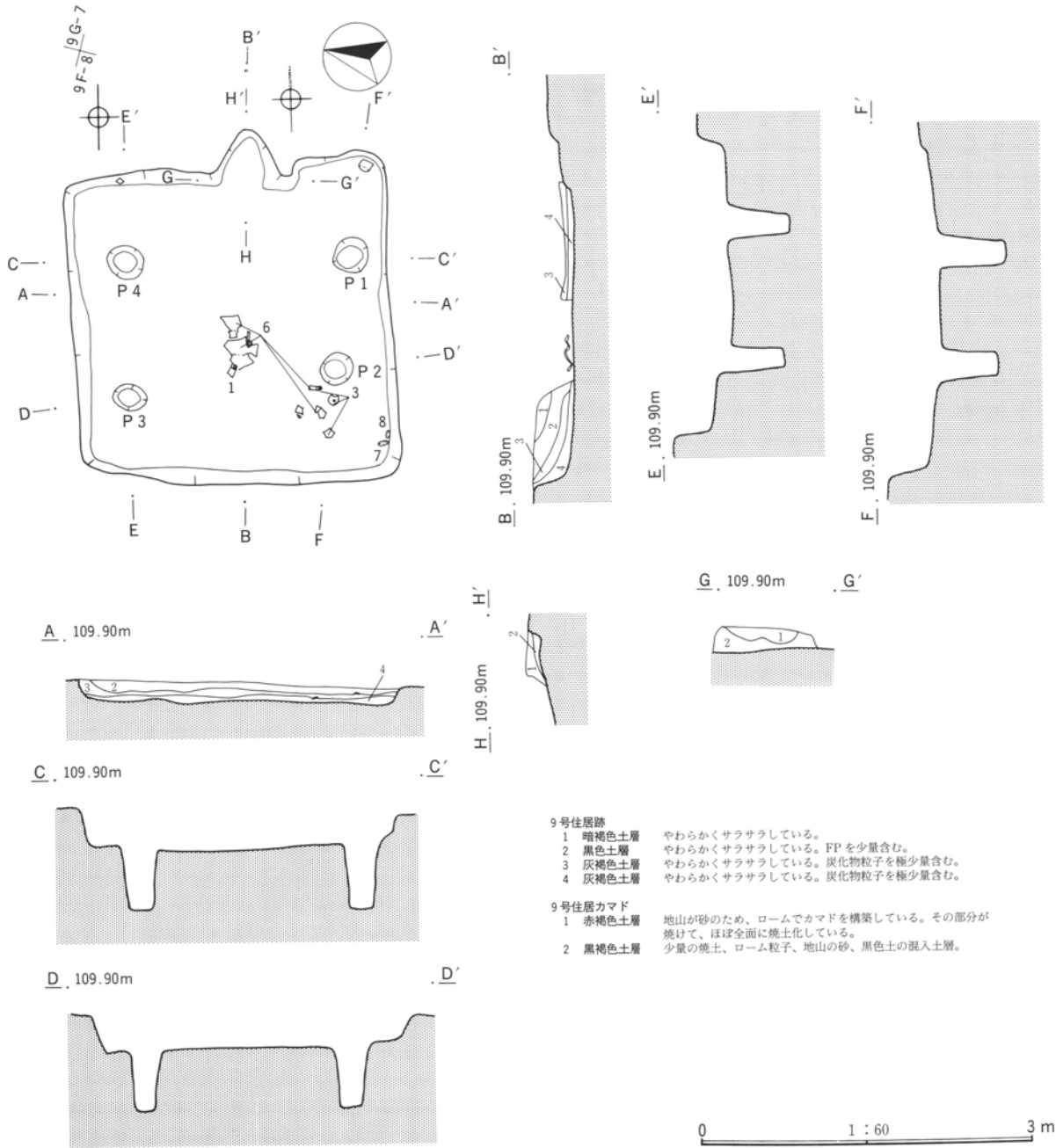
位置 9F-8グリッドにおいて検出された。8号住居跡の北東約6mの所に位置している。

形状 長辺3m、短辺2.9mのほぼ正方形を呈している。

る。

方位 N-78°-E

覆土 砂層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。



第63図 9号住居跡

壁高 住居跡確認面より約6～39cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約7.2㎡。

周溝 検出できなかった。

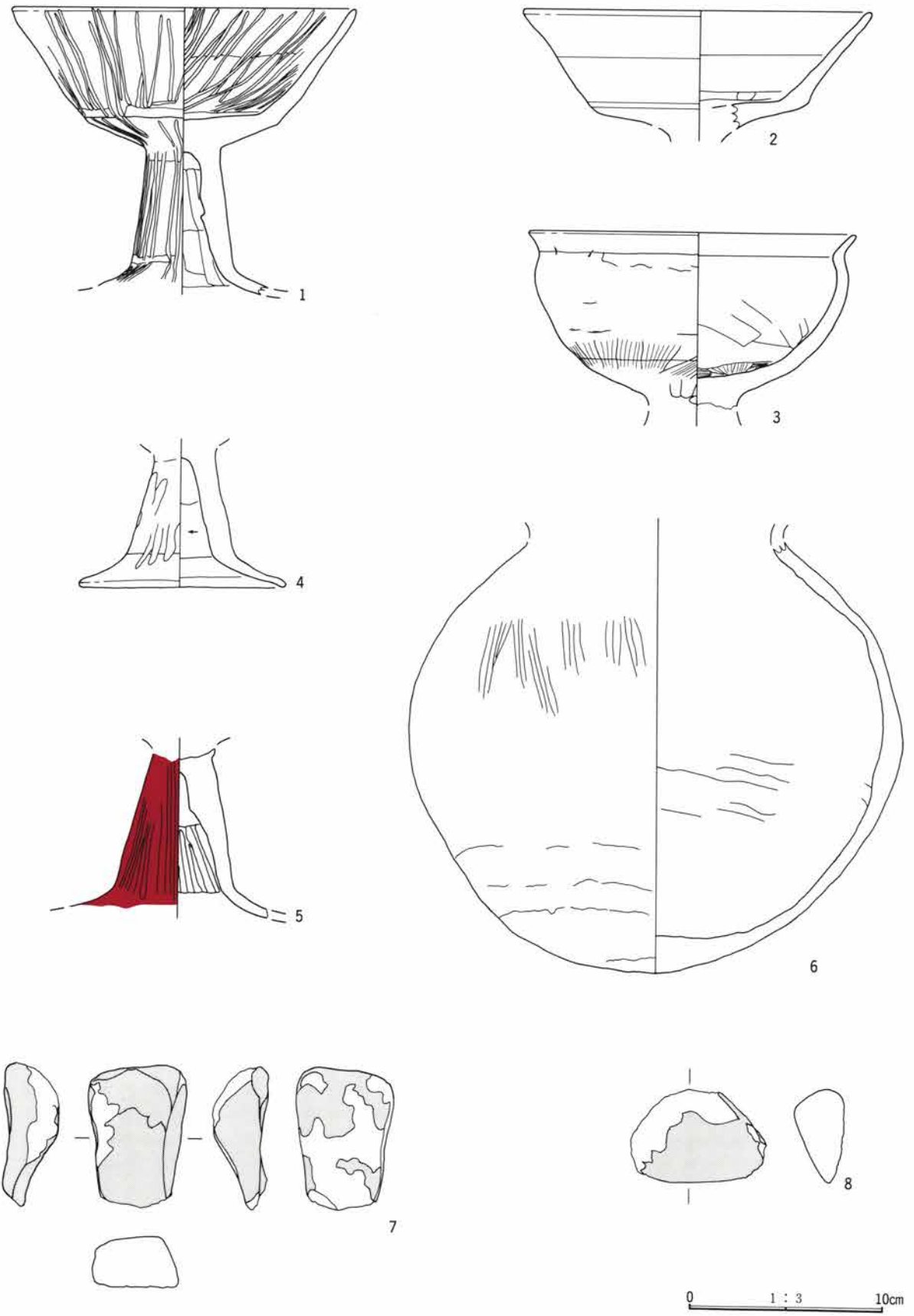
竈 東壁のほぼ中央に、壁を掘り込み構築されている。現状での長さ約50cm、幅約60cm、焚き口幅約50cmである。住居内にも延びていたものと考えられる。

柱穴 4個のピットが検出された。P1～P4が主柱穴になる。P1は深さ60cm、P2深さ55cm、P3深さ54cm、P4深さ56cmである。小規模な住居ながら柱穴は比較的深い。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 床面中央部から少量の遺物が出土しているだけである。

時期 古墳時代後期（6世紀前半）。



第64図 9号住居跡出土遺物

荒砥下押切Ⅱ・9号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)			①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
		①口径	②器高	③底径				
64-1 61	土師器 高坏	①(18.0) ②(14.8)			①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	坏部外面篋などで、縦方向の磨き。内面放射状の磨き。脚部外面篋磨き。内面絞り目。	床中央部	1/3
64-2 61	土師器 高坏	① 18.0 ② (6.0)			①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	坏部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	覆土	脚部欠損
64-3 61	土師器 高坏	①(16.6) ② (8.9)			①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	坏部外面篋などで。刷毛目状の整形。輪積み痕残る。内面篋などで。	床南西部	脚部欠損
64-4 61	土師器 高坏	①(11.0) ② (7.2)			①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	脚部外面篋などで、磨き。内面篋削り。	覆土	脚部3/4
64-5 61	土師器 高坏	② (8.7)			①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	脚部外面篋磨き。内面絞り目。	覆土	脚部1/2
64-6 61	土師器 甕	②(22.0) ③ 6.5			①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	胴部外面篋などで、磨き。内面篋などで。	床中央部	口縁部欠損

図番 P L	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm・g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
64-7 62	砥石	1/2欠損	凝灰岩	7.3	5.0	2.8	115	4面使用。	南西隅床直
64-8 62	砥石	部分	凝灰岩	4.7	7.0	2.6	78		南西隅床直

10号住居跡 (第65～75図 PL.17・18・62～65)

位置 9H-14・15、9I-14・15グリッドにかけて検出された。11号住居跡の北約2mの所に位置している。

形状 長辺5.2m、短辺5.0mの方形を呈している。

方位 N-18°-W

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約55～80cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約24.9m²。

周溝 検出できなかった。

竈 2箇所検出された。北壁のほぼ中央に構築されている竈の規模は、長さ約150cm、幅約80cm、焚き口幅約15cmである。東壁のほぼ中央に構築されてい

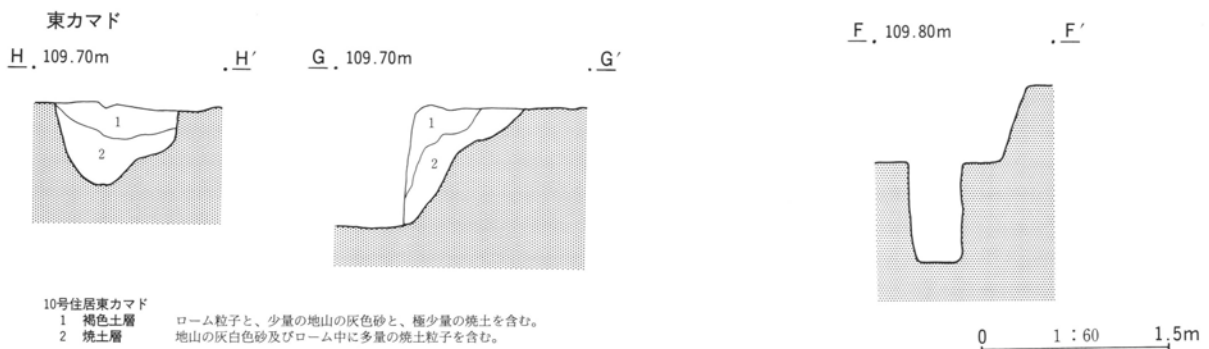
た竈は古い竈であり、現状で長さ85cm、幅70cmである。貯蔵穴2と対になるものである。

柱穴 4個のピットが検出された。P1～P4が主柱穴になる。P1は深さ85cm、P2深さ66cm、P3深さ69cm、P4深さ56cmである。

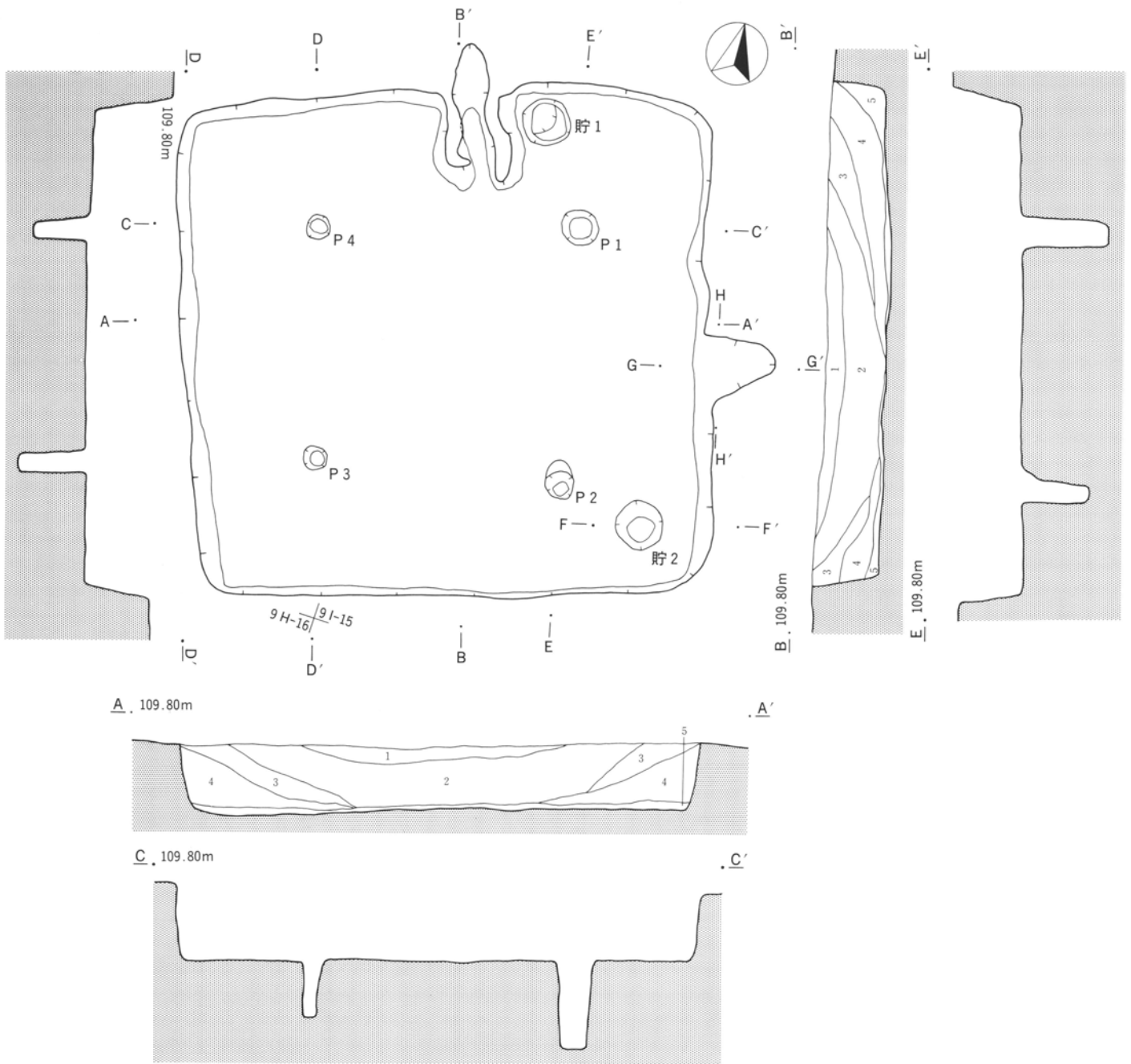
貯蔵穴 2個検出された。貯蔵穴1の規模は長径50cm、短径45cm、深さ25cmである。貯蔵穴2は長径46cm、短径44cm、深さ78cmで、古い竈に伴うものである。

遺物 竈内から甕や坏、竈東(右)脇から胴下半分欠損の甕2個体が据えられた状態で出土している。また、南壁下からは坏がまとまって出土している。

時期 古墳時代後期(6世紀前半)。



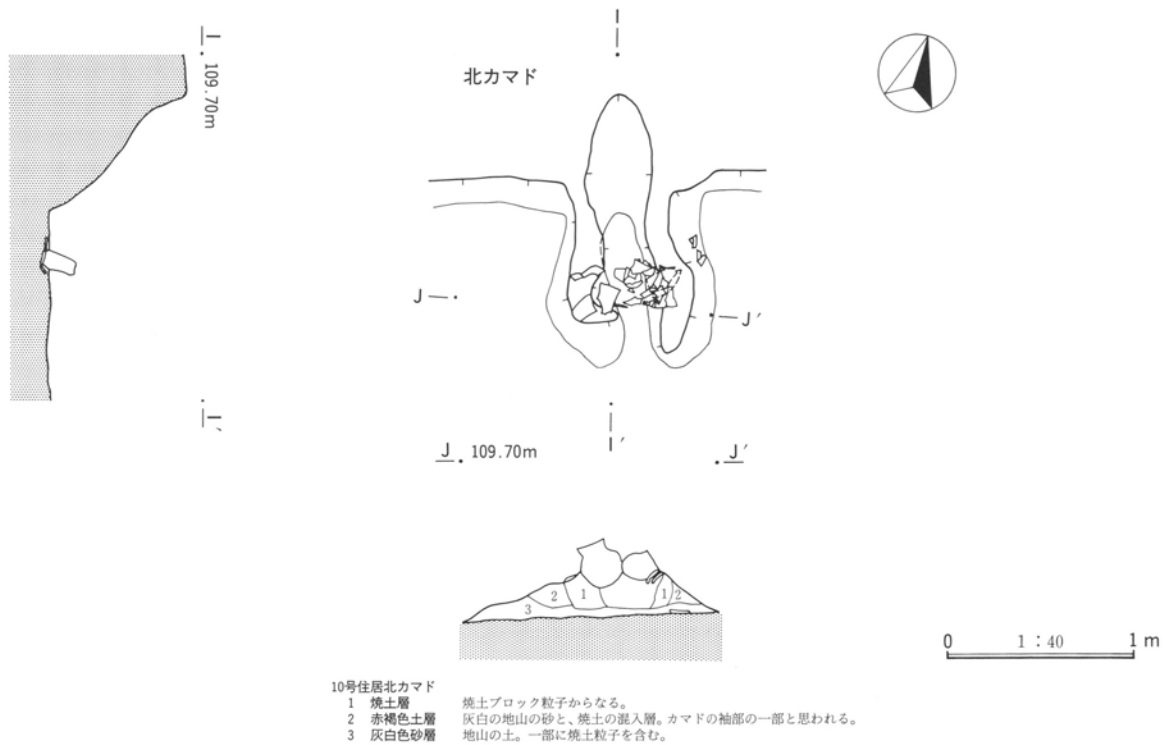
第65図 10号住居跡(1)



- 10号住居跡
- | | |
|---------|--------------------------------|
| 1 暗褐色土層 | やわらかく粘性余りない。ローム粒子、FPを少量含む。 |
| 2 黒色土層 | やわらかく粘性余りない。FPを多量に、ローム粒子を少量含む。 |
| 3 暗褐色土層 | 粘性なくサラサラしている。FP、ローム粒子を少量含む。 |
| 4 黄褐色土層 | 粘性なくサラサラしている。FP、ローム粒子を少量含む。 |
| 5 灰褐色土層 | 粘性なくサラサラしている。炭化物粒子を少量含む。 |

0 1 : 60 3 m

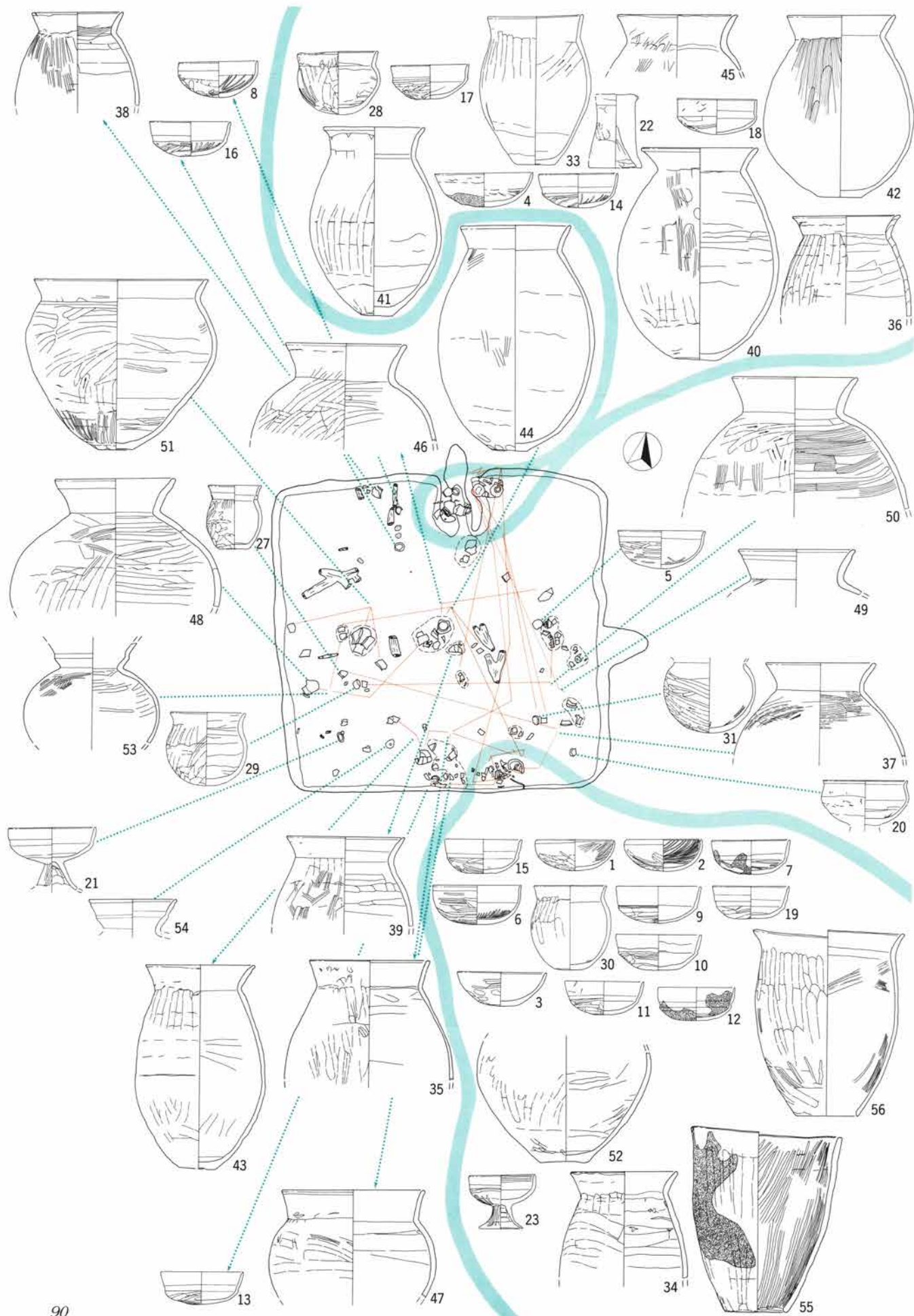
第66図 10号住居跡(2)

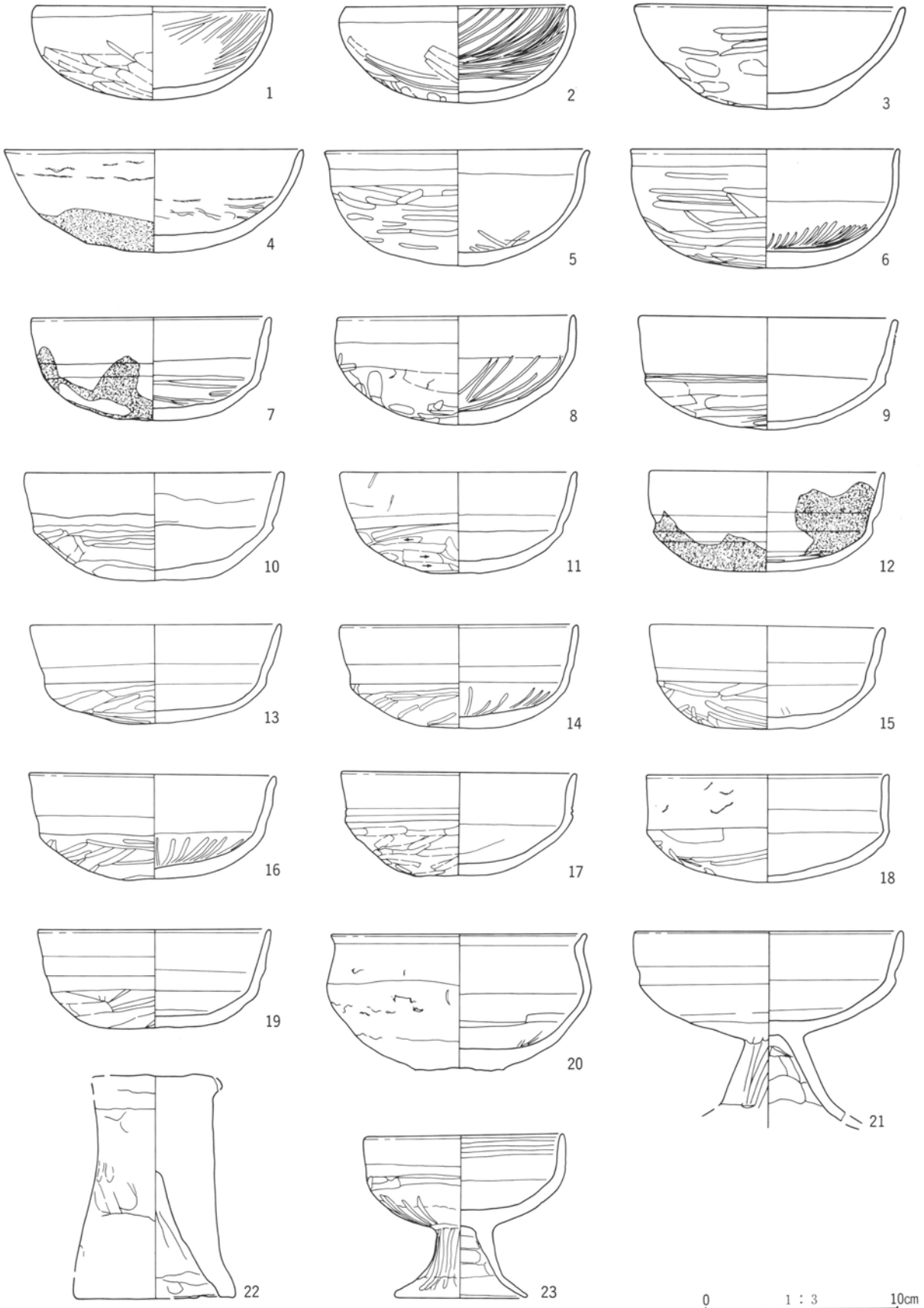


第67図 10号住居跡(3)

荒砥下押切II・10号住居跡

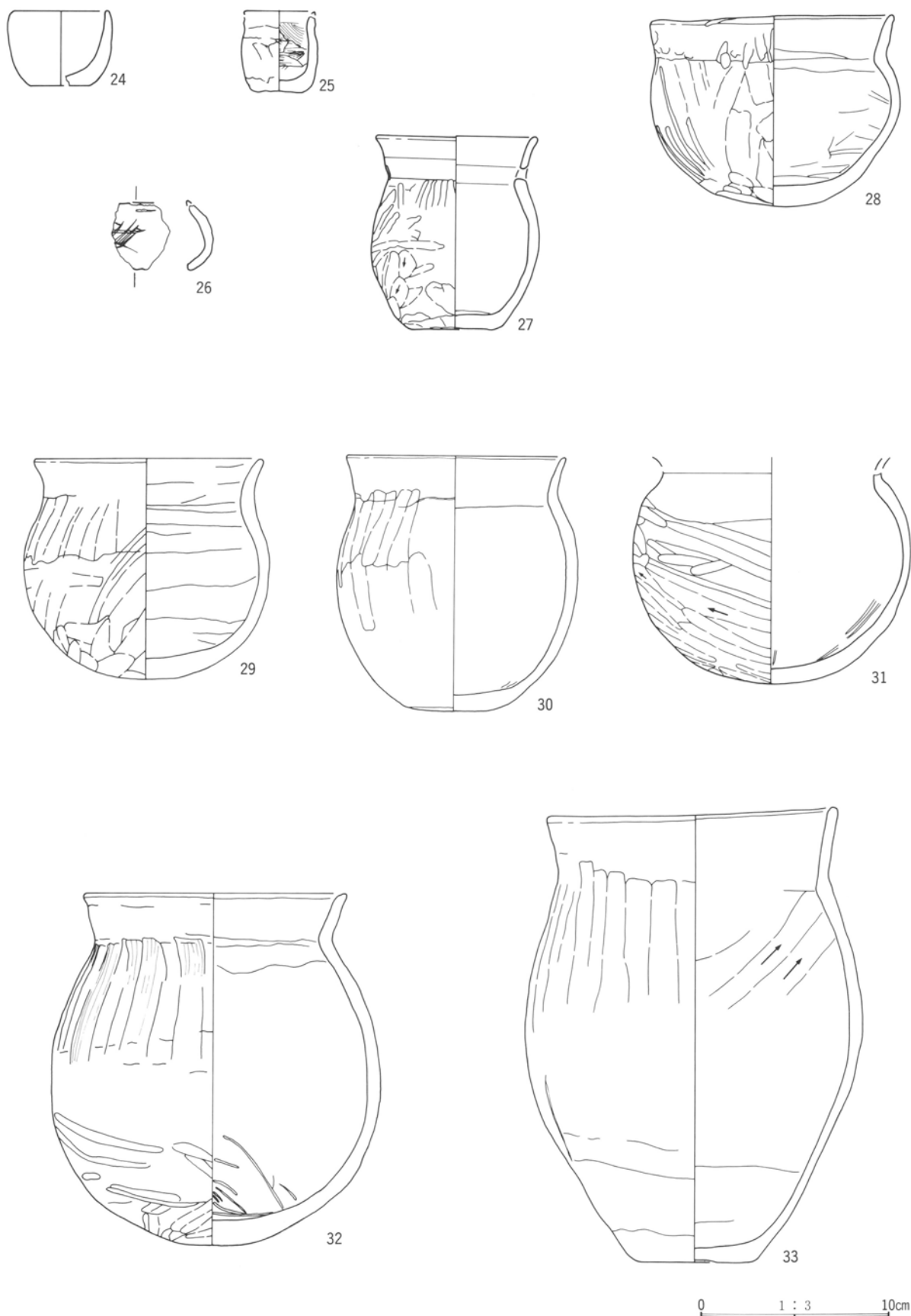
図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
69-1 62	土師器 坏	① 12.0 ② 4.9	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り、磨き。内面放射状の磨き。	南壁下	完形
69-2 62	土師器 坏	① 11.7 ② 5.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部外面横などで。内面放射状の磨き。	南壁下	完形
69-3 62	土師器 坏	① 13.8 ② 5.3	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋などで。口縁部外面横などで。内面篋などで。	南壁下	2/3
69-4 62	土師器 坏	① 15.5 ② 5.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	カマド	ほぼ完形
69-5 62	土師器 坏	① 13.7 ② 6.0	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横などで。内面篋磨き。	床東部	4/5
69-6 62	土師器 坏	① 13.7 ② 6.1	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面放射状の磨き。	南壁下	1/3
69-7 62	土師器 坏	① 12.3 ② 5.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面横方向の篋磨き。	南壁下	完形
69-8 62	土師器 坏	① 12.2 ② 5.6	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横などで。内面放射状の磨き。	カマド 西	4/5
69-9 62	土師器 坏	① 13.3 ② 5.8	①細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り。口縁部外面横などで。内面篋などで。	南壁下	完形
69-10 62	土師器 坏	① 15.5 ② 5.6	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面荒れている。	南壁下	完形
69-11 62	土師器 坏	① 12.3 ② 5.2	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	南壁下	完形
69-12 62	土師器 坏	① 12.1 ② 5.2	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面篋削り後、などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	南壁下	完形
69-13 62	土師器 坏	① 12.8 ② 5.1	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	南壁下	ほぼ完形



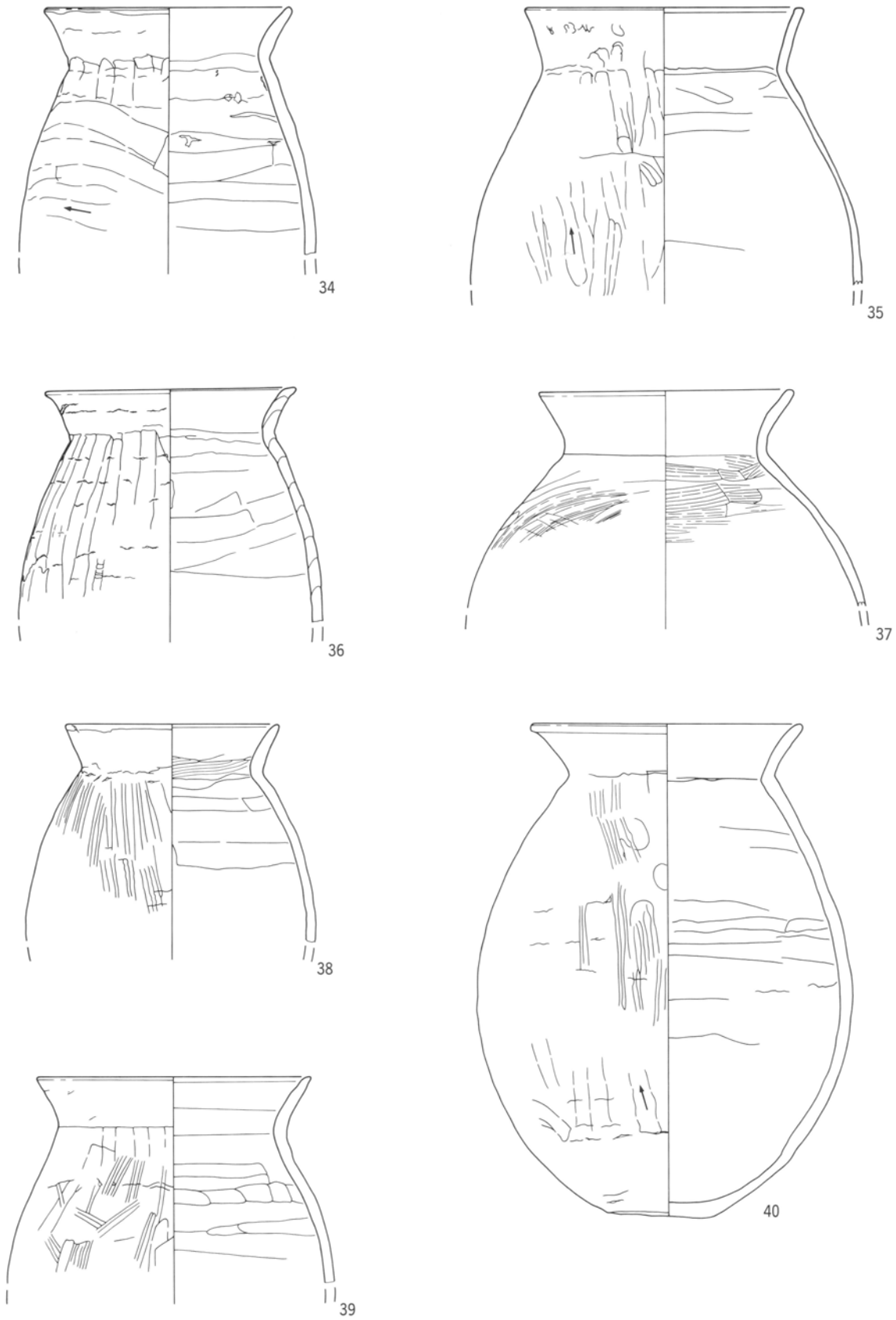


第69図 10号住居跡出土遺物(1)

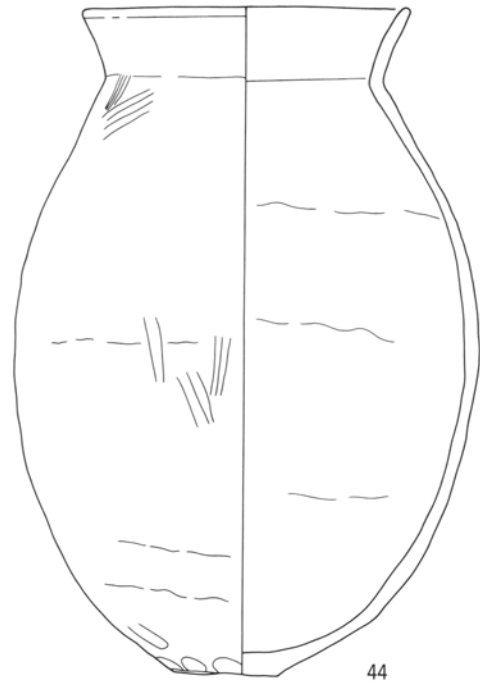
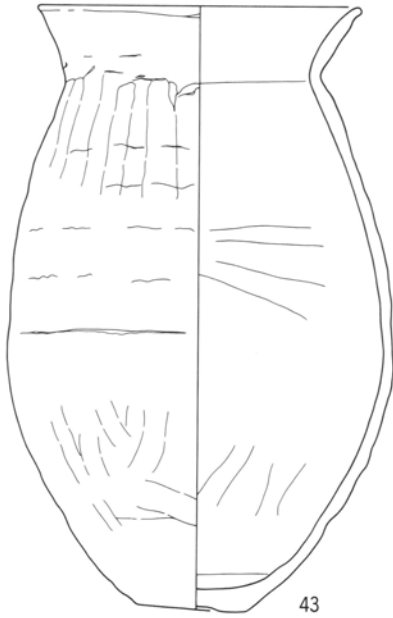
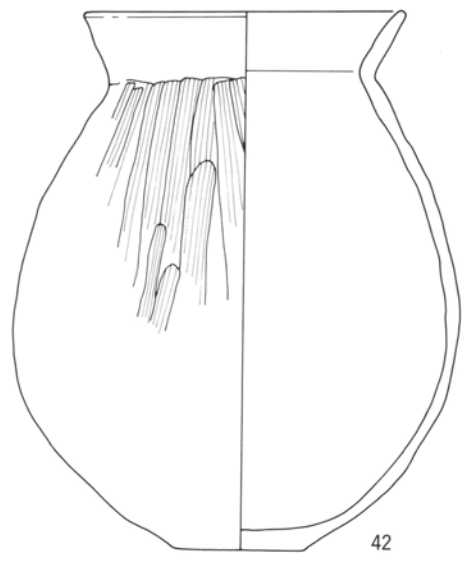
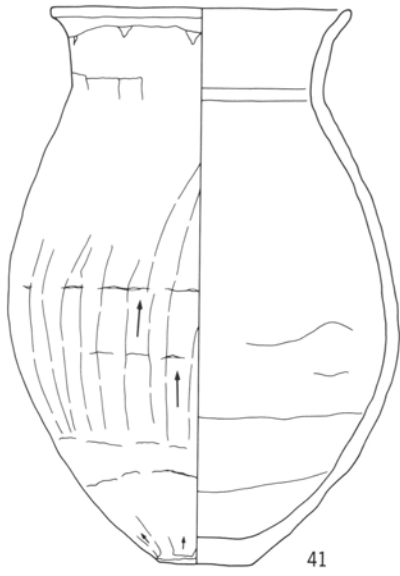
第3章 荒砥下押切II遺跡



第70図 10号住居跡出土遺物(2)

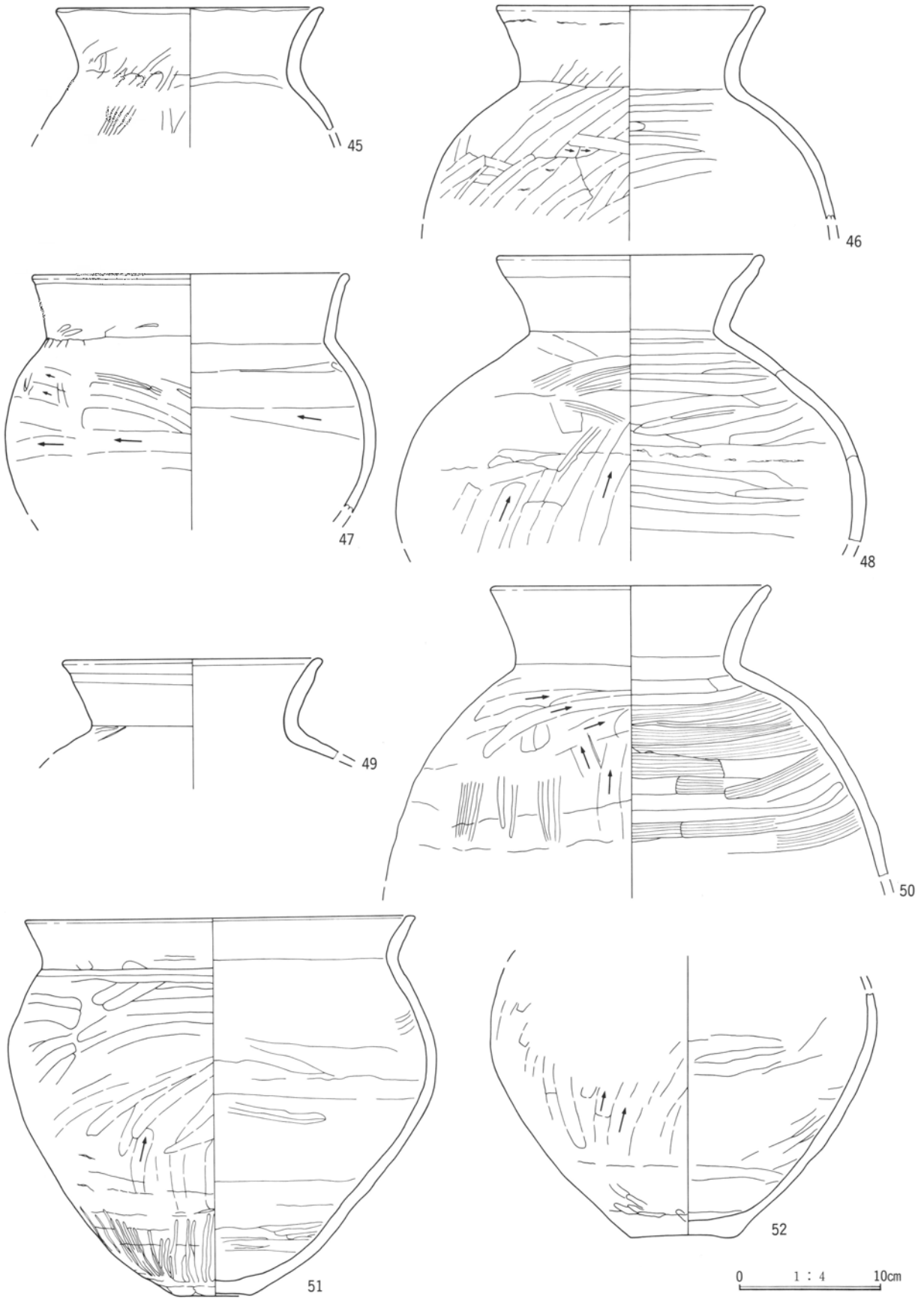


第71図 10号住居跡出土遺物(3)

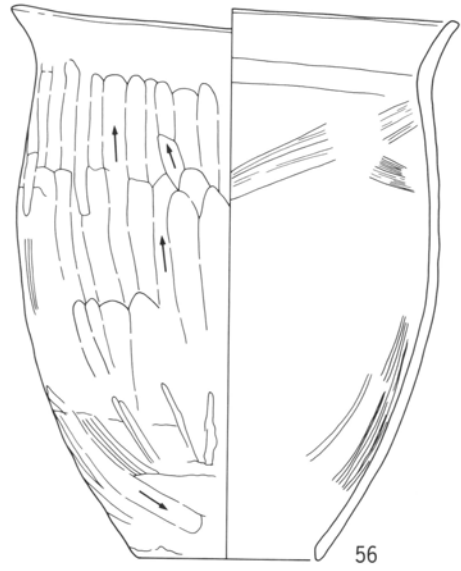
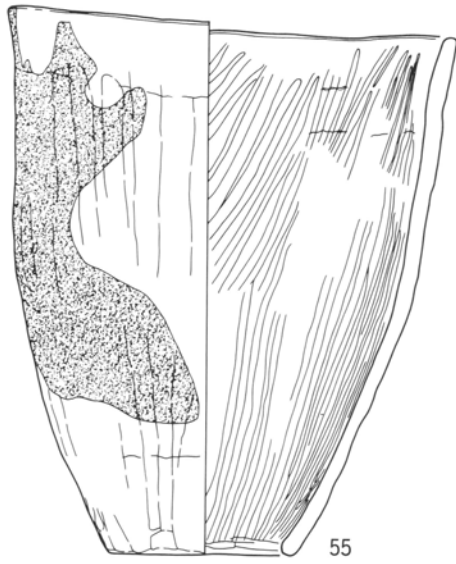
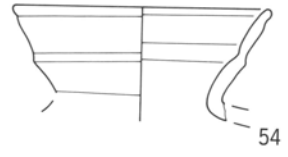
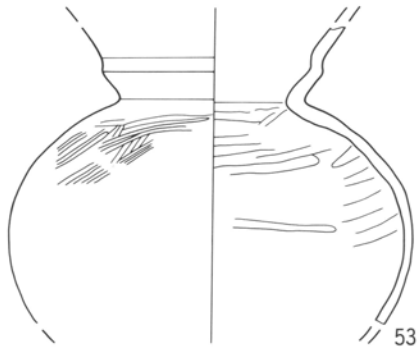


0 1 : 4 10cm

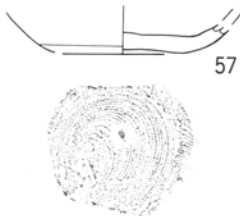
第72図 10号住居跡出土遺物(4)



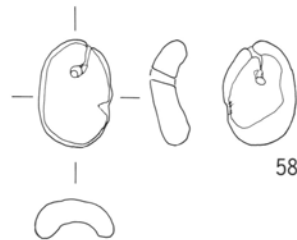
第73図 10号住居跡出土遺物(5)



0 1 : 4 10cm
(53~56)



0 1 : 3 10cm
(57)



0 1 : 2 5cm
(58)

第74図 10号住居跡出土遺物(6)



第75図 10号住居跡出土遺物(7)

第3章 荒砥下押切II遺跡

69-14 62	土師器 坏	① 12.3 ② 5.3	①中・細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。漆の付着。	カマド	ほぼ完形
69-15 62	土師器 坏	①(12.0)② 5.3	①細砂 黒・白色細粒子を含む ②酸化焙 ③にぶい赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	南壁下	口縁一部 欠損
69-16 62	土師器 坏	① 12.6 ② 5.4	①中・細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③褐色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。漆の付着。	カマド 西	2/3
69-17 62	土師器 坏	① 12.1 ② 5.2	①中・細砂 褐・黒色細粒子を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。篋端部残る。	カマド	口縁一部 欠損
69-18 62	土師器 坏	① 12.4 ② 5.5	①細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面篋磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	カマド 東	口縁一部 欠損
69-19 62	土師器 坏	① 12.0 ② 5.1	①中・細砂 白・黒色細粒子を含む ②酸化焙 ③橙色	体部外面篋削り、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	南壁下	完形
69-20 62	土師器 坏	① 13.0 ② (7.0)	①中・細砂 白・黒色細粒子を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。体部外面篋なで。輪積み痕残る。内面篋なで。	貯蔵穴 2周辺	1/2
69-21 62	土師器 高坏	① 13.7 ② (9.7)	①細砂 白・黒色細粒子を含む ②酸化焙 ③橙色	坏部外面篋なで。口縁部内外面横なで。内面篋なで。脚部外面磨き。内面篋なで。	床南西 部	裾部欠損
69-22 62	土師器 支脚	② 11.5	①中・細砂 白・黒色細粒子を含む ②酸化焙 ③赤褐色	脚部外面篋なで。内面篋削り。	カマド 内	ほぼ完形
69-23 62	土師器 高坏	① 10.2 ② 8.4 ③ 6.9	①細砂 白・黒色細粒子を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	坏部内外面篋磨き。脚部外面縦方向の磨き。内面輪積み痕残る。裾部内外面磨き。	南壁下	ほぼ完形
70-24 62	土師器 手捏	① (4.7)② 3.9 ③ 1.6	①細砂 黒・白色細粒子を含む ②酸化焙 ③暗赤褐色	体部内外面篋なで。	覆土	1/3
70-25 62	土師器 手捏	② (3.9) ③ 2.5	①細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③明褐色	体部外面指なで。内面刷毛目状の整形。	覆土	1/4
70-26 62	土師器 手捏	② (3.5)	①細砂 白・黒色細粒子を含む ②酸化焙 ③明褐色	体部内外面篋なで。	覆土	1/4
70-27 62	土師器 小型甕	① 8.2 ② 9.9 ③ 4.2	①細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。円孔2個。胴部外面篋削り・磨き。内面篋なで。	床西部	完形
70-28 62	土師器 鉢	① 12.4 ② 9.9 ③ 4.0	①中・細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③にぶい橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋なで。	カマド	完形
70-29 62	土師器 小型甕	① 11.8 ②10.5	①細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	胴部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	床西部	3/4
70-30 62	土師器 小型甕	① 11.3 ②13.2 ③ 4.6	①中・細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、なで。内面篋なで。	南壁下	ほぼ完形
70-31 62	土師器 甕	②(11.0)	①中・細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③明褐色	胴部外面篋削り後、磨き。内面篋なで。	床東部	1/2
70-32 62	土師器 甕	① 13.7 ②18.2	①細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋なで。	カマド 内	完形
70-33 62	土師器 甕	① 14.7 ②23.7 ③ 6.0	①粗・細砂 黒・白色細粒子を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、なで。内面上半篋削り。	カマド 東	4/5
71-34 63	土師器 甕	① 16.7 ②(16.6)	①細砂 黒・白色細粒子を含む ②酸化焙 ③黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、なで。内面篋なで。	南壁下	胴部下半 欠損
71-35 63	土師器 甕	① 19.8 ②(18.8)	①中・細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り、なで。内面篋なで。	床南部	口縁～胴 部上半
71-36 63	土師器 甕	① 17.0 ②(15.8)	①細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、なで。輪積み痕残る。内面篋なで。	カマド 東	胴部下半 欠損
71-37 63	土師器 甕	① 17.0 ②(14.4)	①細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、なで。内面刷毛目状の整形。	貯蔵穴 2周辺	口縁～胴 部上半
71-38 62	土師器 甕	① 14.2 ②(14.7)	①中・細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋なで。	北壁下	1/3
71-39 63	土師器 甕	① 18.2 ②(13.9)	①細砂 黒・白色細粒子を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋なで。	床中央 部	胴部下半 欠損
71-40 64	土師器 甕	① 18.4 ②33.2 ③ 7.6	①中・細砂 黒・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、磨き。内面篋なで。	カマド 東	2/3
72-41 64	土師器 甕	① 15.8 ②29.3 ③ 4.9	①中・細砂 黒・白色細粒子を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横なで。輪積み痕残る。胴部外面下半篋削り、上半なで。内面篋なで。	カマド	完形
72-42 64	土師器 甕	① 17.0 ②28.4 ③ 6.9	①細砂 白・褐色細粒子を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面上半刷毛目状の整形、下半篋なで。内面篋なで。	カマド 東	4/5
72-43 64	土師器 甕	① 16.8 ②31.8 ③ 5.8	①中・細砂 黒・白色細粒子を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部内外面篋削り後、なで。内面篋なで。	床南部	ほぼ完形

〔1〕 竪穴住居跡

72-44 64	土師器 甕	① 17.0 ②35.0 ③ 5.5	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横など。胴部外面篋などで、 輪積み痕残る。内面篋など。	床中央 部	3/4
73-45 63	土師器 甕	①(18.9) ② (8.7)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明黄褐色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り 後、など。内面篋など。	カマド 東	口縁～胴 部上半
73-46 63	土師器 甕	① 18.5 ②(15.5)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り、 など。内面篋など。	床中央 部	口縁～胴 部上半
73-47 63	土師器 甕	①(21.9) ②(16.7)	①粗・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り、 など。内面篋削り、など。	南壁下	口縁～胴 部上半
73-48 63	土師器 甕	① 18.8 ②(20.1)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③淡黄色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り、 磨き。内面篋など。	西壁寄 り	口縁～胴 部上半
73-49 63	土師器 甕	① 17.8 ② (7.1)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横など。胴部外面篋など。 内面篋など。	床東部	口縁～胴 部上半
73-50 63	土師器 甕	① 19.2 ②(20.6)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り、 など。輪積み痕。内面刷毛目状の整形。	床東部	口縁～胴 部上半
73-51 64	土師器 甕	① 27.0 ②26.6 ③ 5.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り、 など、下半縦方向の磨き。内面篋など。	床西部	3/4
73-52 64	土師器 甕	②(17.0) ③ 7.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	胴部外面篋削り後、磨き。内面篋など。	南壁下	胴部下半
74-53 64	土師器 壺	②(15.6)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横などで、中位に段を有す る。胴部外面篋磨き。内面篋など。	床西部	口縁～胴 部
74-54 63	土師器 壺	① 13.3 ② (6.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部中位に段を有する。内外面横な で。	床南部	口縁部
74-55 65	土師器 甕	① 23.6 ②28.0 ③ 9.5	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③灰白色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り。 内面縦方向の磨き。	南壁下	口縁一部 欠損
74-56 65	土師器 甕	① 23.5 ②29.0 ③ 9.8	①粗・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り 後、磨き。内面篋など。	南壁下	ほぼ完形
74-57 65	須恵器 坏	③ 5.8	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②還元焙 ③外にぶい黄 内暗灰黄	底面回転糸切り。	覆土	底部片
74-58 65	土製品	① 2.8 ② 1.9 ③ 0.6	①細砂 黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	内外面指など。穿孔。	床直上	完形

図 番 P L	器 種	遺 存 状 況	石 材	計 測 値 (cm・g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
75-59 65	磨 石	完形	軽石	5.3	4.8	2.0	29	両面に磨耗痕が認められる。	覆土
75-60 65	砥 石	一部欠損	軽石	5.4	5.2	2.9	42	細かい条線が認められる。	覆土
75-61 65	敲 石	完形	安山岩	9.9	9.2	3.4	387	敲打痕。全面赤化している。	カマド西
75-62 65	凹 石	完形	硬砂岩	10.2	7.0	7.3	558	1個の凹み穴が認められる。	覆土
75-63 65		完形	粗粒輝石安 山岩	11.5	9.6	5.9	737	一部赤化。赤色付着物が認められる。	カマド西

第3章 荒砥下押切II遺跡

11号住居跡 (第76~78図 PL.19・20・65・66)

位置 9H-16・17、9I-16・17グリッドにかけて検出された。10号住居跡の南約2mの所に位置している。

形状 長辺4.8m、短辺3.5mの長方形を呈している。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約28~40cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約12.1m²。

周溝 全周している。幅4~15cm、深さ4~23cmで

ある。北壁下の周溝が幅広で深い。

竈 検出できなかった。

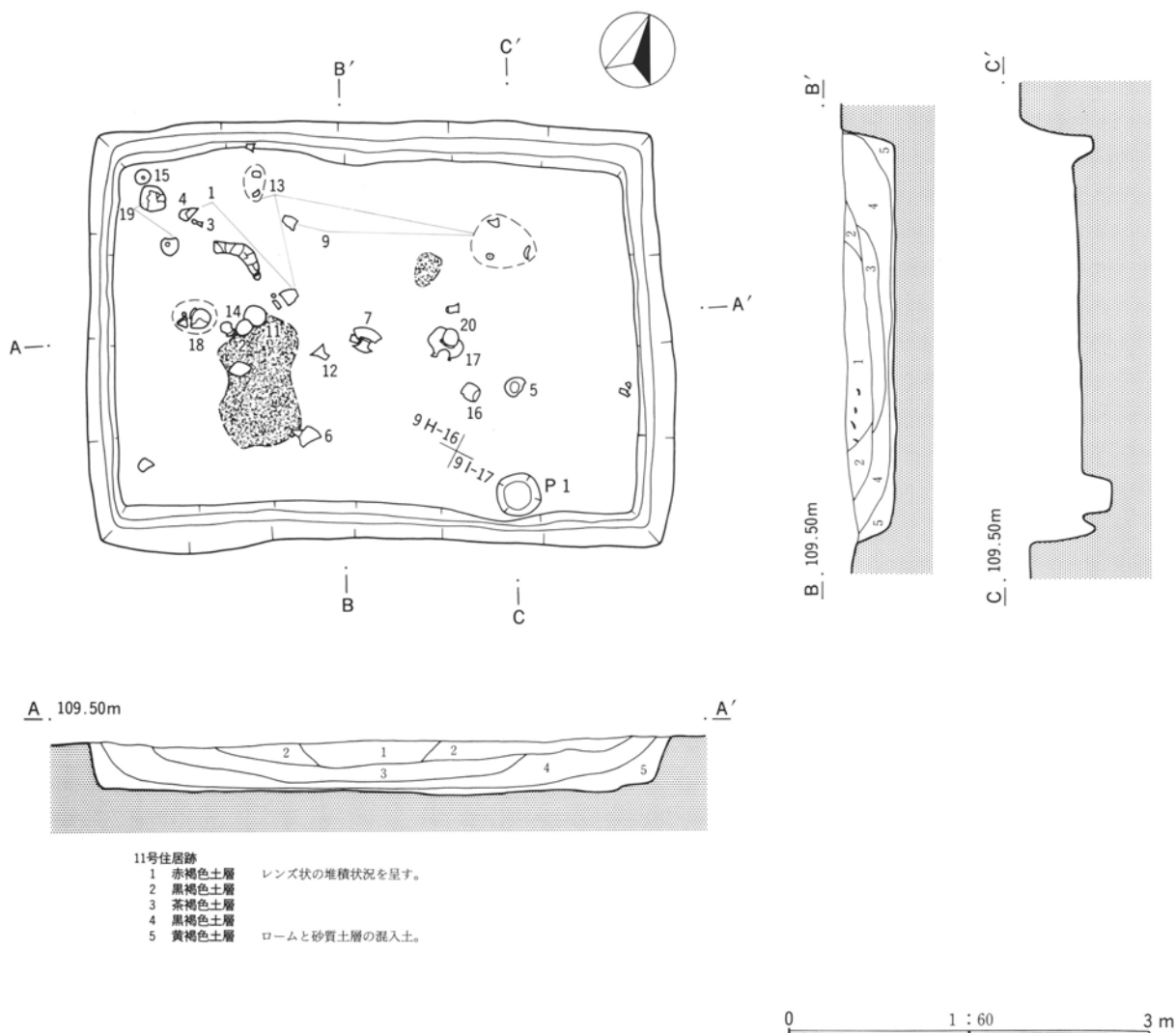
柱穴 1個のピットが検出された。P1は深さ23cmである。柱穴になるかは不明である。

貯蔵穴 検出できなかった。

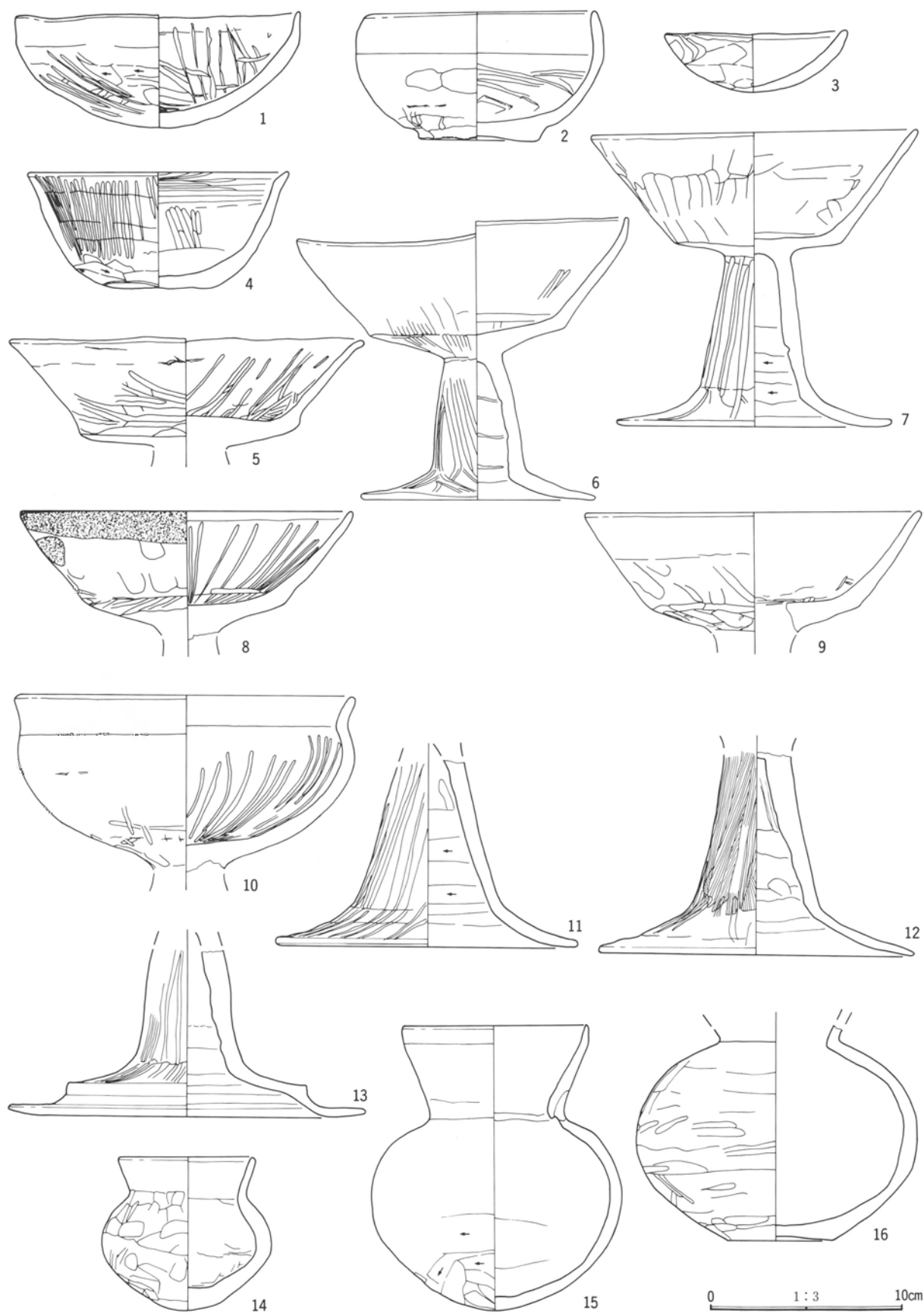
遺物 床直上から覆土上層にかけて遺物が出土している。

時期 古墳時代中期(5世紀後半)。

備考 遺物は出土しているものの、竈や柱穴が存在せず一般的な住居になるのかどうかは不明である。竈がないのは6号住居跡にも見られた。

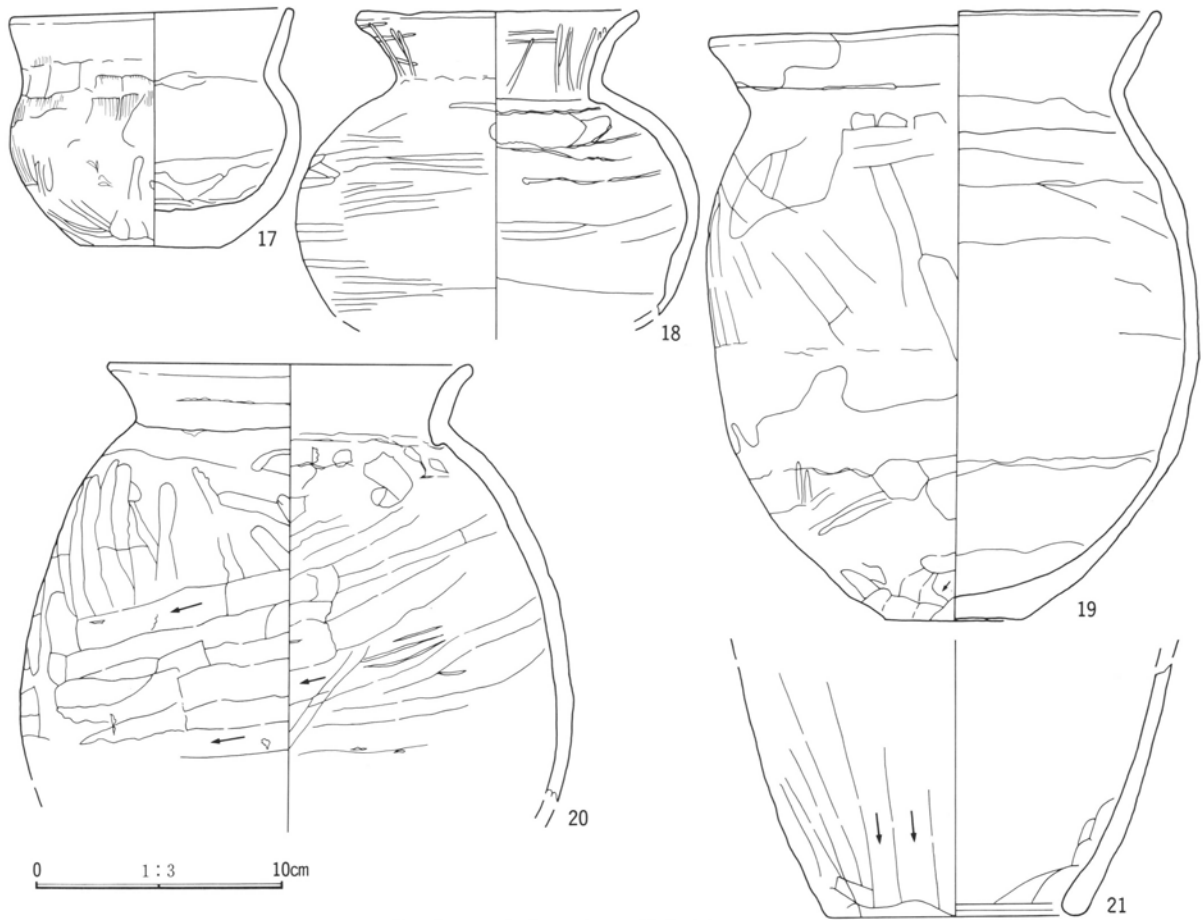


第76図 11号住居跡



第77图 11号住居跡出土遺物(1)

第3章 荒砥下押切II遺跡



第78図 11号住居跡出土遺物(2)

荒砥下押切II・11号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)			①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
		①口径	②器高	③底径				
77-1 65	土師器 坏	① 14.9	② 6.0		①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面篋磨き。	床西部	3/4
77-2 65	土師器 坏	① 12.2 ③ 6.2	② 6.8		①白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで、磨き。底面篋などで。	床直上	完形
77-3 65	土師器 坏	① (9.3)	② 3.1		①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、などで。内面篋などで。	床西部	1/2
77-4 65	土師器 坏	① 13.5 ③ 4.5	② 6.0		①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面縦方向の磨き。内面篋などで、磨き。底面篋削り。	床直上	1/3
77-5 65	土師器 高坏	① 18.6 ② (5.6)			①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	坏部外面篋磨き。口縁部内外面横などで。内面放射状の磨き。	床東部	脚部欠損
77-6 65	土師器 高坏	① 17.4 ③ 12.3	② 14.4		①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	坏部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面などで。脚部篋磨き。内面輪積み痕残る。	床直上	ほぼ完形
77-7 65	土師器 高坏	① 16.8 ③ 14.4	② 15.5		①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	坏部内外面篋などで。脚部篋などで後、縦方向の磨き。内面篋削り。	床直上	ほぼ完形
77-8 65	土師器 高坏	① 17.4 ② (6.6)			①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	坏部外面篋などで。口縁部内外面指などで。内面放射状の磨き。	覆土	脚部欠損
77-9 65	土師器 高坏	①(17.2) ② (6.2)			①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	坏部外面横などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	床北部	脚部欠損
77-10 65	土師器 高坏	① 17.8 ② (9.1)			①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	坏部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面放射状の磨き。	覆土	脚部欠損

〔1〕 竪穴住居跡

77-11 65	土 師 器 高 坏	② (9.6) ③ 15.8	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	脚部外面篋などで後、磨き。内面篋削り。	床直上	脚部
77-12 65	土 師 器 高 坏	②(10.5) ③(16.1)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	脚部外面刷毛目状の整形。内面輪積み痕が残る。	床直上	脚部
77-13 65	土 師 器 高 坏	② (8.6) ③(18.8)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	脚部外面篋磨き。裾部に段を有する。内面篋などで。輪積み痕残る。	床北部	脚部1/2
77-14 66	土 師 器 小 型 壺	① 7.0 ② 8.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋などで、内面篋などで。輪積み痕残る。	床直上	ほぼ完形
77-15 66	土 師 器 罎	① (9.8)②14.8	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り後、磨き。内面などで。	覆土	口縁一部欠損
77-16 66	土 師 器 罎	②(10.4) ③ 5.5	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	胴部外面篋磨き、内面などで。輪積み痕残る。底面篋などで。	床直上	口縁部欠損
78-17 66	土 師 器 鉢	① 11.4 ② 9.5 ③ 5.5	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄橙色	口縁部内外面横などで。体部篋などで。肩部刷毛目状の整形。内面篋などで。	床直上	ほぼ完形
78-18 66	土 師 器 小 型 甕	①(11.0) ②(12.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで後、磨き。胴部外面篋磨き。内面篋などで。輪積み痕残る。	床直上	胴部下半欠損
78-19 66	土 師 器 甕	① 17.7 ②23.9 ③ 5.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り、などで。内面篋などで。輪積み痕残る。	覆土	口縁一部欠損
78-20 66	土 師 器 甕	① 14.5 ②(17.3)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面上半篋などで、下半篋削り。内面指頭圧痕、篋削り。	床直上	1/3
78-21 66	土 師 器 甕	② (9.9) ③ 10.0	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面篋削り。内面篋などで。	覆土	胴部下半

13号住居跡 (第79～81図 PL.21・66・67)

位置 9I・9J-19、13I・13J-0 グリッドにかけて検出された。11号住居跡の南南東約13mの所に位置している。

形状 長辺4.3m、短辺3.3mの方形を呈している。

方位 N-20°-W

覆土 砂層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約6～33cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約12.7m²。

周溝 検出できなかった。

竈 北壁のほぼ中央、床面から壁の外に向かって

構築されている。竈の規模は、長さ約110cm、幅約90cm、焚き口幅約25cmである。

柱穴 4個のピットが検出された。P1～P4が支柱穴になる。P1は深さ24cm、P2深さ42cm、P3深さ30cm、P4深さ22cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

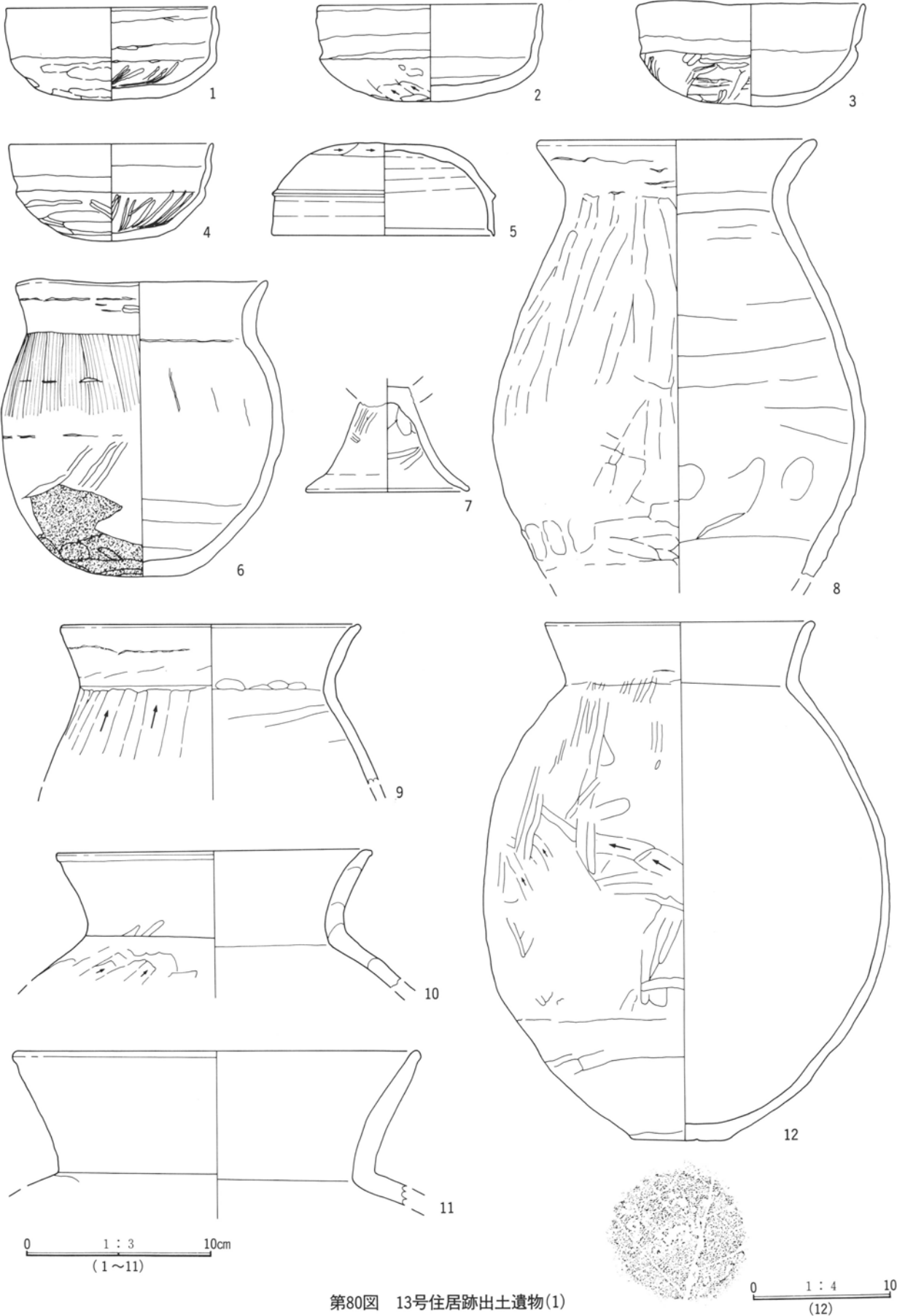
遺物 覆土と竈南側から出土している。

時期 古墳時代後期 (6世紀前半)。

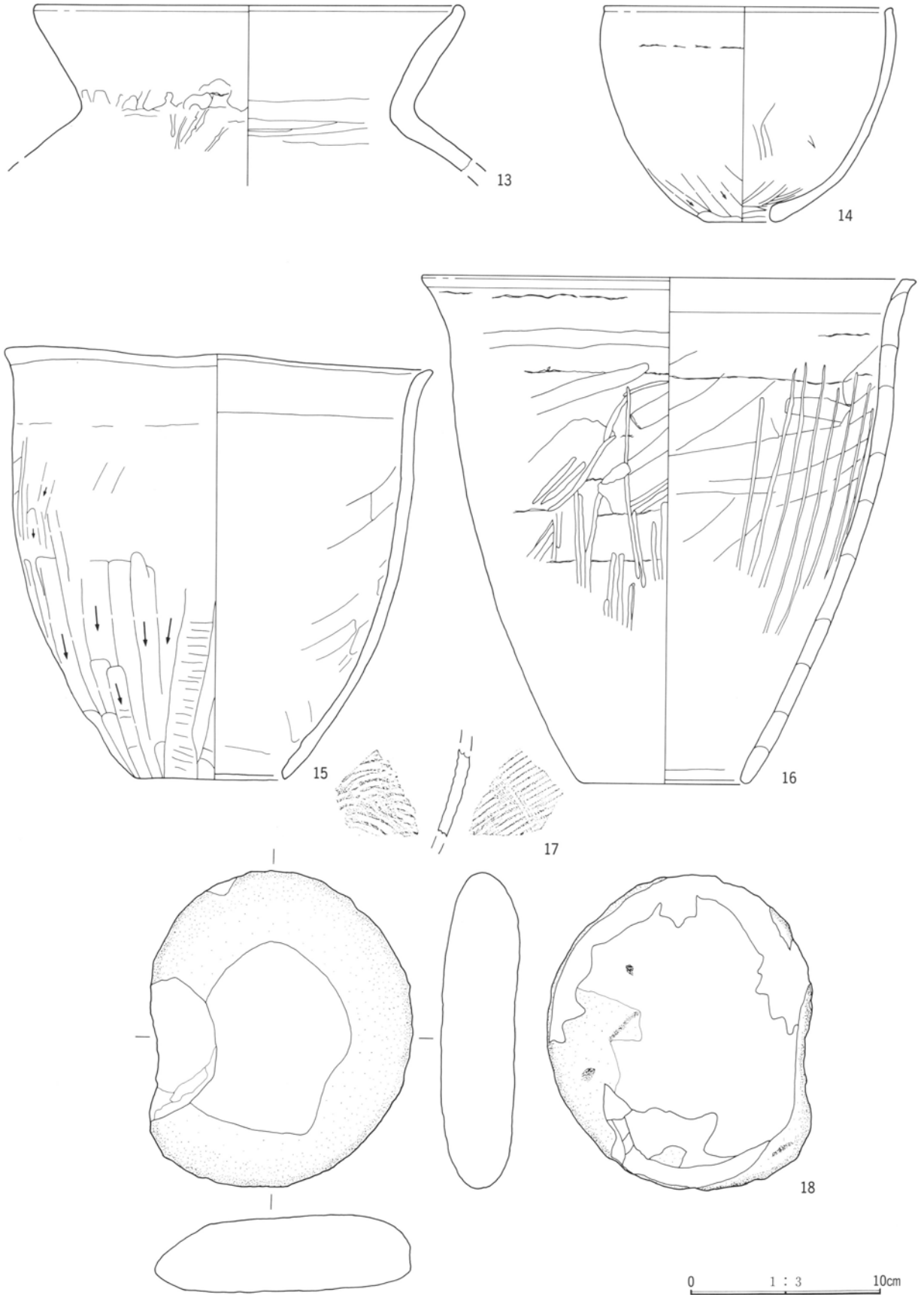
備考 当住居は砂層を掘り込んで構築されていた。住居を構築する場所としたら壁が崩れやすく非常に条件の悪い場所である。同じ条件の住居として9号住居があげられる。いずれも小さな住居で、竈の半分以上が壁の外へ構築されている。



第79図 13号住居跡



第80图 13号住居跡出土遺物(1)



第81図 13号住居跡出土遺物(2)

荒砥下押切Ⅱ・13号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)			①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
		①口径	②器高	③底径				
80-1 66	土師器 坏	① 11.3	② 5.0		①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	覆土	ほぼ完形
80-2 66	土師器 坏	①(12.2)	② 5.3		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	カマド	3/4
80-3 66	土師器 坏	① 12.4	② 5.7		①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面篋なで。	覆土	1/2
80-4 66	土師器 坏	① 10.9	② 5.3		①中・細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	体部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面横なで、内面放射状の磨き。	覆土	1/2
80-5 66	須恵器 蓋	① 12.1	② 5.0		②還元焰 ③灰色	回転クロコ整形。天井部回転篋削り。	覆土	ほぼ完形
80-6 66	土師器 小型甕	① 13.4	②16.0		①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③外明黄褐色 内黒褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面刷毛目状の整形。内面篋なで。輪積み痕残る。	覆土	4/5
80-7 66	土師器 高坏	② (5.7) ③ (8.7)			①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	脚部外面篋なで、磨き。内面なで。	覆土	脚部2/3
80-8 66	土師器 甕	①(14.9) ②(23.5)			①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り、なで。内面篋なで。	カマド 南	1/3
80-9 66	土師器 甕	① 16.0 ② (8.6)			①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	口縁部内外面横なで、輪積み痕。胴部上半篋削り。内面篋なで。	カマド 南	口縁～胴部上半
80-10 67	土師器 甕	① 17.2	② 7.0		①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り、なで。内面なで。	床西部	口縁～胴部上半
80-11 67	土師器 甕	①(21.4) ② (8.3)			①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋なで。	覆土	口縁部片
80-12 66	土師器 甕	① 19.6	②37.4 ③ 7.0		①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り後、なで。内面なで。底面木葉痕。	床中央 部	ほぼ完形
81-13 67	土師器 甕	①(22.7) ② (8.8)			①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③黄褐色	口縁部内外面横なで。	覆土	口縁部片
81-14 66	土師器 甕	①(15.0)②11.3 ③ 3.2			①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	胴部外面篋削り後、磨き。内面篋なで、磨き。	覆土	1/2
81-15 67	土師器 甕	① 22.4	②22.3 ③ 8.0		①粗・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り、内面なで。	覆土	ほぼ完形
81-16 67	土師器 甕	① 26.0	②26.5 ③ (8.8)		①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面縦方向の磨き、内面縦方向の磨き。	覆土	2/3
81-17 67	須恵器 甕				①細 ②還元焰 ③灰色		覆土	胴部片

図番 P L	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm・g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
81-18 67	台石	完形	花崗岩	16.5	13.5	3.9	1,441	片面赤化。煤が付着している。	カマド西

14号住居跡 (第82・83図 PL.22・67)

位置 8D-17グリッドにおいて検出された。1号住居跡の西約75mの所に位置している。

形状 長辺3.7m、短辺3.0mの方形を呈している。

方位 N-72°-E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。1・2層はAs-Bの純層である。

壁高 住居跡確認面より約40～56cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約8㎡。

周溝 南壁下を除いて巡っている。幅3～10cm、深さ1～6cmである。

竈 東壁の南寄り、床面から壁の外に向かって構築されている。竈の規模は、長さ約80cm、幅約55cm、焚き口幅約55cmである。煙道の長さ70cm、煙だしの

第3章 荒砥下押切II遺跡

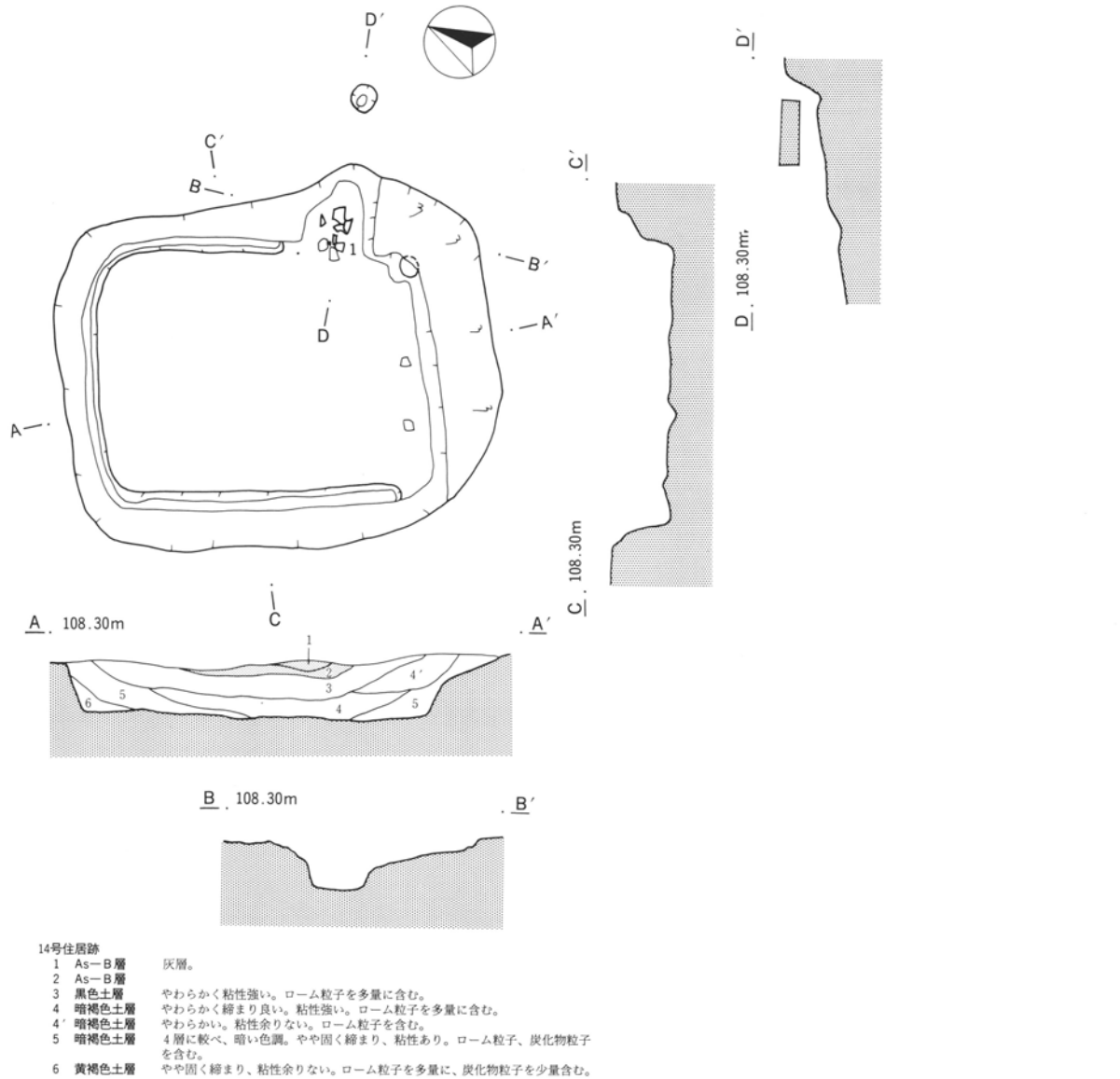
ピットの大きさは長径22cm、短径20cmである。

柱穴 検出できなかった。

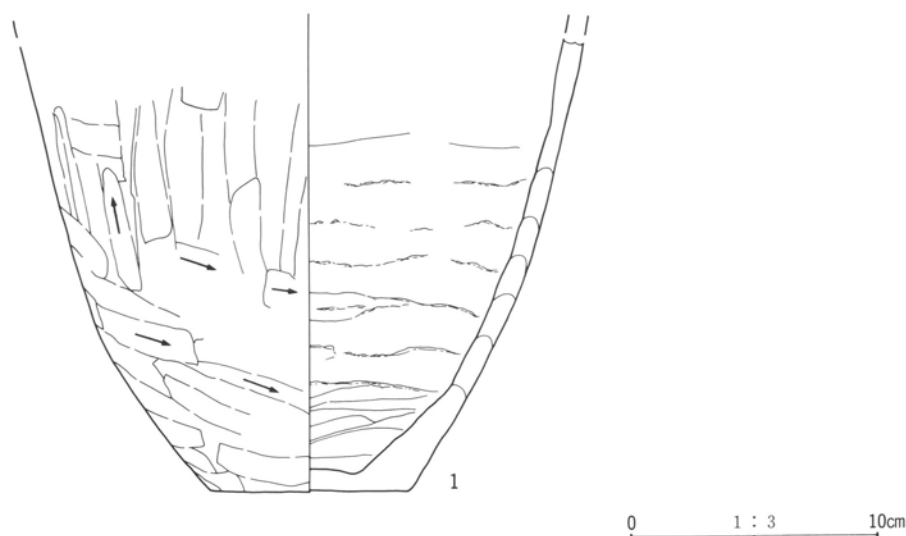
貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈内から第83図1の甕の胴下半分が出土している。

時期 平安時代。



第82図 14号住居跡



第83図 14号住居跡出土遺物

荒砥下押切II・14号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
83-1 67	土師器 甕	②(17.8) ③ 7.8	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	胴部外面篋削り。内面輪積み痕が残る。 平底。	カマド	胴下半部

2

古墳

1号古墳 (第84～86図 PL.23～25・67)

位置 7N・7O・7P-15～18、7Q-16・17グリッドにかけて検出された。14号住居跡の西約40mの所に位置している。

周堀 上幅1.4～3.8m、下幅0.8～2.2m、深さ0.4mである。周堀上端の外径は17m、内径は11.6mである。覆土は細分すると6層に分かれた。このうち8・9層がAs-Bの純層である。底面から30～40cmのところに堆積し、層厚は6～24cmである。

墳丘 墳丘の盛土は、当時の地表面上（第3層）に直接行われている（第2層）。しかし、そのほとんどは削平されている。

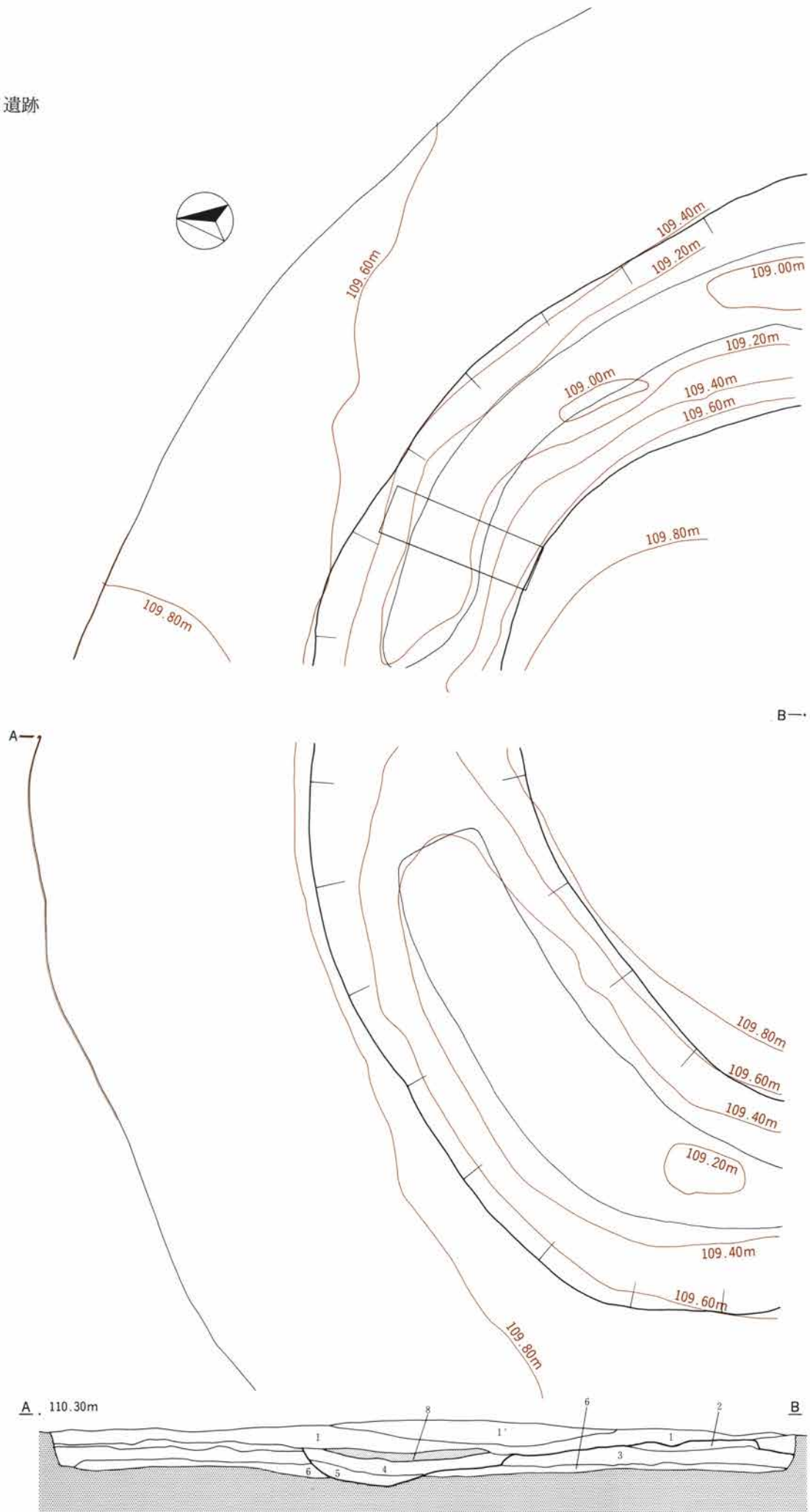
主体部 南に開口する自然石乱積の横穴式両袖型石室である。石室全長4.5m、玄室長2.2m、羨道長2.3m、玄室前幅1.8m、玄室最大幅2mである。

石室の閉塞は、ほぼ羨道部全体にわたって、中小の礫を詰めている。天井石はすべて抜き取られていた。入口部には同形同大の石を配し、門石としている。羨道最奥部の袖石にあたる石材は、縦位に据え玄門石としての機能を有するものである。羨道部の壁体は、床面より高さ約50cmまで残っていた。玄室部の床面は羨道部と同様に扁平な小礫を雑然と敷き詰めたもので、ほぼ羨道部と同じである。

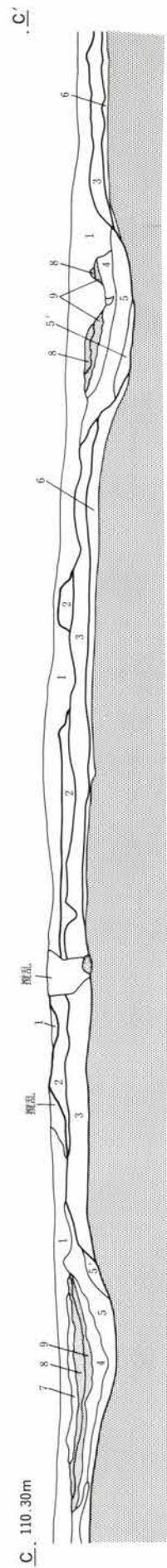
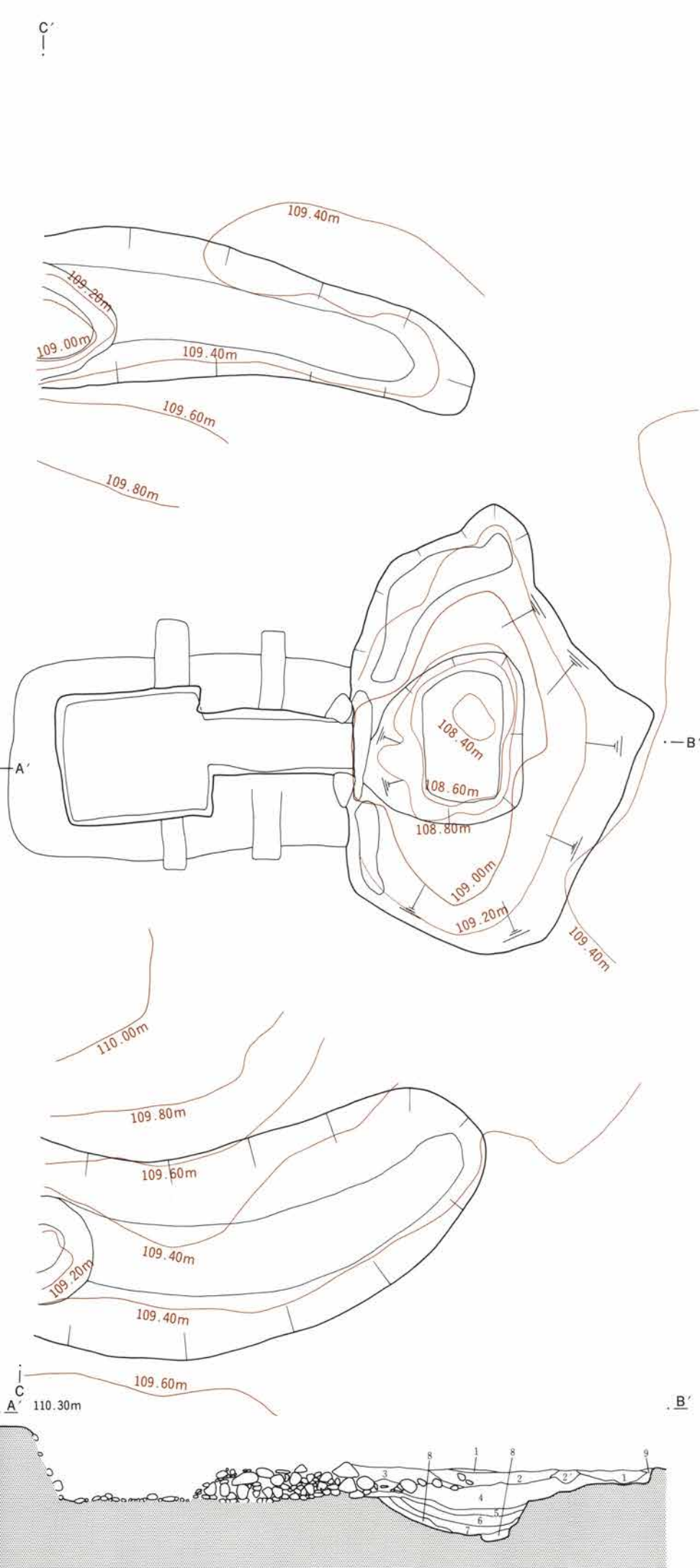
石室内遺物 副葬品は出土していないが、寛永通宝1点が出土した。

時期 当古墳は6世紀後半の築造と考えられる。

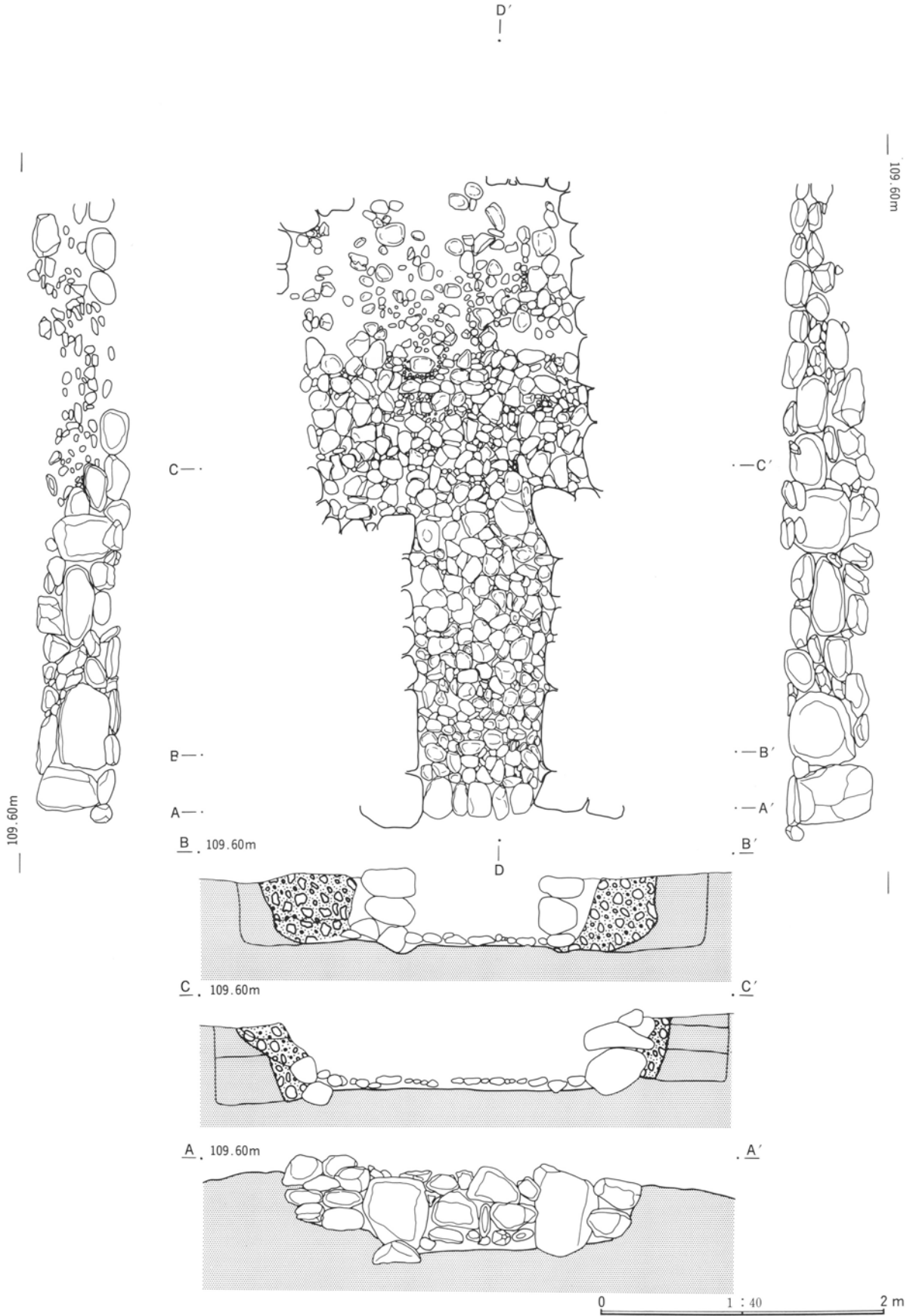
備考 上毛古墳総覧旧勢多郡荒砥村の項目には、当古墳に該当する古墳の記載はない。



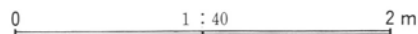
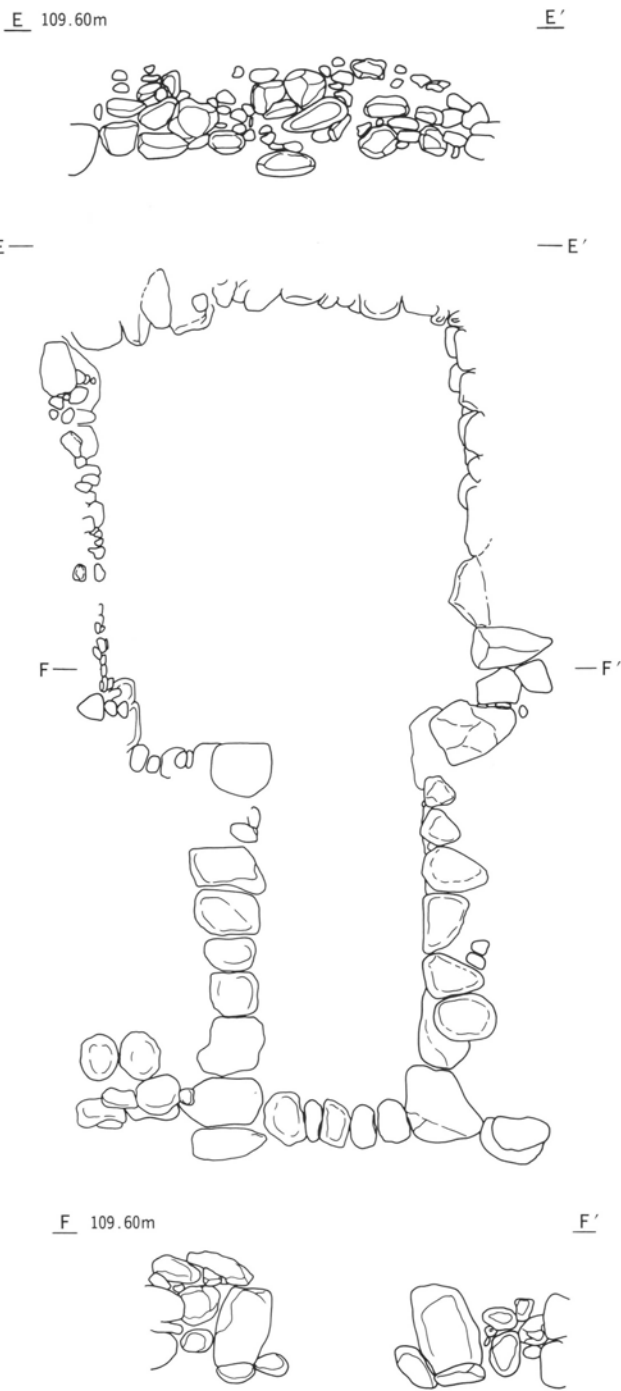
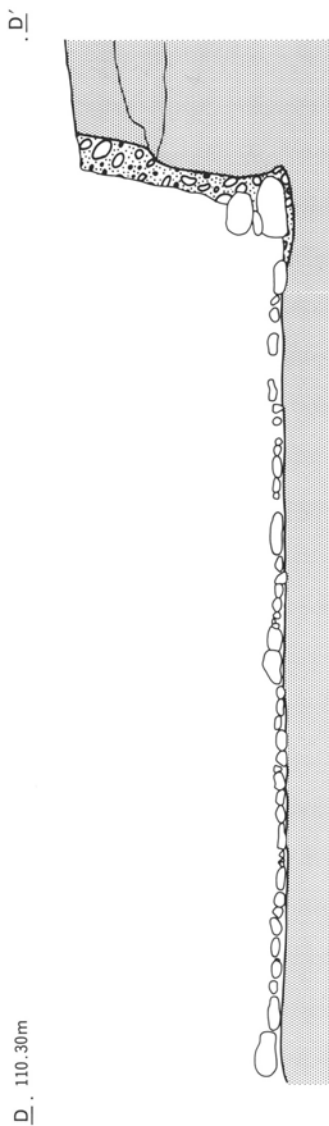
第84図 1号古墳



- 1号古墳 A-A' C-C'
- 1 表土層
 - 2 黄褐色土層
 - 3 黒色土層
 - 4 黒褐色土層
 - 5 茶褐色土層
 - 6 ソフトローム層
 - 7 AS-B層
 - 8 AS-Bの純層
 - 9 AS-Bの純層
- 1号古墳 B-B'
- 1 灰色砂層
 - 2 黒褐色土層
 - 3 黒色土層
 - 4 黒褐色土層
 - 5 明茶褐色土層
 - 6 黒褐色土層
 - 7 黒褐色土層
 - 8 黒褐色土層
 - 9 ローム層
- As-Bのほぼ純層。
 2m内外のFP軽石を少量含む。
 2層に良く似た層。やや黒色を帯びている。
 2m内外のFP軽石を少量含む。
 FP軽石含まない。3~5mのロームブロックを極少量含む。
 2m内外のロームブロックを多く含む。
 ローム中に黒色土を少量含む。



第85図 1号古墳石室(1)



第86図 1号古墳石室(2)

荒砥下押切II・古墳

図番 P L	種別	重量 (g)	銭径 ①タテ ②ヨコ ③銭厚		出土 状況	残存状況
86-1 67	古銭	4.66	① 2.8cm ② 2.8cm ③ 1.5mm	寛永通寶	石室内 覆土	完形

下押切II遺跡と中屋敷II遺跡の間には、南北に谷地形が入り込む。谷幅はおよそ60～120mあり、ややすり鉢状を呈する。台地との比高差は現状で2mをはかる。また、谷上流部（支道71号の北端）の標高は110.1m、下流部（幹排3-2南端）での標高は105.1mあり、5mの差がある。

谷内の発掘調査は、道路・水路部分をトレンチ状に行い、水田畦畔が確認できた部分について面調査を行った。谷の堆積土層中には、As-B・FA・As-C等の火山灰が確認できたが、As-B以外は水田畦畔や面的な広がり是不明瞭であった。

水田遺構

遺構は、支道73号・75号の交差部分（第1地点）と支道75号と幹排3-3の交差部分（第2地点）の2ヶ所でAs-B下より水田畦畔を確認した。

第1地点の水田遺構

畦畔の検出状況から6面の水田が想定できるが、畦畔が数cmほどの高まりであり、調査区の範囲や田面の状態などから畦畔を追うことができず、各水田とも完結できなかった。水田規模は、2号・5号水田の短辺で約4.5mと計測できたが、長辺については計測できなかった。

畦畔の方向は、谷の傾斜が意識されているようであり、傾斜方向及び直交方向に畦畔が見られる。また、2号・3号水田境の畦畔中央に水口が設けられ、開いた状態で検出した。

第2地点の水田遺構

第1地点同様、畦畔の検出状況は悪く、5面の水田が想定できるが、各水田とも完結できなかった。水田規模は、2号水田の短辺が約4.5mと計測できたのみであった。

畦畔方向は、4号・5号の水田畦畔は、東西・南北方向に直交し、大区画が想定できる方向にあり、1号・2号・3号水田の畦畔は傾斜方向にわずかに

傾く。水口は3ヶ所で確認でき、1号→2号、2号→3号、4号→3号方向に開いた状態で検出した。

溝

谷内調査では溝を10条検出した。埋没土中にAs-B、FA、As-C混土を含むものなど、時期差が見られた。

1号溝

支道73号線内にて検出した。N-60°-E方向に傾く。規模は、確認全長8m、幅0.48m、深さ0.22mの規模を持つ。傾斜は緩い。

2号溝

支道73号線内にて検出した。1号溝に近接し、東北東隅でY字条に分岐する。

N-70°-E方向に傾く。規模は、確認全長12m、幅0.7m、深さ0.3mの規模を持つ。北東方向より南西方向に流下し、20cmの高低差が見られた。

3号溝

支道73号線内で検出した。4号溝の上層にて検出し、FA層と思われる橙色層が見られた。確認状況が不明瞭であったため、遺構形状が乱れたものとなってしまった。規模は、確認全長16m、幅2m、深さ0.5m規模を持つ。傾斜は緩い。

4号溝

支道73号線内で検出した。3号溝下層にありAs-Cを多量に含む黒色土により埋没している。北隅で分岐していたが、3号溝により分岐部が壊されていた。規模は、確認全長12m、幅0.8～1.4m、深さ0.2～0.5m。傾斜は緩い。

5号溝

支道73号線内で検出した。N-20°-W方向に傾く。規模は、確認全長16m、幅0.8m、深さ0.2m。傾斜は緩い。溝底面には、掘削痕と思われる小ピットが見られた。

6号溝

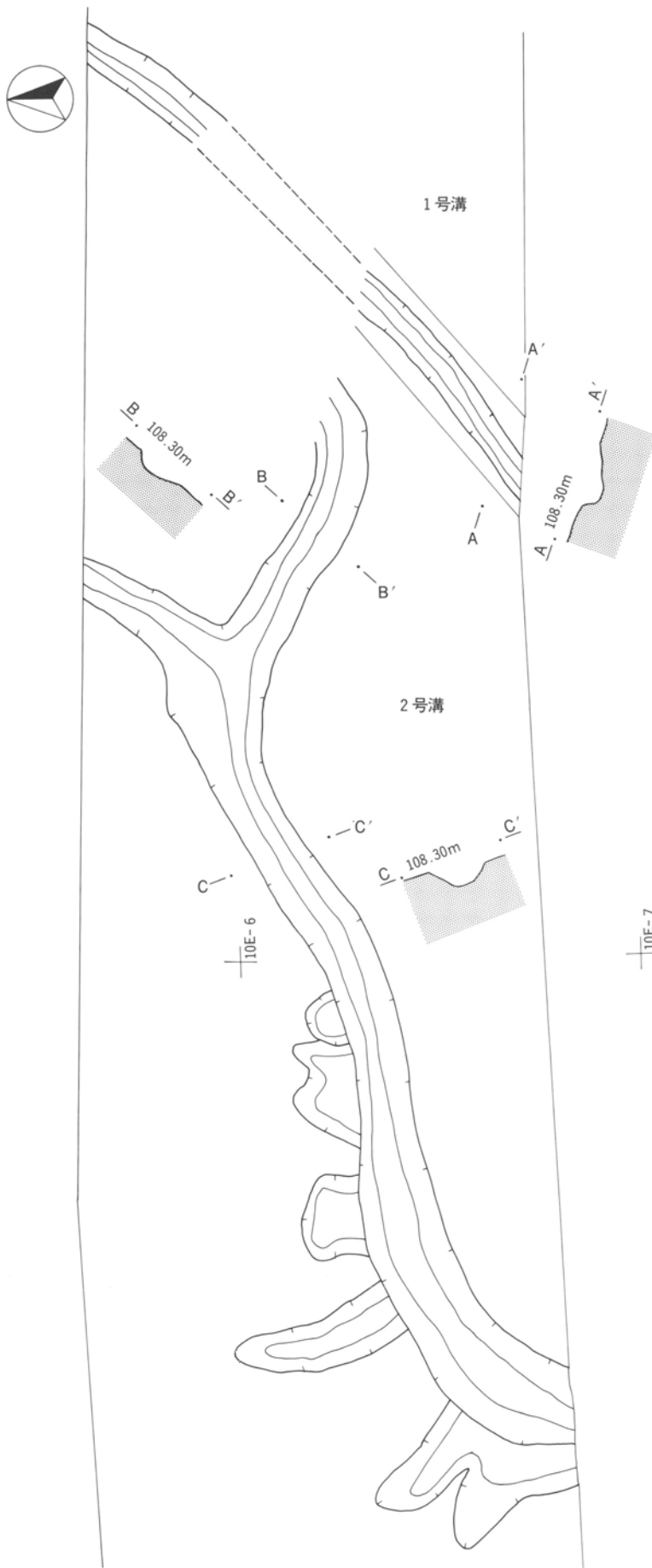
支道75号線内で検出した。N-40°-E方向に傾



第87図 As-B下水田



第88図 As-B下水田



第89図 1号・2号溝

く。規模は、確認全長12m、幅1.3m、深さ0.5m。傾斜は緩い。

7号溝

支道75号線内で検出した。N-36°-E方向に傾く。規模は、確認全長16.4m、幅0.56m、深さ0.04m。傾斜は緩い。

8号溝

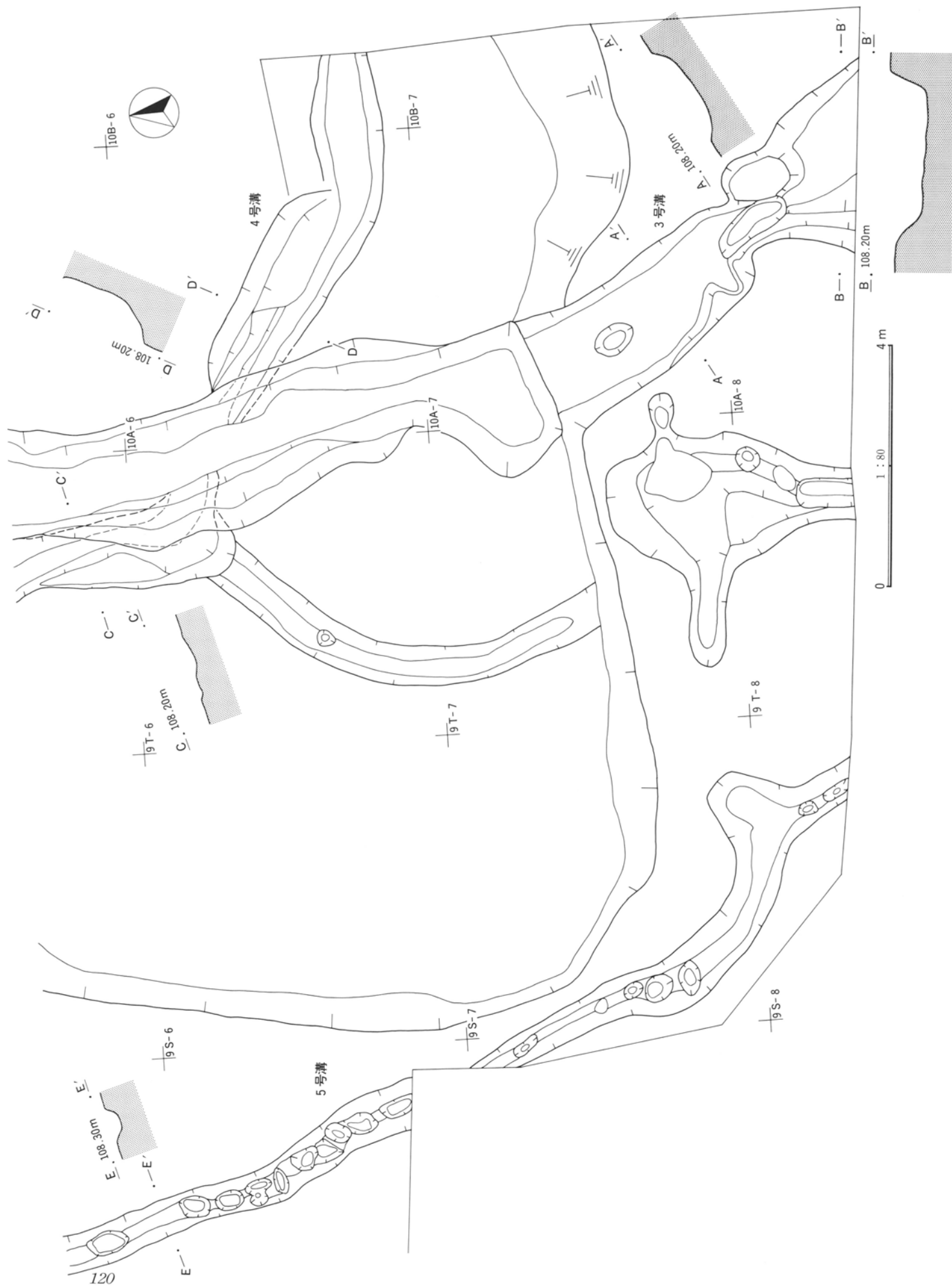
支道75号線と幹排3-3の交差付近で検出した。溝は複数見られ、周辺部はAs-C混じりの黒色土が堆積し、溝の埋没土下層にFA層を確認した。溝は、蛇行し、N-52°-E方向に傾く。規模は、確認全長16m、幅4m、深さ0.5m。傾斜は緩い。

9号溝

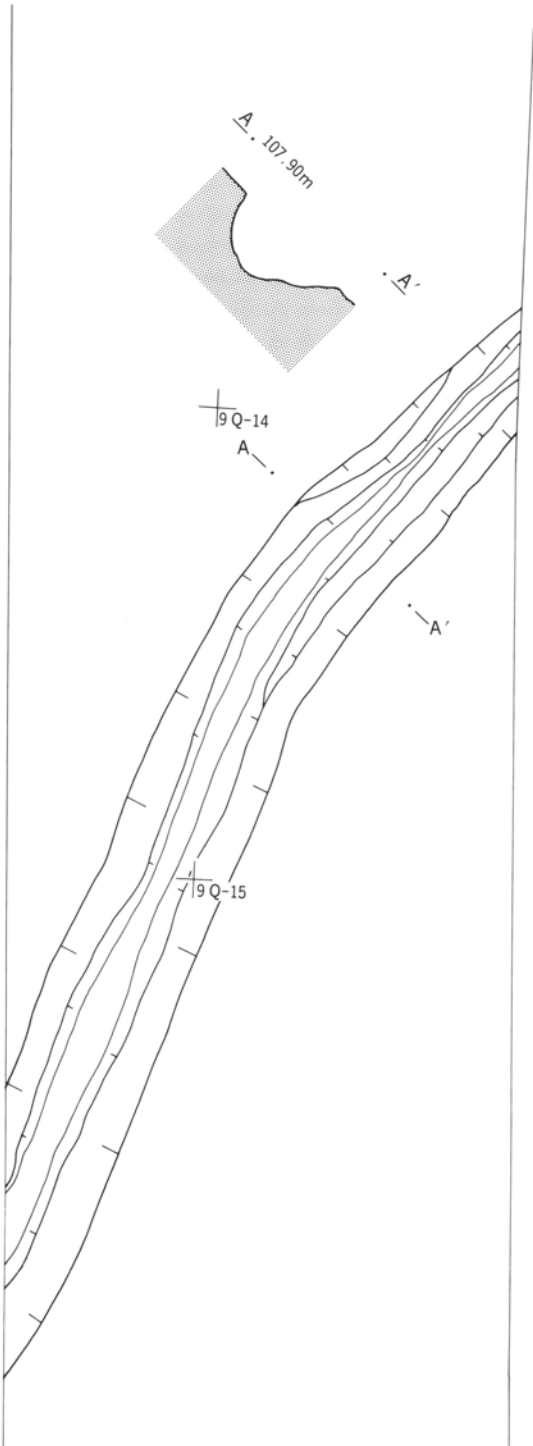
幹排3-2内で検出した。N-75°-E方向に傾く。規模は、確認全長6.4m、幅1.2m、深さ0.16m。傾斜は緩い。

10号溝

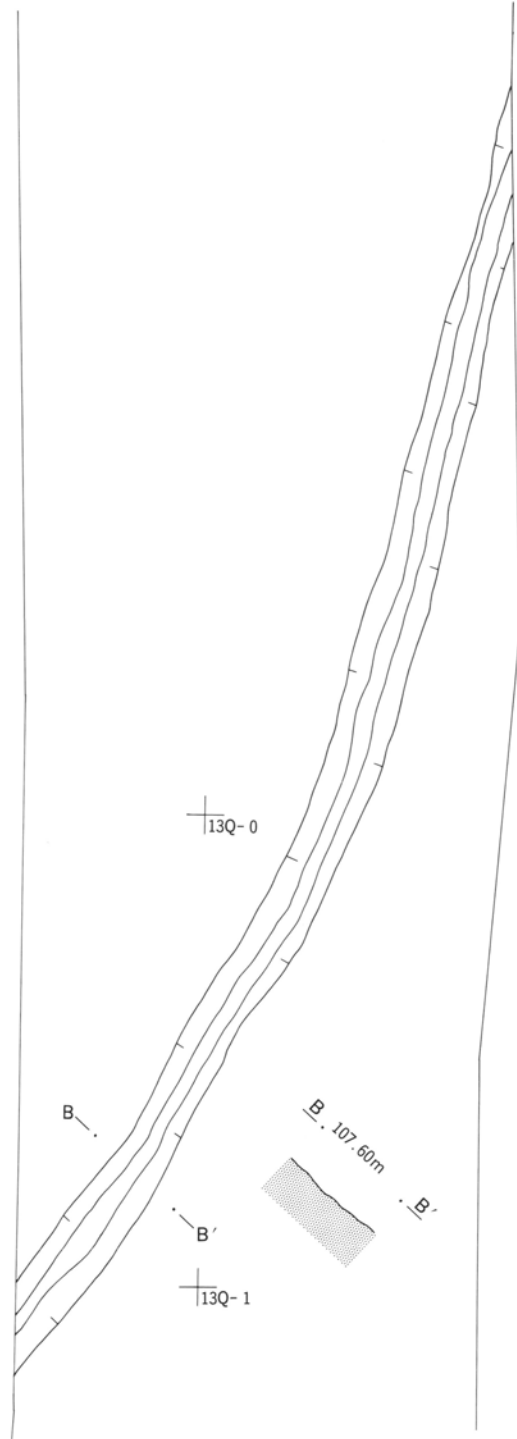
幹排3-2内で検出した。N-57°-E方向に傾く。規模は、確認全長8.8m、幅0.48m、深さ0.06m。傾斜は緩い。



第90图 3号·4号·5号沟



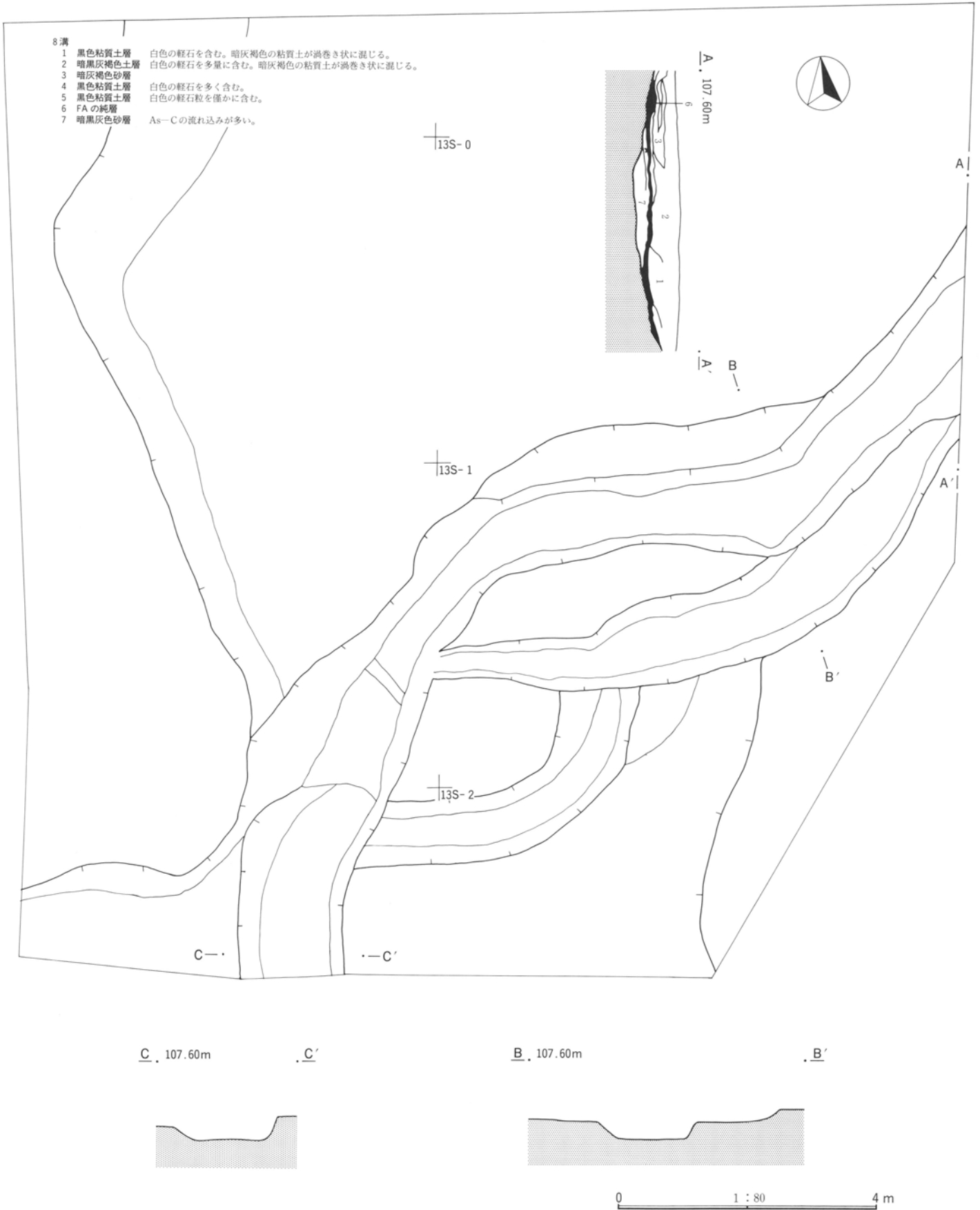
第91図 6号溝



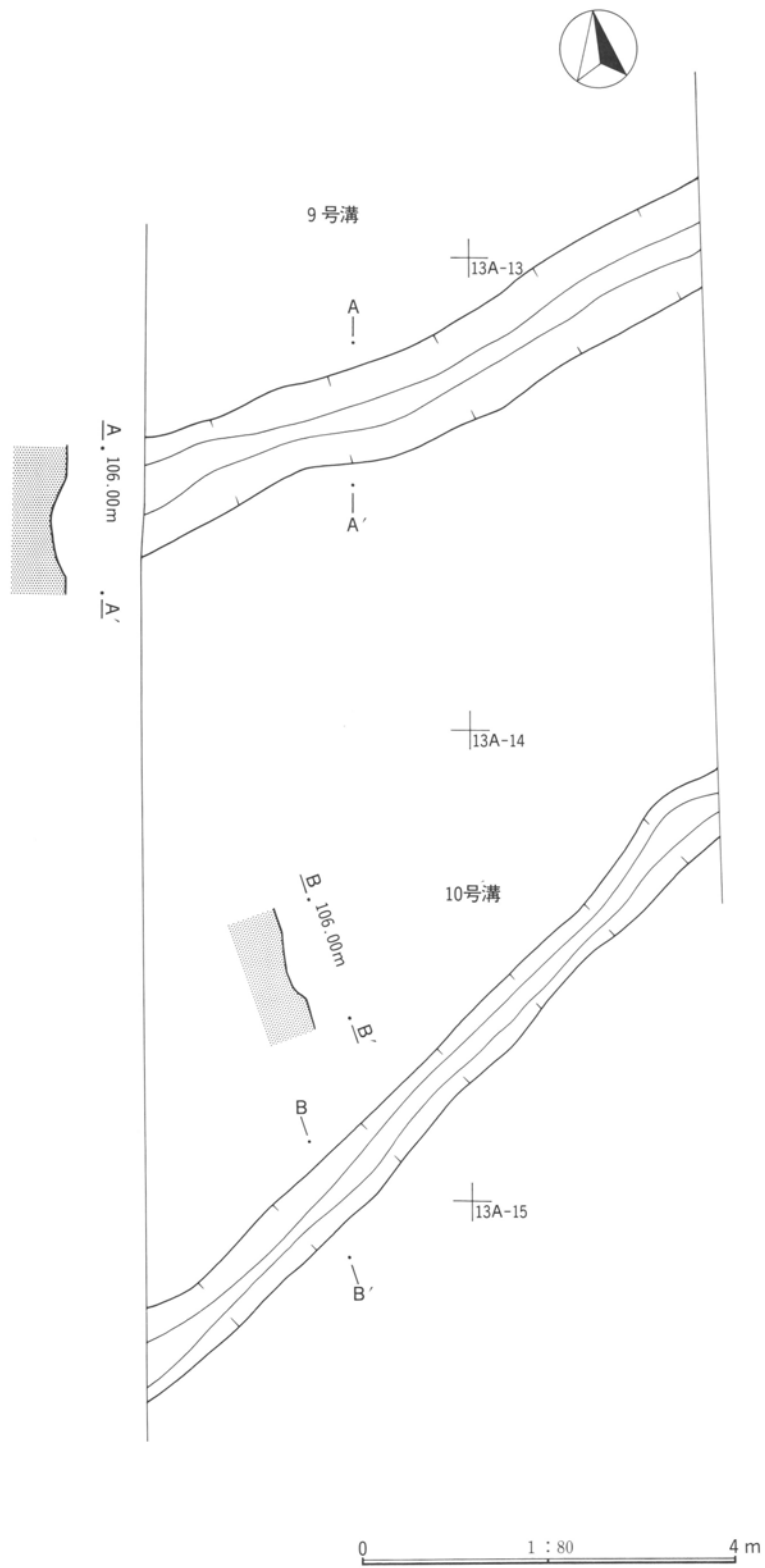
第92図 7号溝

0 1 : 80 4 m

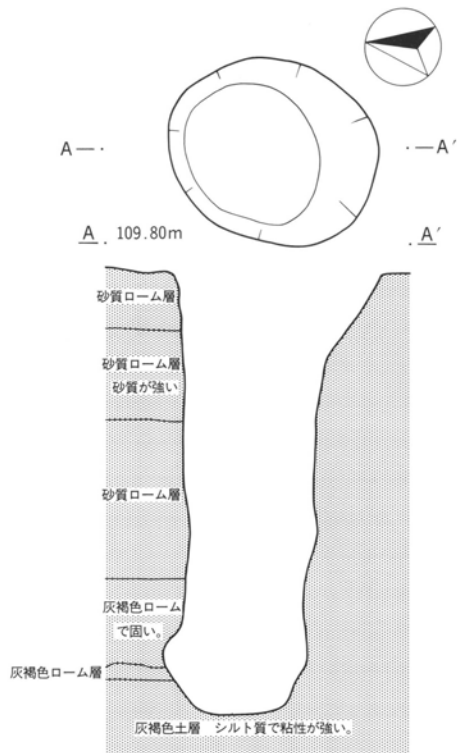
第3章 荒砥下押切II遺跡



第93図 8号溝



第94図 9号・10号溝



井戸 (第95図 PL.33)

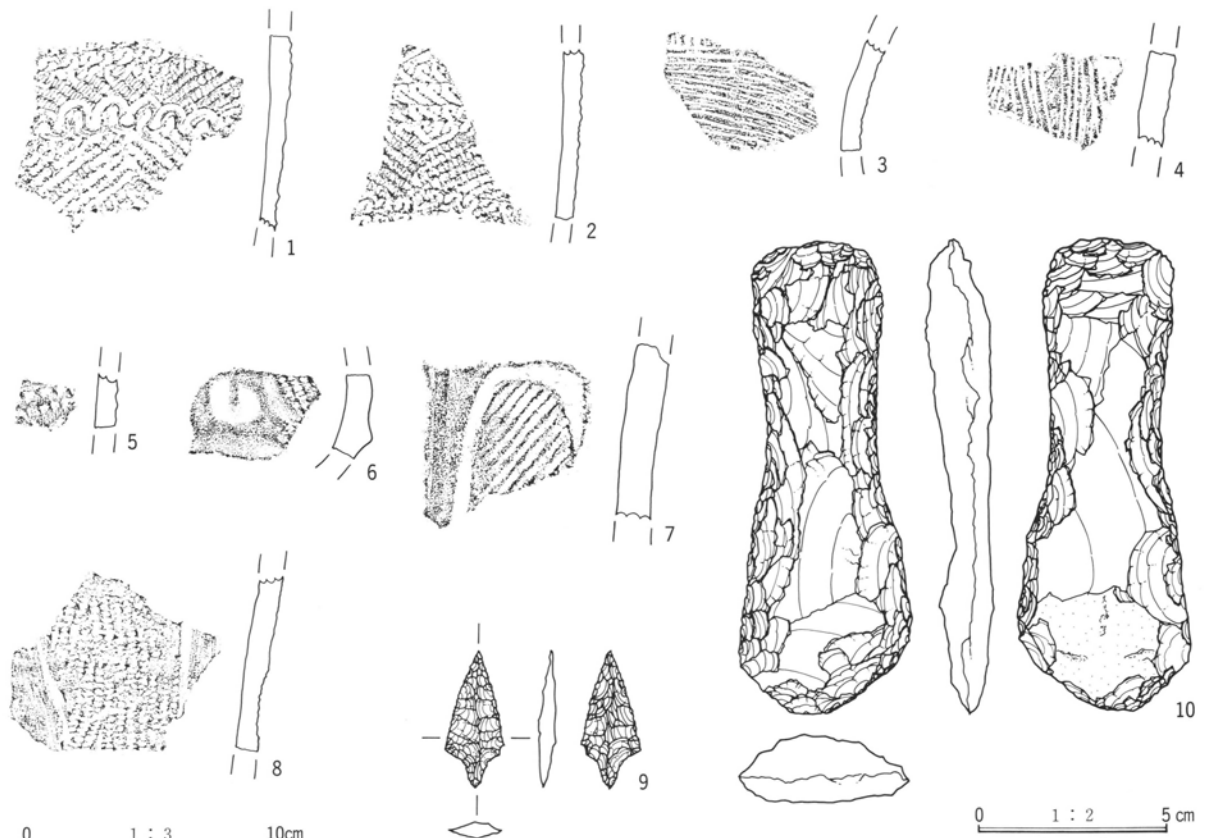
位置 9D-12グリッドから検出された。8号住居跡の南約1mの所に位置している。

形状 長径1.7m、短径1.45m、深さ3.5mの楕円形を呈している。

時期 不明。

第95図 井戸

0 1:60 1.5m

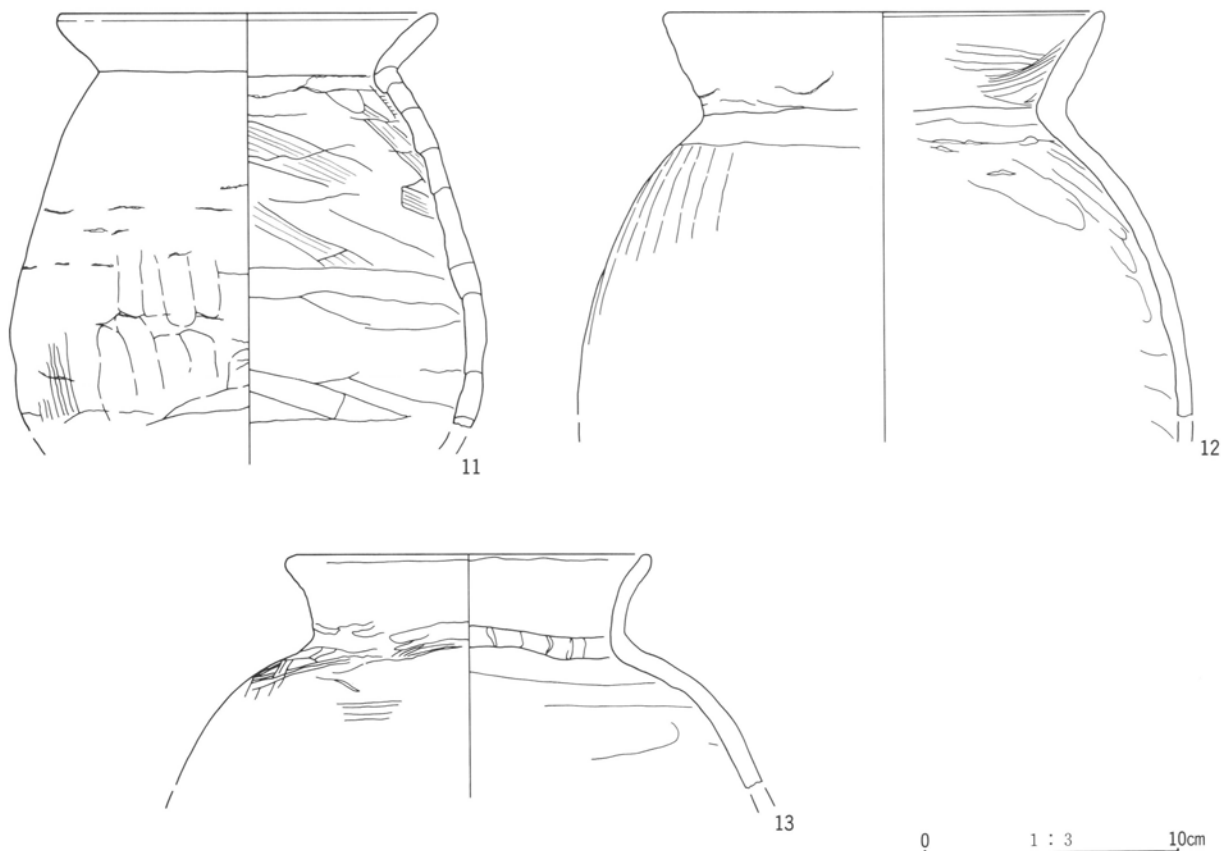


第96図 遺構外出土遺物(1)

荒砥下押切II・遺構外

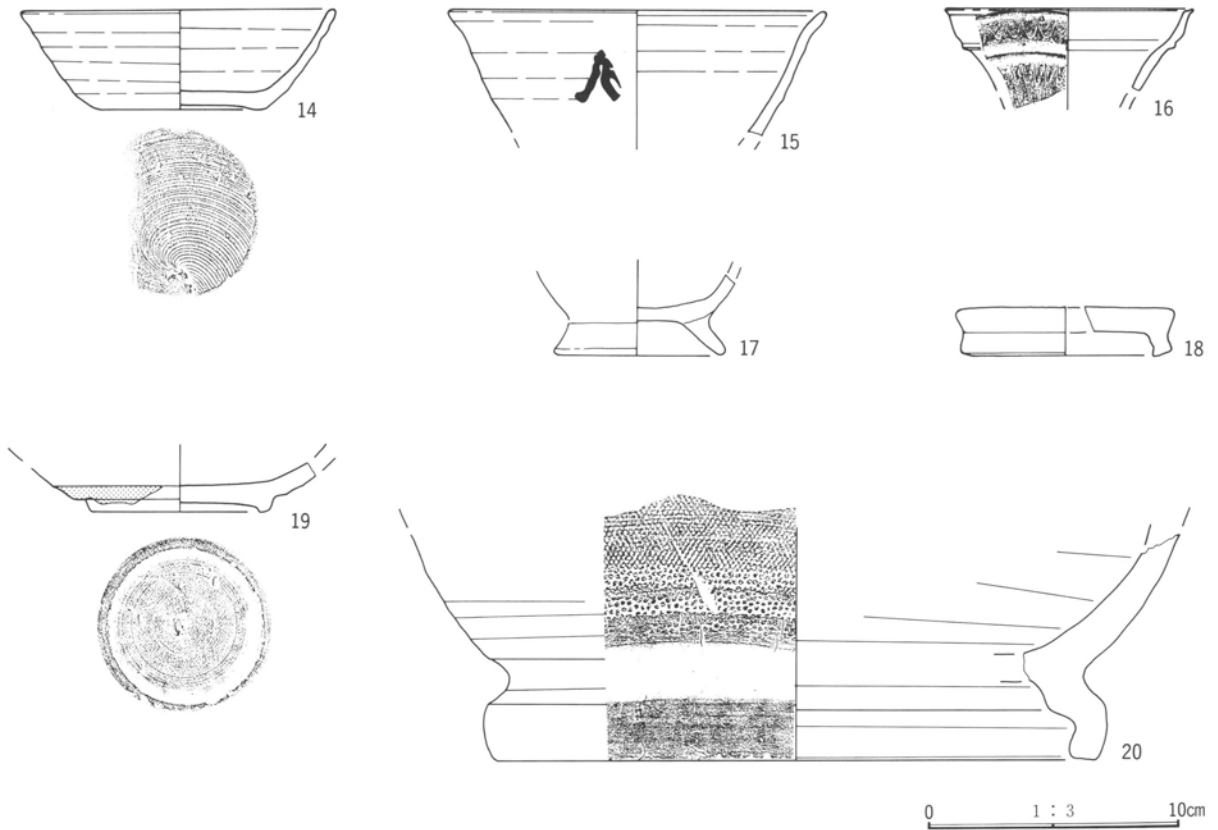
図番 P L	部 位	①胎土 ②焼成 (遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文 様 (そ の 他)	出土状況
96-1 67	胴 部 片	①繊維、細砂を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚7~9mm。内面は縦方向の磨き。内外面の色調は明赤褐色。	原体はR { L (環付末端) と L { R を多段施文。コンパス文。前期関山式	表採
96-2 67	胴 部 片	①繊維、細砂を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は丁寧な調整。外面の色調は明赤褐色。	原体はR { L (環付末端) と L { R (環付末端) を多段施文。前期関山式	表採
96-3 67	胴 部 片	①細砂、褐・白色細粒物含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は粗い調整。内外面の色調は橙色。	半截竹管による縦位・横位の集合沈線。前期諸磯式	表採
96-4 67	胴 部 片	①中砂、褐・黒色細粒物含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚1.1cm。内面は粗い調整。外面の色調は橙色。	半截竹管による集合沈線。前期諸磯式	表採
96-5 67	胴 部 片	①細砂を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面はやや丁寧な調整。外面の色調は明赤褐色。	竹管による刺突。中期前半	表採
96-6 67	口縁部片	①細砂を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚9mm。内面は横方向の磨き。外面の色調はにぶい黄橙色。	隆帯と縄文施文。原体はL { R 中期加曾利E式	表採
96-7 67	胴 部 片	①細砂、褐色細粒物を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚1.4cm。内面は縦方向の磨き。外面の色調は明黄褐色、灰黄色。	縄文施文。原体はR { L 沈線。中期加曾利E式	表採
96-8 67	胴 部 片	①細砂、白・褐色細粒物を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9mm。内面は縦方向の磨き。内外面の色調は灰黄褐色。	縄文施文。原体はR { L 沈線垂下。中期加曾利E式	表採

図番 P L	器 種	遺 存 状 況	石 材	計 測 値 (cm・g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
96-9 67	有舌尖頭器	ほぼ完形	チャート	3.6	1.5	0.4	1.4		10L-10 グリッド
96-10 67	打製石斧	完形	黒色頁岩	12.5	4.5	1.8	94	撥型。	9C-17 グリッド



第97図 遺構外出土遺物(2)

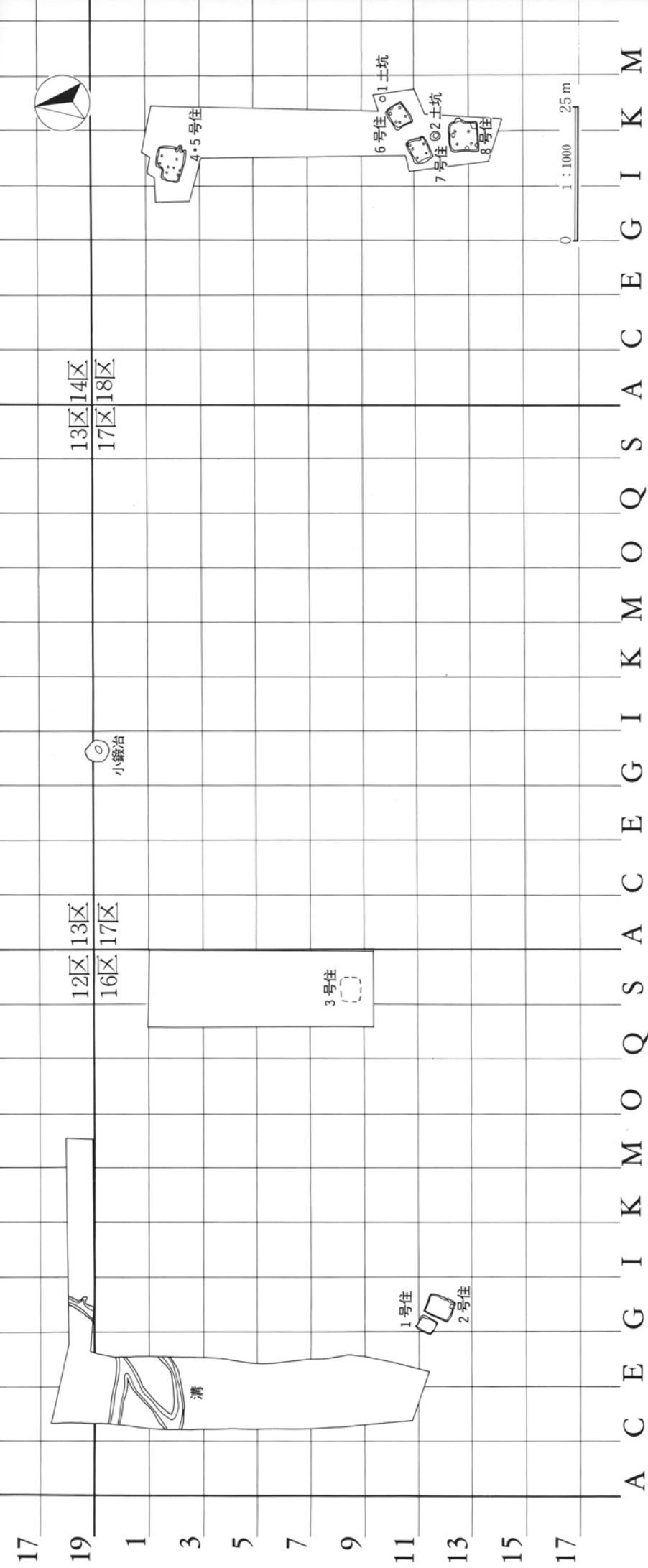
第3章 荒砥下押切II遺跡



第98図 遺構外出土遺物(3)

荒砥下押切II・遺構外

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)			①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
		①口径	②器高	③底径				
97-11 67	土師器 甕	①(14.7) ②(16.2)			①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り、 などで。輪積み痕。内面篋などで。輪積み 痕残る。		口縁～胴 部上半
97-12 67	土師器 甕	①(17.2) ②(15.8)			①細・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐灰色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り。 内面篋などで。		口縁～胴 部上半
97-13 67	土師器 甕	①(7.0) ②(8.9)			①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい黄橙色	口縁部内外面横など。胴部外面篋などで。 内面輪積み痕顕著に残る。		口縁～胴 部上半
98-14 68	須恵器 坏	① 12.5 ② 3.9 ③ 6.6			①細 黒色細粒物を含む ②還元焙 ③灰色	右回転ロクロ整形。底面回転糸切り。	9Q-14	1/2
98-15 68	須恵器 坏	① 14.0 ② (4.7)			①細 黒色細粒物を含む ②還元焙 ③灰色	右回転ロクロ整形。墨書。		口縁部片
98-16 68	須恵器	① 9.8 ② (3.2)			①細 黒色細粒物を含む ②還元焙 ③灰色	口縁部に楯描波状文。	9B-12	口縁部片
98-17 68	土師器 埴	①(3.2) ②(3.2) ③ 6.5			①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい橙色	高台貼付。	2Q-15	底部片
98-18 68	須恵器 転用硯	②(1.9) ③ 8.5			①細 白色細粒物を含む ②還元焙 ③灰色			底部1/2
98-19 68	緑釉 埴	②(1.9) ③(7.0)			①細 黒色細粒物を含む ②還元焙 ③灰色			底部片
98-20 68	軟質陶器 火鉢	②(9.0) ③(23.5)			①細 褐・灰色細粒物を含む ②還元焙 ③橙色	高台外側に漆を施す。近世。		底部



第99図 荒砥中屋敷Ⅱ遺跡全体図

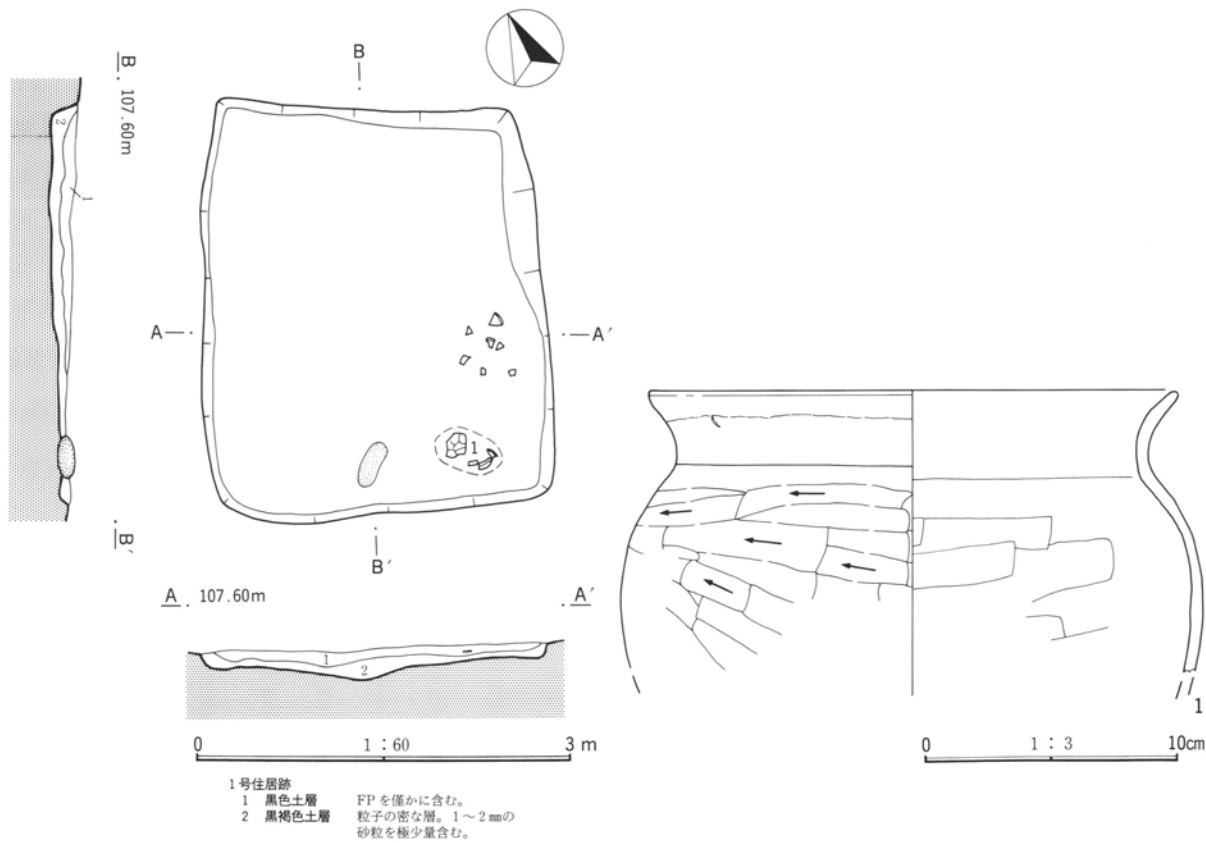
第4章

荒砥中屋敷Ⅱ遺跡

1 竪穴住居跡

1号住居跡 (第100図 PL.34・68)
位置 16F-12、16G-11・12グリッドにかけて検出された。2号住居跡の西約85cmの所に位置している。
形状 長辺3.4m、短辺2.8mの長方形を呈している。
方位 不明。
覆土 黒色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。
壁高 住居跡確認面より約7~15cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

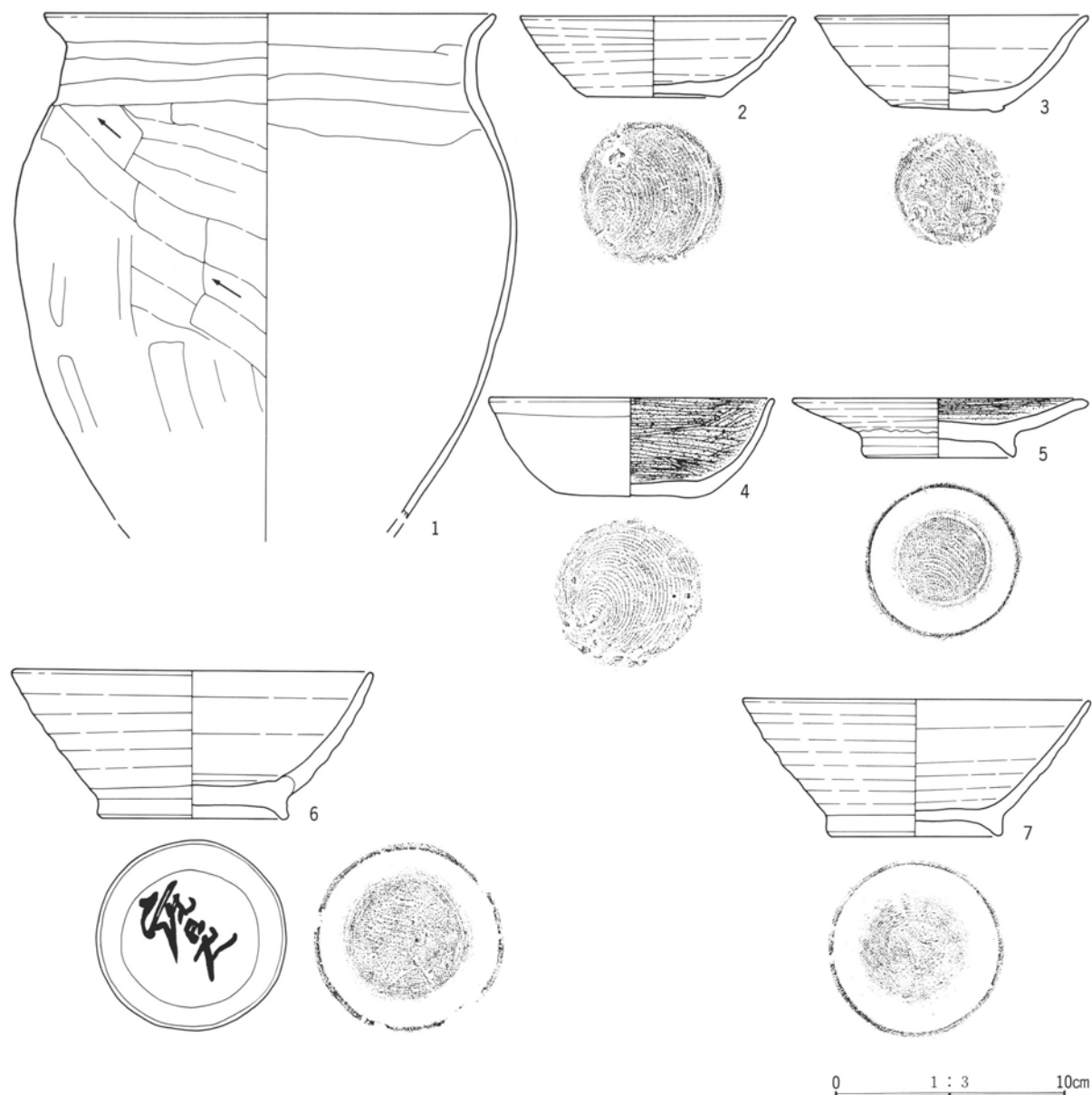
床面 やや凹凸が認められる。面積は約7.5m²。
周溝 検出できなかった。
竈 検出できなかった。
柱穴 検出できなかった。
貯蔵穴 検出できなかった。
遺物 覆土から少量の遺物が出土している。
時期 平安時代。
備考 遺物は出土しているものの、竈や柱穴が存在せず一般的な住居になるのかどうかは不明である。



第100図 1号住居跡・出土遺物

荒砥中屋敷II・1号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
100-1 68	土師器 甕	① 20.8 ② (11.1)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り。内面篋なで。	覆土	口縁~胴部上半



第102図 2号住居跡出土遺物

荒砥中屋敷II・2号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調			成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
			①胎土	②焼成	③色調			
102-1 68	土師器 甕	① 19.6 ② (21.9)	①細砂 黒・白色細粒物を含む	②酸化焙	③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り。内面篋なで。	貯蔵穴	胴下半部 欠損
102-2 68	須恵器 坏	① 11.3 ② 3.0 ③ 5.9	①中 黒色細粒物を含む	②酸化焙	③灰色	回転ロクロ整形。底面回転糸切り。内面黒色。磨き。	貯蔵穴	床直上 2/3
102-3 68	須恵器 坏	① 12.0 ② 4.2 ③ 4.7	①細 白色細粒物を含む	②還元焙	③黄灰色	右回転ロクロ整形。底面回転糸切り。	貯蔵穴	完形
102-4 68	須恵器 坏	①(12.3)② 4.2 ③ 6.5	①中・細 白・黒色細粒物を含む	②酸化焙	③外にぶい黄褐 内黒色	右回転ロクロ整形。底面回転糸切り。	貯蔵穴	2/3
102-5 68	須恵器 皿	① 13.0 ② 2.6 ③ 6.6	①細 白・黒色細粒物を含む	②還元焙	③外にぶい橙色 内黒色	右回転ロクロ整形。高台貼付。内面黒色、磨き。	貯蔵穴	完形
102-6 68	須恵器 埴	① 15.8 ② 6.4 ③ 8.4	①中 白色細粒物を含む	②酸化焙	③にぶい褐色	右回転ロクロ整形。高台貼付。墨書。	覆土	ほぼ完形
102-7 68	須恵器 埴	①(15.0)② 6.0 ③ 7.5	①中 白・褐色細粒物を含む	②酸化焙	③橙色	右回転ロクロ整形。高台貼付。周辺なで。	床直上	1/2

3号住居跡 (第103~106図 PL.36・68~70)

位置 16S-9グリッドにおいて検出された。2号住居跡の東北約55mの所に位置している。

形状 長辺・短辺ともに不明である。

方位 不明であるが、ピットの配置状況からN-89°-Eの可能性もある。

覆土 床面上まで掘削されてしまい、堆積状況を確認することはできなかった。

壁高 確認できなかった。

床面 ほぼ平坦である。面積は不明。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかったが、ピットの配置状況から

判断すればP5の北側に存在した可能性が考えられる。

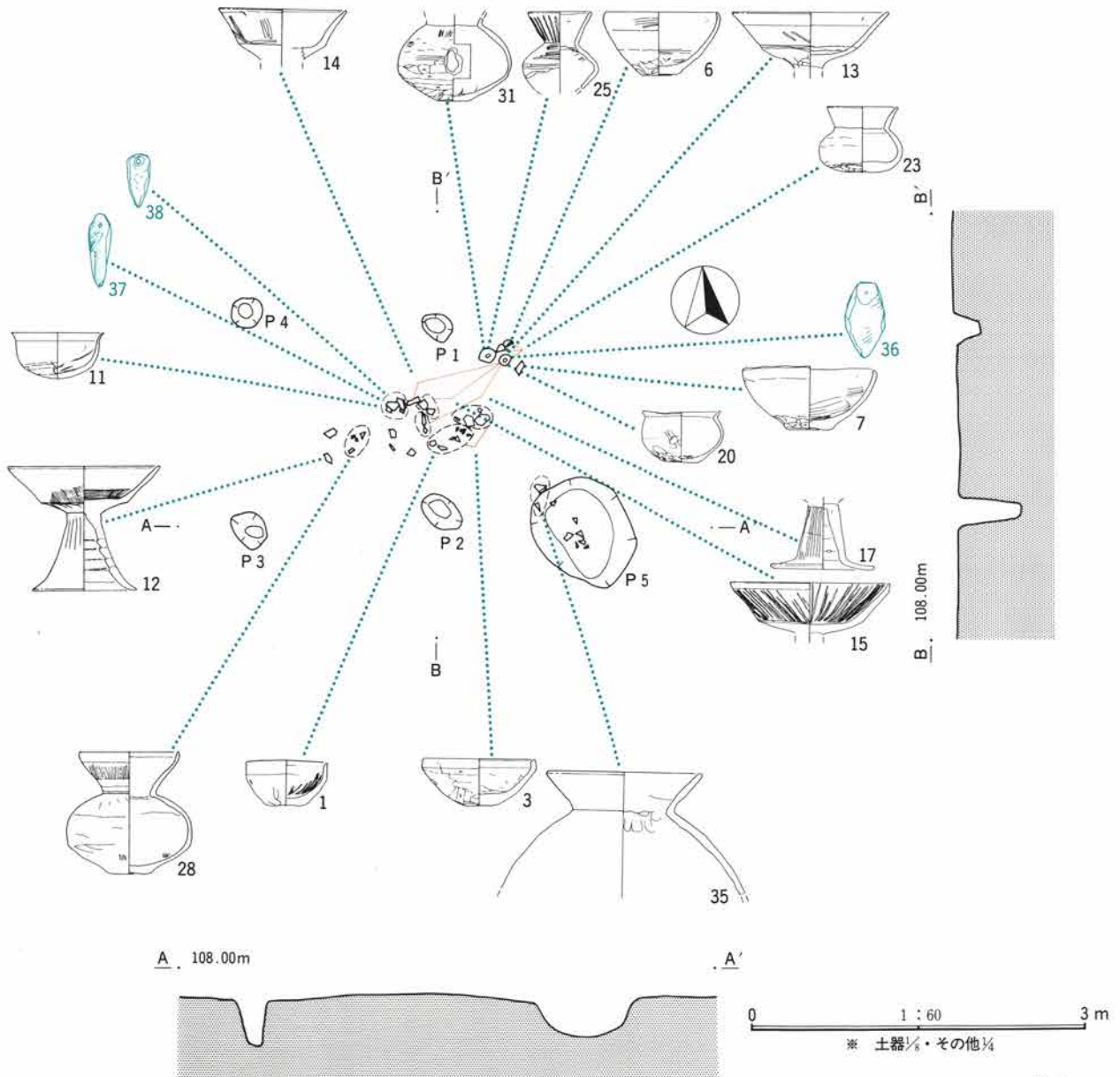
柱穴 5個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴になる。P1の深さは23cm、P2深さ57cm、P3深さ41cm、P4深さ51cmである。

貯蔵穴 P5が該当する可能性がある。長径100cm、短径85cm、深さ31cmである。

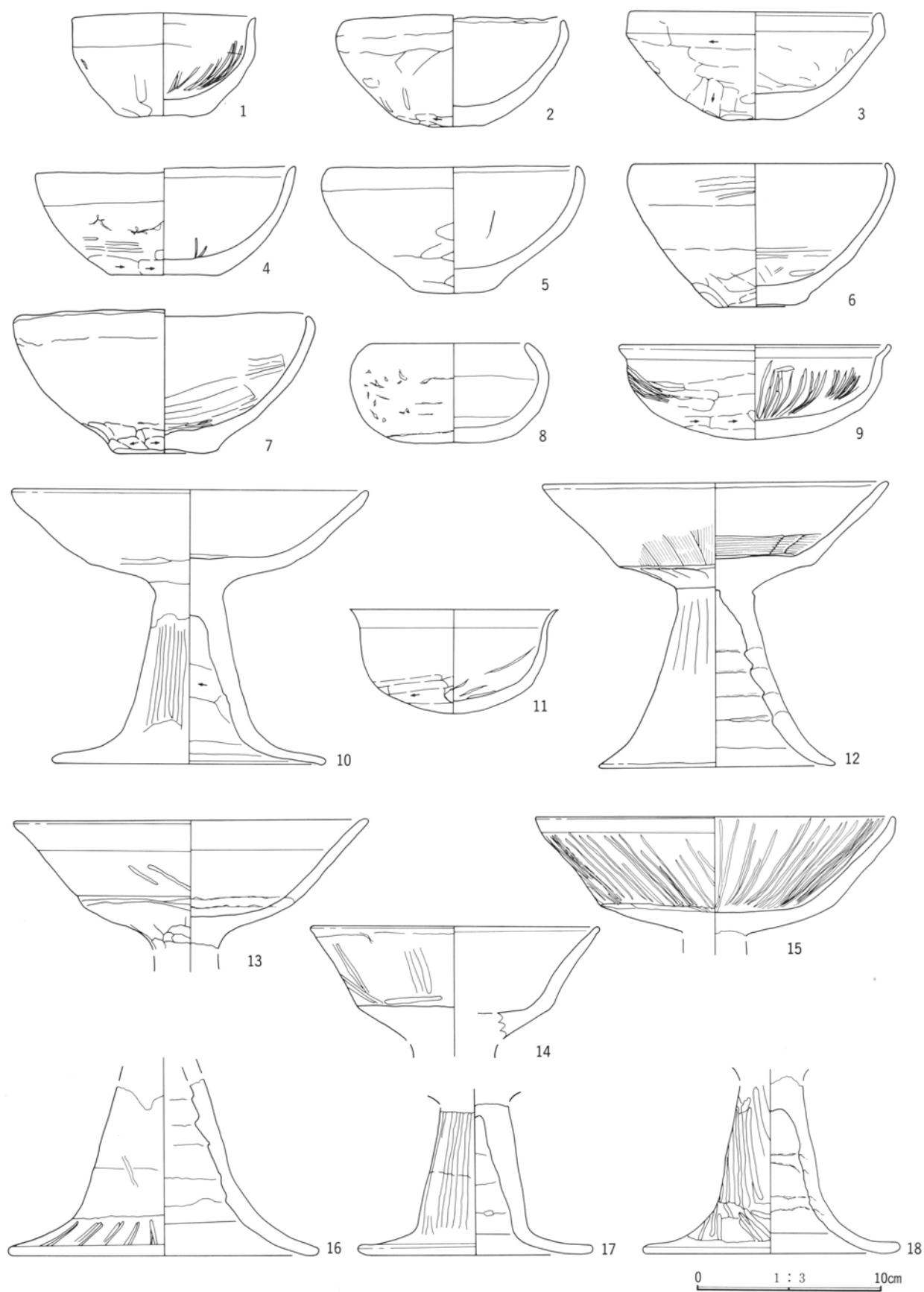
遺物 P1・P2の中間、P5の周辺を中心に出土している。

時期 古墳時代中期 (5世紀後半)。

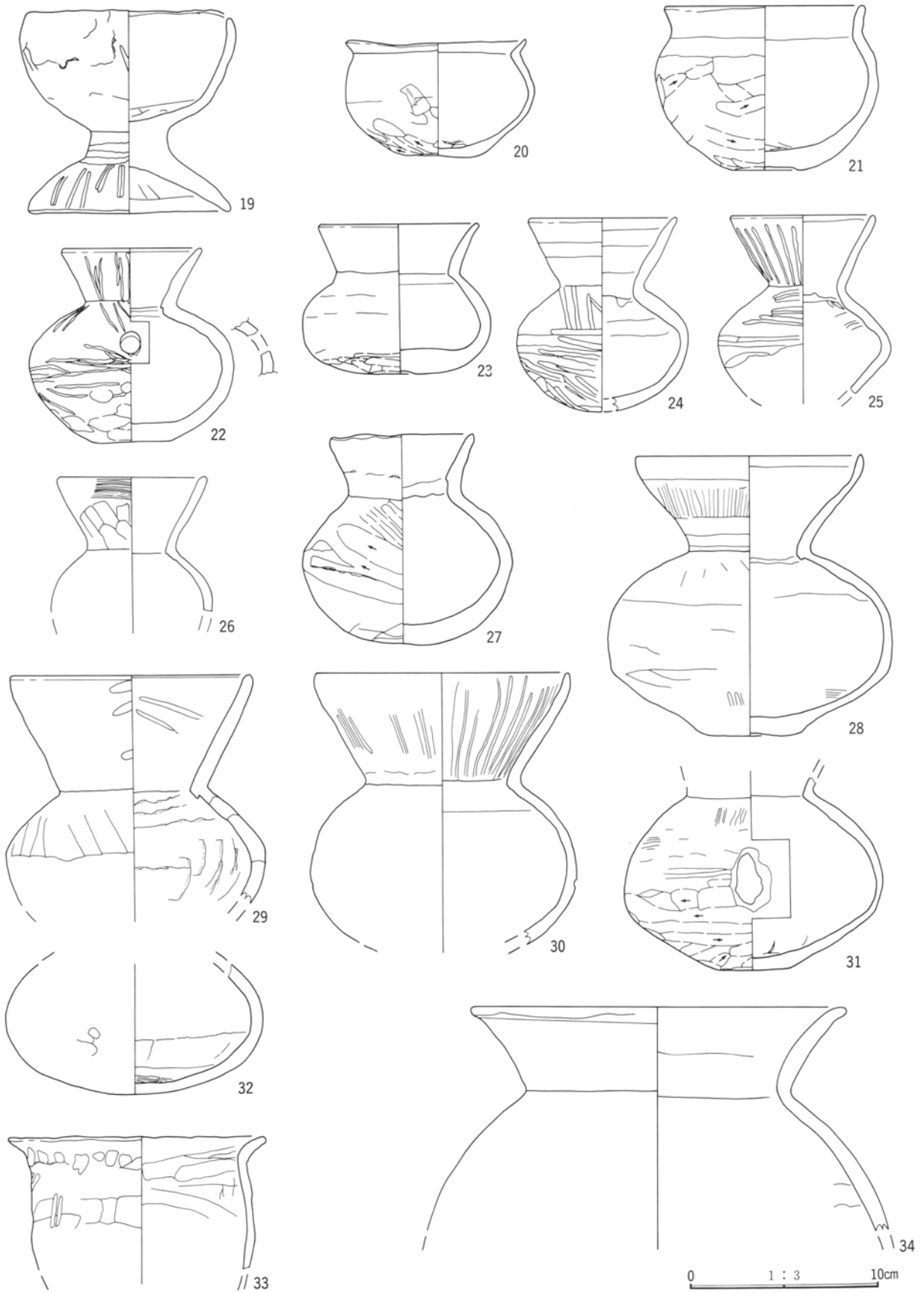
備考 重機によって床面上まで掘削されてしまったために全容を確認することはできなかった。



第103図 3号住居跡・遺物分布

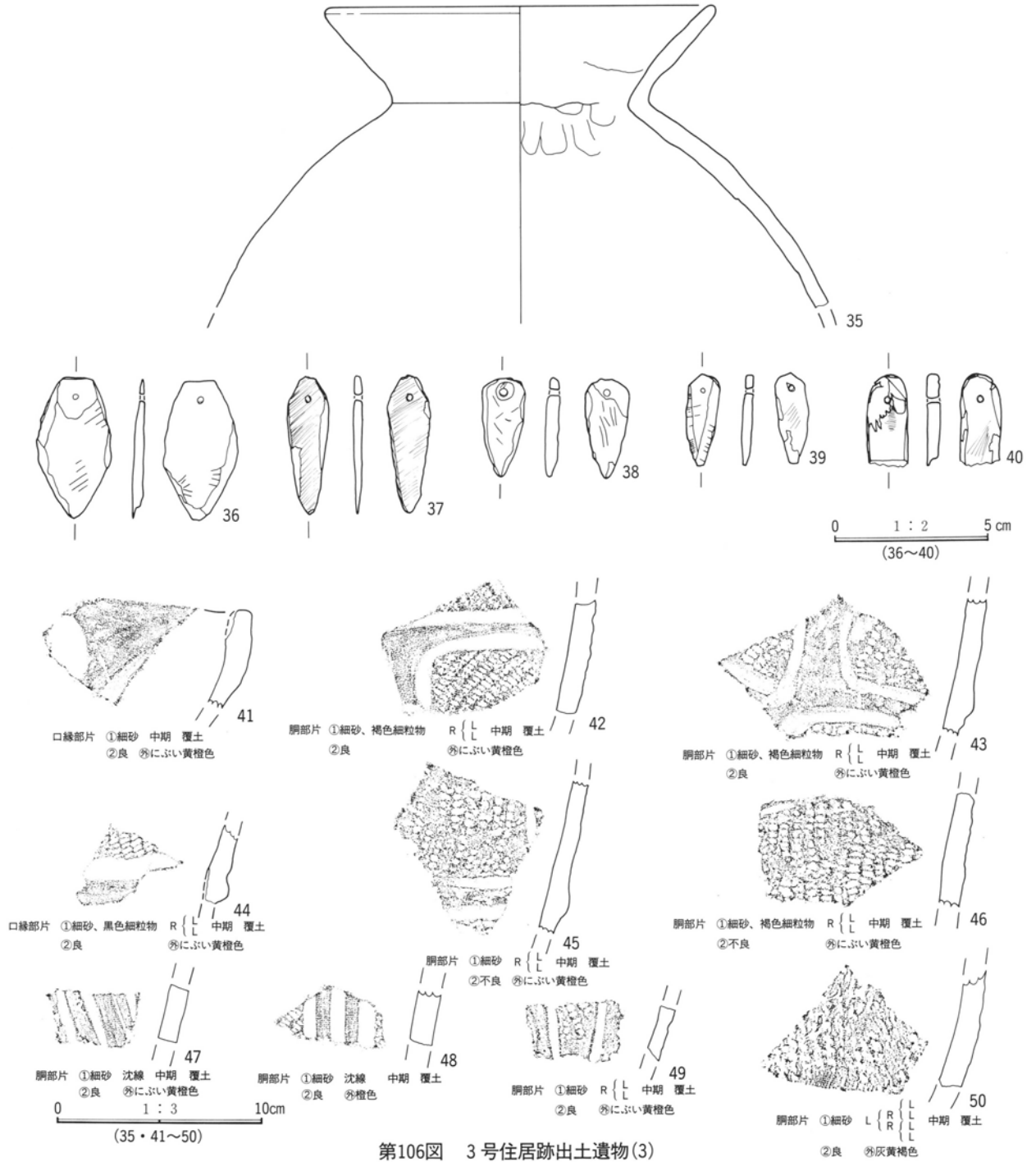


第104図 3号住居跡出土遺物(1)



第105图 3号住居跡出土遺物(2)

第4章 荒砥中屋敷II遺跡



第106図 3号住居跡出土遺物(3)

荒砥中屋敷II・3号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)			①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
		①口径	②器高	③底径				
104-1 68	土師器 坏	① (9.6)	② 5.5	③ 4.5	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面放射状の磨き。底面篋などで。	覆土	1/3
104-2 68	土師器 坏	① 11.7	② 5.6		①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面篋などで。内面篋などで。底面篋削り。	覆土	2/3
104-3 68	土師器 坏	① (13.1)	② 5.7	③ 3.1	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③淡黄色	体部外面篋削り、などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	床直上	1/2
104-4 68	土師器 坏	① 13.8	② 5.8	③ 5.6	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面篋削り、磨き。輪積み痕残る。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	覆土	4/5
104-5 68	土師器 坏	① (13.3)	② 6.7	③ (4.0)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	体部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面篋などで。	覆土	1/3

〔1〕 竪穴住居跡

104-6 68	土師器 坏	①(13.7)② 7.6 ③ 4.4	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③暗赤褐色	体部外面篋削り、などで。口縁部内外面 磨き。内面篋などで。	覆土	1/3
104-7 68	土師器 坏	① 16.0 ② 7.6 ③ 5.5	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	体部外面篋などで。輪積み痕残る。内面 篋などで。底面篋削り。	覆土	4/5
104-8 68	土師器 坏	① 8.2 ② 5.2 ③ 4.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	体部外面篋削り後、などで。輪積み痕残 る。内面荒れている。	覆土	3/4
104-9 68	土師器 坏	①(14.5)② 5.0	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り後、磨き。内面放射状 の磨き。	覆土	1/3
104-10 68	土師器 高坏	①(18.8)②14.5 ③(14.3)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	坏部内外面篋などで。脚部外面縦方向の 篋磨き。内面篋削り。	覆土	1/4
104-11 68	土師器 坏	①(10.9)② 5.5 ③ 0.7	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面篋削り、などで。口縁部内外面 横などで。内面篋などで。篋端部残る。	覆土	3/5
104-12 68	土師器 高坏	①(18.0)②14.9 ③(12.5)	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	坏部内外面刷毛目状整形。口縁部内外 面横などで。脚部外面篋などで。内面輪積 み痕顕著。	覆土	1/2
104-13 69	土師器 高坏	① 18.8 ② (6.7)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	坏部外面篋などで。口縁部内外面横な で。内面篋などで。輪積み痕残る。	床直上	坏部3/4
104-14 69	土師器 坏	①(15.2) ② (6.1)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	坏部外面篋などで、磨き。口縁部内外面 横などで。内面篋などで。	覆土	坏部1/4
104-15 69	土師器 高坏	① 19.2 ② (6.3)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	坏部外面斜方向の篋磨き。口縁部内外 面横などで。内面放射状の磨き。	覆土	坏部2/3
104-16 69	土師器 高坏	②(16.3) ③ (9.4)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄色	脚部外面篋などで。内面輪積み痕顕著。 裾部外面磨き。内面などで。	覆土	脚部2/3
104-17 69	土師器 高坏	② (7.8) ③ 12.5	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	脚部外面縦方向の磨き。内面輪積み痕 残る。裾部内外面などで。	覆土	脚部
104-18 69	土師器 高坏	② (9.0) ③ 13.8	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	脚部外面篋磨き。内面輪積み痕残る。 裾部内外面横などで。	覆土	脚部3/4
105-19 69	土師器 高坏	①(10.6)②10.7 ③(10.7)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	坏部外面篋などで。輪積み痕残る。内面 篋などで。裾部篋削り後、磨き。内面篋 などで。	覆土	1/2
105-20 69	土師器 鉢	① 9.0 ② 6.2 ③ (4.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	胴部外面篋削り後、などで。内面篋な で。底面篋削り。	覆土	4/5
105-21 69	土師器 鉢	① 10.3 ② 8.7 ③ 3.3	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面篋削り後、磨き。口縁部内外 面横などで。内面篋などで。	覆土	3/4
105-22 69	土師器 甗	① (7.4) ②10.2 ③ 4.2	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	口縁部外面縦方向の磨き。胴部上半篋 磨き。下半篋削り。底面篋削り。	覆土	口縁一部 欠損
105-23 69	土師器 埴	① (8.3) ② (7.9)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋な で。底面篋削り。内面篋などで。	床直上	4/5
105-24 69	土師器 埴	① (8.7) ②10.2	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面縦、横、 斜方向の磨き。内面篋などで。	覆土	2/3
105-25 69	土師器 埴	① 7.4 ② (9.4)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	口縁部外面横などで後、縦方向の磨き。 胴部外面横方向の磨き。内面篋などで。	覆土	2/3
105-26 69	土師器 埴	① (4.0) ② (7.1)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面篋などで。刷毛目状の整形。 胴部外面篋などで。内面などで。輪積み痕 残る。	覆土	口縁～胴 部1/2
105-27 69	土師器 埴	① 7.7 ②11.1	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り 後、などで、磨き。輪積み痕残る。内面 などで。	覆土	完形
105-28 69	土師器 埴	①(11.8)②14.7 ③ (5.2)	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄橙色	口縁部内外面横などで。外面刷毛目状の 整形。胴部外面篋などで。内面刷毛目状 の整形。	覆土	1/2
105-29 69	土師器 埴	① 12.8 ②(12.2)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り 後、などで。内面篋などで。輪積み痕残る。	覆土	1/2
105-30 69	土師器 埴	①(13.3) ②(14.2)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横などで後、縦方向の磨き。 胴部外面篋などで。内面篋などで。	覆土	1/3
105-31 69	土師器 埴	②(10.0) ③ 3.9	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	胴部外面下半篋削り。上半篋などで。内 面篋などで。胴部中位に焼成後の穿孔。	覆土	口縁部欠 損
105-32 69	土師器 埴	② (6.9)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	胴部外面篋などで。内面刷毛目状の整形。 などで。	覆土	胴下半部
105-33 69	土師器 小型甗	① 13.3 ② (6.9)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	口縁部内外面横などで。外面篋などで。胴 部外面篋などで。内面篋などで。	覆土	口縁～胴 部上半
105-34 69	土師器 甗	①(20.0) ②(11.9)	①中・細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面と胴部内外面荒れている。	覆土	口縁～胴 部上半
106-35 69	土師器 甗	①(18.7) ②(14.4)	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部内外面横などで。胴部内外面荒れ ている。指頭丘痕。	P 5 周 辺	口縁～胴 部上半

第4章 荒砥中屋敷II遺跡

図番	P	L	器種	遺存状況	石材	全長	幅	厚	重量	孔径 (cm・g)	出土状況
106-36	69		石製模造品 剣形	完形	滑石	4.5	2.4	0.4	8	0.2	覆土
106-37	69		石製模造品 剣形	完形	滑石	4.4	1.3	0.3	2	0.2	覆土
106-38	69		石製模造品 剣形	完形	滑石	3.2	1.4	0.4	2	0.2	覆土
106-39	69		石製模造品 剣形	完形	滑石	4.5	1.1	0.3	1	0.2	覆土
106-40	69		石製模造品 剣形	先端部欠損	滑石	2.9	1.3	0.4	3	0.2	覆土

4号住居跡 (第107・108図 PL.36)

位置 18I-2・3グリッドにおいて検出された。6号住居跡の北約38mの所に位置している。

形状 5号住居跡によって壊されており、全容は不明であるが、一辺3.6mを測る。

方位 不明であるが、ピットの配置状況からN-108°-Eの可能性もある。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約46~59cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約6.3m²。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。5号住居に壊されてしまったものであろう。ピットの配置状況から判断すれば5号住居P2の東側に存在した可能性が考えられる。

柱穴 4個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴になる。P1の深さは33cm、P2深さ40cm、P3深さ38cm、P4深さ42cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 遺物の出土はほとんどなかった。

時期 不明。

備考 5号住居によって壊されている。

5号住居跡 (第107・108図 PL.36・37)

位置 18I-2・3、18J-2・3グリッドにかけて検出された。6号住居跡の北約38mの所に位置している。

形状 4号住居跡を壊している。長辺約5.2m、短辺約3.9mである。

方位 N-108°-E。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約21~63cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約17.8m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄り、壁を掘り込んで構築されている。竈の規模は、長さ120cm、幅110cm、焚き口幅45cmである。

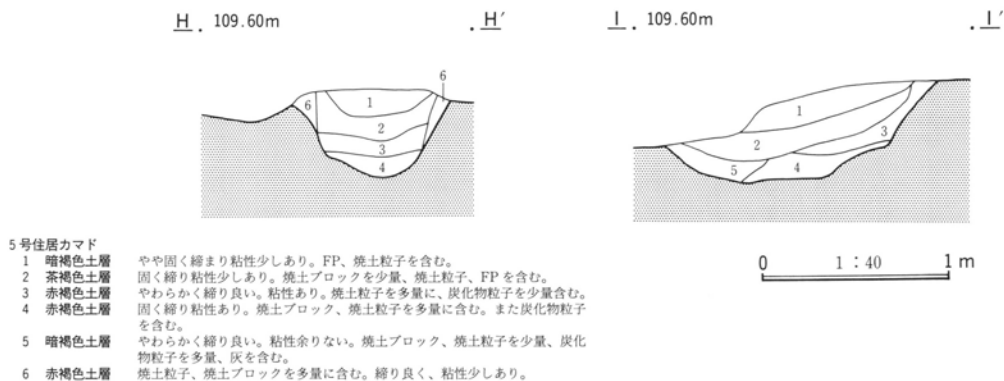
柱穴 4個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴になる。P1の深さは30cm、P2深さ38cm、P3深さ33cm、P4深さ31cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

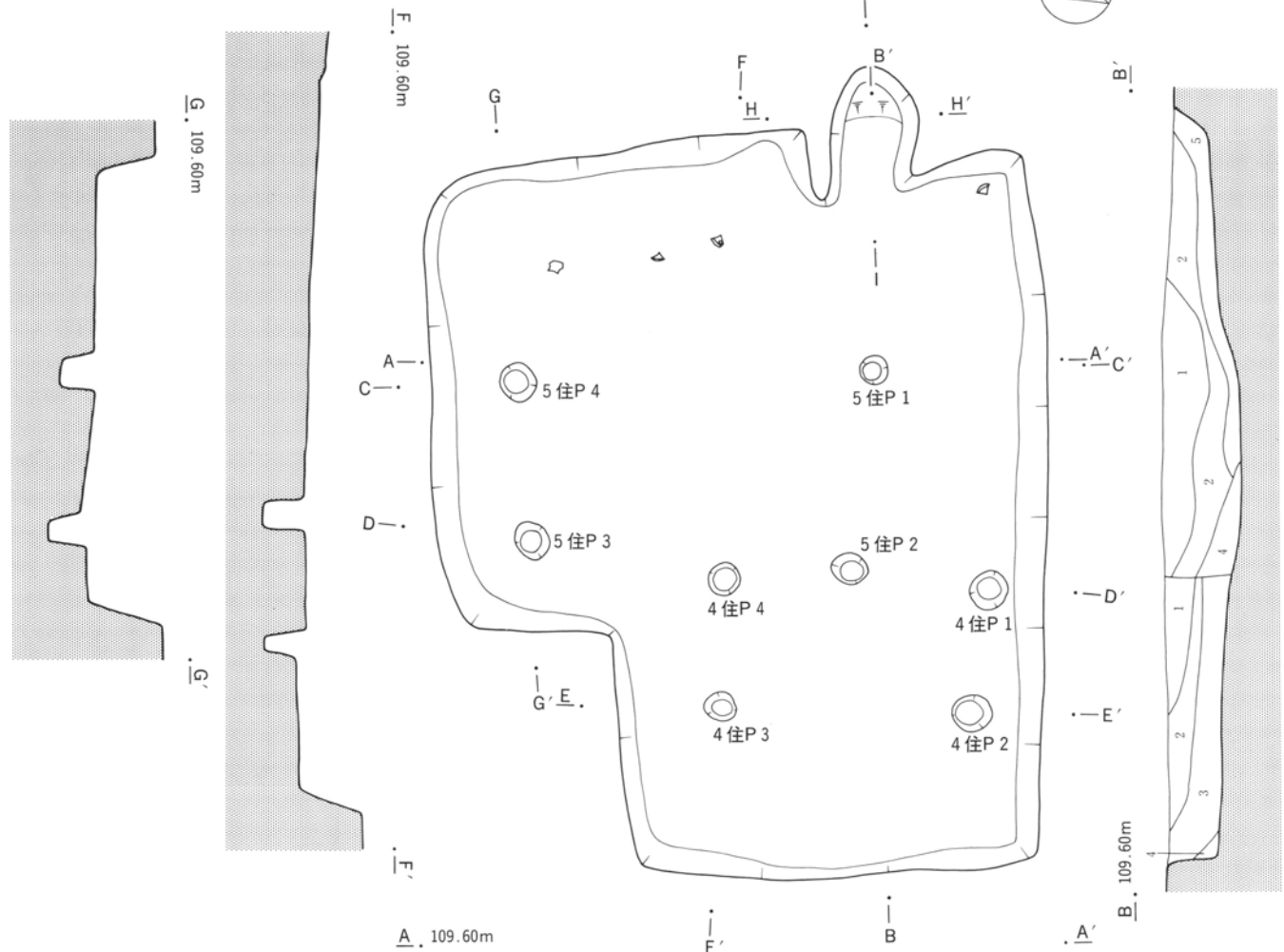
遺物 覆土からごく少量の遺物が出土している。

時期 古墳時代。

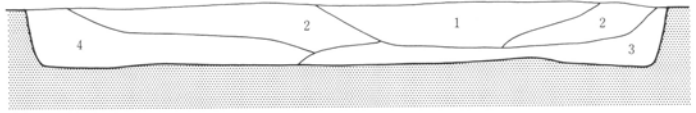
備考 4号住居を壊している。



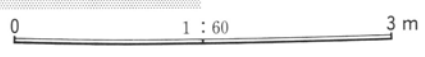
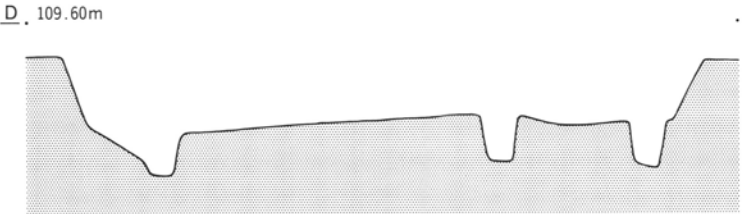
第107図 4号・5号住居跡(1)



- 4号住居跡
- 1 暗褐色土層 やわらかく粘性ほとんどない。FPを少量含む。
 - 2 黒色土層 やわらかくサラサラしている。FPを少量含む。
 - 3 暗褐色土層 やや固く締まり粘性少しあり。FPを少量含む。また、ローム粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 4 灰黄色土層 粘性なくサラサラしている。



- 5号住居跡
- 1 茶褐色土層 やや固く締まり悪い。粘性少しあり。FP、焼土粒子を少量含む。
 - 2 茶褐色土層 1層よりやや暗い色調。やや固いが締まり悪い。粘性少しあり。FPを含む。
 - 3 暗褐色土層 固く締まり粘性あり。FP、炭化物粒子、焼土粒子を極少量含む。
 - 4 暗褐色土層 固いが締まり良くない。FPを極少量含む。
 - 5 茶褐色土層 やや固く締まり粘性少しあり。FPを少量含む。焼土粒子を多量に、炭化物粒子を少量含む。



第108図 4号・5号住居跡(2)

第4章 荒砥中屋敷II遺跡

6号住居跡 (第109・110図 PL.37・70)

位置 18K-11、18L-11グリッドにかけて検出された。7号住居跡の北東約2.5mの所に位置している。

形状 長辺約4.3m、短辺約3.5mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約33~44cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約13.2㎡。

周溝 検出できなかった。

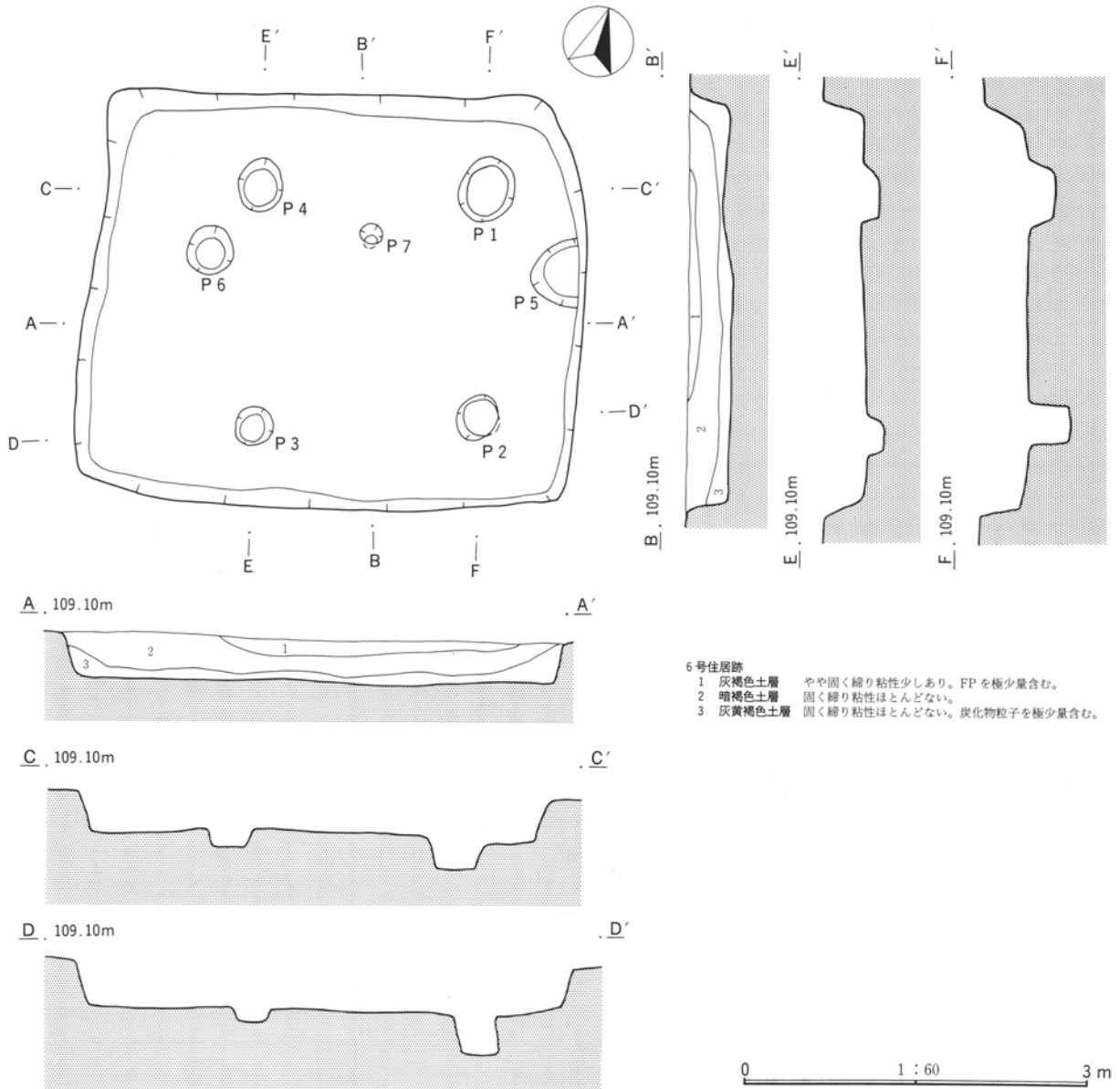
竈 検出できなかった。

柱穴 7個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴になるものと考えられる。P1の深さは24cm、P2深さ43cm、P3深さ13cm、P4深さ16cmである。いずれのピットも規模はやや大きいものの比較的浅い。P5は深さ24cm、P6深さ27cm、P7深さ20cmである。

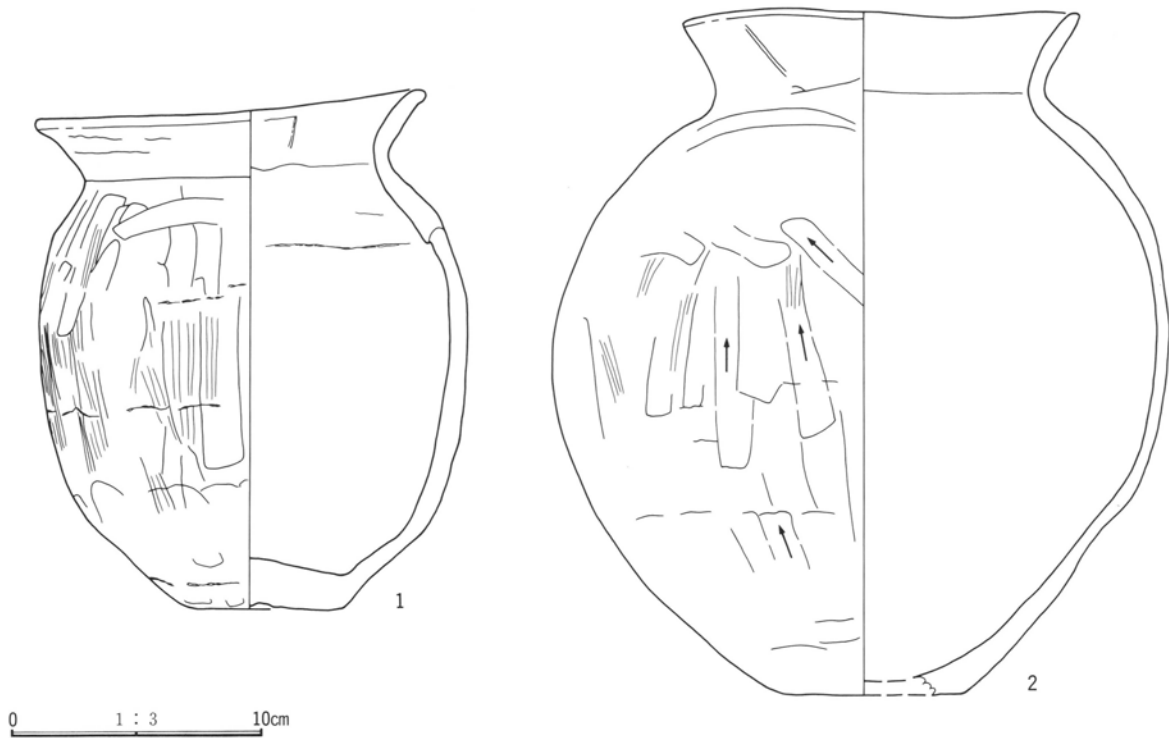
貯蔵穴 P5が該当するかもしれないが、明瞭ではない。

遺物 覆土から少量の遺物が出土している。

時期 古墳時代。



第109図 6号住居跡



第110図 6号住居跡出土遺物

荒砥中屋敷Ⅱ・6号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
110-1 70	土師器 甕	①(15.3)②20.4 ③(6.6)	①粗・細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③黒褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋なで、磨き。内面篋なで。	覆土	3/4
110-2 70	土師器 甕	①(15.6)②27.0 ③(7.2)	①粗・細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③黒褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面篋削り、輪積み痕。内面篋なで。	覆土	2/3

7号住居跡 (第111・112図 PL.37・38・70)

位置 18I-12、18J-11・12グリッドにかけて検出された。6号住居跡の南西約2.5mの所に位置している。

形状 長辺4.7m、短辺3.6mの長方形を呈している。

方位 N-85°-E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約39~61cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約12.7㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 南東隅から壁の外に向かって構築されている。竈の規模は、長さ約95cm、幅約80cm、焚き口幅約40cmである。

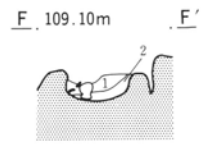
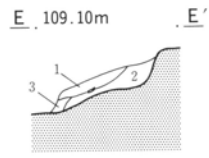
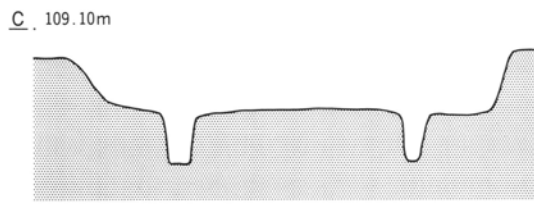
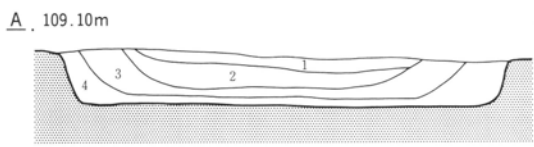
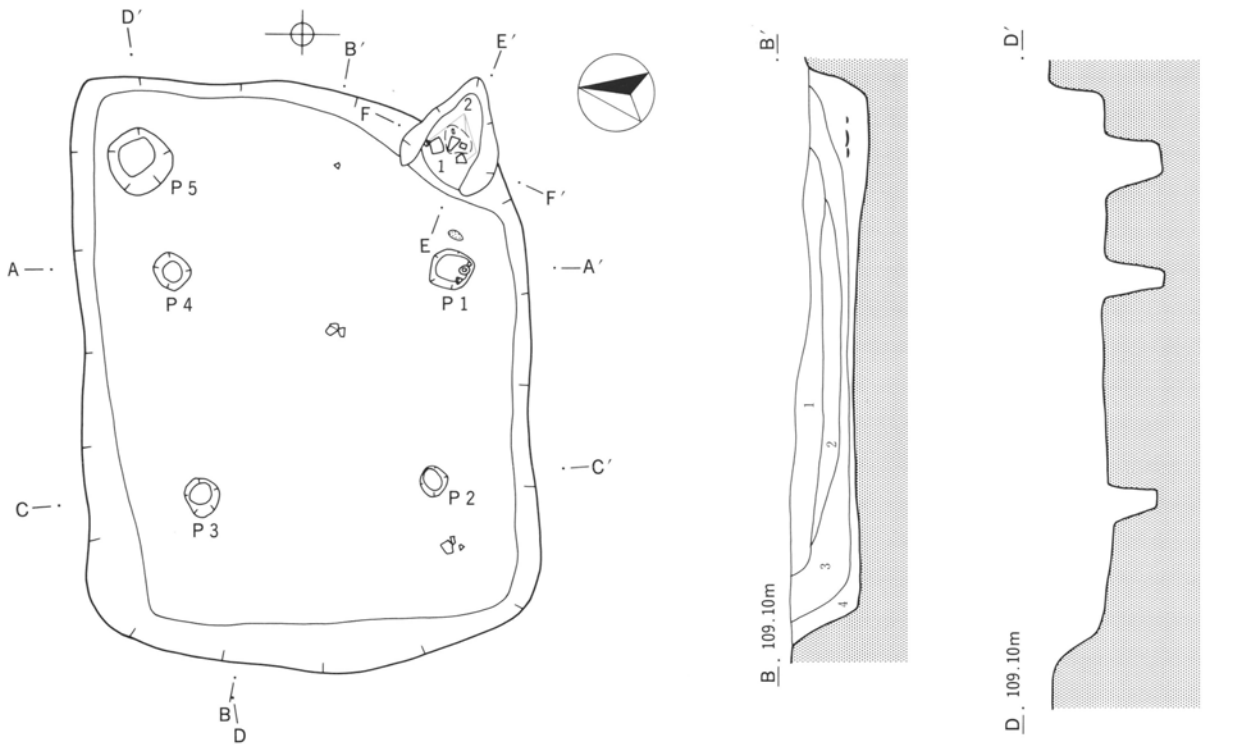
柱穴 5個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴になる。P1の深さは25cm、P2深さ37cm、P3深さ37cm、P4深さ46cm、P5は貯蔵穴になる。

貯蔵穴 P5が該当する。長径50cm、短径48cm、深さ46cmである。

遺物 竈内から出土している。

時期 古墳時代。

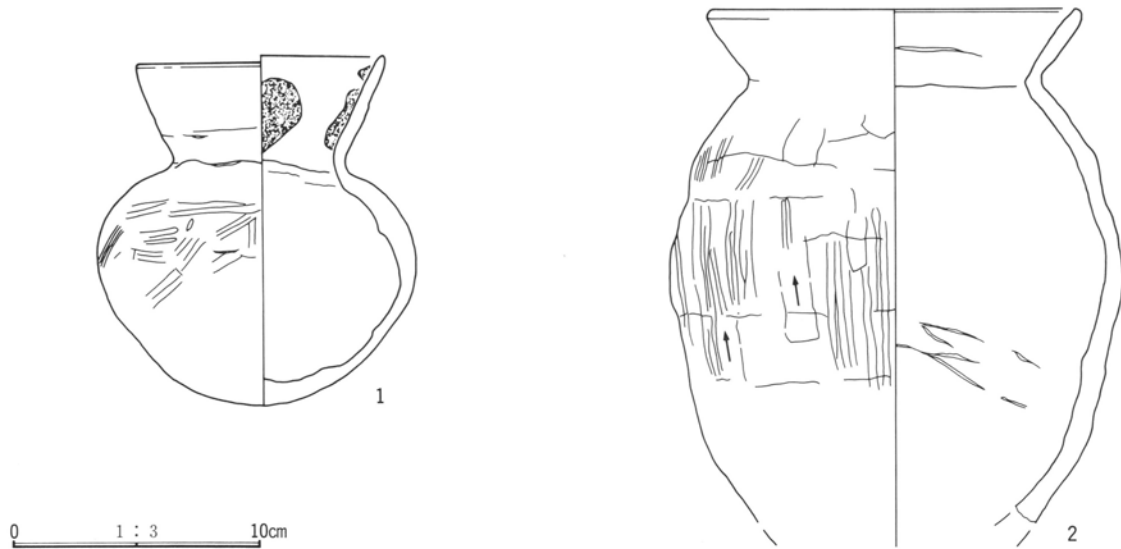
第4章 荒砥中屋敷II遺跡



- 7号住居跡
- 1 黒褐色土層 やわらかくサラサラしている。FPを少量含む。
 - 2 黒色土層 やわらかくサラサラしている。FPを多量に含む。
 - 3 暗褐色土層 やわらかくサラサラしている。FPを少量含む。
 - 4 灰黄褐色土層 炭化物粒子を極少量含む。
- 7号住居カマド
- 1 赤褐色土層 やや固く粘性あり。焼土ブロック、焼土粒子を多量に含む。
 - 2 赤褐色土層 やや固く粘性少しあり。焼土粒子を多量に含む。1層より暗い色調。
 - 3 黒褐色土層 やや固く粘性少しあり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。

0 1:60 3 m

第111図 7号住居跡



第112図 7号住居跡出土遺物

荒砥中屋敷II・7号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
112-1 70	土師器 埴	① 9.9 ②13.7	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③浅黄橙色	口縁部内外面横など。胴部外面篋などで、磨き。内面など。	カマド 内	完形
112-2 70	土師器 甕	①(14.2) ②(20.2)	①粗・細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③灰黄褐色	口縁部内外面横など。胴部外面篋削り後、磨き。輪積み痕。内面篋など。	カマド 内	1/2

8号住居跡 (第113~115図 PL.39・70・71)

位置 18J-13・14、18K-13・14グリッドにかけて検出された。7号住居跡の南約4mの所に位置している。

形状 長辺5.6m、短辺5.3mの方形を呈している。

方位 N-93°-E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約35~72cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約26.2㎡。

周溝 検出できなかった。

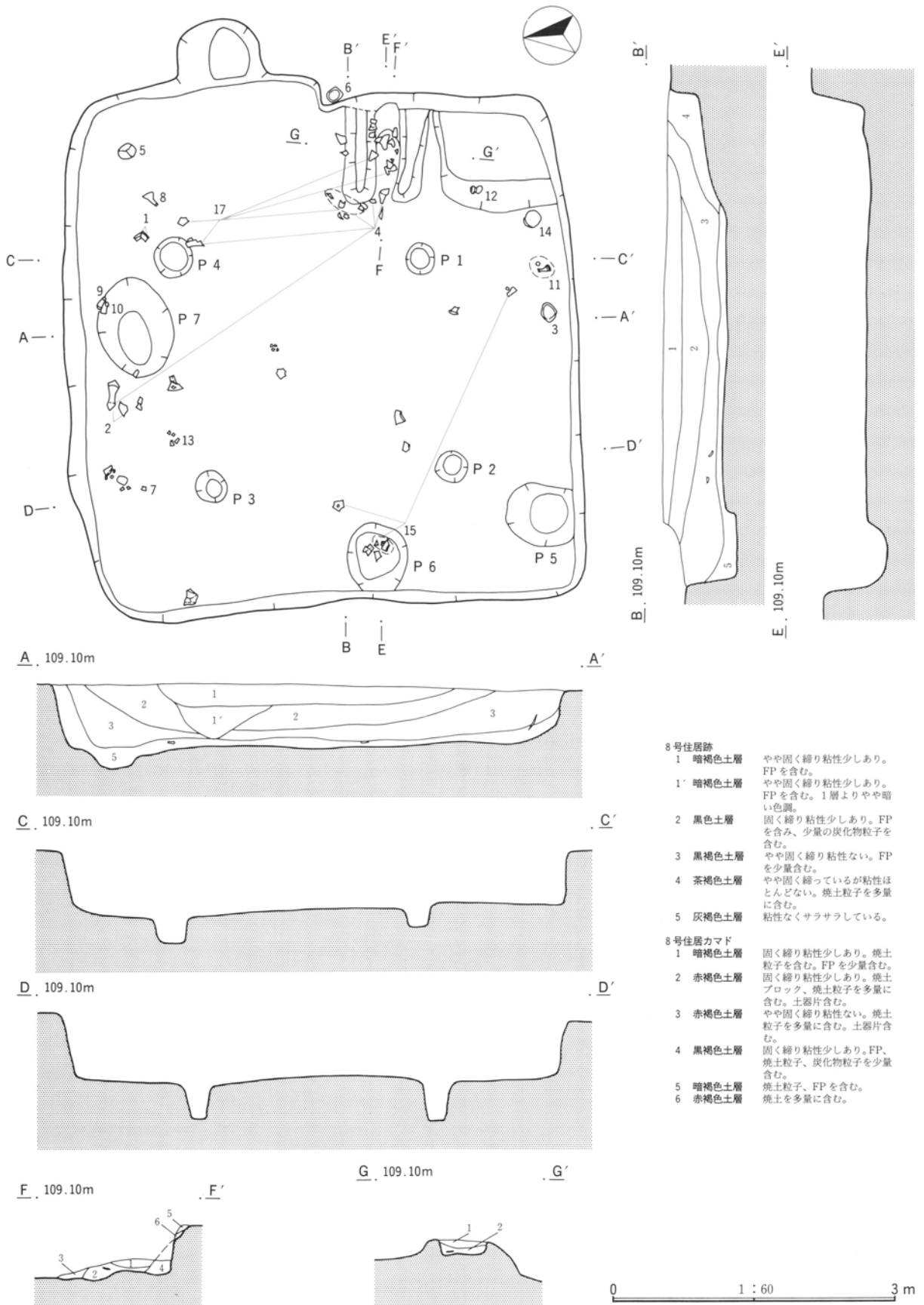
竈 東壁のやや南寄り、壁の内側に構築されている。竈の規模は、長さ約105cm、幅約80cm、焚き口幅約20cmである。

柱穴 7個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴になる。P1の深さは37cm、P2深さ41cm、P3深さ35cm、P4深さ26cmである。P5深さ31cm、P6深さ17cm、P7深さ29cmである。

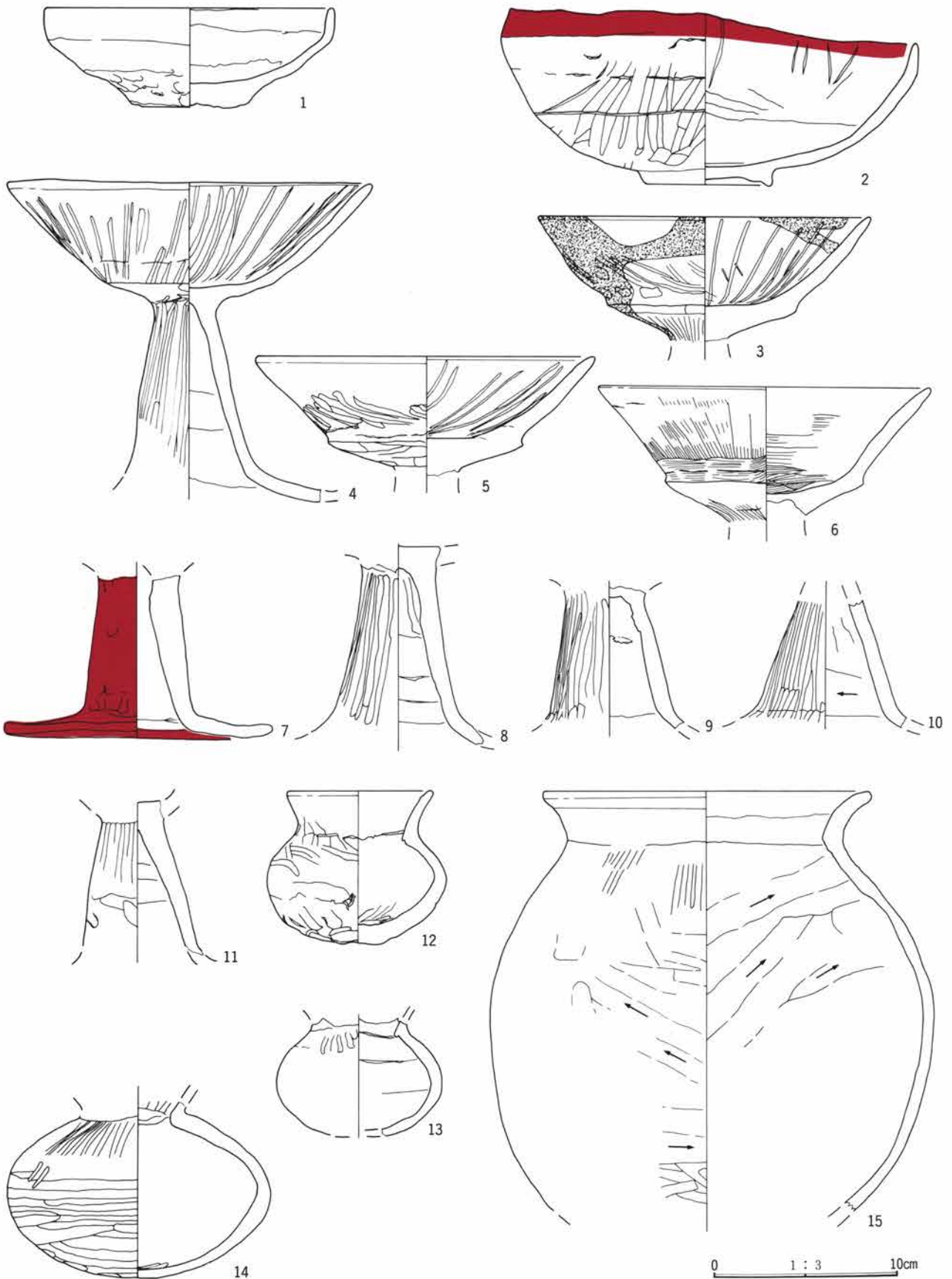
貯蔵穴 竈の右、南東隅に存在する。長径105cm、短径100cm、深さ34cmである。

遺物 竈内や床直上から少量出土している。

時期 古墳時代中期 (5世紀後半)。

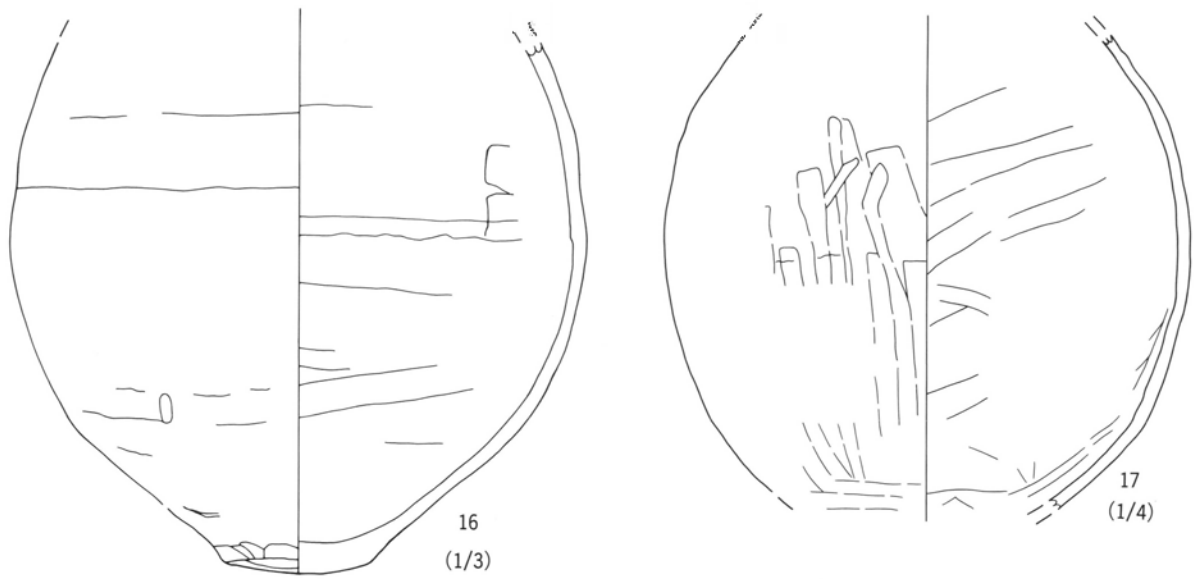


第113図 8号住居跡



第114図 8号住居跡出土遺物(1)

第4章 荒砥中屋敷II遺跡



第115図 8号住居跡出土遺物(2)

荒砥中屋敷II・8号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)			①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
		①口径	②器高	③底径				
114-1 70	土師器 坏	①(15.6)② 5.3 ③ (6.0)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	体部外面篋などで。口縁部内外面横などで。内面荒れている。底面篋などで。	覆土	1/2		
114-2 70	土師器 鉢	①(19.7)② 9.3 ③ 6.6	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	体部外面篋削り後、などで。輪積み痕。口縁部内外面横などで。内面篋などで。底面篋削り。赤色塗彩。	床直上	2/3		
114-3 70	土師器 高坏	① 17.5 ② (6.5)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部外面篋磨き。口縁部内外面横などで。内面放射状の磨き。	覆土	脚部欠損		
114-4 70	土師器 高坏	① 19.6 ②(16.7)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部外面縦方向の磨き。内面放射状の磨き。脚部外面篋磨き。内面篋削り。絞り目。	カマド	3/4		
114-5 70	土師器 高坏	① 18.4 ② (6.1)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	坏部外面篋削り後、磨き。口縁部内外面放射状の磨き。	床直上	脚部欠損		
114-6 70	土師器 高坏	① 17.5 ② (7.1)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	坏部外面刷毛目状の整形。口縁部内外面横などで。内面刷毛目状の整形。	カマド 周辺	坏部3/4		
114-7 70	土師器 高坏	② (8.6) ③ 14.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄褐色	脚部外面篋などで。内面篋削り後、などで。裾部内外面などで。赤色塗彩。	床直上	脚部4/5		
114-8 70	土師器 高坏	②(10.4)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	脚部外面篋磨き。内面輪積み痕、絞り目が残る。	床直上	脚部		
114-9 70	土師器 高坏	② (7.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	脚部外面縦方向の篋磨き。内面篋削り、などで。	床直上	脚部1/2		
114-10 70	土師器 高坏	② (6.8)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	脚部外面縦方向の篋磨き。内面篋削り、絞り目。	床直上	脚部1/2		
114-11 70	土師器 高坏	② (8.1)	①細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	脚部外面篋などで、磨き。内面篋削り。	覆土	脚部1/3		
114-12 71	土師器 罎	① 7.8 ② 8.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋などで。輪積み痕。内面篋などで。	貯蔵穴	ほぼ完形		
114-13 71	土師器 罎	② (6.1)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	胴部外面篋などで。内面輪積み痕が残る。	床直上	1/4		
114-14 71	土師器 罎	② (9.3) ③ 2.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面篋削り後、上半縦方向、下半横方向の磨き。内面篋などで。	覆土	口縁部欠損		
114-15 71	土師器 甕	① 17.0 ②(22.4)	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。胴部外面篋削り、磨き。内面篋削り。	覆土	1/4		
115-16 71	土師器 甕	②(20.7) ③ 5.4	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面篋などで。輪積み痕残る。内面篋などで。輪積み痕残る。	覆土	胴～底部		
115-17 71	土師器 甕	②(24.2)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	胴部外面篋削り。内面篋などで。	床直上 カマド	胴部1/4		

2

小鍛冶

小鍛冶 (第116~119図 PL.40・71)

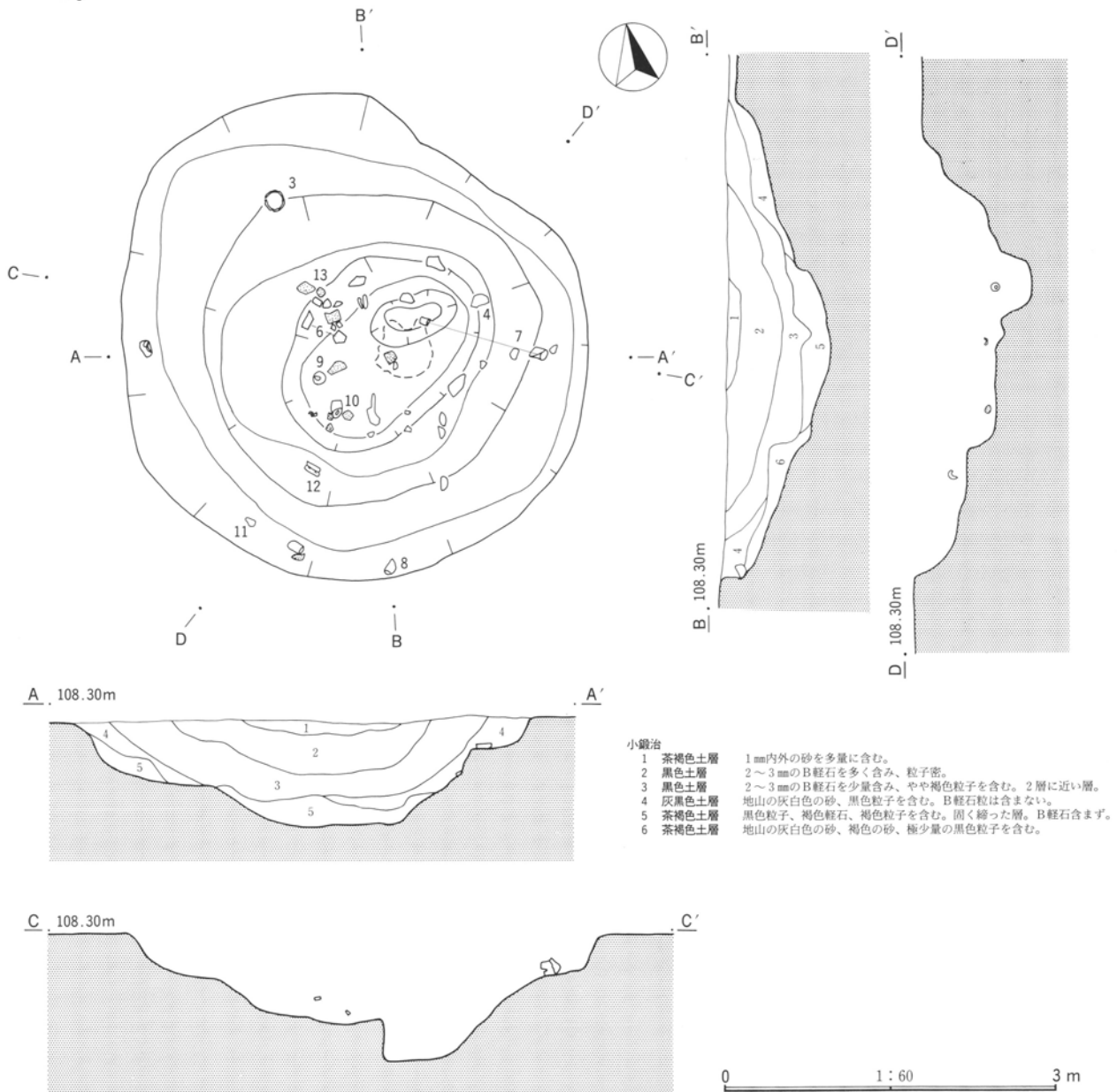
位置 13G-19、13K-19、17G-0、17K-0グリッドにかけて検出された。3号住居跡の北東約60mのところに位置している。

形状 長径4.5m、短径4.2m、深さ約1mの楕円形を呈している。2段に掘り込まれている。

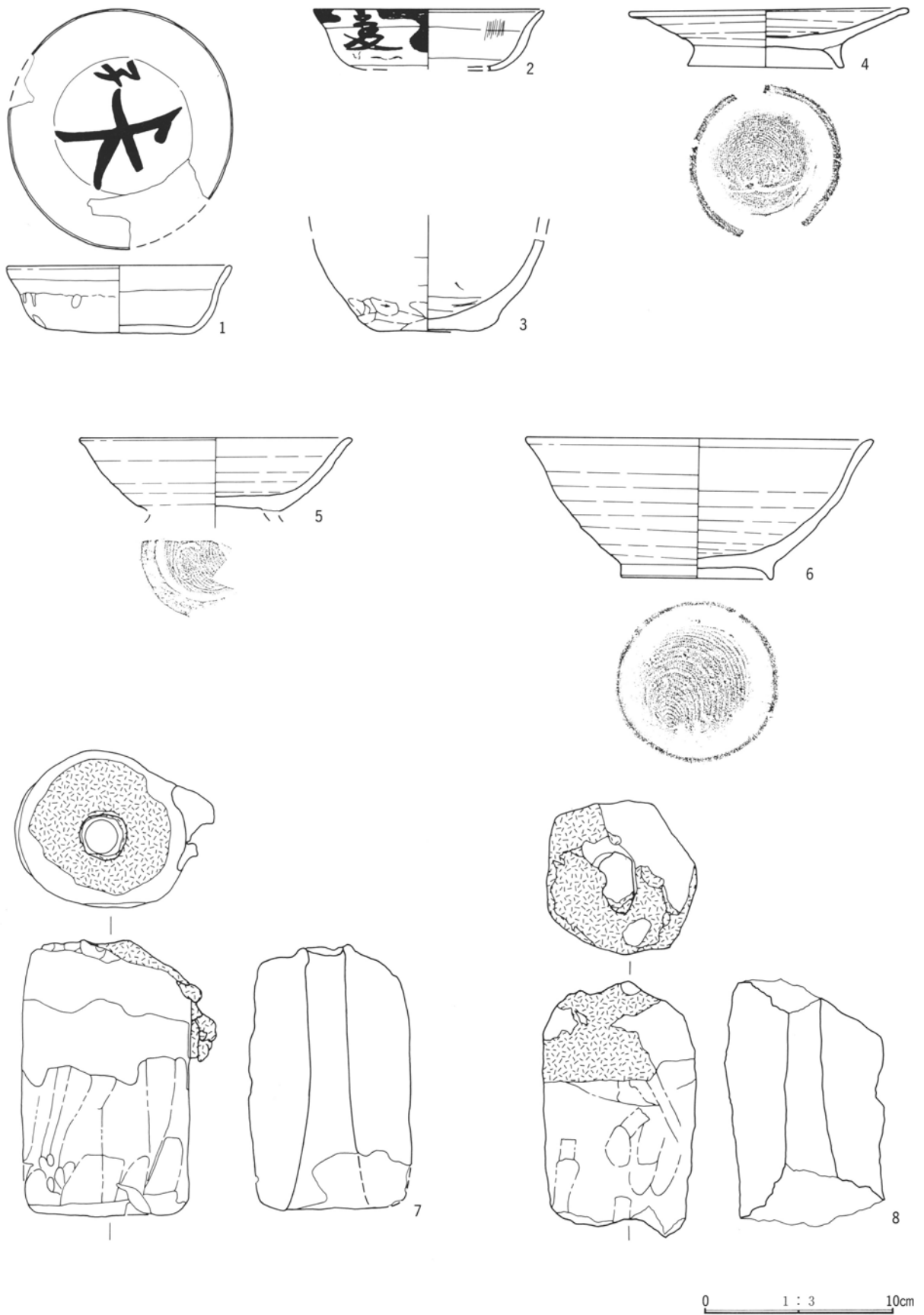
覆土 6層に分かれた。2・3層にAs-Bが混入している。

遺物 5・6層を中心に鉄碎とともに出土している。

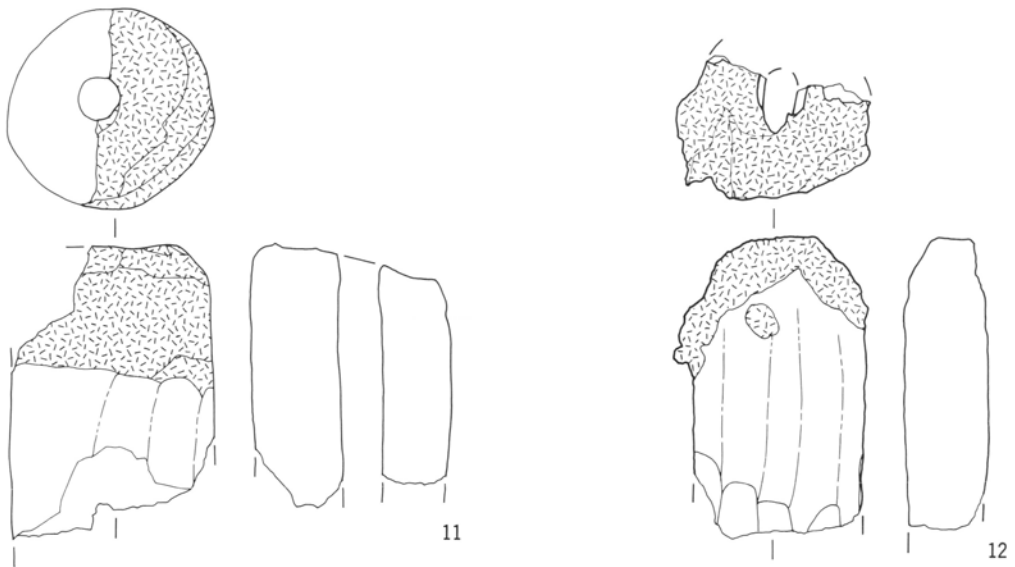
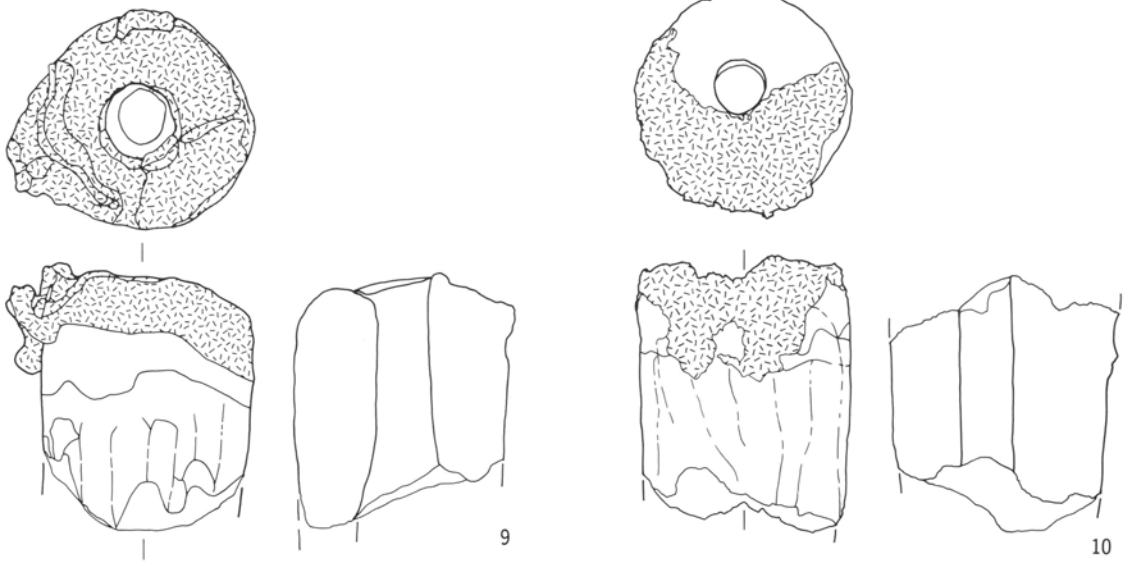
時期 平安時代。



第116図 小鍛冶



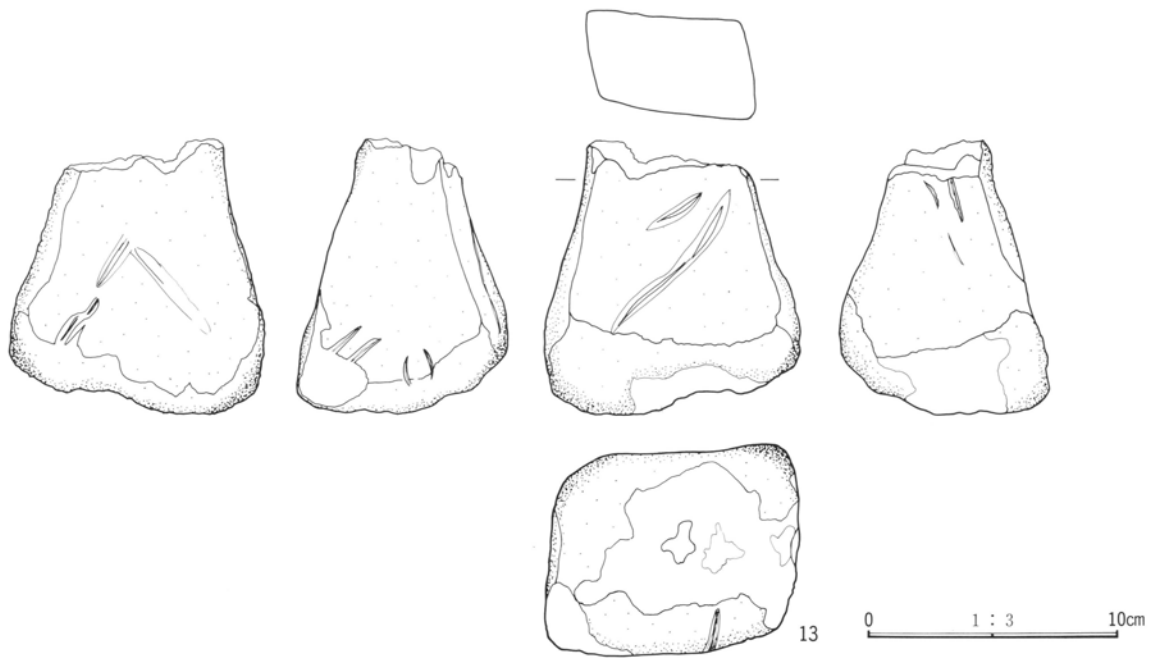
第117図 小鍛冶出土遺物(1)



0 1 : 3 10cm

第118図 小鍛冶出土遺物(2)

第4章 荒砥中屋敷II遺跡



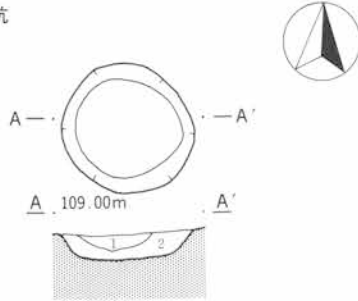
第119図 小鍛冶出土遺物(3)

荒砥中屋敷II・小鍛冶遺構

図 番 P L	土器種別 器 種	法 量 (cm)			①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出 土 状 況	残存状況
		①口径	②器高	③底径				
117-1 71	土 師 器 坏	① 11.6	② 3.5	③ 7.9	①細砂 黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい橙色	体部など。口縁部内外面横など。内面 など。底面篋削り。墨書。		4/5
117-2 71	土 師 器 坏	①(12.0)	② (3.1)		①細砂 黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部など。口縁部内外面横など。底部 篋削り。墨書。		1/4
117-3 71	土 師 器 甕	② (4.8)	③ (5.2)		①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	胴下半篋など。内面篋など。底面篋削 り。		胴下半部
117-4 71	須 恵 器 皿	① 14.7	② 3.0	③ 8.0	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②還元焙 ③灰オリーブ色	右回転ロクロ整形。高台貼付。		ほぼ完形
117-5 71	須 恵 器 塊	① 14.3	② (4.0)	③ 6.5	①細 褐・黒色細粒物を含む ②還元焙 ③灰白色	右回転ロクロ整形。高台貼付。		1/4
117-6 71	須 恵 器 塊	① 18.0	② 7.2	③ 7.8	①細 白・黒色細粒物を含む ②還元焙 ③灰白色	右回転ロクロ整形。高台貼付。		2/3
117-7 71	羽 口	長 14.1 幅 8.7 厚 8.4			①白色粒子・鉍物粒を含む ②硬 ③橙色	先端は硬化発泡し、鉄分の滓物附着。	覆土下 層	ほぼ完形
117-8 71	羽 口	長(12.3) 幅 7.9 厚 7.9			①白色粒子・鉍物粒を含む ②硬 ③橙色	先端に硬化物附着。	壁寄り	ほぼ完形
118-9 71	羽 口	長(10.0) 幅 8.5 厚 8.5			①白色粒子・鉍物粒を含む ②硬 ③にぶい黄橙色	先端は硬化発泡し、鉄分の滓物附着。	覆土下 層	2/3
118-10 71	羽 口	長 (9.0) 幅 8.4 厚 8.9			①白色粒子・鉍物粒を含む ②硬 ③浅黄橙色	先端に硬化物附着。	覆土中 層	3/4
118-11 71	羽 口	長(10.4) 幅 8.0 厚 7.9			①白色粒子・鉍物粒を含む ②硬 ③橙色	先端に硬化物附着。	覆土上 層	2/3
118-12 71	羽 口	長(11.5) 幅 (7.8)厚 (3.4)			①白色粒子・鉍物粒を含む ②硬 ③にぶい黄橙色	先端は硬化発泡し、鉄分の滓物附着。	壁寄り	1/2

図 番 P L	器 種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm・g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
119-13 71	砥 石	部分	溶岩	10.8	10.0	8.3	670	4面使用。	覆土

1号土坑



- 1号土坑
 1 暗褐色土層 やや固く締まり粘性ほとんどない。FPを少量含む。
 2 暗褐色土層 軟らかく締まり良い。粘性少しあり。

1号土坑 (第120図 PL.41)

位置 18L-10グリッドにおいて検出された。6号住居跡の北東約1.5mの所に位置している。

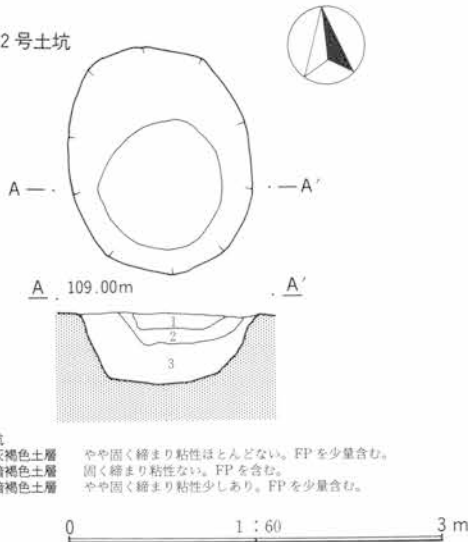
形状 長径約105cm、短径約98cm、深さ約18cmのほぼ円形を呈している。

覆土 2層に分かれた。

遺物 出土していない。

時期 不明。

2号土坑



- 2号土坑
 1 灰褐色土層 やや固く締まり粘性ほとんどない。FPを少量含む。
 2 暗褐色土層 固く締まり粘性ない。FPを含む。
 3 暗褐色土層 やや固く締まり粘性少しあり。FPを少量含む。

2号土坑 (第120図 PL.41)

位置 18J-12グリッドにおいて検出された。7号住居跡の南約1.3mの所に位置している。

形状 長径約180cm、短径約150cm、深さ約55cmの楕円形を呈している。

覆土 3層に分かれた。

遺物 出土していない。

時期 不明。

第120図 1号・2号土坑

支排29号発掘区検出の溝 (第121・122図 PL.41~43)

覆土に As-C層を含む溝

位置 16C-0~16F-0グリッドにかけて検出された。覆土に As-B層を含む溝によって壊されている。1号住居跡の北北西約55mのところに位置している。

形状 幅160~220cm、深さ40~80cm、長さ約28m、調査区域外に延びている。

覆土 上層に As-C層が堆積している。

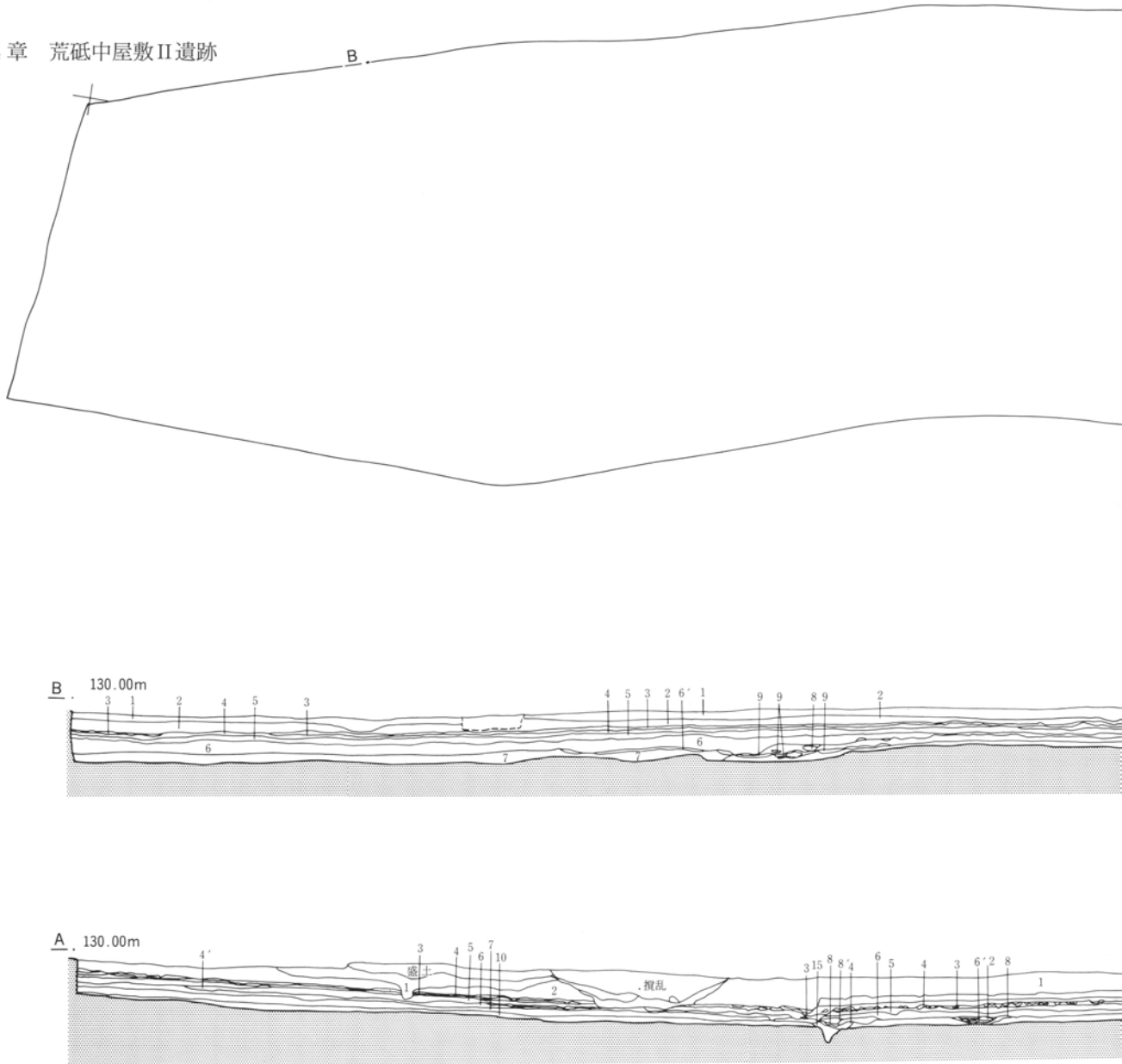
遺物 出土していない。

時期 As-Cを含むことから4世紀代にはすでに埋没していた溝である。

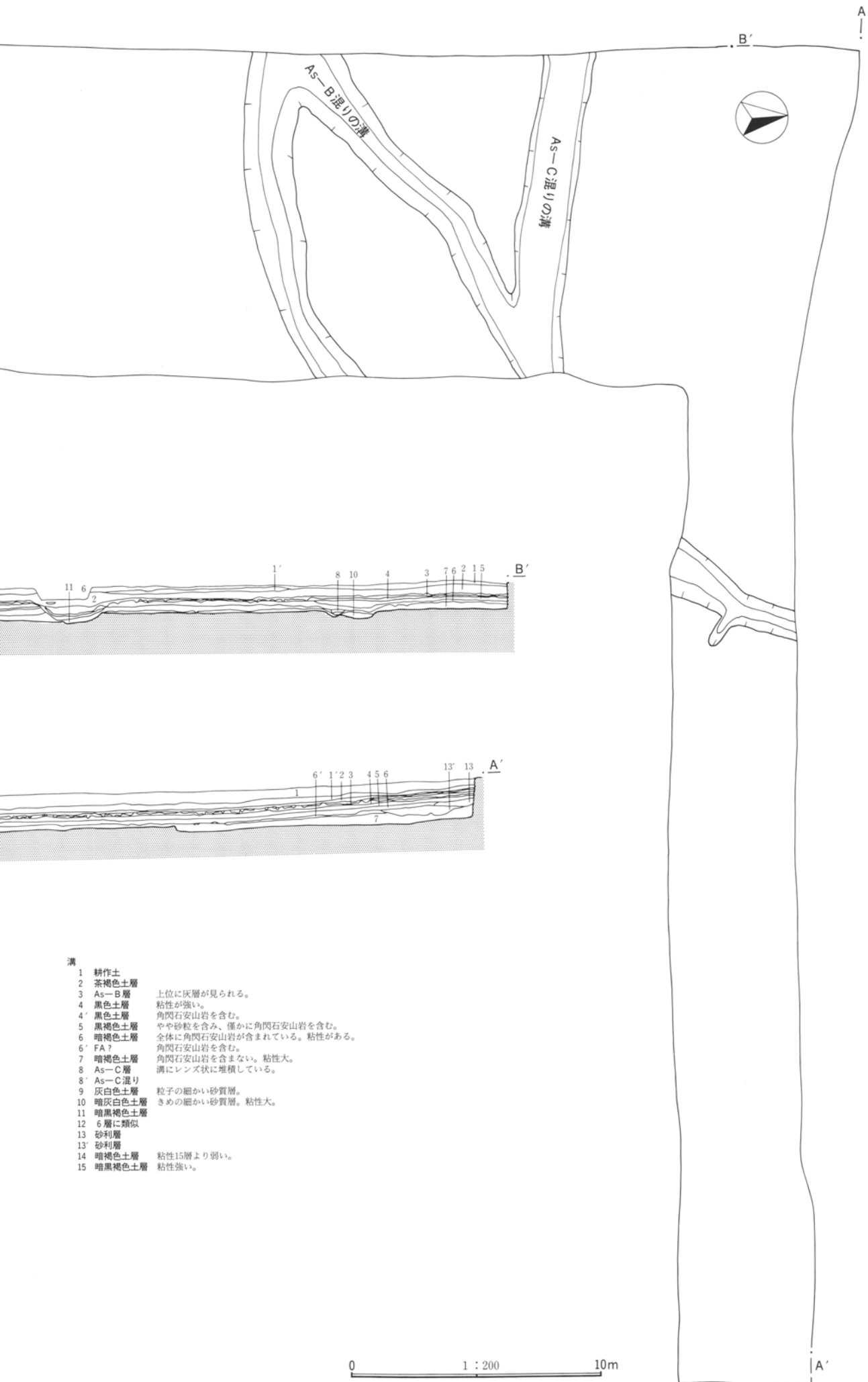
覆土に As-B層を含む溝

位置 16C-2・3、16D-1~3、16E-1~3、16D-1・2グリッドにかけて検出された。覆土に As-C層を含む溝を壊している。1号住居跡の北北西約45mのところに位置している。

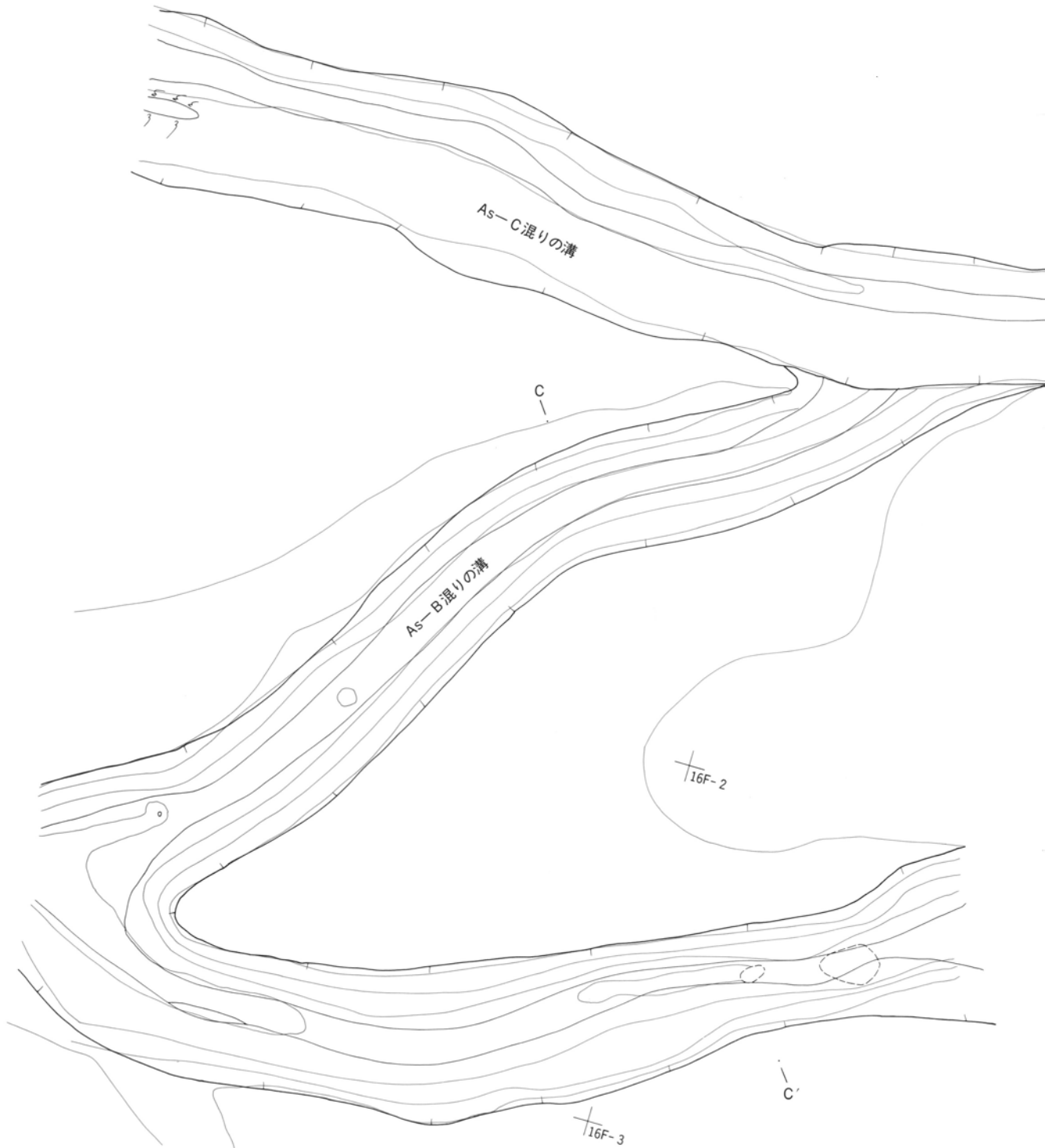
形状 発掘区で分岐している。北側は幅152~180cm、深さ100cm、長さ約16m、調査区域外に延びている。南側も北側と同様に幅152~220cm、深さ100cm、長さ



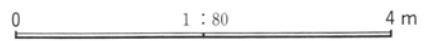
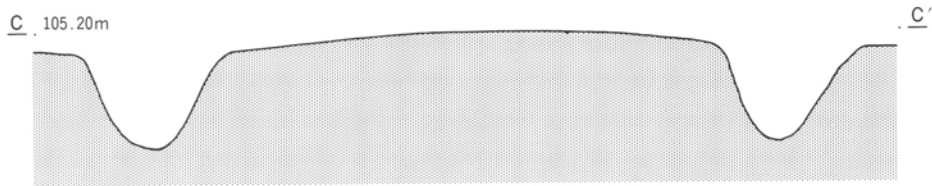
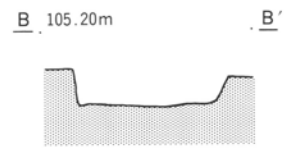
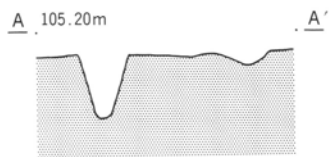
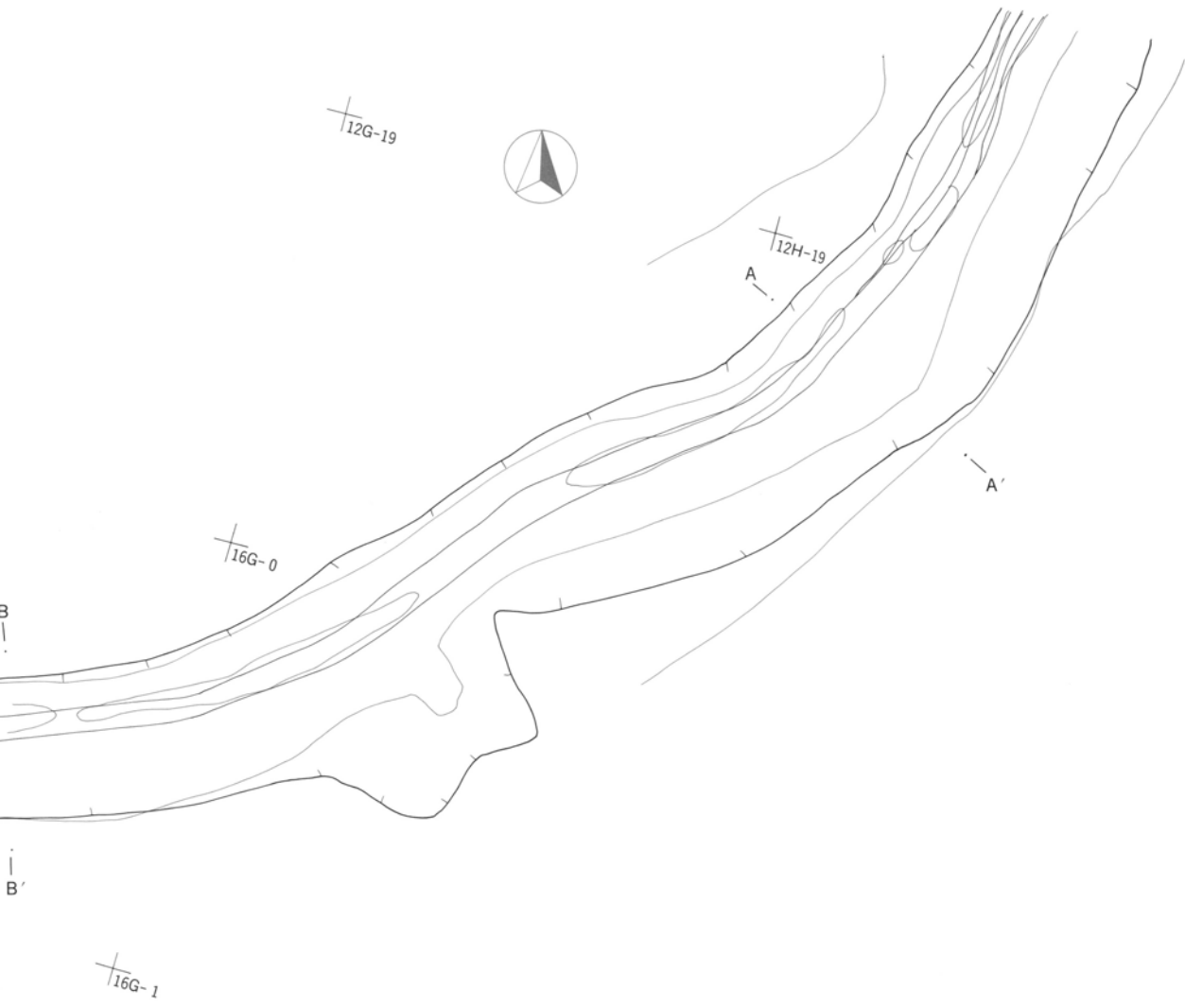
第121図 支排29号発掘区



- 溝
- 1 耕作土
 - 2 茶褐色土層
 - 3 As-B層 上位に灰層が見られる。
 - 4 黒色土層 粘性が強い。
 - 4' 黒色土層 角閃石安山岩を含む。
 - 5 黒褐色土層 やや砂粒を含み、僅かに角閃石安山岩を含む。
 - 6 暗褐色土層 全体に角閃石安山岩が含まれている。粘性がある。
 - 6' FA? 角閃石安山岩を含む。
 - 7 暗褐色土層 角閃石安山岩を含まない。粘性大。
 - 8 As-C層 溝にレンズ状に堆積している。
 - 8' As-C混り
 - 9 灰白色土層 粒子の細かい砂質層。
 - 10 暗灰白色土層 きめの細かい砂質層。粘性大。
 - 11 暗黒褐色土層
 - 12 6層に類似
 - 13 砂利層
 - 13' 砂利層
 - 14 暗褐色土層 粘性15層より弱い。
 - 15 暗黒褐色土層 粘性強い。



第122図 支排29号発掘区検出の溝



第4章 荒砥中屋敷II遺跡

13m、調査区域外に延びている。

覆土 中層にAs-Bの純層が堆積している。

遺物 出土していない。

時期 As-Bの純層を含むことから、1108年以前にはすでに埋没していた溝である。

8号住居跡出土の石製紡錘車について

8号住居跡から9個の石製紡錘車が出土している。このように一軒の住居から大量に出土した例は県内はもとより、国内でも例を見ないであろう。

県内の出土紡錘車の検討から、9個の紡錘車に見られる形や整形の特色と一住居から出土した9個という出土量がとび抜けて多いことを説明する。そしてこの9個の紡錘車は土製から石製へ、断面形が長方形から台形へと変化し登場する第2段階の紡錘車中で、最も古い一群の製品であることを紹介する。

8号住居の概要

本報告書で詳しく報告されているように極めて大きな竪穴住居であり、出土遺物の多さも群を抜いて多い。深い6本の柱を持ち、規模は10m×10.2mである。この規模以上の住居は県内では尾島町の尾島工業団地OK-C1号住居、新里村十二社遺跡H-365号住居、富岡市阿曾岡・権現堂遺跡II区96号住居、吉井町多比良押追良野遺跡D区140号住居の4軒が知られる程度である。出土遺物は9個の紡錘車を始めとして高さ60.6cmの大きな甕や多量の坏・高坏・甕・壺・石製模造品等が出土しており、本書の中で118個報告されている。いずれにしてもこの地域の中で卓越した力を持っていたことを示している。

県内の紡錘車の動向

県内出土紡錘車は材質や形の変化から大きく3段階に分けられる。

- 1段階 材質が土製で断面形が長方形
(弥生時代～古墳時代前期)
- 2段階 材質が石製で断面形が台形
(古墳時代中期～奈良時代)
- 3段階 材質が石製で断面形が台形+鉄製の紡錘車
(平安時代)

さらに約100年を単位として変化を表現したのが次の表である。

表で明らかなように、第1段階の弥生時代から古墳時代の前期までは土製で長方形の紡錘車が圧倒的に多く、石製で長方形のものは使われていない。ほかに三角形で土製のものと石製のものが少量使われている。第2段階の古墳時代中期になると当遺跡8号住居で出土している断面台形の石製紡錘車が使われるようになり、以後平安時代まで主体的に使われている。鉄製の紡錘車は古墳時代後期で一部使用され、奈良時代からしだいに多くなり、第3段階の平安時代に一気に増加し10世紀以降石製紡錘車を追い抜き、紡錘車の主体となっている。しかし鉄製紡錘車の出現で石製紡錘車は減少しているが、消滅することなく両者とも継続的に使われている⁽²⁾。

表で明らかなように古墳時代中期の石製紡錘車は32個出土しており、当遺跡出土の10個の紡錘車はこの時期の県内全体の中で約30パーセントを占めている。また狭面端部に肩を持つ特色や伴出土器の特色からこの9個の紡錘車は第2段階における最も古い出土例の中に数えられる。

次に一軒の住居からの出土量では県内で最も大量の9個出土していることについて、比較検討する。

8号住居からは9個という大量の完形品の紡錘車が出土している。一般的に紡錘車は竪穴住居等から単体で出土することが多く、その中で複数出土した例は以下のわずか39軒であり、総数にして90個にすぎない。2個出土した例は29軒、3個出土した例は8軒、4個出土した例はわずか2軒である。5個以上出土している例は全く確認されていない。このような状況下で、一軒から9個しかも全て完形で出土していることは極めて特殊な状況である。

8号住居出土の9個の紡錘車の特色

このような状況のなかでの8号住居出土9個の石製紡錘車の特色について検討する。

- (1) 全て完形品であり、全体に薄い製品が多い。
- (2) 同一住居出土にもかかわらず、形や大きさや重量の同じものはない。

- (3) 広面・狭面・側面に描かれている文様は全て独特の文様となっており、それぞれのデザインを持っている。
- (4) この時期の紡錘車の特色は、側面と狭面が接する側面に肩部を持つことである。この肩部が明瞭であるかないかは別にして9個全ての紡錘車で認められる。遺物番号97・99・104にその肩部が明瞭に造り出されている。
- (5) 材質は全て石材であり、石材は8個が蛇紋岩で滑石片岩は1個である。

古墳時代中期における衣食住の変化

8号住居は、竈を持ち数種類の多くの坏、竈に架けて使用する甕を持っている。これらの特徴はそれ以前の住居には、認められなかった。この住居の時期を中期のどの段階に位置付けるかは、今後の課題であるが、このような生活様式の大きな変化の中の一つとして、食住の変化だけでなく、衣類の生産にも変化をもたらし、新たな糸生産の道具として石製紡錘車が採用されていったものと思われる。

また糸生産に必要な紡錘車だけでなく、布生産のための機織機も古墳中期で大きく変化し生産力を飛躍的に向上させている。これは従来弥生機あるいは原始機と呼ばれている機織（無機台貫刀杼機）とは別に上細井機と呼ばれている機織（有機台貫刀杼機）が新たに採用されてきたからである。原始機とは、布を織るためのセットがそれを支える台を用いないで、織る経糸の先端を木や柱に縛り付け固定する。織り上がりつつある布を腰の手前に布巻具を用いて巻取り腰に縛り付けて固定する。そして奇数又は偶数の経糸を中筒と綜統を用いて交互に手で持ち上げて開口し、そこに横糸を刀杼で打って布を織る原始的な布生産である。これに対し上細機とは布を織るためのセットは基本的に同じであるが、経糸を巻き取ってある経巻具と奇数と偶数の糸を分けて口を開けさせる中筒を台に固定し、手で持ち上げていた綜統を台に固定したマネキで持ち上げて開口し、そこに横糸を刀杼で打って布生産をおこなってゆく構造である。手を用いて綜統を持ち上げること、また中

筒を立てたり横にしたりする2工程が省略出来る。

この上細井機とは、群馬県前橋市上細井町稲荷山古墳（古墳時代中期前半）から出土した石製模造品（布巻具・中筒・緯打具・腰掛）をもとに考えられている。

このように古墳時代中期前半から後半にかけての時期に糸や布生産に関する大きな変革が訪れている。

この変化の兆候を石製紡錘車の出現という形でいち早く集落に反映されているのが、この8号住居の紡錘車である。

8号住居跡出土の石製紡錘車について

以上述べてきたように、当遺跡8号住居出土の石製紡錘車は、県内における第2段階の石製紡錘車出現段階の良好な資料である⁽³⁾。出土した住居が県内でも5番目の大きさを持つこと、また例のない9個の紡錘車を所有していたこと等通常でない出土状態を示しているが、新しい技術をもって始まる糸と布生産の一つのあり方を暗示している。古墳時代中期は衣食住を含めて大きく変化している社会である。この8号住居出土の石製紡錘車は、その変化の一端を強く物語る非常に貴重な出土例である。

註

- (1) 『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会群馬県実行委員会 1998の資料による。
- (2) 中沢 悟「紡錘車の基礎研究1」研究紀要13（財）群馬県埋蔵文化財調査事業 1996 参照
- (3) 当遺跡8号住居出土の紡錘車は、第2段階の中で古い一群ではあるが、この段階の最も古い石製紡錘車とは考えていない。より古い例として、西南約700mに位置する荒砥上ノ坊遺跡1区42号住居出土の石製紡錘車が、形や伴出遺物からみてもより古いものと思われる。他にも数例存在しているものと考えている。

参考文献

- 小林 行雄「古代の技術」昭和37年
- 竹内 晶子「弥生の布を織る」1989

（中沢 悟）

群馬県内における紡錘車の変遷

段階		第 1 段階		第 2 段階				第 3 段階			計	
時代		弥生時代		古墳時代				奈良時代				
世紀		2 ~ 3		4	5	6	7	8	9	10	11	
材質	断面形	中期	後期	前期	中期	後期前半	後期後半		前期	中期	後期	
土製	三角形		9	3								12
	長方形	4	67	32	3	2	1	5	13	4	2	133
	薄台形		2	2		2	2	2	15	5		30
	厚台形			3	1	13	3	3	2			25
石製	三角形		5	1	1							7
	長方形					3	1	9	9		1	23
	薄台形				24	44	23	88	83	24	1	287
	厚台形				8	73	41	51	31	10	4	218
鉄												
合計		4	83	41	37	139	75	164	203	75	16	837

※図中の数字は紡錘車の出土数を表す。

※ 6世紀代の土製の厚台形の紡錘車がやや多く使われているのは、形が石製の厚台形に非常に近いいため、それを補完するために使用されたことが考えられる。当遺跡でも6世紀初頭と思われる3号住居から土製で厚台形の紡錘車が出土している。

※ 9世紀代に土製で長方形と薄台形（整形でこのような形になっているが基本的には長方形である）の紡錘車がやや多く使用されているのは、この頃から須恵器や土師器の破片を再利用して紡錘車を造っている土器転用紡錘車が使われているためである。

※ 8～9世紀段階に石製で断面長方形の紡錘車が少量ながら存在する。これはやや異質に思えるが、矢田遺跡では文字の書かれたものもあり、一時期使われていたようである。

同一住居から紡錘車が3個出土した住居

市町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状	遺構内出土数	最大径区分	広径cm	狭径cm	厚さcm	孔径cm	重量g	重区分	量分	残存形態	時期	備考
前橋市	柳久保遺跡VI	65号住居	石(滑石)	薄台形	3	中	4.8	3.2	1.6	0.9				完形	8世紀後半	文字線刻
〃	〃	〃	石(滑石)	薄台形	3	中	4.9	3.6	1.2	0.8				完形	8世紀後半	
〃	〃	〃	石(滑石)	薄台形	3	大	5.6	3.6	1.6	0.9				完形	8世紀後半	
前橋市	芳賀東部団地2	H-81号住居	石(波紋岩)	薄台形	3	中	4.4	3.8	1.4	0.8				完形	9世紀後半	砥石転用
〃	〃	〃	石(波紋岩)	厚台形	3	小	3.7	2.7	1.5	0.9				完形	9世紀後半	「勢多郡場□五百同郡□」線刻
〃	〃	〃	石(角閃石安山岩)	長方形	3	特大	6.1	6.1	2.5	0.9				完形	9世紀後半	
伊勢崎市	中組	1号住居	石(滑石)	厚台形	3	中	4.2	2.2	2.2	0.6				完形	8世紀前半	
〃	〃	〃	石(滑石)	厚台形	3	小	3.8	2.2	2.0	0.7				完形	8世紀前半	炭化軸残存
〃	〃	〃	石(滑石)	厚台形	3	中	4.5	3.3	3.3	0.7				完形	8世紀前半	
富岡市	七日市観音前	36号住居跡	石(滑石)	厚台形	3	大	5.0	3.4	2.2	0.8	85.5	最重量		完形	7世紀後半	良好に研磨されている
〃	〃	〃	石(滑石)	厚台形	3	大	5.0	3.4	2.0	0.7	84	最重量		完形	7世紀後半	良好に研磨
〃	〃	〃	石(滑石)		3	特大	7.0		1.5	0.8	82	最重量	約1/2	7世紀後半	径は大きいやや薄手 削りによる整形までの段階で研磨されていない 破損部にも削りが加えられている	
群馬郡群馬町	堤上	125号住居跡	石	薄台形	3	中	4.2	3.5	1.1	0.7	206	最重量		完形	6世紀後半	側面～上・下面への移行部平滑他 側面擦痕状の加工痕跡
〃	〃	〃	石	厚台形	3	中	4.0	2.6	2.5	0.7	207	最重量		完形	6世紀後半	側面・下端面に交互に鋸歯状区画の中に斜線の線刻文を配す
〃	〃	〃	石	厚台形	3	中	4.8	2.3	2.0	0.8				完形	6世紀後半	側面面取り状の加工痕跡 上・下面面擦痕認む
多野郡吉井町	矢田遺跡VII	254号住居	石(滑石)	薄台形	3	中	4.7	3.6	0.7	0.7	13.3	軽量		約1/2	8世紀前半	ほとんど使用されていないのではないか
〃	〃	〃	石(砂岩)	長方形	3	中	4.2	3.8	0.9	0.5	20.3	軽量		完形	8世紀前半	孔の中央が狭くなっている紡錘車としては疑問
〃	〃	〃	石(滑石)	薄台形	3	大	5.4	3.6	0.8	0.5	36.7	中量		完形	8世紀前半	ほとんど使用されていないのではないだろうか
多野郡吉井町	田比良追部野	H-116号住居	石(砂岩)	長方形	3	大	5.2	4.75	1.25	0.77	42.2	中量		完形	8世紀後半	
〃	〃	〃	石(蛇紋岩)	薄台形	3	大	5.4	3.6	1.95	0.74	89.8	最重量		完形	8世紀後半	
〃	〃	〃	石(蛇紋岩)	薄台形	3	中	4.55	3.05	1.2	0.75	43.8	中量		完形	8世紀前半	
甘楽郡甘楽町	甘楽条里	81号住居	石(滑石)	薄台形	3	中	4.4	3.1	1.5	0.7	45.1	中量		完形	6世紀後半	側面に1・3・5・3・6・1・3個の線刻、底面に7個の線刻
〃	〃	〃	石(滑石)	薄台形	3	大	5.1	1.7	1.4	0.6	37.5	中量		完形	6世紀後半	
〃	〃	〃	石(滑石)	厚台形	3	中	4.0	2.0	2.1	0.6	22.7	軽量		約1/2	6世紀後半	

同一住居から紡錘車が4個出土した住居

市町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状	遺構内出土数	最大径区分	広径cm	狭径cm	厚さcm	孔径cm	重量g	重区分	量分	残存形態	時期	備考
高崎市	大島原	2号住居	石(不明)	薄台形	4	中	4.7	2.7	1.8	0.9				完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(不明)	薄台形	4	中	4.5	2.4	1.5	0.6				完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(不明)	薄台形	4	中	4.7	2.3	0.9	0.9				完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(不明)	厚台形	4	中	4.1	2.1	1.8	0.9				完形	5世紀前半	
多野郡吉井町	羽田倉	69号住居	石(蛇紋岩)	薄台形	4	大	5.7	3.0	1.3	0.8	59.0	重量		完形	10世紀前半	
〃	〃	〃	石(蛇紋岩)	薄台形	4	中	4.7	4.0	1.3	0.9	56.0	重量		完形	10世紀前半	
〃	〃	〃	石(蛇紋岩)	薄台形	4	中	4.0	2.4	1.2	0.7	52.0	重量		完形	10世紀前半	側面に放射状の削り文様あり 線刻
〃	〃	〃	石(蛇紋岩)	薄台形	4	中	4.1	3.6	1.1	0.5	15.0	軽量		破片	10世紀前半	破片

同一住居から紡錘車が9個出土した本遺跡8号住居

市町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状	遺構内出土数	最大径区分	広径cm	狭径cm	厚さcm	孔径cm	重量g	重区分	量分	残存形態	時期	備考
前橋市	荒砥下押切II遺跡	8号住居	石(蛇紋岩)	厚台形	9	中	4.2	2.3	1.7	0.8	41	中量		完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(蛇紋岩)	薄台形	9	中	4.6	2.3	1.2	0.8	31	中量		完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(滑石)	薄台形	9	大	5.0	2.3	1.1	0.7	34	中量		完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(蛇紋岩)	薄台形	9	中	4.6	2.8	1.1	1.0	36	中量		完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(蛇紋岩)	薄台形	9	大	5.0	2.8	0.7	0.8	26	軽量		完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(蛇紋岩)	薄台形	9	大	5.0	2.7	0.7	0.8	28	軽量		完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(蛇紋岩)	薄台形	9	中	4.6	2.5	1.1	0.8	38	中量		完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(蛇紋岩)	薄台形	9	中	4.5	1.8	1.3	0.7	31	中量		完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(蛇紋岩)	薄台形	9	大	5.1	2.5	1.4	0.8	45	中量		完形	5世紀後半	

8号住居跡出土の籠目土器について

8号住居跡は遺構と出土遺物の検討から5世紀後半の年代が与えられている。紹介する本土器もこの年代観を外れるものではない。まず、土器の観察をする。籠目の圧痕の残る土器は土師器である。体部の下半部は変形してゆがみ、体部の上半部はゆがみは少ない。器形は胴の最大部が体部の下、三分の一にあり、肩の無い下膨らみである。頸部は広く、口縁部が欠損した広口壺である。胎土に小さな軽石と粘土を含み、器壁に浮立つ。焼成は低火度である。色調は外面上半部は鈍い灰色の強い黄橙色、外面下半部は茶色の強い明黄褐色を呈する。内面は黒色から暗灰色を呈する。二次焼成が胴最大部に残る。上方向に濃く、下方向に薄い煤が幅5センチほど帯状に巡る。胴部の上部と下部の色調の違いはこの結果と考えられる。成形は胴下半部は箆に粘土紐を巻上げて内側より指頭で詰込んでいる。このため、指頭の凹凸が顕著に観察される。底部は上げ底で、箆が外れたのちに胴上半部は粘土紐を巻上げて成形し、その後広く短い口縁部を立ちあげ乾燥させる。のちに内面の胴部と頸部の接続する肥厚部分は篋削りで調整したと考えられる。上げ底の箆の底部の方形の網代痕跡部分は篋で削り落とし、箆の籠目と口の部分は残し、胴部の上半部は篋ミガキを施して整形している。

次に、土器に残る箆跡について観察しよう。観察は群馬県太田市の籐・竹製品店「なかの」の店主、中野良幸氏に現物を見ていただき、数々のご教示をいただき、石塚がまとめたものである。圧痕の残る編み物の種類は「箆」と呼ばれ、一般には米揚げ箆のなかの「マルザル」に分類される。編み目が畳表のように縦竹の配列に間隔をとり、横竹を密着させて間隙の無い編み方の容器である。容器に入れた細かな物が、その編み目の間隙から漏れない工夫をした容器で、編み目の大きな籠とこの点が大きく異なる。用材は横竹の細かさから観察した中野さんは柔軟性と粘力性に富み、節のあまり目立たない篠竹(ヤ

ダケ)ではないのかとの感想をもたれた。底組みは縦方向を縦竹、横方向を横竹と呼ぶ編み竹を使用しているというが土器への篋削りで観察できない。縦横を組む底部は一辺5センチの方形の平面を測る。立体的に構成される段階で縦横の編み竹は立て竹と呼ばれ、胴部を構成する箆の基本の骨で、骨竹とも呼ばれる。この骨竹は横竹よりも薄く、幅は2ミリほどであろうという。縦竹の本数は64本を測り、縦横竹を32本使用している計算となる。網代底編みした方形の形状を丸く胴編みするために底回しの竹が巡る。この部分の竹を業界では七回半竹とも呼ぶらしい。この土器には一つ飛びで2条の底回しの竹が巡る。横竹は角ヒゴとも呼ばれる。目詰まりは1センチ当に5本を測り、胴部全体で25段の横竹を数える。最終の仕上げには縁の造作に巻縁がある。太い割り竹を芯に薄い割り竹を右回りに巻いている。土器に残された「マルザル」の寸法は、口径17センチ、高さ46ミリである。

この箆の圧痕をとどめる土器研究の到達点の論文に1998年発行の角南聡一郎・鐘方正樹「籠目土器と箆形土製品」『奈良市埋蔵文化財調査センター紀要1997』がある。また角南聡一郎氏が来群の折、この土器を観ていただいた。その結果、籠または箆などで編んだ器物一般を指す言葉として籠を用いその圧痕を残す土器を「籠目土器」と呼ぶこと。そして粘土紐を箆の内がわに積み上げて箆の口縁高さで仕上げるものをA1類、粘土紐を箆の内がわに積みあげその上に粘土紐を巻き上げ壺や甕を作り、底部の網代痕跡をハケやナデで部分的に消す技法を持つものをA2類(本土器が該当)と呼ばれていることが解っている。1998年段階で集成された籠目土器を出土した遺跡の分布は北は茨城県から南は福岡県の31遺跡である。またA1類とA2類が共伴する遺跡も3例ある。A1類の分布は茨城県から福岡県までで31遺跡中18遺跡が該当する。またA2類は群馬県から奈良県までで31遺跡中13遺跡が該当する。A2類よりA1類の出土例が分布域、遺跡数とも上回る。

時期別ではA1類の場合3世紀後半から4世紀初

頭に集中する。A 2 類の場合 5 世紀後半から 6 世紀中頃の段階に集中する。A 1 類の場合、古墳時代前期から中期の移行期に出土する笄形土製品と時期、器形は類似している。A 2 類の場合は土器製作に伴うもので一般的な土器と同様に使用されていたと考

えられる。5 世紀後半の住居跡の調査軒数は群馬県内においても数百の数を数える。県内の籠目土器は元島名將軍塚古墳の例を入れて 2 例目、極めて希少で注目すべき資料であることに違いない。

(石塚久則)

報告書抄録

ふりがな	あらとしもおしきりにいせき・あらとなかやしきにいせき
書名	荒砥下押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡
副書名	県営圃場整備事業荒砥北部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第6集
シリーズ名	勸群馬県埋蔵文化財調査事業団報告
シリーズ番号	第249集
編著者名	菊池 実
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村下箱田784-2 TEL 0279-52-2511
発行年月日	1999年3月25日

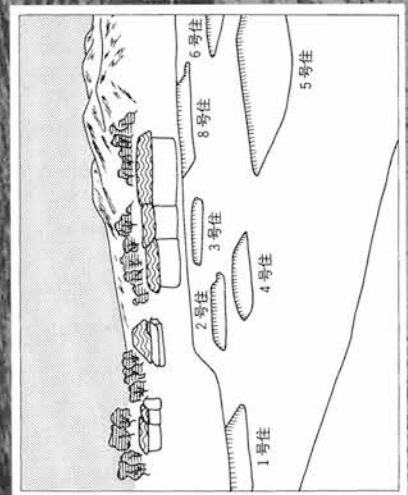
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あらとしもおしきり 荒砥下押切II	まえばししあらこまち 前橋市荒子町	10201		36° 22' 40"	139° 10' 20"	1982年12月 20日～ 1983年2月 18日		県営圃場整備事業荒砥北部地区に伴う調査
あらとなかやしき 荒砥中屋敷II	まえばししあらこまち 前橋市荒子町							

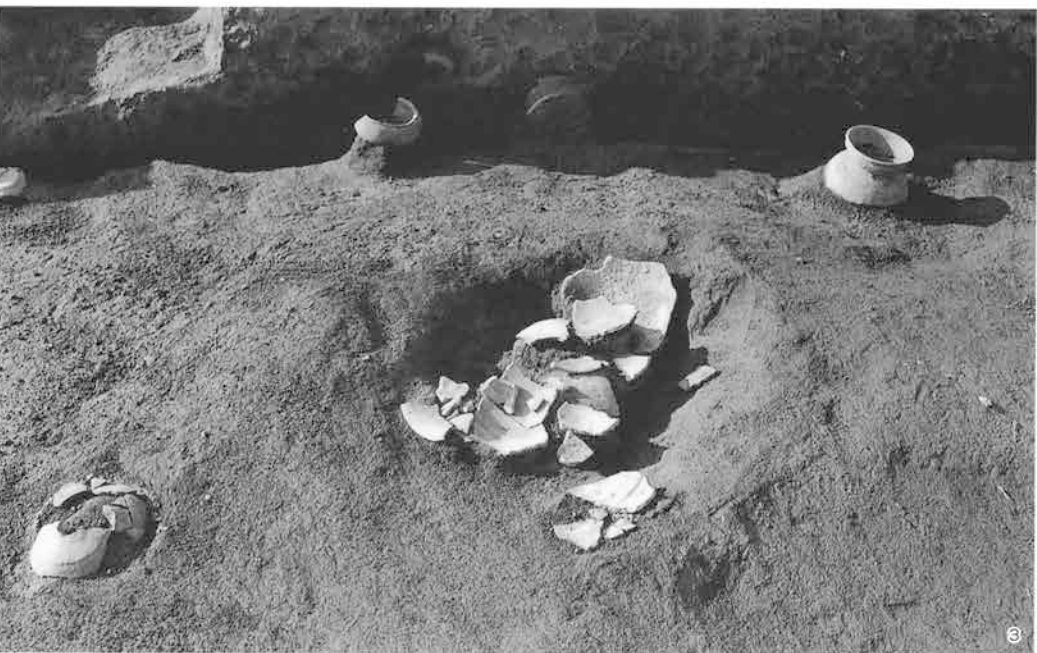
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
荒砥下押切II	集落	古墳時代 中・後期	竪穴住居 12軒	土師器・須恵器 砥石・台石・紡 錘車・石製模造 品	8号住居跡から出土した紡錘車 9個は県内最多、また同住居跡 からは籠目土器も出土。
荒砥中屋敷II	生産 集落	古墳時代 中・後期 平安時代	古墳 1基 井戸 1基 竪穴住居 1軒 溝 10条	水田	
		平安時代	竪穴住居 6軒 竪穴住居 2軒 小鍛冶 1基 土坑 2基 溝 2条		



1986年5月28日撮影
遺跡位置







PL. 4
1. 1号住居跡全景（北東から）
2. 1号住居跡竈（北東から）
3. 1号住居跡遺物出土状況
（北東から）

PL. 5
1. 2号住居跡全景（西から）
2. 2号住居跡遺物出土状況
（西から）





PL. 6

1. 2号住居跡遺物出土状況 (北から)
2. 2号住居跡竈 (西から)
3. 2号住居跡貯蔵穴 (北から)

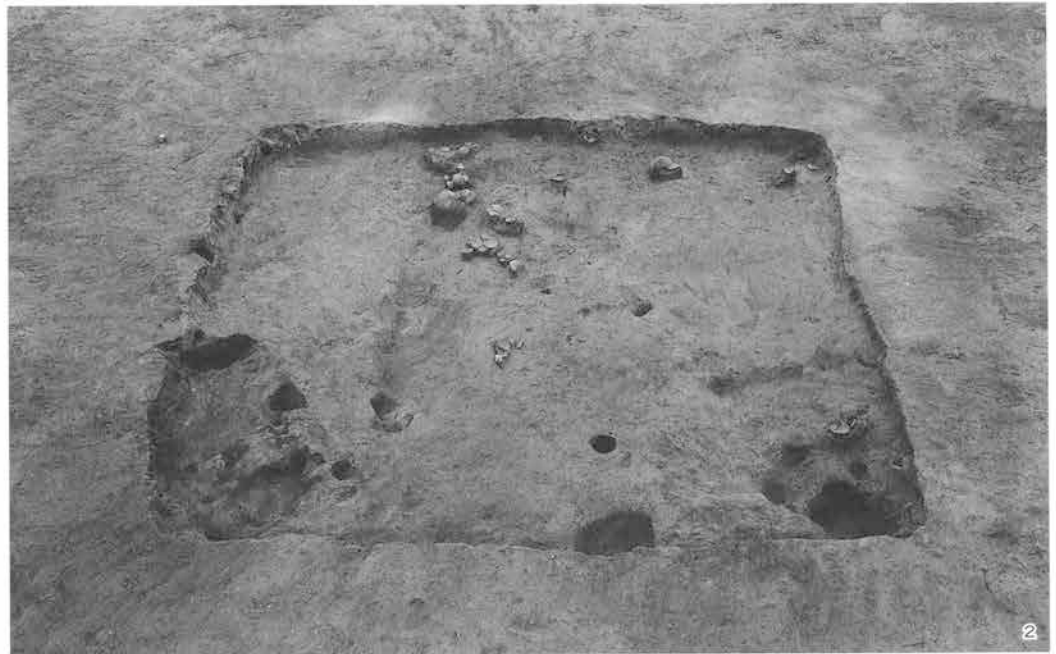
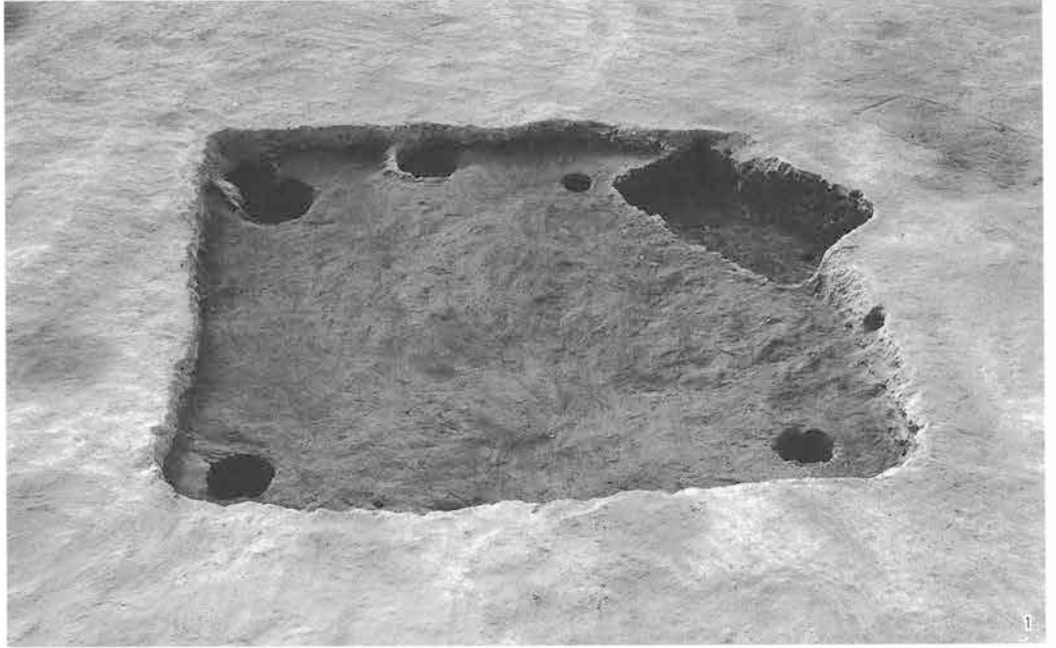
PL. 7

1. 3号住居跡全景 (南から)
2. 3号住居跡全景 (西から)



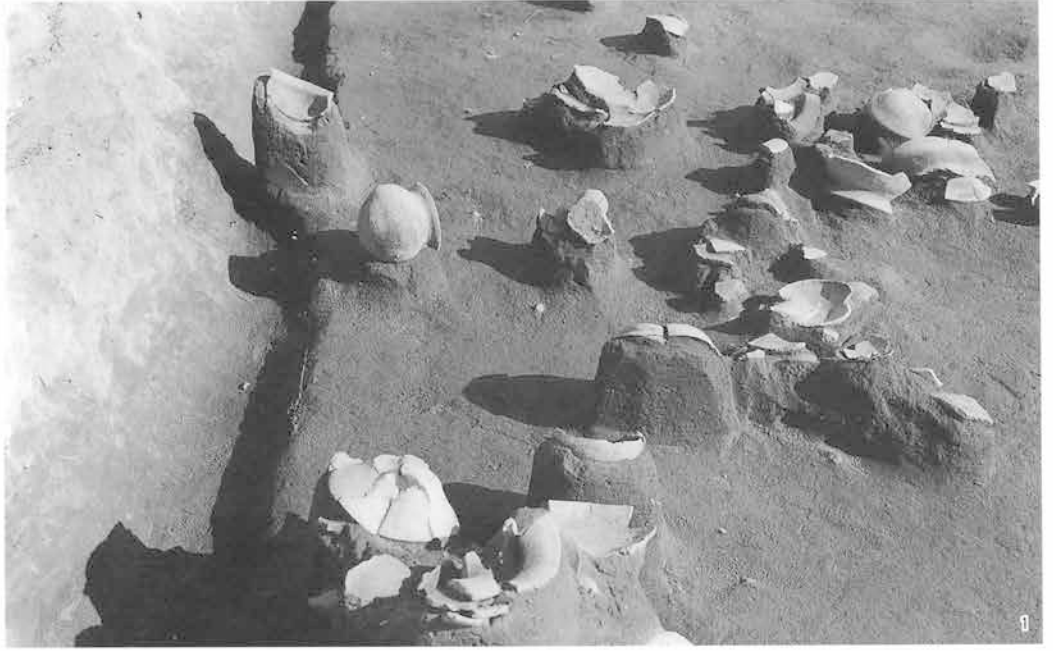


PL. 8
1. 3号住居跡遺物出土状況（西から）
2. 3号住居跡竈（南から）



PL. 9
1. 4号住居跡全景（北東から）
2. 4号住居跡遺物出土状況
（南西から）
3. 4号住居跡遺物出土状況
（北西から）





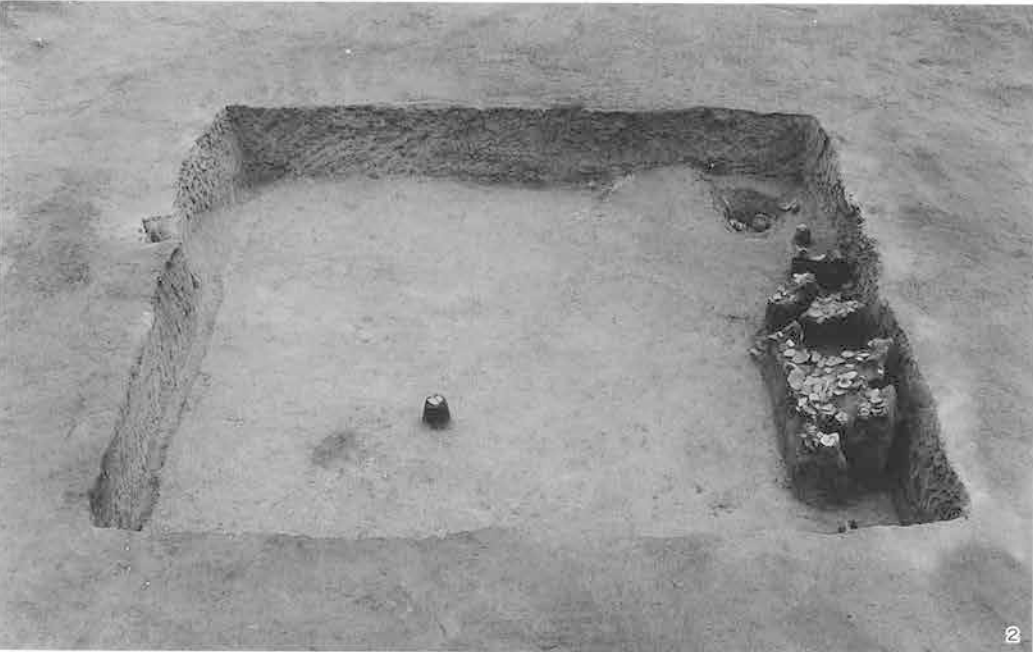
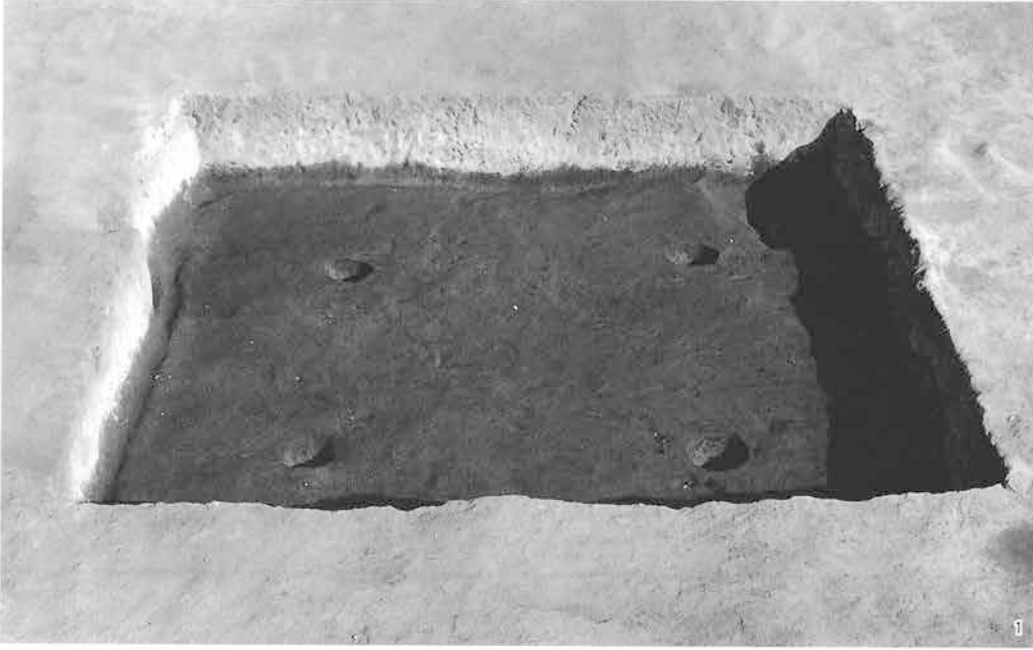
PL. 10

1. 5号住居跡全景（西から）
2. 5号住居跡遺物出土状況（西から）

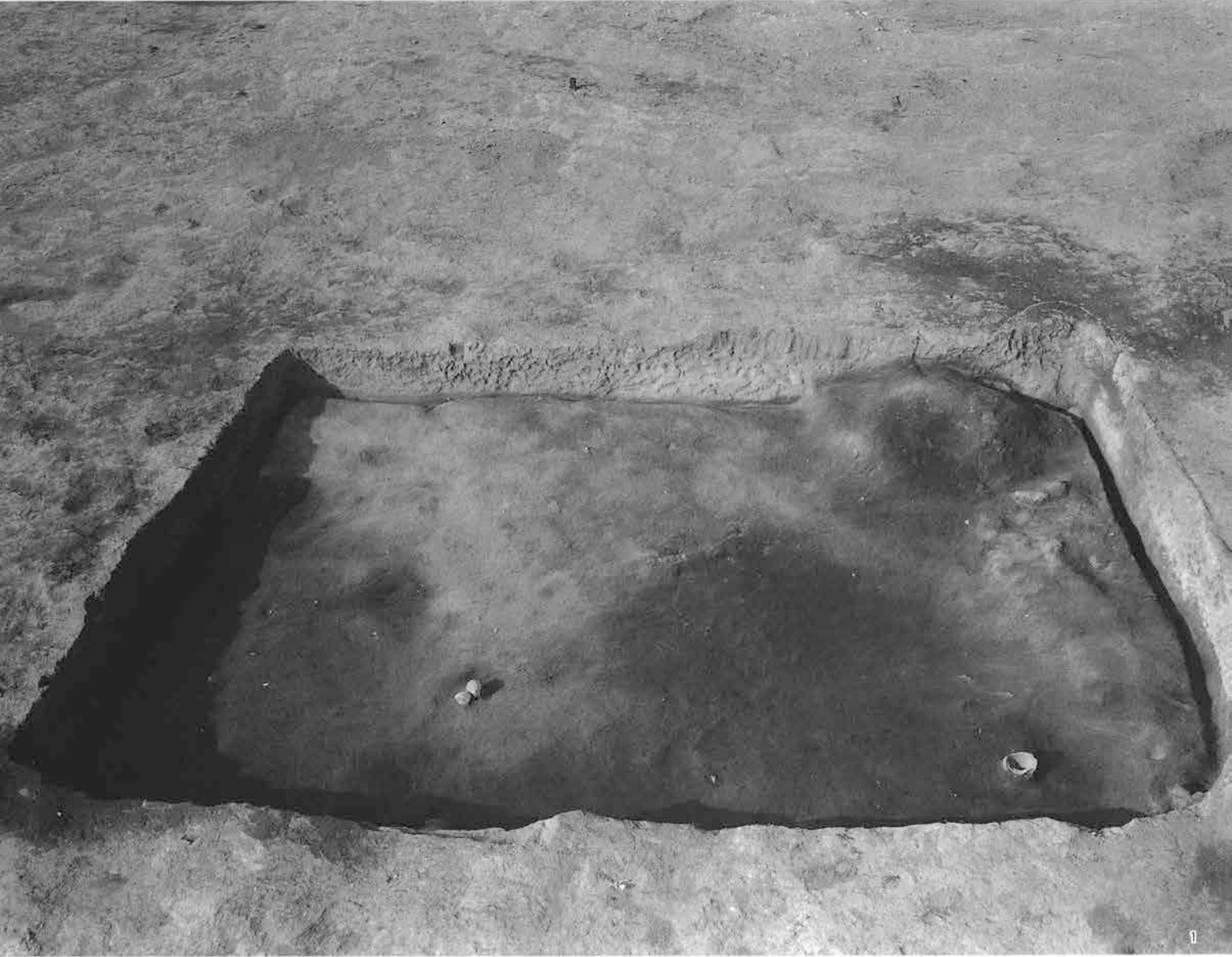


PL. 11

1. 5号住居跡遺物出土状況（西から）
2. 5号住居跡竈（西から）
3. 5号住居跡貯蔵穴（南から）

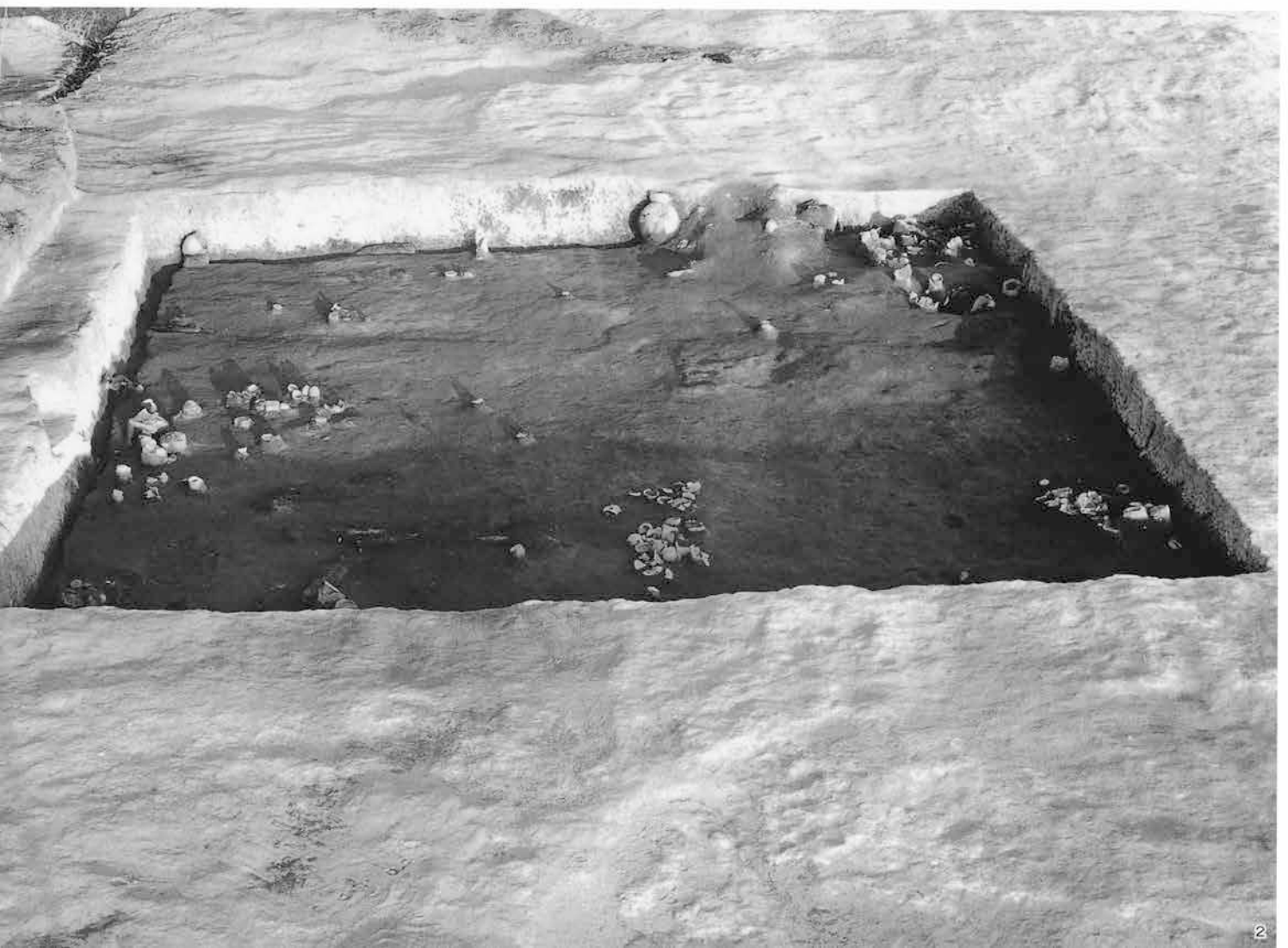
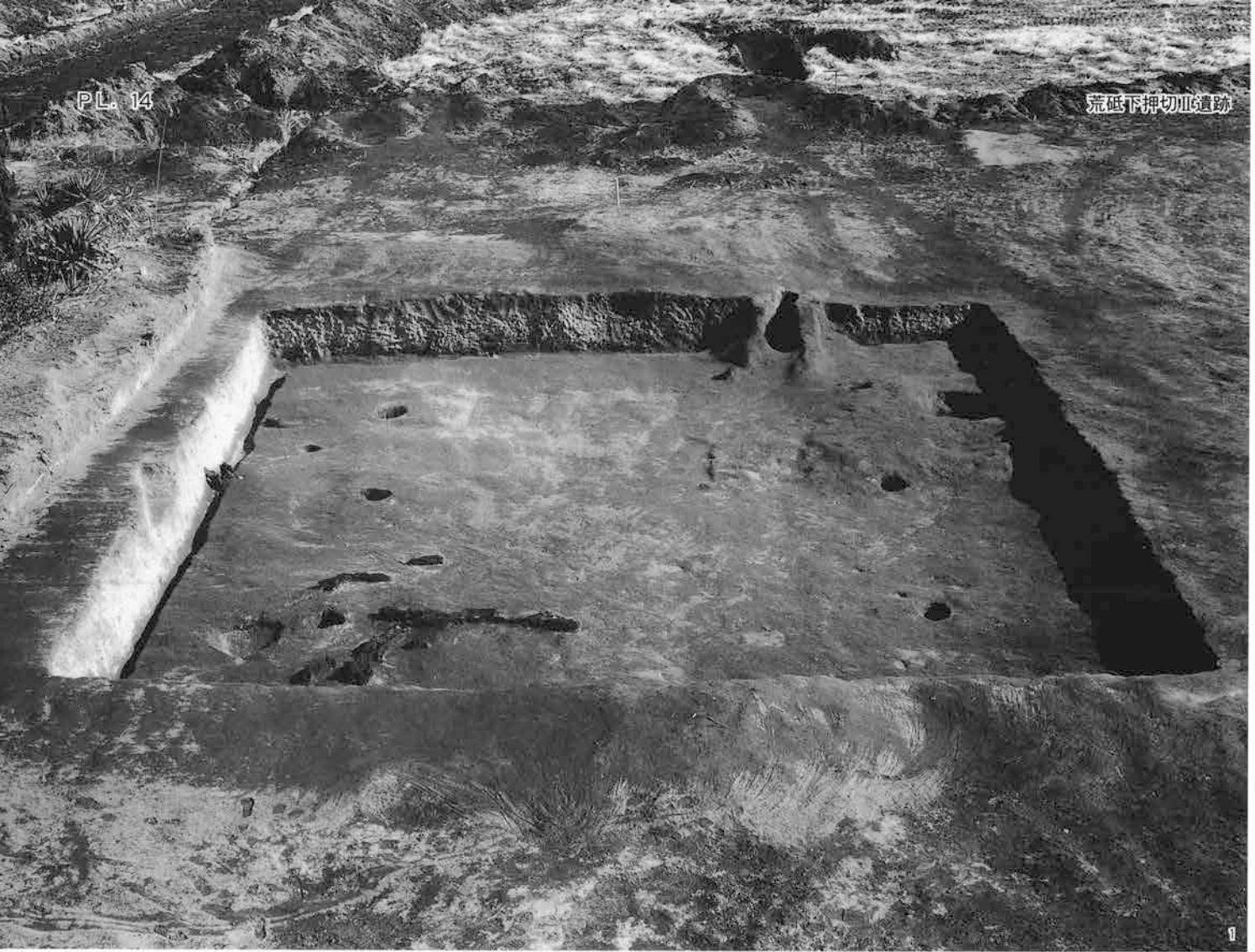


PL. 12
1. 6号住居跡全景（西から）
2. 6号住居跡遺物出土状況
（西から）
3. 6号住居跡貯蔵穴
（北西から）



PL. 13

1. 7号住居跡全景（南から）
2. 7号住居跡窟（南から）

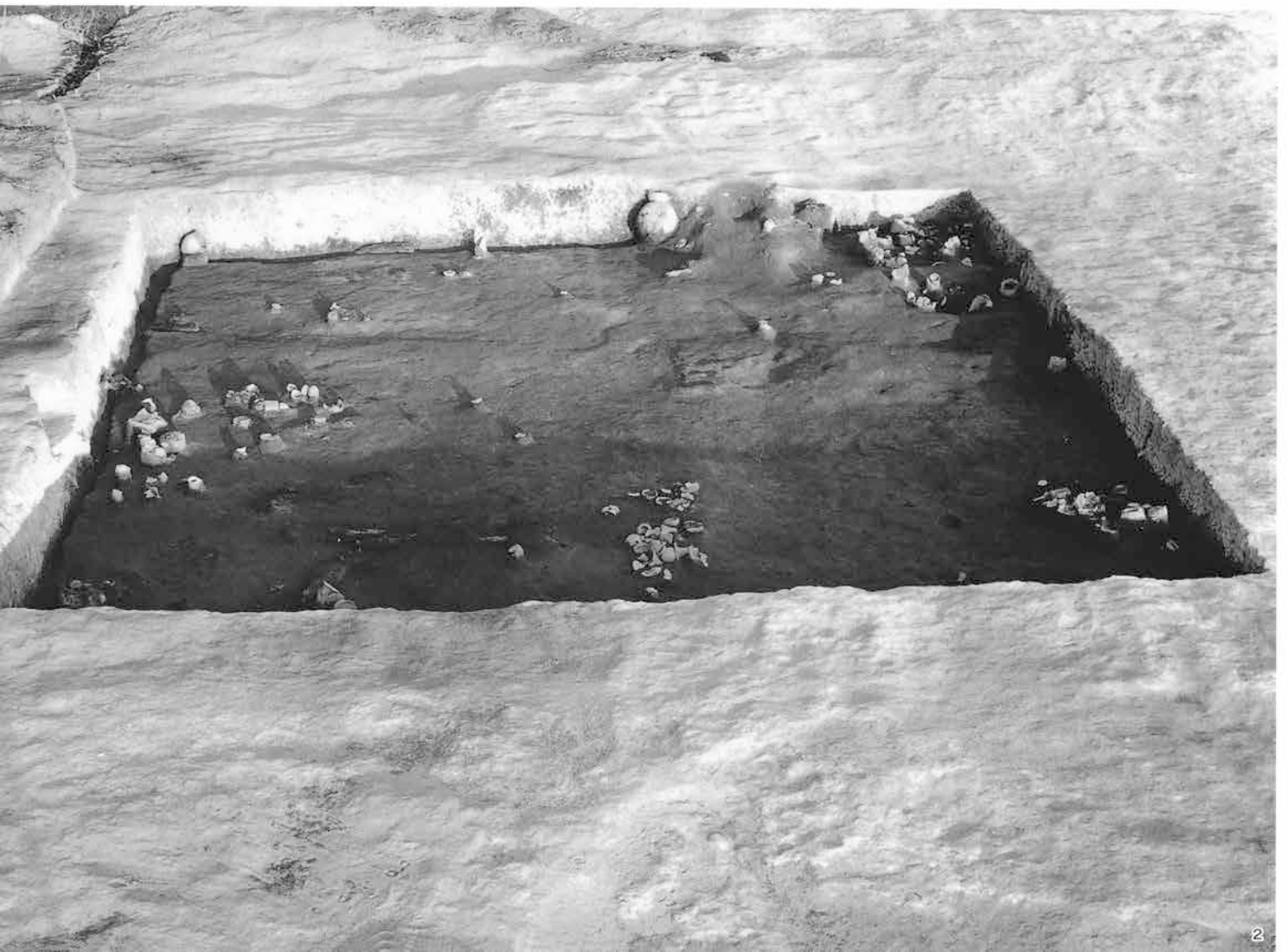
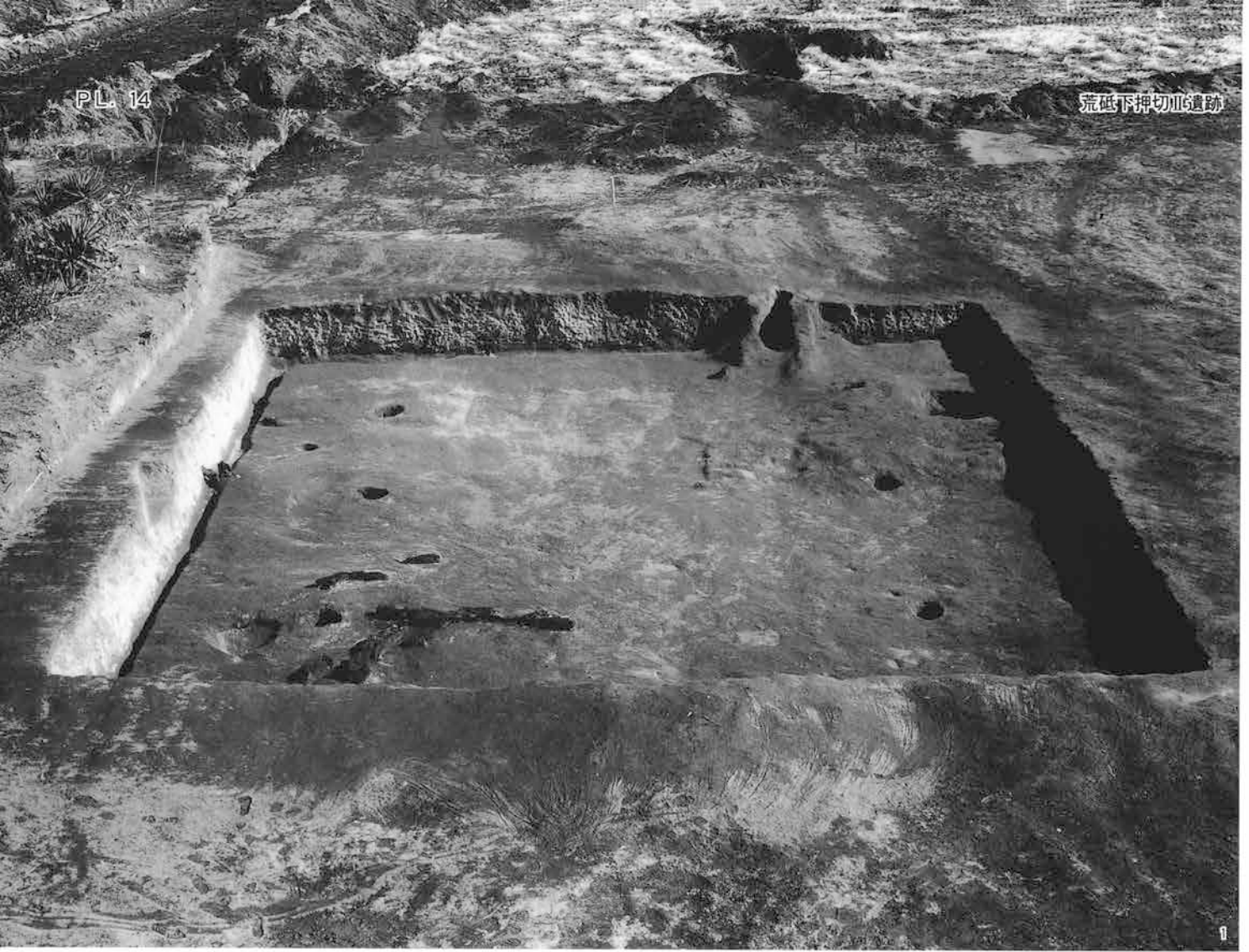




P.L. 14
1. 8号住居跡全景 (西から)
2. 8号住居跡遺物出土状況
(西から)



P.L. 15
1. 8号住居跡窰 (西から)
2. 8号住居跡遺物出土状況
(西から)
3. 8号住居跡遺物出土状況
(北西から)





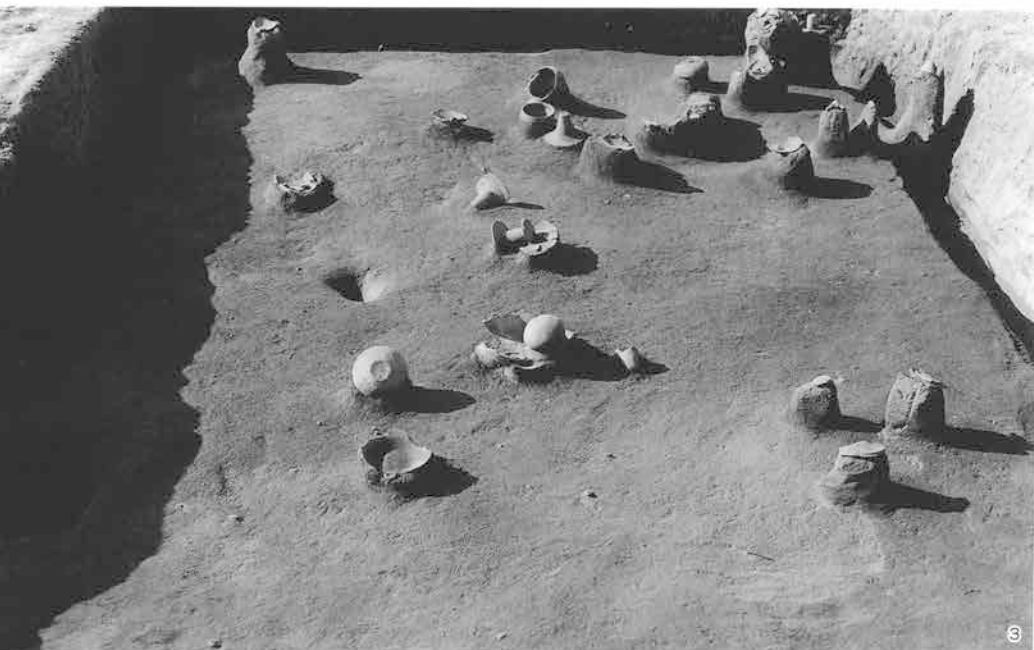


PL. 18

1. 10号住居跡遺物出土状況（西から）
2. 10号住居跡竈（南から）
3. 10号住居跡竈周辺遺物出土状況（南東から）
4. 10号住居跡遺物出土状況（北東から）

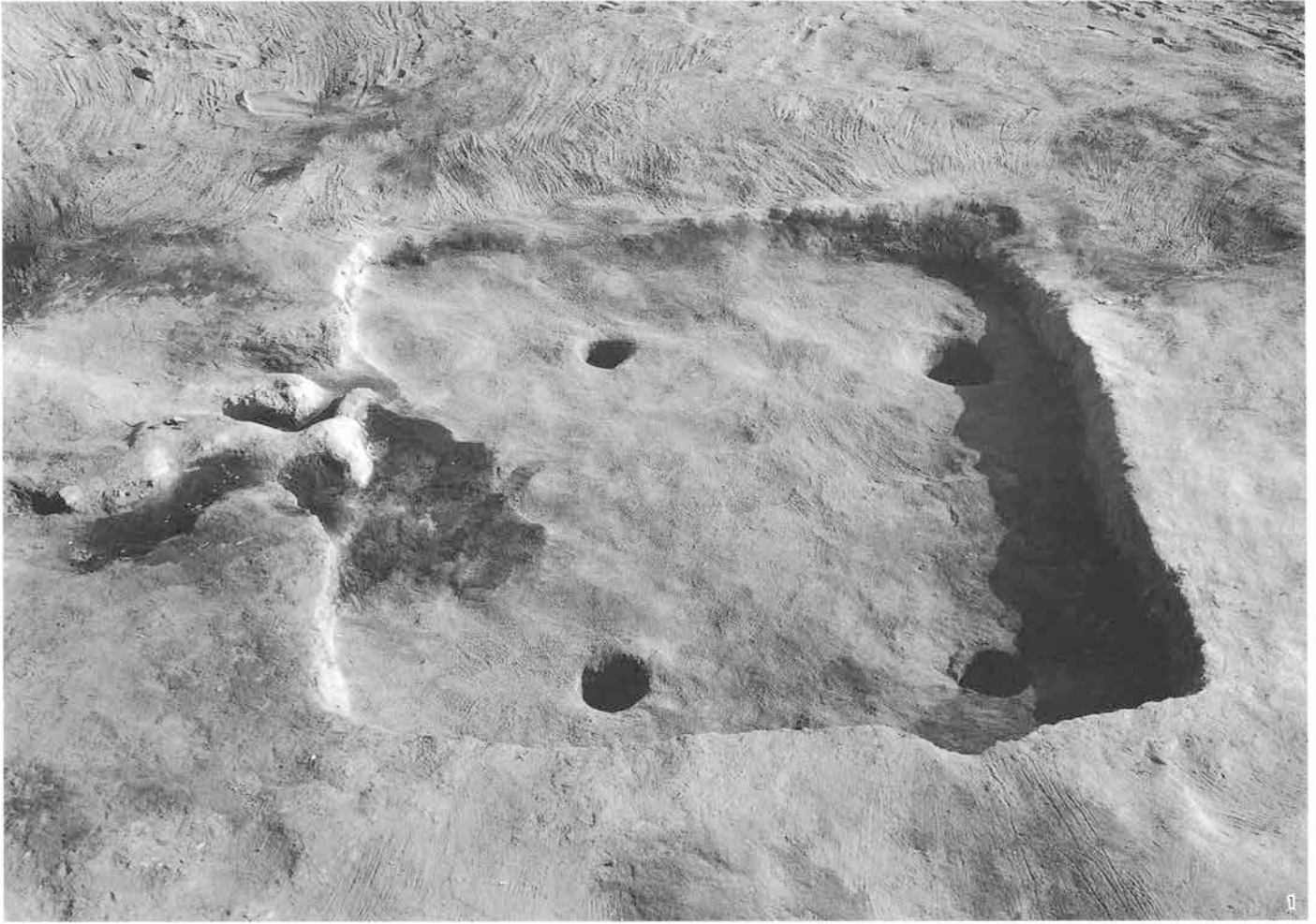


11号住居跡遺物出土状況（西から）



P.L. 20
1. 11号住居跡全景（南東から）
2. 11号住居跡遺物出土状況
（南西から）
3. 11号住居跡遺物出土状況
（北東から）

P.L. 21
1. 13号住居跡全景（西から）
2. 13号住居跡遺物出土状況
（南から）





PL. 22

1. 14号住居跡全景（南西から）
2. 14号住居跡竈（南西から）

PL. 23

1. 1号古墳全景（南から）
2. 前庭部と石室（南から）







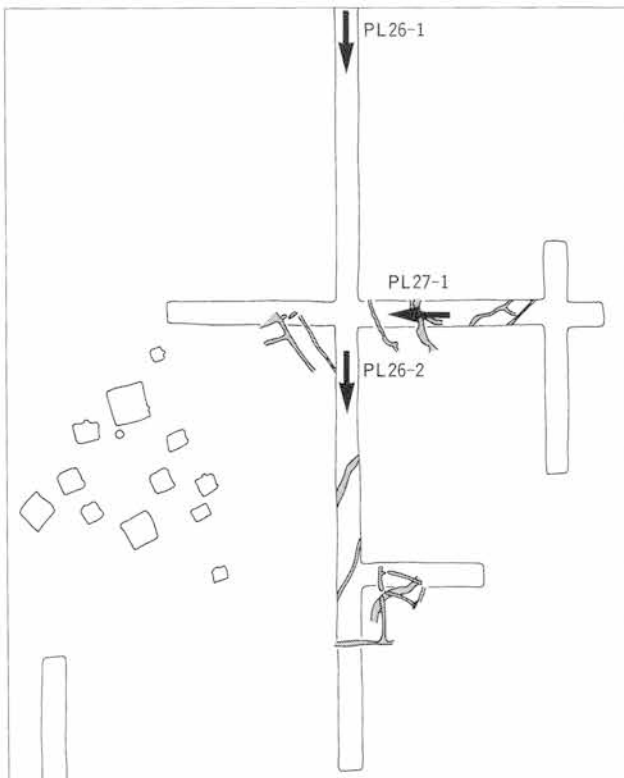
PL. 24

1. 石室（北西から）
2. 玄門と羨道部（北から）

PL. 25

1. 羨道部右壁（南西から）
2. 閉塞状況（南から）
3. 閉塞状況（北から）





PL. 26

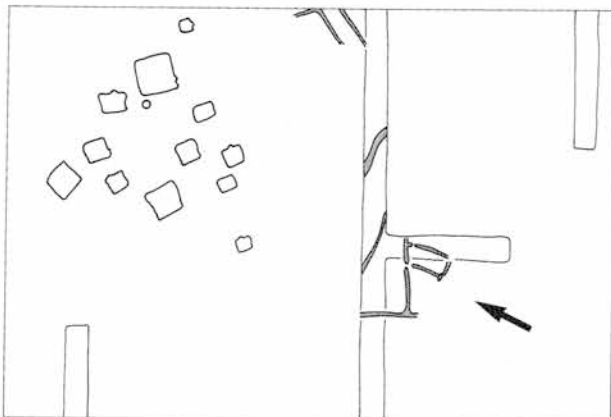
1. 支道71・75号発掘区・As-B下面（北から）
2. 支道75号発掘区・As-B下面（北から）

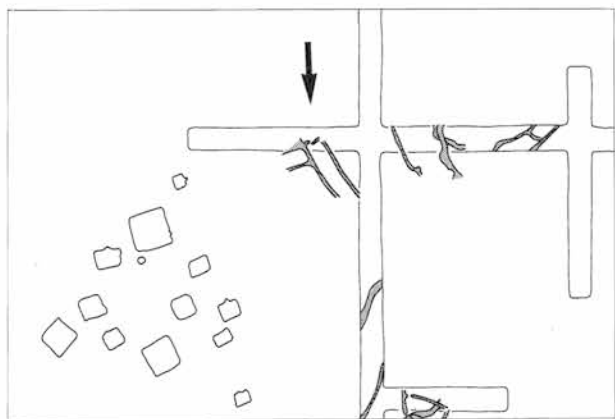
PL. 27

1. 支道73号発掘区・As-B下面（東から）



幹排3-3号発掘区・As-B下水田（南東から）

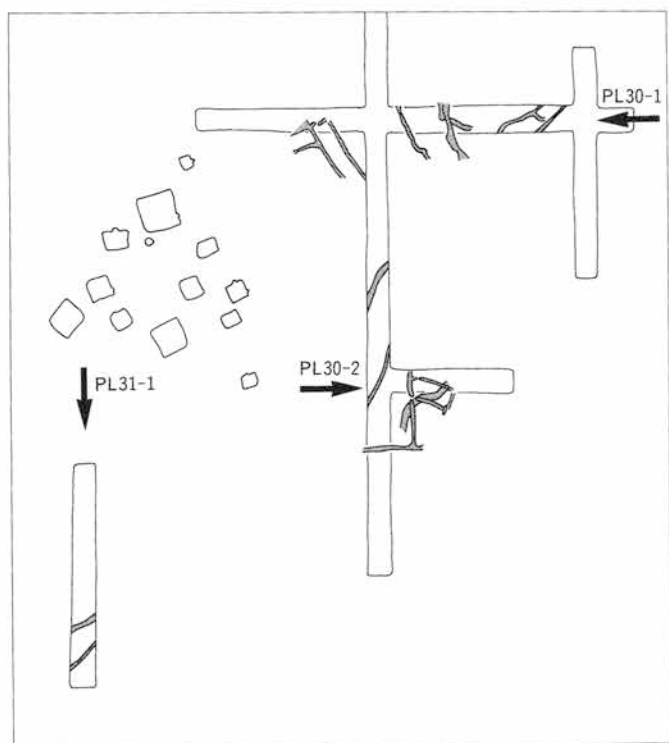




支道73号発掘区・As-B下水田（北から）





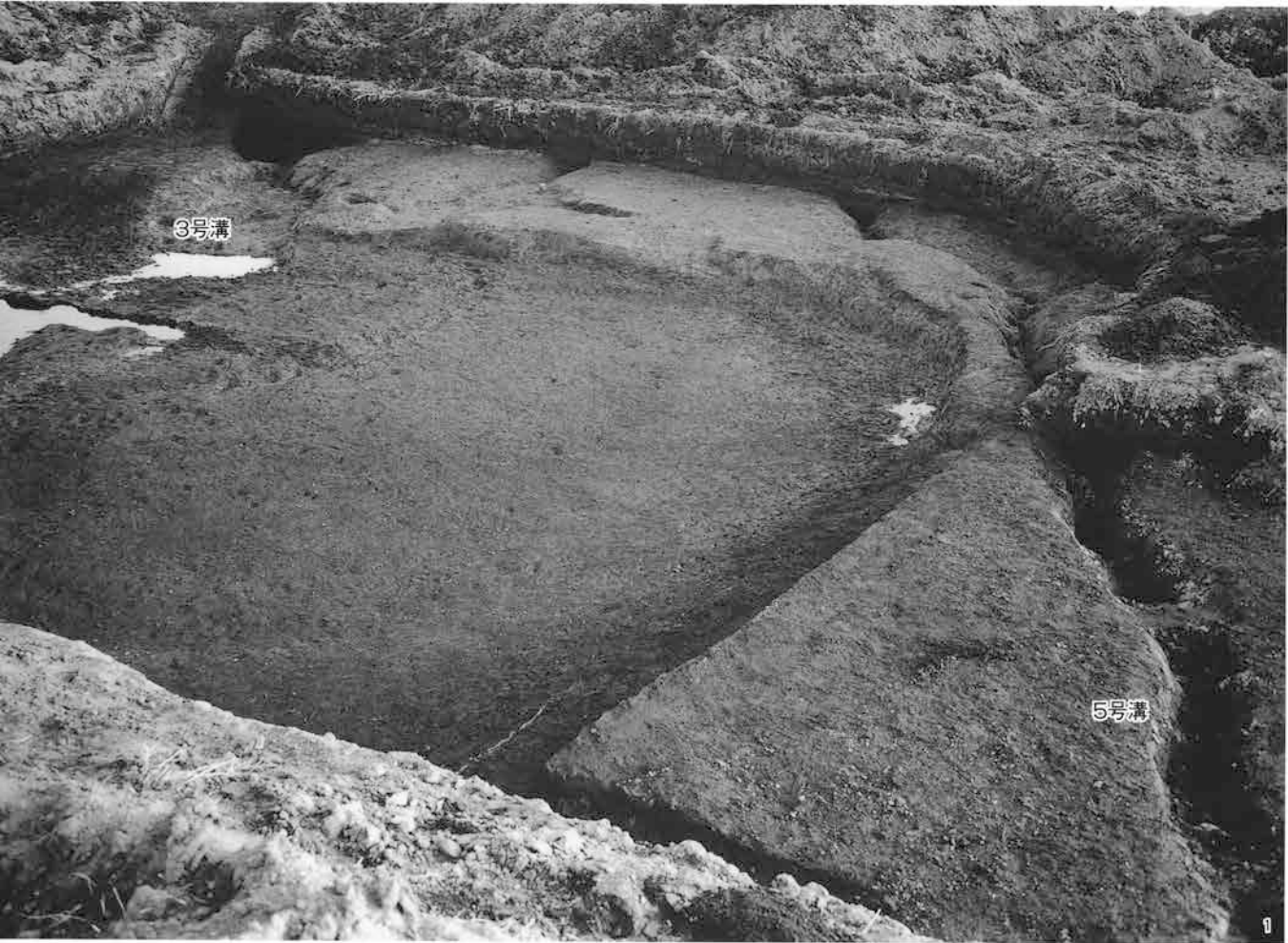


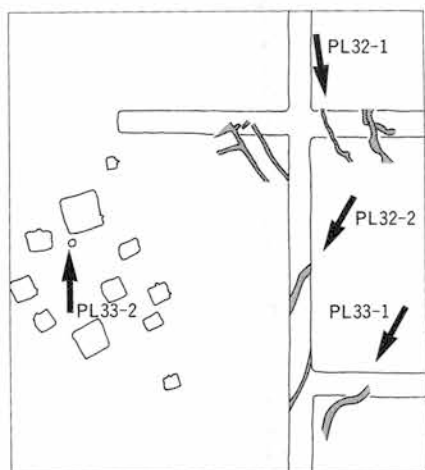
PL. 30

1. 支道73号発掘区・As-B下面（東から）
2. 幹排3-3号発掘区・As-B下面（西から）

PL. 31

1. 幹排3-2号発掘区・As-B下面（北から）





P.L. 32

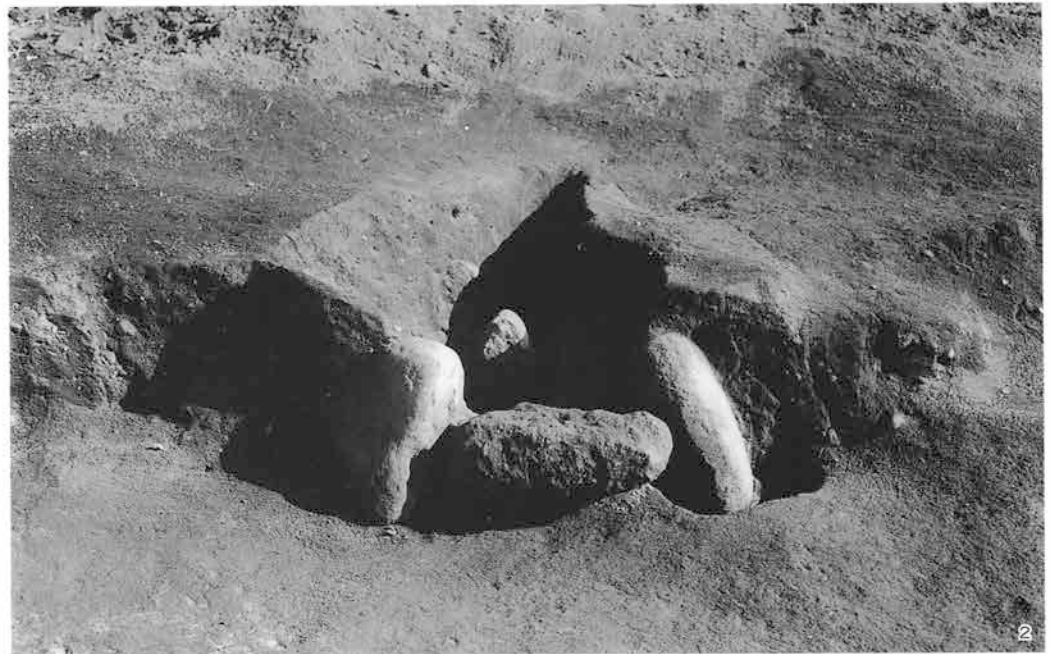
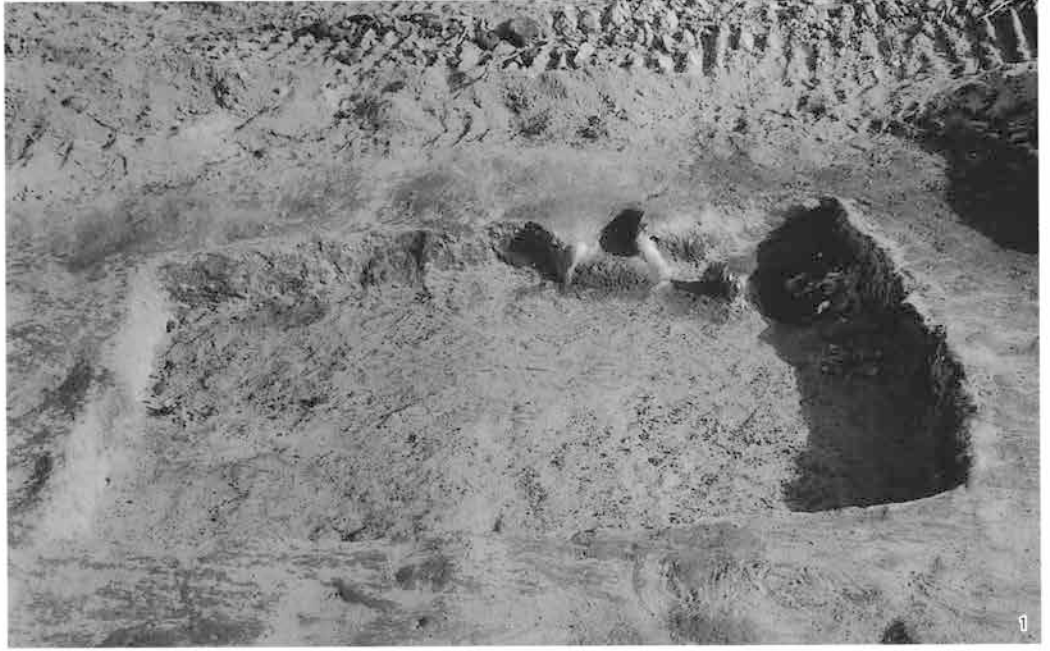
1. 3号・5号溝（北から）
2. 6号溝（北東から）

P.L. 33

1. 8号溝（北東から）
2. 井戸（南から）







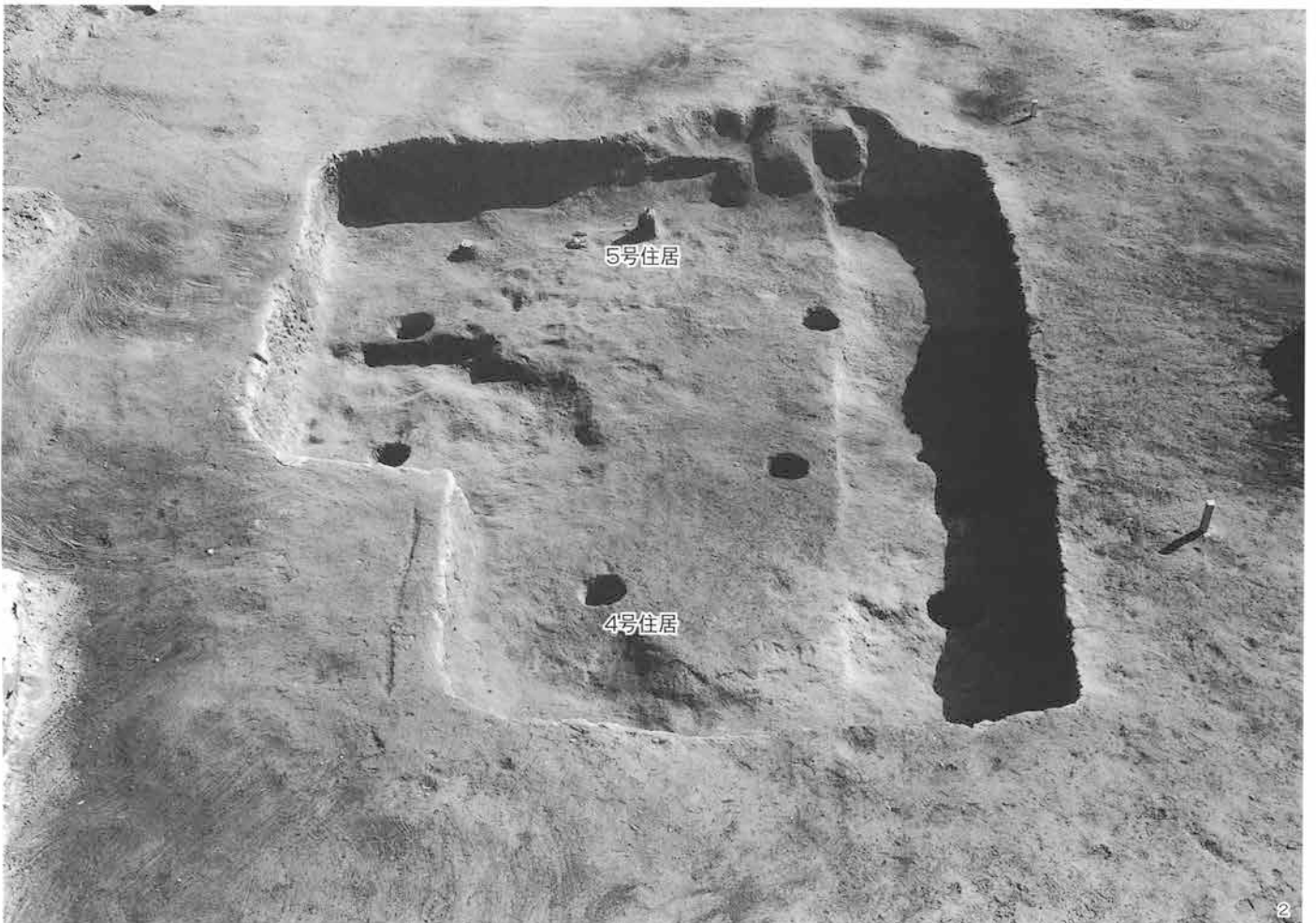
P.L. 34

1. 遺跡見学会
2. 1号住居跡全景（北西から）



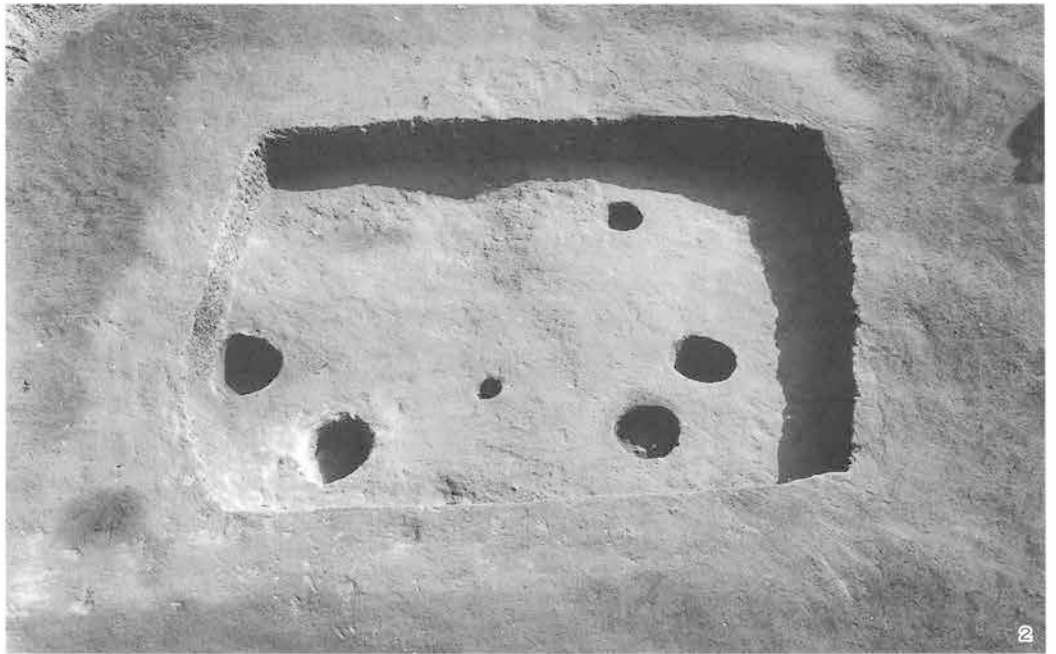
P.L. 35

1. 2号住居跡全景（西から）
2. 2号住居跡竈（西から）
3. 2号住居跡貯蔵穴内遺物出土状況（北から）





1



2

PL. 36
1. 3号住居跡全景（西から）
2. 4号・5号住居跡全景
（西から）

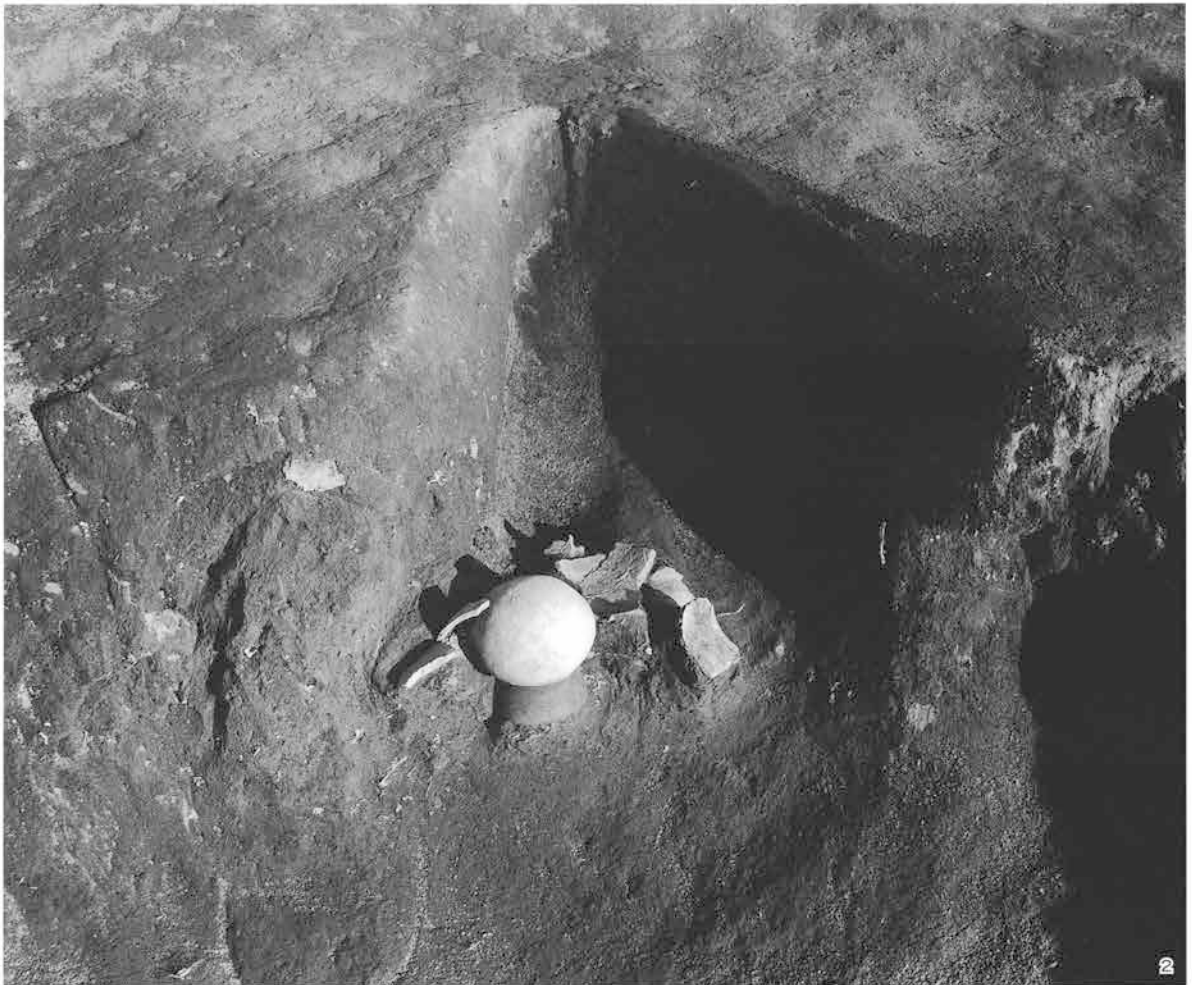


3

PL. 37
1. 5号住居跡竈（北西から）
2. 6号住居跡全景（北から）
3. 7号住居跡全景（西から）



1. 7号住居跡遺物出土
状況（西から）



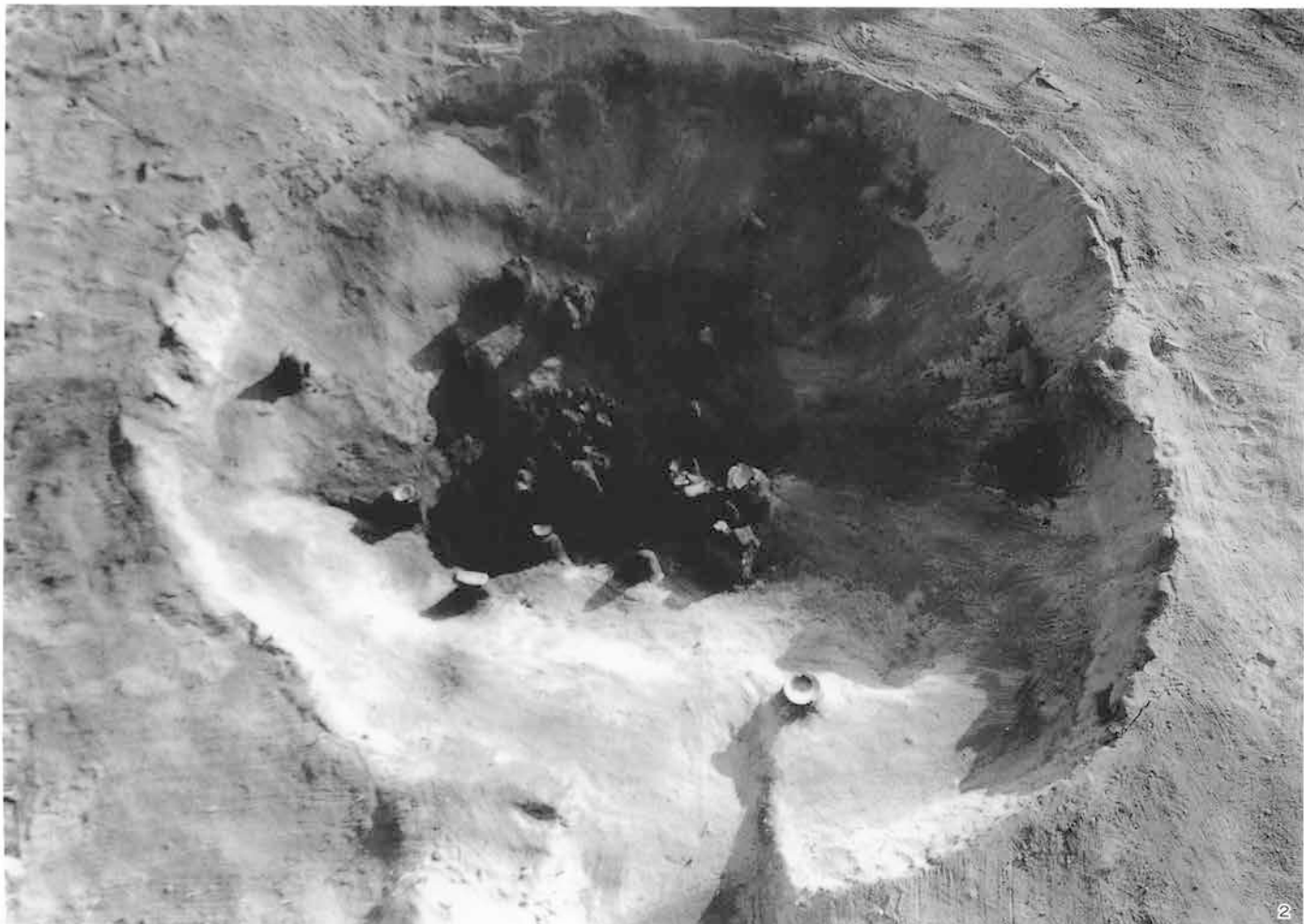
2. 7号住居跡竈
（西から）



1. 8号住居跡遺物
出土状況（西から）



2. 8号住居跡竈（西から）





PL. 40

1. 小鍛冶（東から）
2. 小鍛冶遺物出土状況（北から）

PL. 41

1. 1号土坑（南から）
2. 2号土坑（西から）
3. 支排29号発掘区・溝断面（東から）





支排29号発掘区・
As-B層を含む溝
(西から)



支排29号発掘区
(北から)



支排29号発掘区・As-C層を含む溝（西から）

1



発掘を終了して

2

▼荒砥下押切II遺跡 1号住居跡



▼2号住居跡







35



36



37



38



39



40



15



16

▼3号住居跡



1



2



3



4



5



6



7



8





26



25



30



29



32



28



31



33



34



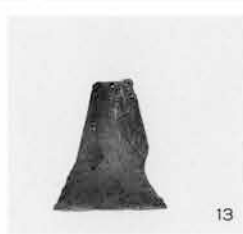
36

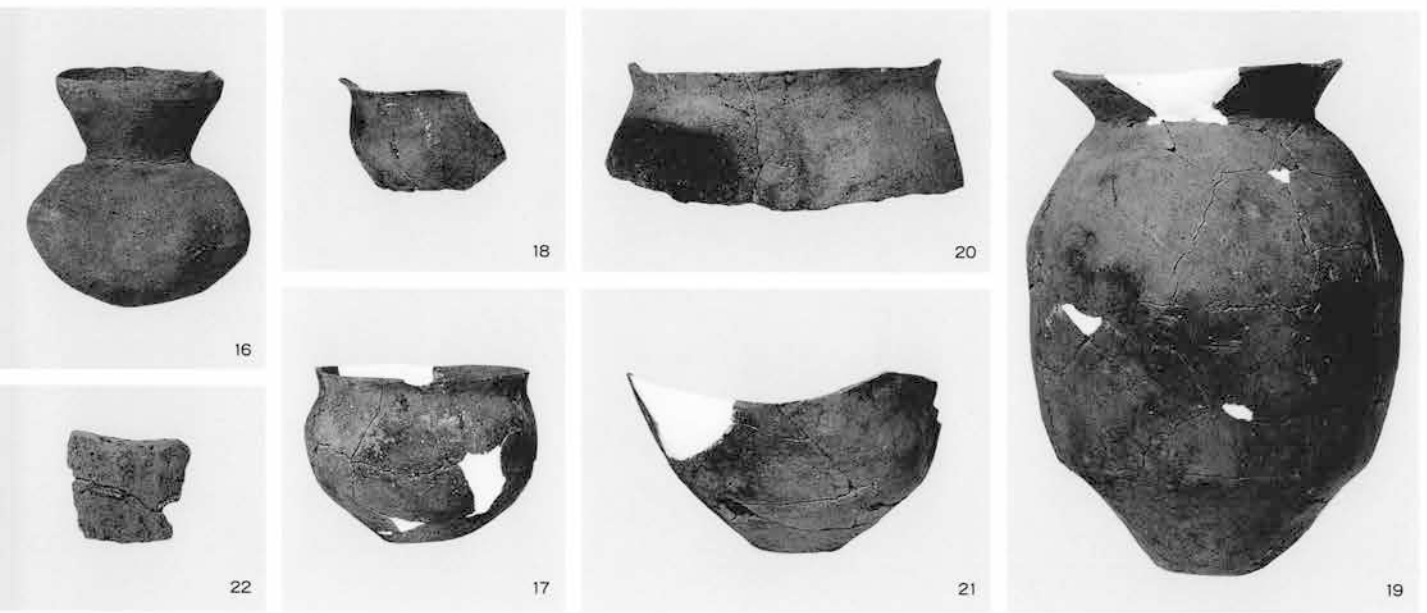


35

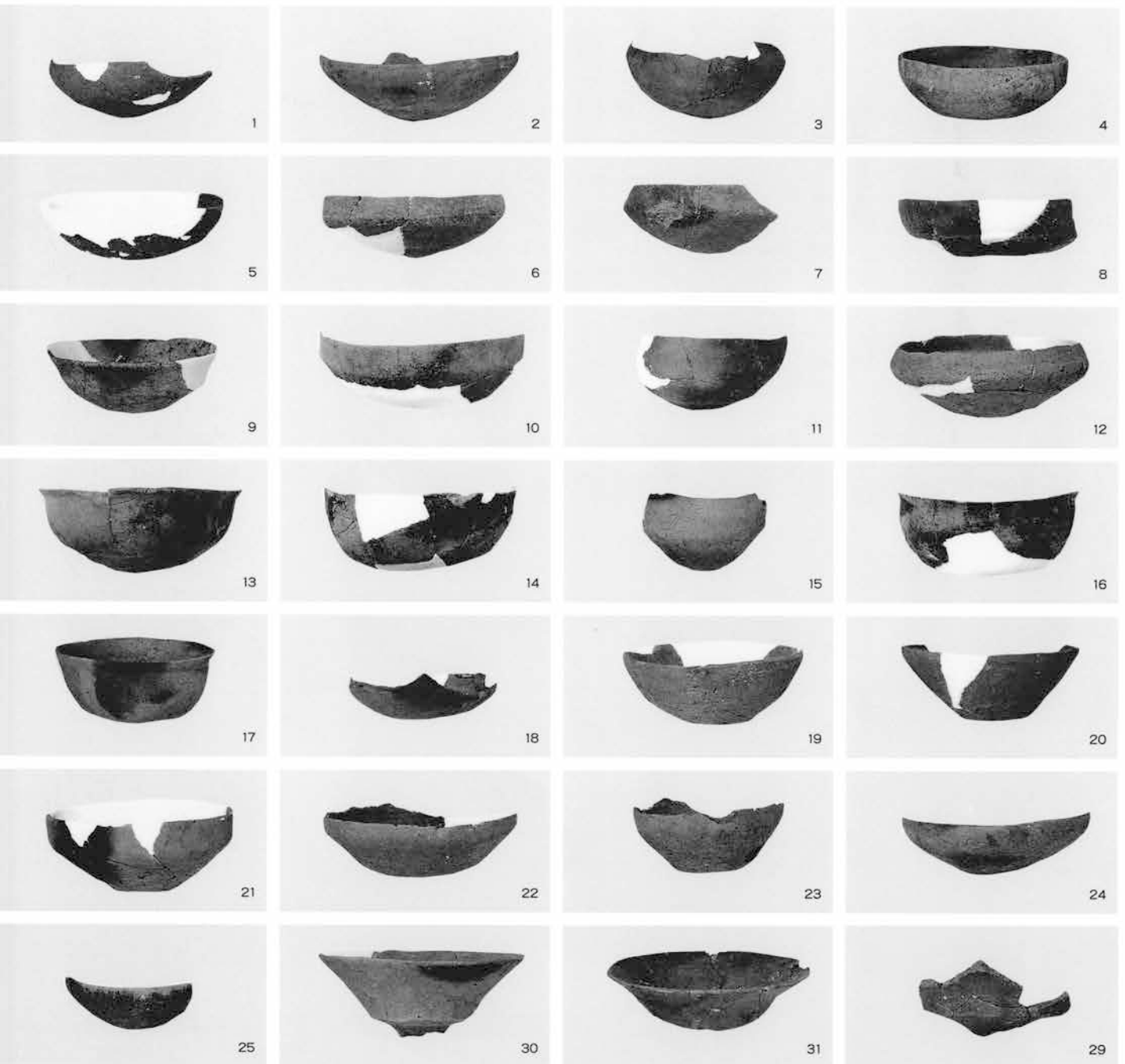


▼4号住居跡





▼5号住居跡





26



27



32



33



28



35



34



36



37



38



39



40



41



42



44



50



51



45



46



48



49



43



53



47



52



56



54



59



55



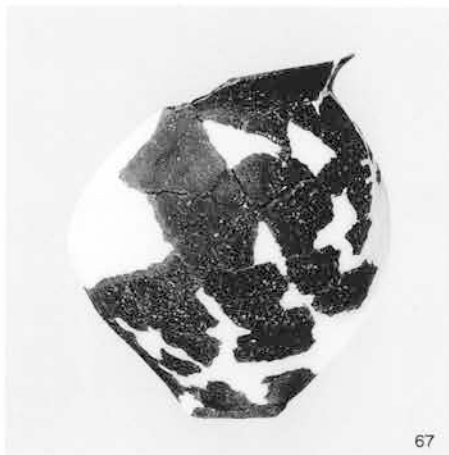
57

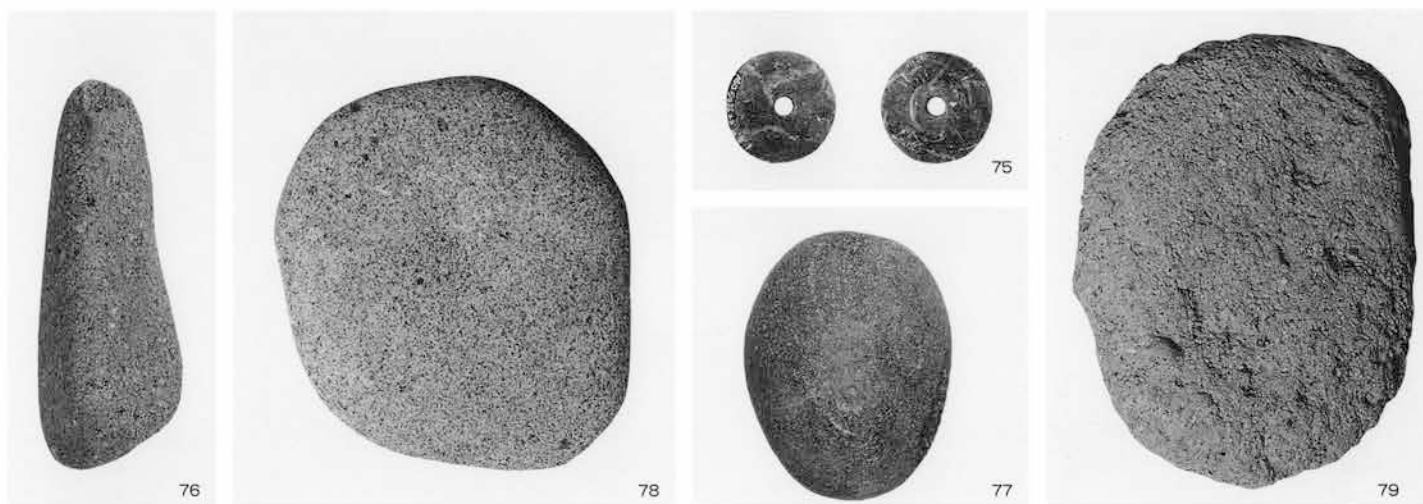
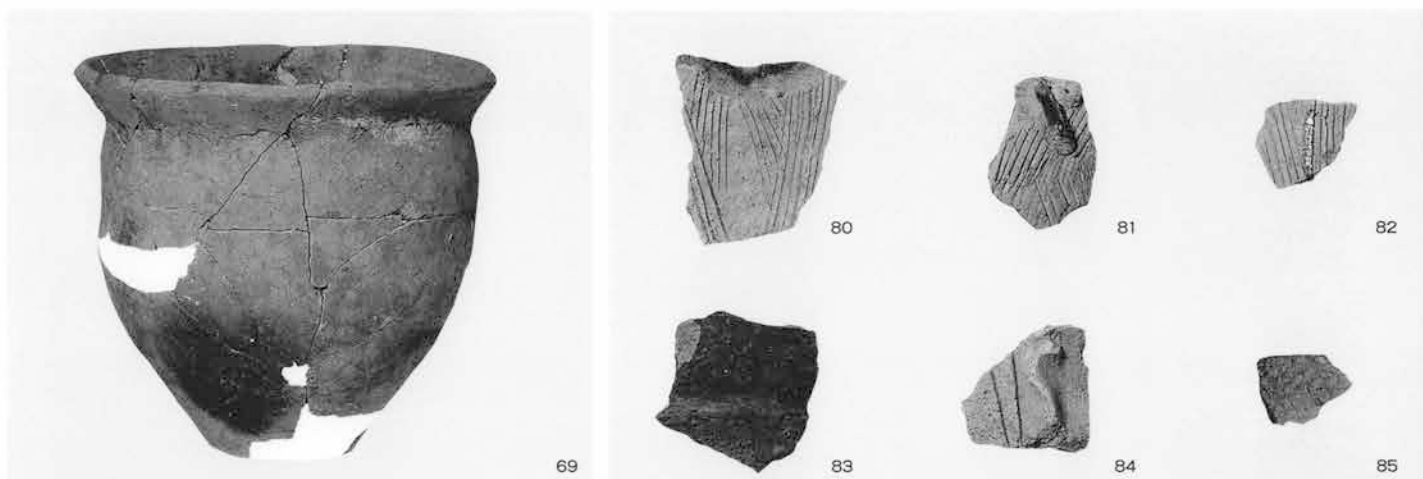


58

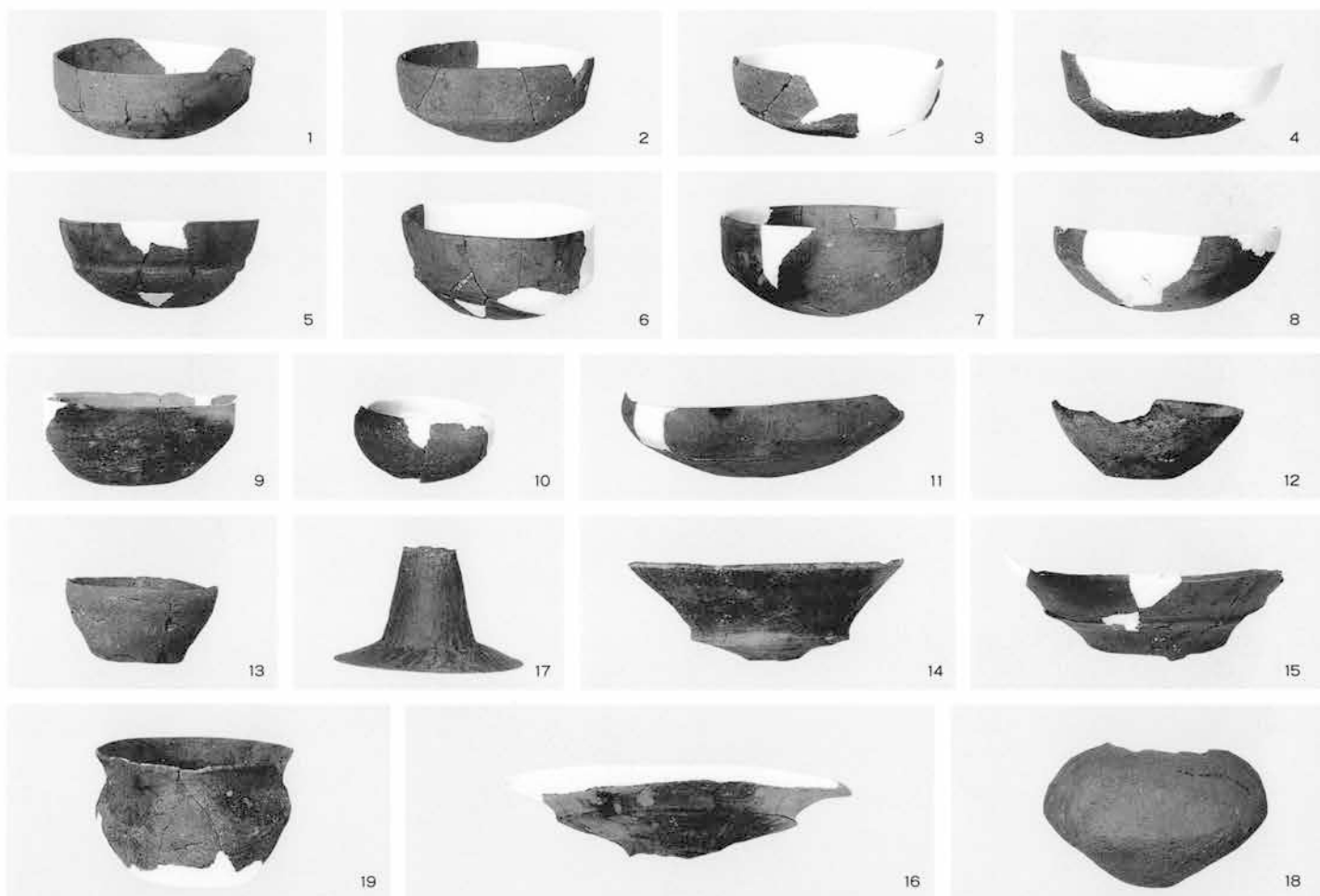


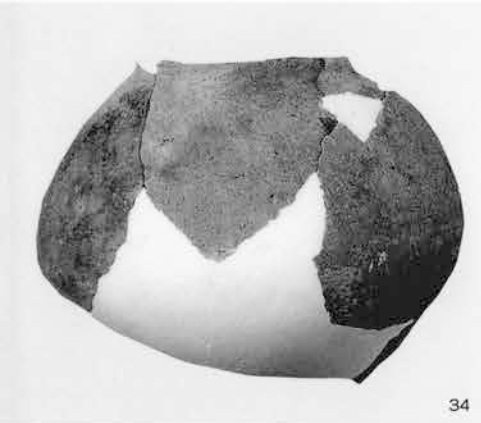
63





▼6号住居跡







▼7号住居跡













83



81



87



84



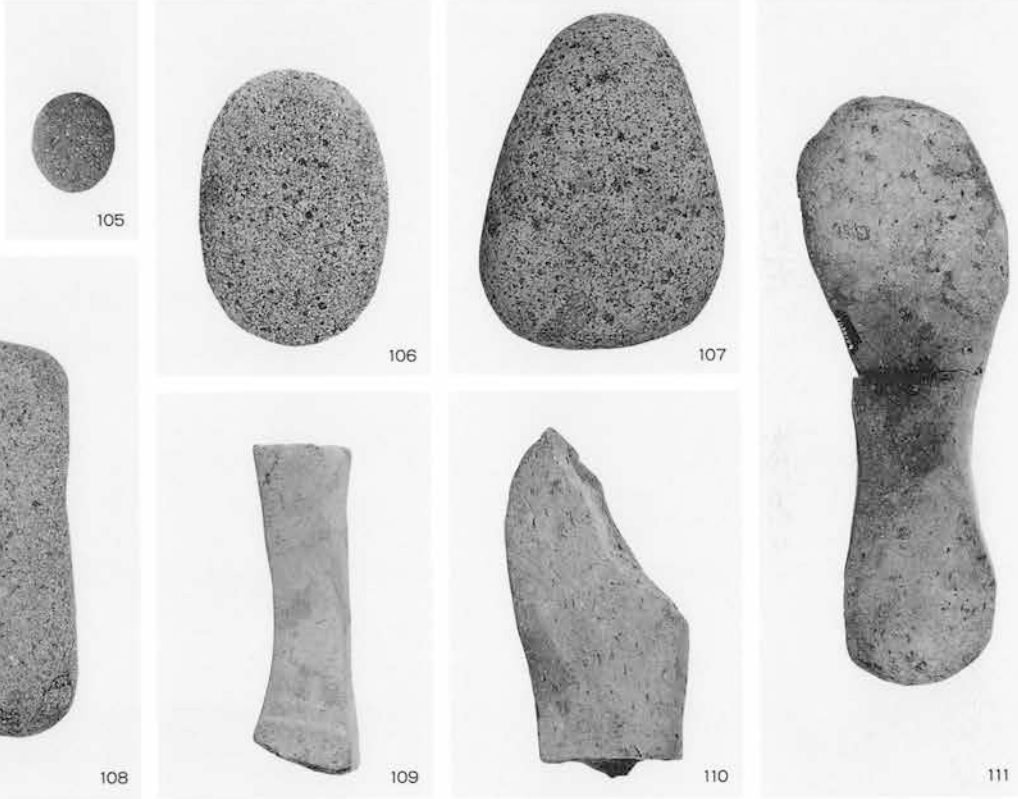
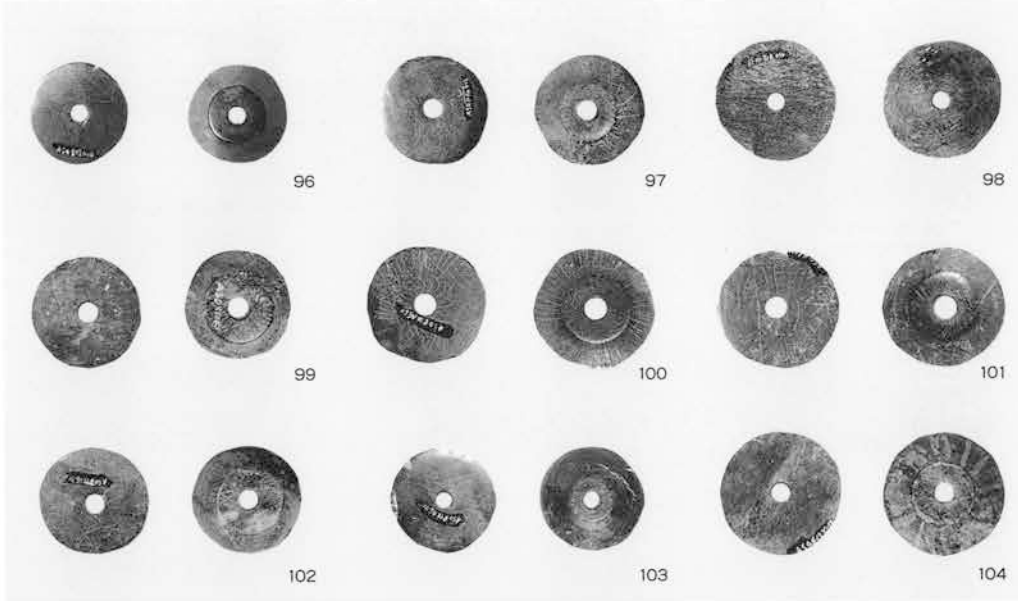
85



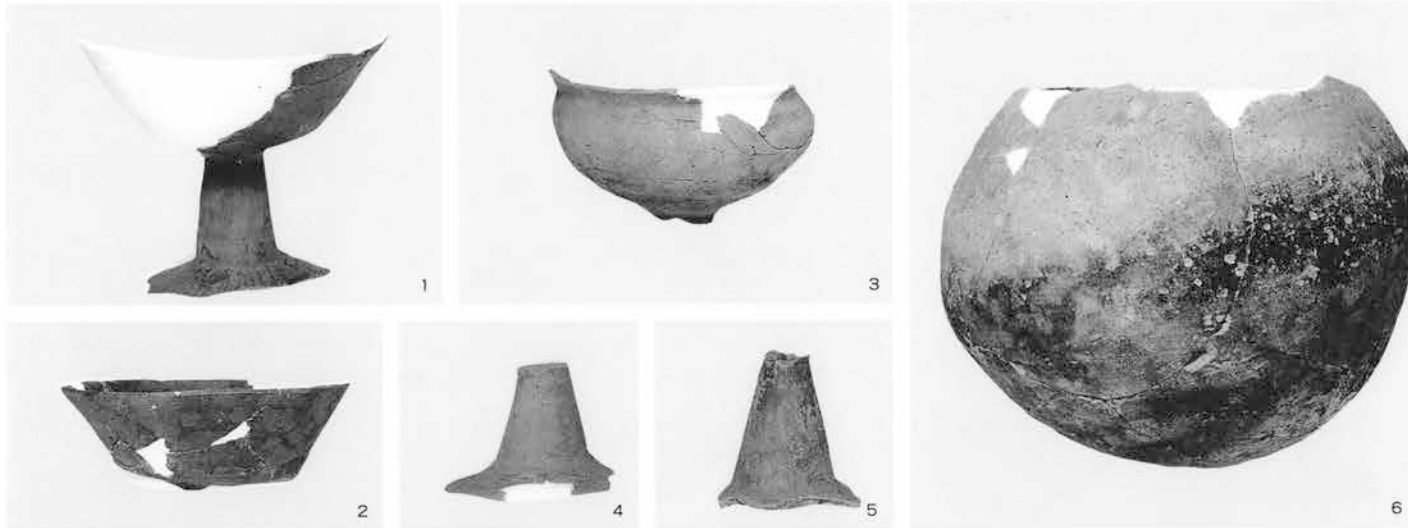
86

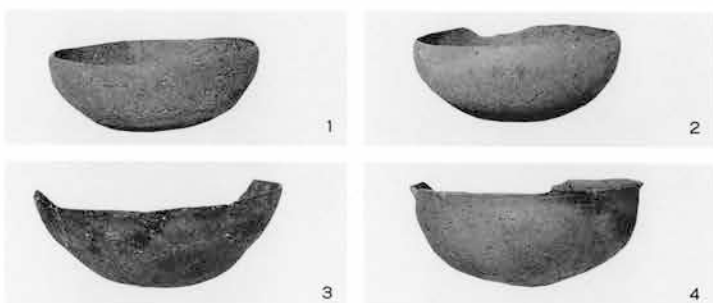


112

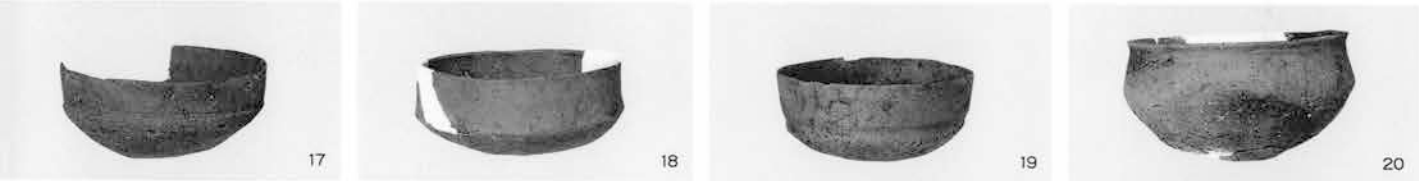
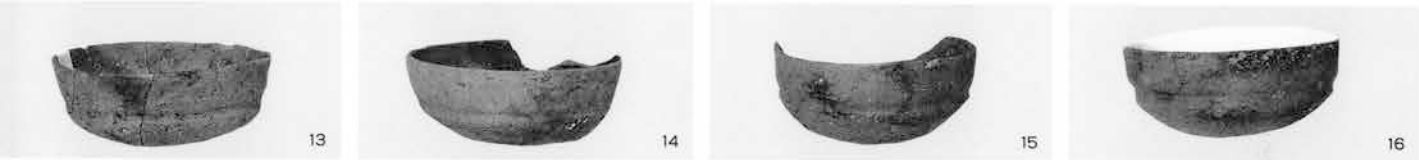
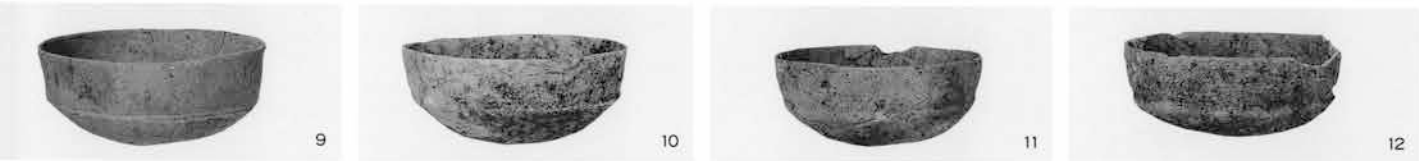


▼9号住居跡





▼10号住居跡





35



36



34



45



49



54



39



37



47



46



48



50



40



41



44



42



43



53



51



52



55



56



58



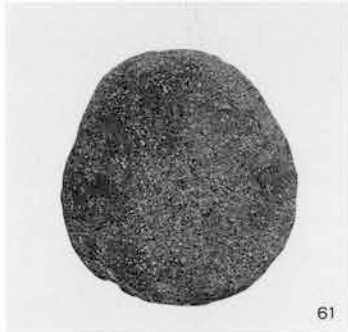
57



59



60



61



62



63

▼11号住居跡



1



3



2



4



5



9



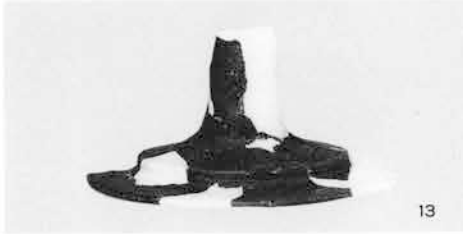
8



10



11



13



7



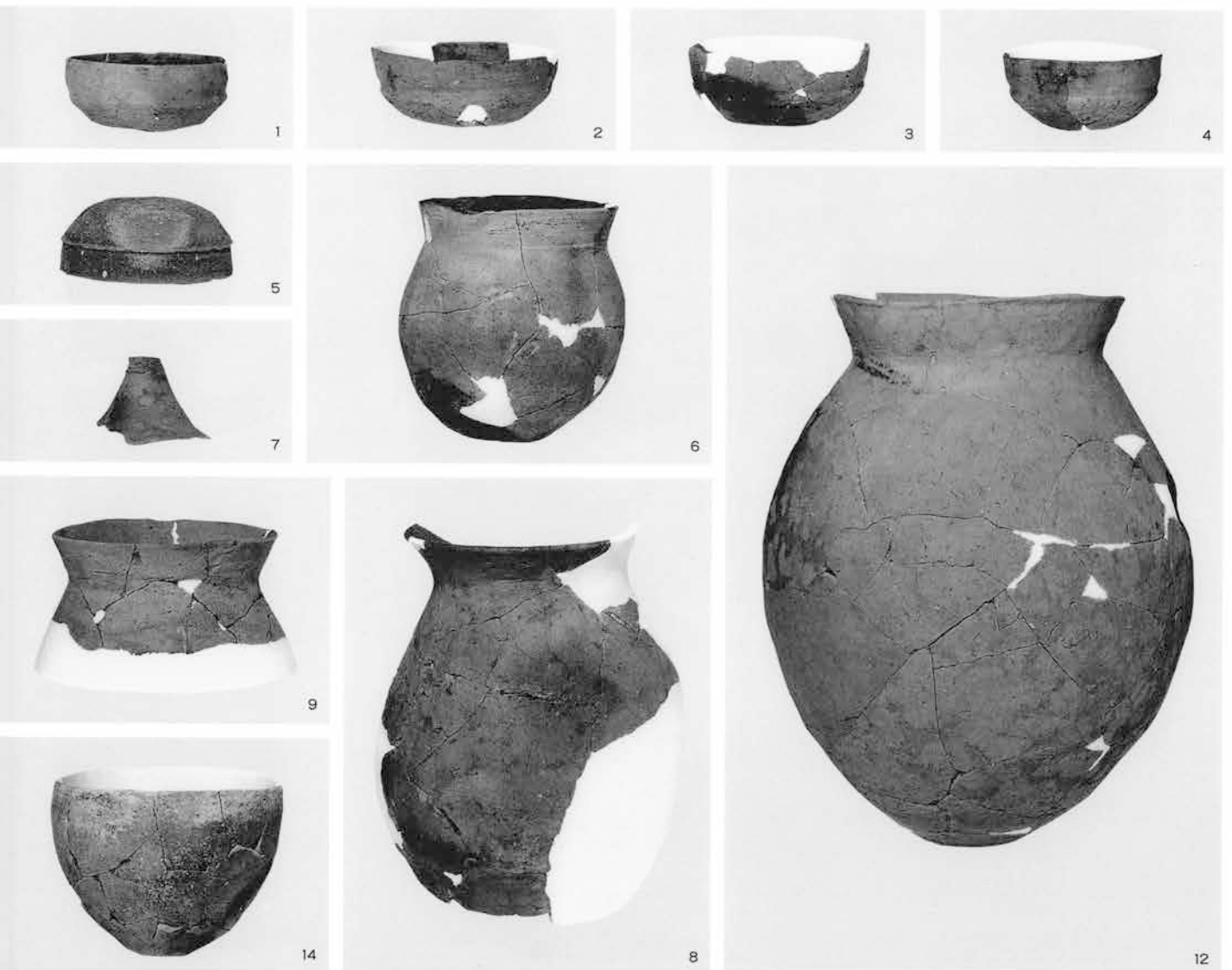
6



12



▼13号住居跡





13



11



10



17



15



16



18

▼14号住居跡

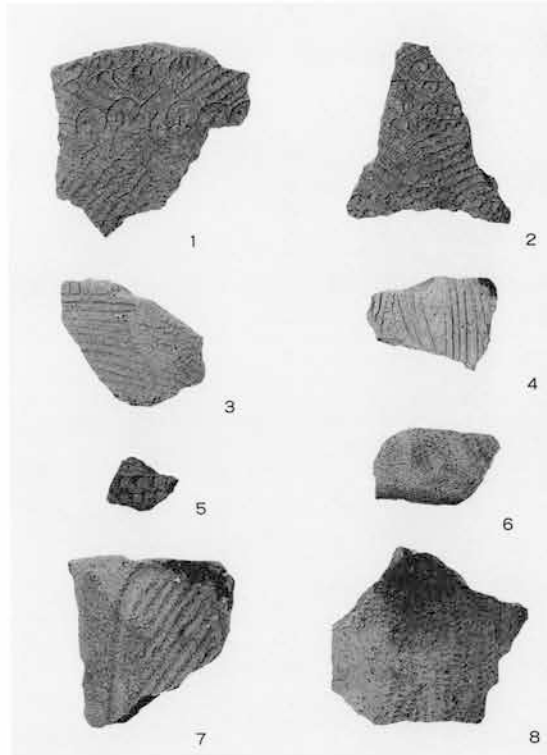
▼遺構外



1



9



1

2

3

4

5

6

7

8

▼1号古墳



1



10



11



12



13



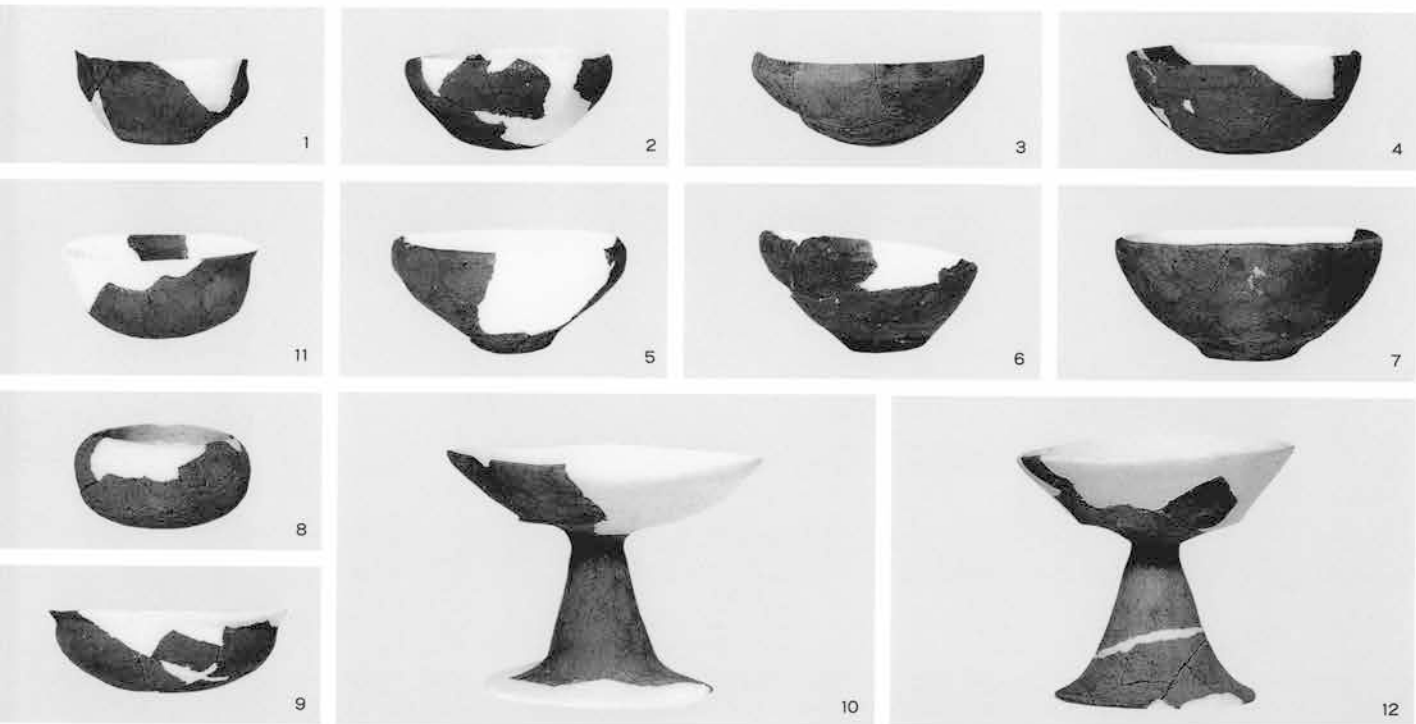
▼荒砥中屋敷Ⅱ遺跡1号住居跡

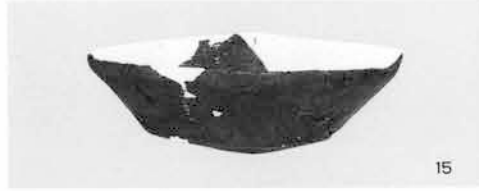


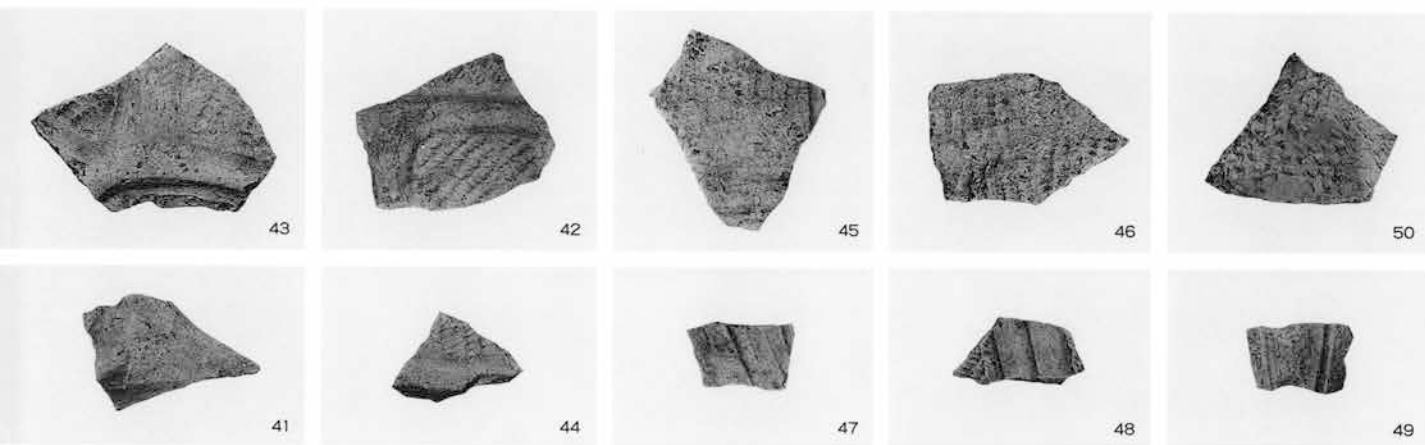
▼2号住居跡



▼3号住居跡







▼6号住居跡



▼7号住居跡



▼8号住居跡





▼小鍛冶



財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第249集

荒砥下押切Ⅱ遺跡
荒砥中屋敷Ⅱ遺跡

昭和57年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

平成11年3月20日印刷

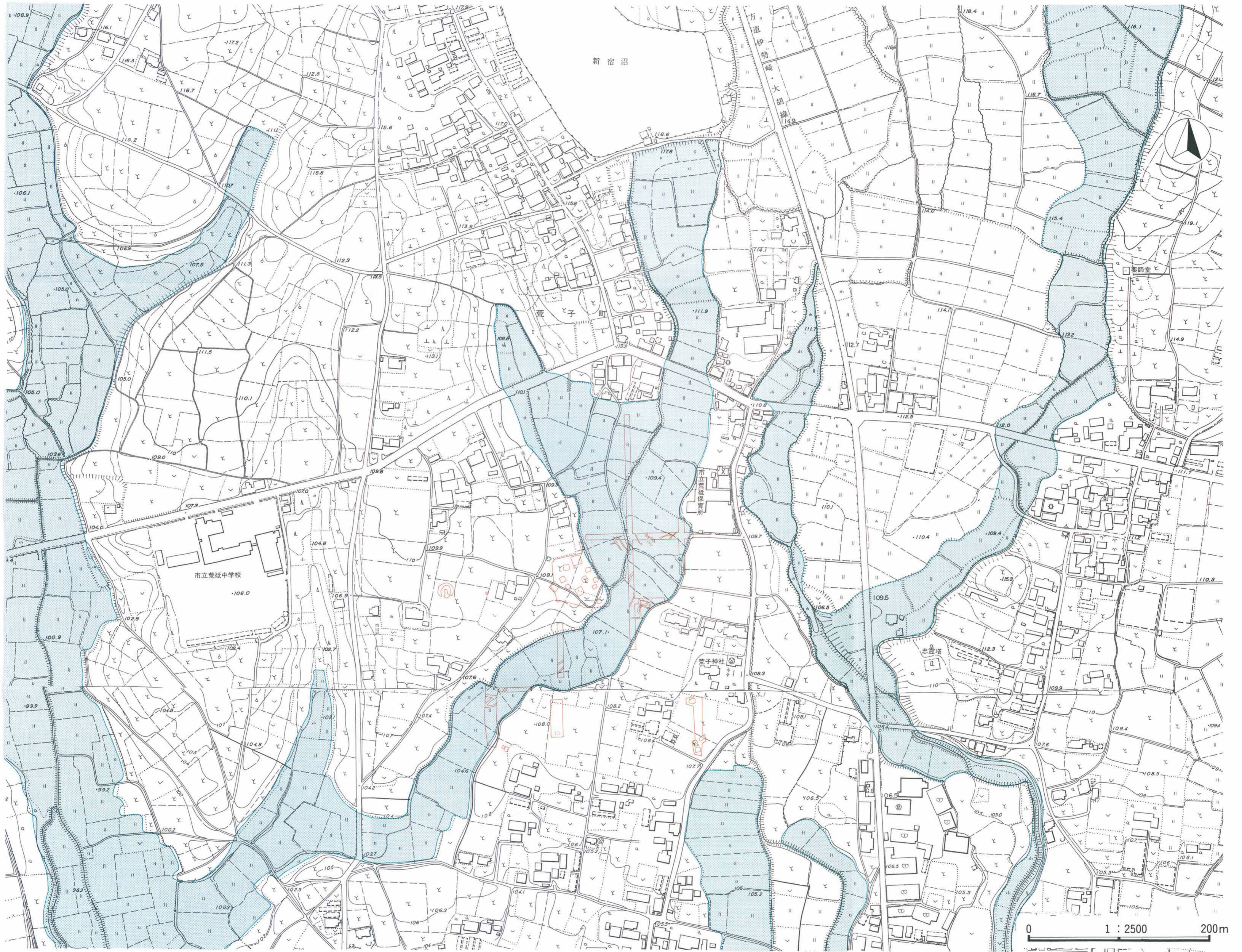
平成11年3月25日発行

編集・発行／群馬県教育委員会
〒371-8570 前橋市大手町1丁目1番1号
電話(027)223-1111(代表)

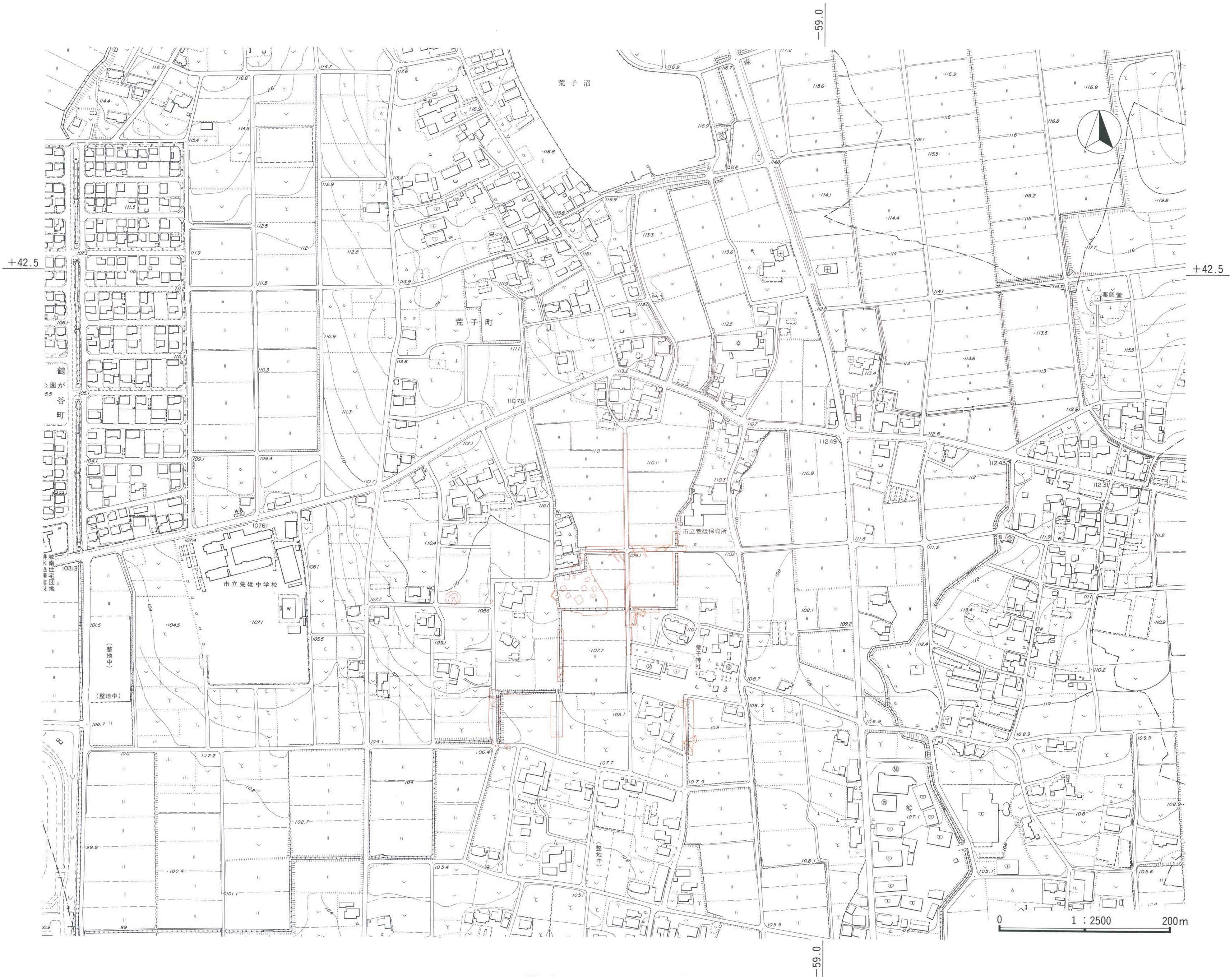
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社

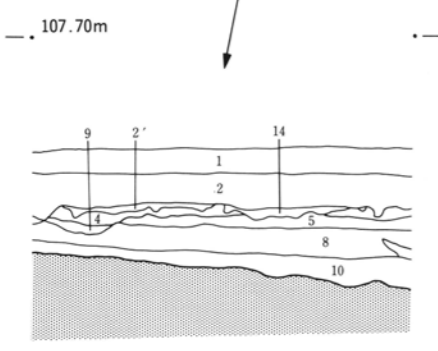
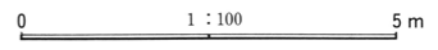
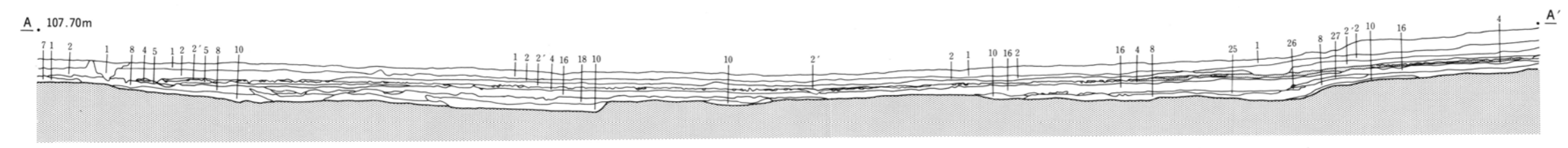
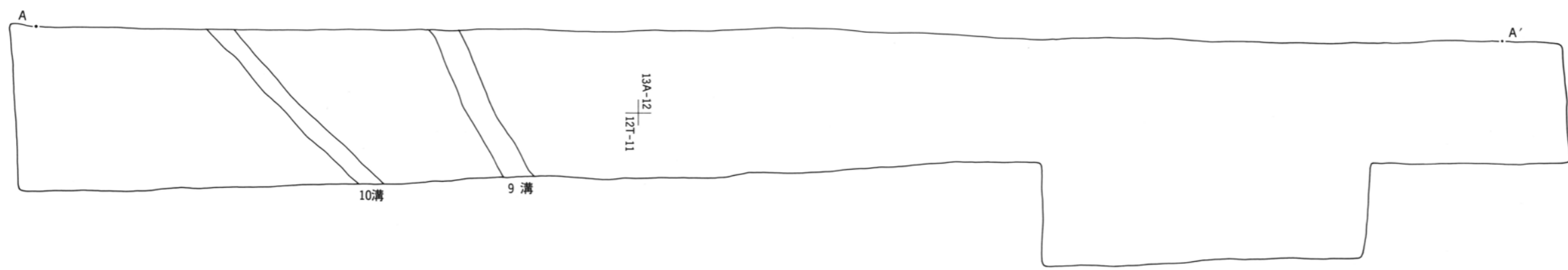
© 1999



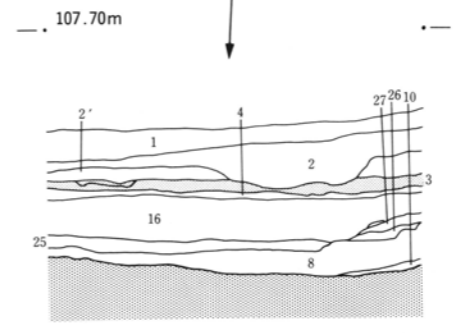
付図1 荒砥下押切II遺跡・中屋敷II遺跡全体図（圖場整備前）



付図2 荒砥下押切II遺跡・中屋敷II遺跡全体図(園場整備後)



- 幹排3-2号発掘区
- 1 表土
 - 2 暗橙褐色土層 軽石粒と地山粒を多く含む。As-Bを含む。下部は暗橙紫色土。
 - 2' 暗紫褐色土層 軽石粒と地山粒を含み、また As-Bを含む。
 - 3 As-Bの純層
 - 4 黒色粘質土層 軽石粒を僅かに含む。
 - 5 暗灰褐色土層 軽石粒、小石を含む。
 - 7 暗灰色土層
 - 8 暗黒灰褐色粘質土層 軽石粒等をほとんど含まない。
 - 9 暗黒灰褐色粘質土層 軽石粒を少量含む。
 - 10 暗灰褐色粘質土層 軽石粒等をほとんど含まない。
 - 11 暗灰褐色砂質土層 やや微砂粒が混る。
 - 12 暗灰褐色砂質土層 砂粒が混る。
 - 13 暗灰褐色砂質土層 粗い砂粒が混る。
 - 14 2'に類するがAs-Bの流れ込みが下部にあり、2'よりさらに砂質。10号溝の覆土。
 - 15 暗黄褐色砂質土層 黄褐色の地山粒を多く含む。
 - 16 黒褐色土層 やや粘質。白色の軽石粒を含む。
 - 25 暗灰褐色土層 やや粘質。
 - 26 8に類するが、やや軽石粒を含む。
 - 27 16に類する。



付図3 幹排3-2号発掘区